取　扱　書

よくお読みになってご使用ください。
取扱書は車の中に保管しましょう。

MIRAI

TOYOTA

イラスト目次	**イラスト**から検索	
安全・安心のために	お客様に**必ずお読みいただきたいこと** （主な項目：チャイルドシートの取扱い、盗難防止装置）	1
FC システム	燃料電池車の特徴・注意など （主な項目：FC システム）	2
走行に関する情報表示	走行に関する情報を表示する計器類の見方 （主な項目：メーター・マルチインフォメーションディスプレイ）	3
運転する前に	ドア・ドアガラスの開閉や、運転操作前の調整 （主な項目：キー、ドア、シート）	4
運転	運転に必要な操作やアドバイス （主な項目：FC システムの始動のしかた、燃料充てんのしかた）	5
室内装備・機能	室内装備の使い方など （主な項目：エアコン・収納装備の使い方）	6
お手入れのしかた	車のお手入れ・メンテナンスの方法 （主な項目：内装・外装の手入れ、電球の交換）	7
万一の場合には	故障したときや、緊急時などの対処 （主な項目：バッテリーあがりやタイヤがパンクしたときの対処）	8
車両情報	車の仕様やお好みに合わせて選べる機能の情報 （主な項目：指定燃料、各オイル量、タイヤ空気圧）	9
さくいん	**症状**から検索	
	音から検索	
	燃料電池車で検索	
	アルファベットで検索	
	五十音で検索	

知っておいていただきたいこと.....6
本書の見方.....11
検索のしかた.....12
イラスト目次.....14

1 安全・安心のために

1-1. 安全にお使いいただくために
運転する前に.....26
安全なドライブのために.....27
シートベルト.....29
SRS エアバッグ.....33
ポップアップフード.....39

1-2. お子さまの安全
お子さまを乗せるときは.....42
チャイルドシート.....43

1-3. 盗難防止装置
イモビライザーシステム.....56
オートアラーム.....57

2 FCシステム

2-1. 燃料電池車について
燃料電池車の特徴.....62
燃料電池車の注意.....66
燃料電池車運転のアドバイス.....75

2-2. DC 外部給電システムについて
DC 外部給電システム.....77
正常に給電できないときは.....85

3 走行に関する情報表示

3-1. 計器の見方
警告灯／表示灯.....90
計器類（8 インチディスプレイ装着車）.....94
計器類（12.3 インチディスプレイ装着車）.....97
マルチインフォメーションディスプレイ.....100
ヘッドアップディスプレイ.....108
エネルギーモニター／燃費画面／エアピュリフィケーション画面.....113

4 運転する前に

4-1. キー
キー.....118

4-2. ドアの開閉、ロックのしかた
ドア.....122
トランク.....127
スマートエントリー＆スタートシステム.....131

4-3. シートの調整
フロントシート.....136
パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能.....137
ヘッドレスト.....141

4-4. ハンドル位置・ミラー
ハンドル.....143
インナーミラー.....144
デジタルインナーミラー.....145
ドアミラー.....157

4-5. ドアガラスの開閉
パワーウインドウ.....159

4-6. お好み設定
マイセッティング.....162

5 運転

5-1. 運転にあたって

運転にあたって 165
荷物を積むときの注意 171

5-2. 運転のしかた

パワースイッチ 173
シフトポジション 177
方向指示レバー 182
パーキングブレーキ 183
ブレーキホールド 186
ASC（アクティブサウンドコントロール）..... 188
ウォーターリリース（H_2O スイッチ）..... 188

5-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ 190
AHS（アダプティブハイビームシステム）..... 193
AHB（オートマチックハイビーム）..... 196
リヤフォグランプ 199
ワイパー＆ウォッシャー 200

5-4. 燃料充てんのしかた

燃料充てん口（補給口）の開け方 204

5-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense 208
PCS（プリクラッシュセーフティ）..... 213
LTA（レーントレーシングアシスト）..... 223
RSA（ロードサインアシスト）.. 232
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）..... 235
先行車発進告知機能 247
ドライバー異常時対応システム. 249
ITS Connect 255
BSM（ブラインドスポットモニター）..... 262
クリアランスソナー 266
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）..... 275
RCD（リヤカメラディテクション）..... 281
PKSB（パーキングサポートブレーキ）..... 284
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）..... 289
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）..... 292
パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）..... 294
トヨタチームメイト アドバンストパーク 296
ドライブモードセレクトスイッチ 319
スノーモード 320
運転を補助する装置 321
プラスサポート（販売店装着オプション）..... 327

5-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転 331

6 室内装備・機能

6-1. エアコン・デフォッガーの使い方
ALL AUTO 制御 336
オートエアコン 337
リヤオートエアコン 346
ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター .. 347

6-2. 室内灯のつけ方
室内灯一覧 351

6-3. 収納装備
収納装備一覧 354
トランク内装備 357

6-4. その他の室内装備の使い方
電動サンシェード 359
その他の室内装備 360
アクセサリーコンセント（AC100V・1500W） 372
非常時給電システム 378

7 お手入れのしかた

7-1. お手入れのしかた
外装の手入れ 388
内装の手入れ 392

7-2. 簡単な点検・部品交換
ボンネット 395
ガレージジャッキ 396
FC ユニットルームカバー 397
ウォッシャー液の補充 399
タイヤについて 400
タイヤの交換 408
タイヤ空気圧について 411
エアコンフィルターの交換 412
駆動用電池冷却用吸入口の清掃 . 414
電子キーの電池交換 417
ヒューズの点検・交換 419
電球（バルブ）の交換 422

8 万一の場合には

8-1. まず初めに
故障したときは 426
非常点滅灯（ハザードランプ）... 427
発炎筒 427
車両を緊急停止するには 428
水没・冠水したときは 429

8-2. 緊急時の対処法
けん引について 431
警告灯がついたときは 437
警告メッセージが表示されたときは 445
パンクしたときは 448
FC システムが始動できないときは 460
キーをなくしたときは 461
燃料充てん口（補給口）が開かないときは 462
電子キーが正常に働かないときは 462
補機バッテリーがあがったときは 465
オーバーヒートしたときは 470
スタックしたときは 474

9 車両情報

9-1. 仕様一覧
メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など） 476

9-2. カスタマイズ機能
ユーザーカスタマイズ機能一覧 . 480

9-3. 初期設定
初期設定が必要な項目 493

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）496
車から音が鳴ったときは（音さくいん）..... 498
燃料電池車さくいん 500
アルファベット順さくいん..... 502
五十音順さくいん 504

知っておいていただきたいこと

本書の内容について

本書はオプションを含むすべての装備の説明をしています。

そのため、お客様の車にはない装備の説明が記載されている場合があります。また、車の仕様変更により、内容がお車と一致しない場合がありますのでご了承ください。

トヨタ販売店で取り付けられた装備（販売店オプション）の取り扱いについては、その商品に付属の取扱説明書をお読みください。

イラストは、記載している仕様などの違いにより、お客様の車の装備と一致しない場合があります。

不正改造について

- トヨタが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、不正改造になることがあります。
- 車高を下げたり、ワイドタイヤを装着するなど、車の性能や機能に適さない部品を装着すると、故障の原因となったり、事故を起こし、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
  また、このような改造は Toyota Safety Sense のような先進安全装備にも影響を与え、正しく作動しない危険や作動すべきでない場面での作動をする恐れがあり危険です。
- ハンドルの改造は絶対にしないでください。ハンドルには SRS エアバッグが内蔵されているため、不適切に扱うと、正常に作動しなくなったり、誤ってふくらみ、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- 次の場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットの交換

異なった種類や指定以外のものを使用すると、走行に悪影響をおよぼしたり、不正改造になることがあります。

・電装品・無線機の取り付け・取りはずし

電子機器部品に悪影響をおよぼしたり、故障や車両火災など事故につながるおそれがあり危険です。

RF 送信機の取り付けについては、P.8も参照してください。

- フロントウインドウガラス、および運転席・助手席のドアガラスに着色フィルム（含む透明フィルム）などを貼り付けないでください。視界をさまたげるばかりでなく、不正改造につながるおそれがあります。

サイバー攻撃のリスクについて

電子機器や無線機を取り付けると、装着された部品を通じてサイバー攻撃のリスクを高め、思わぬ事故や個人情報の流出などにつながるおそれがあります。トヨタ純正品以外を取り付けたことに起因する問題に関してトヨタは保証いたしません。

故障診断コネクターなどへの電装品取り付けについて

故障診断コネクターAなどに、点検整備用の故障診断装置以外の電装品を取り付けないでください。

電子機器に悪影響をおよぼしたり、バッテリーがあがったりするなど、思わぬトラブルを招くおそれがあります。

車両データの記録について

本車両には、車両の制御や操作に関するデータなどを記録するコンピューターが装備されており、各機能の作動時や操作状況により、主に次のようなデータを記録します。

- エンジン回転数／電気モーター回転数
- アクセルペダルの操作状況
- ブレーキペダルの操作状況
- 車速
- 運転支援システムの作動状況
- カメラの画像情報

車両には複数のカメラがついています。どのカメラが画像を記録しているかは、トヨタ販売店にお問い合わせください。

グレード・オプション装備により記録されるデータ項目は異なります。

なお、コンピューターは会話などの音声や車内の映像は記録しません。

● データの取扱いについて

トヨタはコンピューターに記録されたデータを車両の故障診断・研究開発・品質の向上を目的に取得・利用することがあります。

なお、次の場合を除き、トヨタは取得したデータを第三者へ開示または提供することはありません。

- お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
- 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
- トヨタが訴訟で使用する場合
- 統計的な処理を行う目的で、使用者や車両が特定されないように加工したデータを研究機関などに提供する場合

● 記録した画像情報はトヨタ販売店にて消去することが可能です。

また、画像情報を記録する機能を停止することも可能です。ただし、機能を停止するとシステム作動時のデータは残りません。

T-Connect によるデータの取り扱いについて

お客様が T-Connect をご利用の場合、記録データとその使用について、T-Connect 利用規約をご覧ください。

Advanced Drive によるデータの取り扱いについて

お客様が Advanced Drive をご使

用の場合、記録するデータとその使用について、契約時の留意事項説明や「Toyota Teammate Advanced Drive 取扱書」を参照してください。

イベントデータレコーダー

お車には、イベントデータレコーダー（EDR）が装備されています。EDR は、一定の衝突や衝突に近い状態（SRS エアバッグの作動および路上障害物との接触など）が発生した時に車両システムの作動状況に関するデータを記録します。EDR は車両の動きや安全システムに関するデータを短時間記録するように作られています。ただし、衝突の程度と形態によっては、データが記録されない場合があります。

EDR は次のようなデータを記録します。

・ 車両の各システムの作動状況
・ アクセルペダルおよびブレーキペダルの操作状況
・ 車速

これらのデータは、衝突や傷害が発生した状況を把握するのに役立ちます。

注意：EDR は衝突が発生したときにデータを記録します。通常走行時にはデータは記録されません。また、個人情報（例：氏名・性別・年齢・衝突場所）は記録されません。ただし、事故調査の際に法執行機関などの第三者が、通常の手続きとして収集した個人を特定できる種類のデータと EDR データを組み合わせて使用することがあります。EDR で記録されたデータを読み出すには、特別な装置を車両または EDR へ接続する必要があります。トヨタにくわえ、法執行機関などの特別な装置を所有する第三者が車両または EDR に接続した場合でも情報を読み出すことができます。

● EDR データの情報開示

次の場合を除き、トヨタは EDR で記録されたデータを第三者へ開示することはありません。

・ お車の使用者の同意（リース車は借主の同意）がある場合
・ 警察・裁判所・政府機関などの法的強制力のある要請に基づく場合
・ トヨタが訴訟で使用する場合

ただし、トヨタは

・ データを車両安全性能の研究に使用することがあります。
・ 使用者・車両が特定されないデータを調査目的で第三者に開示することがあります。

RF 送信機の取り付けについて

お車へ RF 送信機を取り付けると、次のようなシステムに影響をおよぼす可能性があります。

● FC システム
● Advanced Drive
● Toyota Safety Sense
● ABS（アンチロックブレーキシステム）
● VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）
● SRS エアバッグ

● シートベルトプリテンショナー

悪影響を防ぐための措置や取り付け方法については、必ずトヨタ販売店にお問い合わせください。

ご希望により、RF 送信機の取り付けに関する詳しい情報（周波数帯域・電力レベル・アンテナ位置・取り付け条件）をトヨタ販売店にてご提供します。

高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。

アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

保証および点検について

保証および点検整備については、別冊「メンテナンスノート」に記載していますので、併せてお読みください。

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施してください。（法律で義務付けられています）

プラスサポートについて

トヨタ販売店で専用の電子キーをご購入し、ご使用いただくことで、プラスサポート（→P.327）の機能が利用可能になります。詳細については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

本書の見方

本書で使用している、記号について説明します。

本文の記号について

記号	意味
⚠	警告： お守りいただかないと、お客様自身と周囲の人々が死亡、または重大な傷害につながるおそれがあることを説明しています。
⚠	注意： お守りいただかないと、車や装備品の故障や破損につながるおそれがあることを説明しています。
1 2 3…	操作・作業の手順を示しています。番号の順に従ってください。
📖	機能や操作方法の説明以外で知っておいていただきたい、知っておくと便利なことを説明しています。

イラスト上の記号について

記号	意味
➡	押す・まわすなど、していただきたい操作を示しています。
⇨	フタが開くなど、操作後の作動を示しています。

記号	意味
➡	説明の対象となるもの・場所を示しています。
🚫	**してはいけません、このようにしないでください、このようなことを起こさないでください**という意味です。

検索のしかた

■ 名称から探す

●五十音順さくいん：P.504
●アルファベット順さくいん：P.502

■ 取り付け位置から探す

●イラスト目次：P.14

■ 症状や音から探す

●こんなときは（症状別さくいん）：P.496
●車から音が鳴ったときは（音さくいん）：P.498

■ タイトルから探す

●目次：P.2

イラスト目次

■ 外観

A ドア P.122

施錠／解錠 P.122

ドアガラスの開閉 P.159

メカニカルキーでの施錠／解錠 P.462

警告灯・警告メッセージ P.126

B トランク P.127

車内から開ける P.129

車外から開ける P.129

メカニカルキーで開ける P.463

警告灯・警告メッセージ P.126

C ドアミラー P.157

鏡面の角度調整 P.157

ミラーの格納 P.158

調整位置の登録★ P.137

曇りを取る（ミラーヒーター） P.339

D ワイパー **P.200**

冬季の注意 P.331

凍結防止（フロントワイパーデアイサー） P.344

洗車時の注意 P.390

E 燃料充てん扉 **P.204**

燃料充てん方法 P.204

燃料の種類・燃料タンク容量 P.476

F タイヤ **P.400**

サイズ・空気圧 P.400, 479

冬用タイヤ・タイヤチェーン P.331

点検・ローテーション・空気圧警報システム P.400

パンク時の対処 P.448

G ボンネット **P.395**

開け方 P.395

FC ユニットルームカバー P.397

オーバーヒート時の対処 P.470

警告灯・警告メッセージ P.126

走行に関わる外装のランプバルブ
（交換要領：P.422）

H ヘッドランプ・車幅灯・LED デイライト **P.190**

I 方向指示灯 **P.182**

J 尾灯 **P.190**

K 尾灯 **P.190**

制動灯

L 番号灯 **P.190**

M 後退灯

シフトポジションを R にする P.178

N リヤフォグランプ★ P.199

★ : グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ インストルメントパネル

A オートエアコン P.337

操作方法 P.337

リヤウインドウの曇り取り（リヤウインドウデフォッガー） P.338

B オーディオ ※

オートエアコン P.337

操作方法 P.337

C 非常点滅灯スイッチ P.427

D ワイパー＆ウォッシャースイッチ P.200

使い方 P.200

ウォッシャー液の補充 P.399

E メーター P.94, 97

見方・明るさの調整 P.94, 95, 97, 99

警告灯／表示灯 P.90

警告灯点灯時の対処 P.437

F マルチインフォメーションディスプレイ P.100

表示内容 P.100

エネルギーモニター P.113

警告メッセージ表示時の対処 P.445

G 方向指示レバー P.182

ランプスイッチ P.190

ヘッドランプ・車幅灯・尾灯・番号灯・LED デイライト P.190

AHS（アダプティブハイビームシステム）★ P.193

AHB（オートマチックハイビーム）★ P.196

リヤフォグランプ★ P.199

H ボンネット解除レバー P.395

I ハンドル位置調整スイッチ P.143

調整方法 P.143

調整位置の登録★ P.137

J パワースイッチ P.173

FC システムの始動・モード切りかえ P.173

FC システムの緊急停止 P.428

FC システムが始動できないときの対処 P.460

警告メッセージ P.445

K シフトレバー P.177

シフトポジションの切りかえ P.178

けん引時の注意 P.431

L トランクオープナーメインスイッチ P.130

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

■ スイッチ類

A P ポジションスイッチ P.178

B パーキングブレーキスイッチ P.183

かける・解除する P.183

冬季の注意 P.332

警告ブザー・警告メッセージ P.185, 437

C ブレーキホールドスイッチ P.186

D アドバンストパーク（運転支援システム）メインスイッチ★ P.296

E ドライブモードセレクトスイッチ P.319

F H_2O スイッチ P.188

G HUD（Head-up display）スイッチ★ P.108

H インストルメントパネル照度調整スイッチ P.95, 99

I ODO/TRIP スイッチ P.95, 99

J AC100V スイッチ★ P.372, 378

K リヤサンシェードスイッチ★ P.370

L スノーモードスイッチ P.320

M カメラスイッチ★ ※

N VSC（ビークルスタビリティコントロール）OFF スイッチ P.322

O アダプティブハイビームシステムスイッチ★ P.193

オートマチックハイビームスイッチ★ P.196

P 燃料充てん扉オープナースイッチ P.205

Q トランクオープナースイッチ P.129

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ 別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

A ポジションメモリーボタン★ P.137

B ドアロックスイッチ P.125

C パワーウインドウスイッチ P.159

D ドアミラースイッチ P.157

E ウインドウロックスイッチ P.161

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

A メーター操作スイッチ P.101

B 電話スイッチ ※1

C LTA（レーントレーシングアシスト）スイッチ P.223

D 車間距離切りかえスイッチ..... P.240

E クルーズコントロールスイッチ★

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）..... P.235

Advanced Drive（運転支援システム）メインスイッチ★ ※2

F オーディオ操作スイッチ ※1

G トークスイッチ ※1

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

※2「Toyota Teammate Advanced Drive 取扱書」を参照してください。

■ 室内

A SRS エアバッグ P.33

B フロアマット P.26

C フロントシート P.136

D ヘッドレスト P.141

E シートベルト P.29

F ドアロックボタン P.125

G コンソールボックス P.356

H カップホルダー P.355

I アシストグリップ P.366

J コートフック P.367

K リヤコントロールパネル★ P.346

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 天井

A 電動サンシェードスイッチ★ P.359

B パーソナルランプ P.352

C ヘルプネットスイッチパネル ※1

D インテリアランプドア連動スイッチ P.352

E インナーミラー★ P.144

デジタルインナーミラー★ P.145

F インテリアランプ P.352

G 侵入センサー OFF スイッチ P.59

H バニティミラー P.369

I サンバイザー ※2 ..... P.369

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

※2やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。（→P.45）

AIRBAG

安全・安心のために

～必ずお読みください～

1

1-1. 安全にお使いいただくために

運転する前に 26

安全なドライブのために 27

シートベルト 29

SRS エアバッグ 33

ポップアップフード..... 39

1-2. お子さまの安全

お子さまを乗せるときは 42

チャイルドシート 43

1-3. 盗難防止装置

イモビライザーシステム 56

オートアラーム 57

運転する前に

お車を安全に運転していただくために、運転する前は必ず次のことを確認してください。

点検整備

日常点検整備や定期点検整備は、お客様の責任において実施していただくことが法律で義務付けられています。適切な時期に点検整備を実施し、車に異常がないことを確認してください。

日常点検整備や点検項目などの詳細については、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。
異常が見つかった場合は、トヨタ販売店で必ず点検整備を受けてください。

フロアマットを固定するには

専用のフロアマットを、フロアカーペットの上にしっかりと固定してお使いください。

1 固定フック（クリップ）にフロアマット取り付け穴をはめ込む

2 固定フック（クリップ）上部のレバーをまわして、フロアマットを固定する

△マーク A を必ず合わせてください。

固定フック（クリップ）の形状はイラストと異なる場合があります。

⚠警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、フロアマットがずれて運転中に各ペダルと干渉し、思わぬスピードが出たり車を停止しにくくなるなど、事故の原因になり重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席にフロアマットを敷くとき

- トヨタ純正品であっても、他車種および異なる年式のフロアマットは使用しない
- 運転席専用のフロアマットを使用する
- 固定フック（クリップ）を使って、常にしっかりと固定する
- 他のフロアマット類と重ねて使用しない
- フロアマットを前後逆さまにしたり、裏返して使用しない

警告

■運転する前に

●フロアマットがすべての固定フック（クリップ）で正しい位置にしっかりと固定されていることを定期的に確認し、特に洗車後は必ず確認を行う

●FC システム停止およびシフトポジションが P の状態で、各ペダルを奥まで踏み込み、フロアマットと干渉しないことを確認する

安全なドライブのために

安全に運転するために、走行前にシートやミラーなどを適切に調整してください。

正しい運転姿勢をとるには

A まっすぐ座り、運転操作時に体が背もたれから離れないよう、背もたれの角度を調整する（→P.136）

B ペダルがしっかりと踏み込め、ハンドルを握ったときにひじが少し曲がるようなシート位置にする（→P.136）

C ヘッドレストの中央が耳のいちばん上のあたりになるようにする（→P.141）

D シートベルトを正しく着用する（→P.29）

警告

■安全な運転のために

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中は運転席の調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

●背もたれと背のあいだにクッションなどを入れないでください。
正しい運転姿勢がとれないばかりか、衝突したとき、シートベルトやヘッドレストなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。

●フロントシートの下にものを置かないでください。
ものが挟まるとシートが固定されず、思わぬ事故や調整機構の故障の原因になります。

●公道を走行するときは、法定速度や制限速度を遵守してください。

●他の車や歩行者など、周囲の状況に常に注意を払い、安全運転を心がけてください。

●飲酒運転は絶対にしないでください。
お酒を飲むと注意力と判断力がにぶり、思いがけない事故を引き起こすおそれがあります。また、眠気をもよおす薬を飲んだときも運転を控えてください。

●運転中に携帯電話を使用したり、装置の調節などをしないでください。
周囲の状況などへの注意が不十分になり、大変危険です。ハンズフリー以外の自動車電話や携帯電話を運転中に使用することは法律で禁止されています。

●長距離ドライブの際は、疲れを感じる前に定期的に休憩してください。
また、運転中に疲労感や眠気を感じたときは、無理に運転せず、すみやかに休憩してください。

シートベルトを正しく着用するには

すべての乗員は、走行前に必ずシートベルトを正しく着用してください。（→P.29）

シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切な子供専用シートをご用意ください。（→P.43）

ミラーを調整するには

後方が確実に確認できるように、インナーミラー・ドアミラーを正しく調整してください。
（→P.144, 145, 157）

シートベルト

走行前にすべての乗員は必ずシートベルトを正しく着用してください。

⚠警告

急ブレーキや事故の際のけがを避けるため、次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■シートベルトの着用について

- 全員がシートベルトを着用する
- シートベルトを正しく着用する
- シートベルトは一組につき一人で使用する
  お子さまでも一組のベルトを複数の人で使用しない
- お子さまはリヤ席に座らせてシートベルトを着用させる
- 背もたれは必要以上に倒さず、上体を起こし、シートに深く座る
- 肩部ベルトを腕の下に通して着用しない
- 腰部ベルトはできるだけ低い位置に密着させ着用する

■妊娠中の女性の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。（→P.30）
通常の着用のしかたと同じように、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにお腹のふくらみの下に、肩部ベルトは確実に肩を通し、お腹のふくらみを避けて胸部にかかるように着用してください。

ベルトを正しく着用していないと、衝突したときなどに、母体だけでなく胎児までが重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■疾患のある方の場合

医師に注意事項を確認の上、必ず正しく着用してください。

■お子さまをのせるとき

→P.53

■シートベルトの損傷・故障について

- ベルトやプレート・バックルなどは、シートやドアに挟むなどして損傷しないようにしてください。
- シートベルトが損傷したときはシートベルトを修理するまでシートは使用しないでください。

警告

- プレートがバックルに確実に挿し込まれているか、シートベルトがねじれていないかを確認してください。うまく挿し込めない場合はただちにトヨタ販売店に連絡してください。
- もし重大な事故にあったときは、明らかな損傷が見られない場合でも、シート・シートベルトを交換してください。
- プリテンショナー付きシートベルトの取り付けや取りはずし・分解・廃棄などは、トヨタ販売店以外でしないでください。
  不適切に扱うと、正常に作動しなくなるおそれがあります。

正しく着用するには

- 肩部ベルトを肩に十分かける

首にかかったり、肩からはずれないようにしてください。

- 腰部ベルトを必ず腰骨のできるだけ低い位置に密着させる
- 背もたれを調整し、上体を起こし、深く腰かけて座る
- ねじれがないようにする

知識

■お子さまのシートベルトの使い方

この車のシートベルトは、シートベルトを装着するのに十分な、大人の体格を持った人用に設計されています。

- シートベルトが正しい位置で着用できない小さなお子さまの場合は、お子さまの体に合った子供専用シートを使用してください。(→P.43)
- シートベルトが正しい位置で着用できるお子さまの場合は、シートベルトの着用のしかたに従ってください。

着け方・はずし方

1 ベルトを固定するには、“カチッ”と音がするまでプレートをバックルに挿し込む

2 ベルトを解除するには、解除ボタンAを押す

はずれないときは、ベルトをひき上げながら解除ボタンAを押してください。

知識

■シートベルトロックの解除方法

急停止や衝撃があったときベルトがロックされます。急に体を前に倒したり、シートベルトをすばやく引き出してもロックする場合があります。一度ベルト

を強く引いてからゆるめ、ゆっくり動かせば、ベルトを引き出すことができます。

■ **リヤ中央席シートベルトを使用したあとは**

バックルを格納してください。

シートベルトの高さ調節（フロント席）

1 解除ボタンAを押しながら、アジャスターを下げる

2 アジャスターを上げる

“カチッ”と音がして固定されるところまで動かしてください。

シートベルトプリテンショナー（フロント席・リヤ外側席）

前方・側方から強い衝撃を受けたとき、シートベルトを引き込むことで適切な乗員拘束効果を確保します。

前方・側方からの衝撃が弱いときや、うしろからの衝撃、横転のときは通常は作動しません。

知識

■ **シートベルトプリテンショナーについて**

シートベルトプリテンショナーは一度しか作動しません。玉突き衝突などで連続して衝撃を受けた場合でも、一度作動したあとは、その後の衝突では作動しません。

■ **予防連携機能について**

プリクラッシュセーフティによって車両との衝突の可能性が高いと判断されたとき、シートベルトプリテンショナーの作動準備を整えます。

警告

■プリテンショナー付きシートベルトについて

シートベルトプリテンショナーが作動すると、SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯が点灯します。その場合は、シートベルトを再使用することができないため、必ずトヨタ販売店で交換してください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

アクティブアシスト（フロント席）（Toyota Teammate Advanced Drive 装着車）

車速が約 20km/h 以上になると、シートベルトをわずかに巻き取ります。衝突が避けられないと判断したとき、衝突前にシートベルトを巻き取ります。

詳細は「Toyota Teammate Advanced Drive 取扱書」を参照してください。

知識

■アクティブアシストについて

シートベルトを解除したときや乗車時にフロント席ドアを開けたとき、モーター音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.480）

SRS エアバッグ

SRS エアバッグは乗員に重大な危害がおよぶような強い衝撃を受けたときにふくらみ、シートベルトが体を拘束する働きと併せて乗員への衝撃を緩和させます。

SRS エアバッグシステム

■ SRS エアバッグの配置

▶ フロント SRS エアバッグ

A 運転席 SRS エアバッグ／助手席 SRS エアバッグ

（運転者と助手席乗員の頭や胸などへの衝撃を緩和）

B SRS ニーエアバッグ

（運転者の衝撃緩和を補助）

▶ SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ

C SRS フロントサイドエアバッグ

（フロント席乗員の胸などへの衝撃を緩和）

D SRS カーテンシールドエアバッグ

（フロント席とリヤ外側席乗員の主に頭部への衝撃を緩和）

知識

■SRS エアバッグが作動すると

●SRS エアバッグは高温のガスにより非常に速い速度でふくらむため、すり傷・やけど・打撲などを受けることがあります。

●作動音と共に白いガスが発生します。

●フロント席・リヤ席・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールの一部分などだけでなくエアバッグ構成部品（ハンドルのハブ・エアバッグカバー・インフレーター）も数分間熱くなることがあります。エアバッグそのものも熱くなります。

●フロントウインドウガラスが破損することがあります。

●FC システムと水素供給を停止します。（→P.73）

●すべてのドアが解錠されます。（→P.123）

●自動的にブレーキと制動灯を制御します。（→P.322）

●室内灯が自動で点灯します。（→P.353）

●非常点滅灯が自動で点滅します。（→P.427）

●T-Connect の契約期間内は、次の場合、自動的に緊急通報がヘルプネットセンターに送信されます。オペレーターからの呼びかけに応答がない場合は、緊急車両を手配します。
詳しくは別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

・SRS エアバッグが作動した
・シートベルトプリテンショナーが作動した
・後方から強い衝撃を受けた

■SRS エアバッグが作動するとき（フロント SRS エアバッグ

●フロント SRS エアバッグは、衝撃の強さが設定値（移動も変形もしない固定された壁に、車速約 20 ～ 30km/h で正面衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。
ただし、次のような場合はエアバッグが作動する車速は設定値より高くなります。

・駐車している車や標識のような衝撃によって移動や変形するものに衝突した場合
・もぐり込むような衝突の場合（例えば、車両前部がもぐり込む、下に入り込む、トラックの下敷きになるなど）

●衝突条件によってはシートベルトプリテンショナーのみ作動する場合があります。

■SRS エアバッグが作動するとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

●SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグは、衝撃の強さが設定値（約 1.5 t の車両が約 20 ～ 30km/h の速度で客室へ直角に衝突した場合の衝撃の強さに相当する値）以上の場合に作動します。

●前面衝突時でも、特に衝撃が大きい場合は左右の SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

■衝突以外で作動するとき

次のような状況で車両下部に強い衝撃を受けたときも、フロント SRS エアバッグ・SRS カーテンシールドエアバッグが作動する場合があります。

●縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき

●深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき

●ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

■SRS エアバッグが作動しないとき（フロント SRS エアバッグ）

フロント SRS エアバッグは、側面や後方からの衝撃・横転・または低速での前方からの衝撃では、通常は作動しません。ただし、それらの衝撃が前方への減速を十分に引き起こす場合には、フロント SRS エアバッグが作動することがあります。

●側面からの衝突

●後方からの衝突

●横転

■SRS エアバッグが作動しないとき（SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグ）

斜めから衝撃を受けた場合や、客室部分以外の側面に衝撃を受けたときには、SRS サイド＆カーテンシールドエアバッグが作動しない場合があります。

●客室部分以外の側面への衝撃

●斜めからの衝撃

SRS サイドエアバッグは、前方や後方からの衝撃・横転・または低速での側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●前方からの衝突

●後方からの衝突

●横転

SRS カーテンシールドエアバッグは、後方からの衝撃・横転・または低速での前方や側面からの衝撃では、通常は作動しません。

●後方からの衝突

●横転

■トヨタ販売店に連絡が必要な場合

次のような場合には、点検・修理が必要になります。できるだけ早くトヨタ販売店へご連絡ください。

●いずれかの SRS エアバッグがふくらんだとき

●フロント SRS エアバッグはふくらまなかったが、事故で車両の前部を衝突したとき、または破損・変形などがあるとき

●SRS サイド&カーテンシールドエアバッグはふくらまなかったが、事故でドアおよびその周辺部分を衝突したとき、または破損・変形・穴あきなどがあるとき

●ハンドルのパッド部分・ダッシュボードの助手席 SRS エアバッグ付近・インストルメントパネル下部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS サイドエアバッグが内蔵されているシート表面が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

●SRS カーテンシールドエアバッグが内蔵されているフロントピラー部・リヤピラー部・ルーフサイド部が傷付いたり、ひび割れたり、その他の損傷を受けたとき

警告

■SRS エアバッグについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者と乗員すべてがシートベルトを正しく着用してください。
SRS エアバッグはシートベルトを補助するためのものです。

●助手席 SRS エアバッグは強い力でふくらむため、特に乗員がエアバッグに近付きすぎると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。乗員が SRS エアバッグのふくらむ場所に近い場合は特に危険です。シートの背もたれを調整して、シートをできるだけ SRS エアバッグから離し、まっすぐに座ってください。

警告

●お子さまがシートにしっかり座っていないと、SRS エアバッグのふくらむ衝撃で重大な障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。お子さまが小さくてシートベルトを使用できないときは、チャイルドシートでしっかり固定してください。
お子さまはリヤ席に乗せ、チャイルドシートまたはシートベルトを着用させることをおすすめします。
(→P.43)

●シートの縁に座ったり、ダッシュボードにもたれかかったりしない

●お子さまを助手席 SRS エアバッグの前に立たせたり、ひざの上に抱いたりしない

●運転者および助手席乗員は、ひざの上に何も持たない

●ドアやフロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレールへ寄りかからない

●助手席では、ドアに向かってひざをついたり、窓から顔や手を出したりしない

●ダッシュボード・ハンドルのパッド部分・インストルメントパネル下部などには何も取り付けたり、置いたりしない

警告

- ドア・フロントガラス・ドアガラス・フロントピラーおよびリヤピラー・ルーフサイドレール・アシストグリップなどには何も取り付けない（速度制限ラベルを除く→P.453）

- コートフックにハンガーなどの硬いものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグが作動したときに投げ出されて重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS ニーエアバッグがふくらむ場所にビニールカバーが付いている場合は、取り除いてください。
- SRS サイドエアバッグがふくらむ場所を覆うようなシートアクセサリーを使用しないでください。エアバッグが作動する際、アクセサリーが干渉するおそれがあります。そのようなアクセサリーがエアバッグが正常に作動するのをさまたげ、システムを不能にしたり、またはエアバッグが誤って作動したりして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
- SRS エアバッグシステム構成部品の周辺およびフロントドアの周辺は、強くたたくなど過度の力を加えないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- SRS エアバッグがふくらんだ直後は、構成部品が熱くなっているため、ふれないでください。
- SRS エアバッグがふくらんだあとに、もし呼吸が苦しく感じたら、ドアやドアガラスを開けて空気を入れるか、安全を確認して車外に出てください。皮膚の炎症を防ぐため、残留物はできるだけ早く洗い流してください。
- SRS エアバッグが収納されているパッド部・フロントピラーガーニッシュ部に傷が付いていたり、ひび割れがあるときは、そのまま使用せずトヨタ販売店で交換してください。

■改造・廃棄について

トヨタ販売店への相談なしに、次の改造・廃棄をしないでください。
SRS エアバッグが正常に作動しなくなったり、誤ってふくらむなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- SRS エアバッグの取りはずし・取り付け・分解・修理
- ハンドル・インストルメントパネル・ダッシュボード・シート・シート表皮・フロントピラー・センターピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール・フロントドアパネル・フロントドアトリム・フロントドアスピーカーなどの周辺の修理・取りはずし・改造
- フロントドアパネルの穴あけなどの改造
- フロントフェンダー・フロントバンパー・車内側面部の修理・改造
- グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）・除雪装置・ウインチなどの取り付け
- サスペンションの改造

警告

●CD プレーヤー・無線機などの電化製品の取り付け

ポップアップフード

ポップアップフードは前方向からの衝突時にボンネットを持ち上げ、FC ユニットルーム内の空間を確保し、歩行者の頭部への衝撃を緩和させます。

作動速度範囲での走行時に、歩行者やその他の物体と前方向から衝突したとき、フロントバンパー裏にあるセンサーが衝突を感知し作動します。

システムの構成部品

A センサー

B ボンネット

C リフター

知識

■**ポップアップフードについて**

●廃車するときは、必ずトヨタ販売店にご相談ください。

●ポップアップフードは、一度作動すると再使用できません。トヨタ販売店で交換してください。

■**予防連携機能について**

プリクラッシュセーフティによって歩行

者・自転車運転者との衝突の可能性が高いと判断されたとき、ポップアップフードの作動準備を整えます。

■ポップアップフードが作動するとき

次のような衝撃を受けたときに作動します。

●作動速度範囲（約 25 ～ 55km/h）での走行時、フロントバンパーに歩行者と同等、もしくはそれ以上の衝撃を正面から受けたとき（衝突したときにフロントバンパーに痕跡が残らないような場合でも、一定以上の衝撃が加われば作動します。また、軽いもの・小さな動物や他の小さな物体でも衝突の状況、速度によっては作動することがあります）

●その他に、次のような車両下部やフロントバンパーに衝撃を受けたときも作動することがあります。
・縁石に衝突したとき
・深い溝や穴に落ち込んだとき
・ジャンプして地面にぶつけたとき
・駐車場のスロープ・うねりのある道路・突起物や落下物などにぶつけたとき

■ポップアップフードが作動しにくいとき

●走行中、フロントバンパーの左右の角や側面に歩行者がぶつかったときは、衝撃を検知しにくいため、作動しないことがあります。また、歩行者の衝撃によっては作動しにくい場合があります。

●車両が横すべりするなどして、車速が正しく検知できないときは正常に作動しないことがあります。

■ポップアップフードが作動しないとき

次のようなときは作動しません。

●横たわっている人に衝突したとき

●作動速度範囲外での走行時にフロントバンパーが衝撃を受けたとき

●横方向や後部から衝撃を受けたとき

●横転、転覆したとき（事故の状況、形態によっては、ポップアップフードが作動することがあります）

警告

■ポップアップフードが作動したとき

●ボンネット解除レバーを引かないでください。ポップアップフードが作動したあとにボンネット解除レバーを引くと、さらにボンネットが上がり、思わぬけがをするおそれがあり危険です。また、ボンネットが上がったまま走行すると視界がさまたげられ、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ボンネットを無理に押しもどさないでください。作動したボンネットは手動では下げることができないため、ボンネットが変形したり、思わぬ傷害につながるおそれがあり危険です。

●ポップアップフードが作動したあとはトヨタ販売店で交換してください。なお、車両の移動は安全な場所までにとどめ、販売店に連絡してください。

●ポップアップフードが作動した直後は、リフターにふれないでください。作動直後はリフターが熱くなっているため、やけどをするおそれがあります。

注意

■ポップアップフードについて

●ボンネットが完全に閉まっていないと、正常に作動しないおそれがあります。走行前にボンネットが閉まっていることを必ず確認してください。

⚠注意

- 4 輪とも指定されたサイズのタイヤを指定空気圧で使用してください。異なるサイズのタイヤを使用すると、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- フロントバンパー周辺に何かがぶつかったときは、ポップアップフードが作動していなくても、センサーが損傷しているおそれがあります。必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。
- ポップアップフードの部品や配線などを取りはずしたり修理しないでください。誤って作動したり、正常に作動しなくなるおそれがあります。修理や交換作業が必要なときは、トヨタ販売店にご相談ください。
- フロントバンパー・ボンネット・サスペンションなどを純正品以外のものに交換しないでください。また、取りはずしたりしないでください。システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- フロントバンパーやボンネットにものを取り付けないでください。衝撃を正しく検知できず、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- ボンネットを強く閉めたり、リフターに荷重を加えないでください。リフターが損傷し、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。
- サスペンションを改造しないでください。車高がかわると、システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

お子さまを乗せるときは

お子さまを乗せるときは、次のことをお守りください。

- お子さまにも必ずシートベルトを着用させてください。
  シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、適切なチャイルドシートをご用意ください。
  （→P.43）
- 運転装置にふれるのを防ぐため、お子さまはリヤシートに乗せることをおすすめします。
- 走行中にドアを開けたり、パワーウインドウを誤操作したりしないように、チャイルドプロテクター（→P.126）・ウインドウロックスイッチ（→P.161）をご使用ください。
- 小さなお子さまには、パワーウインドウ・ボンネット・トランクやシートなど、体を挟まれるおそれがある装備類を操作させないでください。

警告

■お子さまを乗せるときは

- お子さまを車の中に残したままにしないでください。車内が高温になって熱射病や脱水症状になり、重大な健康障害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  また、お子さまが車内の装置を操作し、ドアガラスなどに挟まれたり、発炎筒などでやけどしたり、運転装置を動かして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
- 車にお子さまを乗せる場合は、お子さまの安全を確保するための注意事項やチャイルドシートの取り付け方などをまとめた「チャイルドシート」を参照してください。（→P.43）

チャイルドシート

ここでは、お車にチャイルドシートを取り付ける前にお守りいただきたいことや、チャイルドシートの種類および取り付け方法などを記載しています。

- シートベルトを正しく着用できない小さなお子さまを乗せるときは、チャイルドシートをお使いください。お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

取り付け方法は、商品に付属の取扱説明書に必ず従ってください。

- トヨタでは、より安全にお使いいただくために、トヨタ純正チャイルドシートの使用を推奨しています。

トヨタ純正チャイルドシートは、トヨタ車のために作られたチャイルドシートです。トヨタ販売店で購入することができます。

目次

知っておいていただきたいこと：P.43

チャイルドシートを使用するときは：P.44

シート位置別チャイルドシートの適合性について：P.46

チャイルドシートの取り付け方法：P.51
・ シートベルトで固定する：P.52
・ ISOFIX ロアアンカレッジで固定する：P.53
・ トップテザーアンカレッジを使用する：P.55

知っておいていただきたいこと

- チャイルドシートに関する注意事項および法規について、優先してお守りください。
- お子さまが成長し、適切にシートベルトが着用できるようになるまではチャイルドシートを使用してください。
- お子さまの年齢・体格に合わせて、適切なチャイルドシートをお選びください。
- すべてのチャイルドシートがすべての車両に適合するわけではありません。チャイルドシートの使用・購入の際は、あらかじめ取り付けるシート位置との適合性を確認してください。（→P.46）

警告

■お子さまを乗せるときは

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故や急停止の際、効果的にお子さまを保護するために、必ず正しく取り付けられたチャイルドシートを使用して、しっかり体を固定してください。お子さまに最適なチャイルドシートについては、チャイルドシート製造業者、または販売業者にご相談ください。

警告

- トヨタでは、お子さまの年齢や体の大きさに合った適切なチャイルドシートをリヤシートに取り付けることを推奨します。事故統計によると、フロントシートよりリヤシートに適切に取り付けるほうがより安全です。
- お子さまを腕の中に抱くのはチャイルドシートのかわりにはなりません。事故の際、お子さまがフロントウインドウガラスや乗員、車内の装備にぶつかるおそれがあります。

■チャイルドシートについて

次のことをお守りいただかないと、急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに飛ばされるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 事故等で車両に強い衝撃を受けた場合は、チャイルドシートにも目に見えない破損があるおそれが強いため、再使用しないでください。
- チャイルドシートによっては、取り付けができない、または取り付けが困難な場合があります。その場合は、車への取り付けに適したチャイルドシートであるか確認してください（→P.46）。本書のチャイルドシート固定方法およびチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。
- チャイルドシートを使用しないときであっても、シートに適切にしっかりと取り付けた状態にしてください。ゆるめた状態で客室内に置くことは避けてください。
- チャイルドシートの取りはずしが必要な場合は、車両からはずして保管するか、トランク内に容易に動かないように収納してください。

チャイルドシートを使用するときは

■ 助手席にチャイルドシートを取り付けるとき

お子さまの安全のために、チャイルドシートはリヤシートに取り付けてください。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートを次のように調整し、チャイルドシートを取り付けてください。

- シートをいちばんうしろに下げる
- 背もたれを可能な限り起こす

背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように調整してください。

- ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、ヘッドレストを取りはずす

取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

警告

■チャイルドシートを使用するとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

うしろ向きに取り付けていると、事故などで助手席 SRS エアバッグがふくらんだとき、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

助手席側のサンバイザーに、同内容のラベルが貼られています。併せて参照してください。

警告

警告

●やむを得ず助手席に前向きにチャイルドシートを取り付ける場合には、助手席シートをいちばんうしろに下げて取り付けてください。

助手席 SRS エアバッグはかなりの速度と力でふくらむので、お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●チャイルドシートに座らせている場合でも、ドア・シート・フロントピラー・リヤピラー・ルーフサイドレール付近にお子さまの頭や体のどの部分も、もたれかけないようにしてください。SRS エアバッグがふくらんだ場合、大変危険であり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。

●お子さまの年齢や体の大きさに合ったチャイルドシートを使用して、リヤシートに取り付けてください。

●運転席とチャイルドシートが干渉し、チャイルドシートが正しく取り付けられない場合は、助手席側のリヤ席に取り付けてください。

●助手席シートとチャイルドシートが干渉しないように、助手席シートを調整してください。

シート位置別チャイルドシートの適合性について

■ シート位置別チャイルドシートの適合性一覧表について

シート位置別チャイルドシートの適合性（→P.47）は、使用可能なチャイルドシートの種類や取り付け可能な座席位置を記号で表しています。また、お子さまに合った推奨チャイルドシートについても選択することができます。

推奨チャイルドシートについては、「推奨チャイルドシートと適合性一覧表」を確認してください。（→P.50）次に記載されている、「シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に」も併せて確認してください。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性を確認する前に

1 チャイルドシートの規格を確認する

UN(ECE) R44※1 または、UN(ECE) R129※1 に適合したチャイルドシートを使用してください。

適合したチャイルドシートには、次の認可マークが表示されています。

チャイルドシートに付いている認可マークを確認してください。

法規番号の表示例

A UN(ECE) R44 認可マーク ※2

対象となるお子さまの体重の範囲が記載されています。

B UN(ECE) R129 認可マーク ※2

対象となるお子さまの身長の範囲および使用可能な体重が記載されています。

2 チャイルドシートのカテゴリーを確認する

チャイルドシートのカテゴリーが次のどのカテゴリーに該当するのか、チャイルドシートの認可マークを確認ください。

また、ご不明な場合はチャイルドシートに付属の取扱説明書を確認頂くか、または販売業者へ確認してください。

- ユニバーサル「universal（汎用）」
- セミユニバーサル「semi-universal（準汎用）」
- リストリクティッド「restricted（限定）」
- ビークルスペシフィック「vehicle specific（特定車両）」

※1 UN(ECE) R44、UN(ECE) R129は、チャイルドシートに関する国連法規です。

※2 表示されているマークは、商品により異なります。

■ シート位置別チャイルドシートの適合性

1 ※1, 2, 3	UF ※4
2 ※5	U L

③	U
④ ※5	U L

車両のシートベルトで固定するタイプのユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

車両のシートベルトで固定するタイプの前向きに取り付けるユニバーサル（汎用）カテゴリーのチャイルドシートに適しています。

推奨チャイルドシートと適合性一覧表（→P.50）に記載されたチャイルドシートに適しています。

i-Size チャイルドシートおよびISOFIX チャイルドシートに適しています。

トップテザーアンカレッジが装備されています。

やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合には、チャイルドシートをうしろ向きに取り付けないでください。

※1シートをいちばんうしろに下げた状態で取り付けてください。シートの高さ調整ができる場合は、いちばん高い位置に調整してください。

※2背もたれを可能な限り起こしてください。
前向きにチャイルドシートを取り付けるときに、背もたれとチャイルドシートの間にすき間がある場合は、背もたれとチャイルドシートのすき間が少なくなるように背もたれを調整してください。

※3ヘッドレストとチャイルドシートが干渉してチャイルドシートが正しく取り付けられない場合、ヘッドレストの取りはずしが可能なときは、ヘッドレストを取りはずしてください。取りはずしができない場合は、ヘッドレストをいちばん上まで上げてください。

※4チャイルドシートを必ず、前向きで使用してください。

※5ヘッドレストをいちばん下まで下げてください。

■ チャイルドシート取り付けに関する詳細情報

着座位置				
シート位置の番号	①	②	③	④
ユニバーサル（汎用）ベルト式が搭載可能な着座位置（有／無）	有 前向きのみ	有	有	有
アイサイズ着座位置（有／無）	無	有	無	有
搭載可能な横向きチャイルドシートの治具（L1/L2）	×	×	×	×
搭載可能なうしろ向きチャイルドシートの治具（R1/R2X/R2/R3）	×	R1, R2X, R2	×	R1, R2X, R2
搭載可能な前向きチャイルドシートの治具（F2X/F2/F3）	×	F2X, F2, F3	×	F2X, F2, F3
搭載可能なジュニアシートの治具（B2/B3）	×	B2, B3	×	B2, B3

ISOFIX チャイルドシートはいくつかの「治具」に分かれています。上記の表に示す「治具」の着座位置でチャイルドシートを使用することができます。「治具」の種類は、次の表を確認ください。

チャイルドシートの「治具」の種類を確認するために、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。お手持ちのチャイルドシートに「治具」の種類がない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートの「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。

治具	使用の向き・形状・大きさ
F3	全高前向きチャイルドシート
F2	低型前向きチャイルドシート
F2X	低型前向きチャイルドシート
R3	大型うしろ向きチャイルドシート
R2	小型うしろ向きチャイルドシート
R2X	小型うしろ向きチャイルドシート
R1	うしろ向きチャイルドシート
L1	左向き寝台式チャイルドシート
L2	右向き寝台式チャイルドシート

治具	使用の向き・形状・大きさ
B2	ジュニアシート
B3	ジュニアシート

■ 推奨チャイルドシートと適合性一覧表

推奨チャイルドシート	適応範囲	搭載する向き	着座位置			
			①	②	③	④
トヨタ純正 NEO G-Child baby	体重：～ 13kg	後向き	×	○	×	○
	体重：9 ～ 18kg	前向き	×	○	×	○
トヨタ純正 NEO G-Child i-Size	身長：～ 83cm（体重：～ 13kg）	後向き	×	○	×	○
	月齢 15 か月以上かつ、身長：76 ～ 100cm（体重：～ 18kg）	前向き	×	○	×	○
トヨタ純正 ジュニアシート	体重：15 ～ 36kg	前向きのみ	×	○	×	○

チャイルドシートの隣の席を使用するときは、肩部ベルトが確実に肩を通り、腰部ベルトが腰骨のできるだけ低い位置に密着することを確認してください。チャイルドシートの隣の席に座ったときに、チャイルドシートの種類によっては、乗員の体またはシートベルトがチャイルドシートと干渉するためシートベルトが正しく着用できず、十分な効果を発揮できない場合があります。その場合は、他の席を使用してください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- リヤシートにチャイルドシートを取り付けるときは、お子様やチャイルドシートがフロントシートと干渉しないようにフロントシートを調整してください。
- サポートベース付きのチャイルドシートを取り付けるときに、チャイルドシートをサポートベースへ固定する際にチャイルドシートが背もたれと干渉する場合は、チャイルドシートが干渉しなくなるまで背もたれを調整してください。
- シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に動かします。

● ジュニアシートを取り付けるときに、お子様がかなり直立した姿勢になる場合は、背もたれの角度を最も快適な位置に調整します。また、シートベルトのショルダーアンカーがチャイルドシートベルトガイドより前にある場合は、シートを前方に移動します。

チャイルドシートの取り付け方法

チャイルドシートのご使用については、チャイルドシートに付属の取扱説明書を確認してください。

固定方法		ページ
シートベルトで固定する		P.52

固定方法		ページ
ISOFIX ロアアンカレッジで固定する		P.53
テザーベルトを固定する		P.55

チャイルドシートをシートベルトで固定する

■ シートベルトで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.46）

1 やむを得ず助手席にチャイルドシートを取り付ける場合は、助手席シートを正しく調整してください。（→P.44）

2 リヤシート：ヘッドレストをいちばん下まで下げる（→P.141）

3 チャイルドシートにシートベルトを取り付け、プレートをバックルに“カチッ”と音がするまで挿し込む。ベルトがねじれていないようにする

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従い、シートベルトをチャイルドシートにしっかりと固定させてください。

4 チャイルドシートにシートベルトの固定装置が備わっていない場合は、ロッキングクリップ（別売）を使用して固定する

ロッキングクリップの購入にあたっては、トヨタ販売店にご相談ください。（ロッキングクリップ品番：73119-22010）

5 取り付け後はチャイルドシートを前後左右にゆすり、しっかりと固定されていることを確認してください。（→P.53）

■ チャイルドシートの取りはずし

バックルの解除ボタンを押し、シートベルトをチャイルドシートから取りはずす

バックル解除時に、シートクッションの反発により、チャイルドシートが跳ね上がることがあります。

チャイルドシートを抑えながらバックルの解除をしてください。

シートベルトは自動的に巻き取られますので、ゆっくりもどしてください。

⚠ 警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。万一ベルトが首に巻き付いた場合、窒息など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。
  誤ってそのような状態になってしまい、バックルもはずせない場合は、ハサミなどでシートベルトを切断してください。
- シートベルトのプレートとバックルがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって、しっかり固定されているか確認してください。
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ジュニアシートを使用している場合は、肩部ベルトが常にお子さまの肩の中心にくるようにしてください。ベルトを首から離すと共に肩から落ちないようにしてください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

チャイルドシートを ISOFIX ロアアンカレッジで固定する

■ ISOFIXロアアンカレッジについて

この車はリヤ外側席に ISOFIX ロアアンカレッジが装備されています。（ロアアンカレッジが装備されていることを示すボタンがシートに付いています）

■ ISOFIXロアアンカレッジで固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

お手持ちのチャイルドシートが「ユニバーサル」カテゴリーでない（または必要な情報が表の中にない）場合は、チャイルドシートメーカーが提供する「車種別適合リスト」を参照するか、販売業者へお問い合わせの上、適合性を確認してください。（→P.46）

1 ヘッドレストをいちばん下まで下げる（→P.141）

2 チャイルドシートをシートに取り付ける

チャイルドシートのコネクタ（取り付け金具）をロアアンカレッジに取り付けます。

取り付け方法は、それぞれのチャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってください。

3 取り付けたチャイルドシートを前後左右にゆすり、固定されていることを確認する（→P.53）

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- ISOFIX ロアアンカレッジを使用するときは、周辺に障害物がないか、シートベルトが挟まっていないかなどを確認してください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

トップテザーアンカレッジを使用する

■ トップテザーアンカレッジについて

この車はリヤ外側席にトップテザーアンカレッジが装備されています。

テザーベルトを固定するときに使います。

A トップテザーアンカレッジ

B テザーベルト

■ テザーベルトをトップテザーアンカレッジに固定する

チャイルドシートに付属の取扱説明書に従ってチャイルドシートを取り付けてください。

1 ヘッドレストをいちばん下まで下げる（→P.141）

2 トップテザーアンカレッジにフックを固定し、テザーベルトを締める

テザーベルトをピンと張り、フックがしっかり固定されていることを確認します。（→P.53）

A フック

B テザーベルト

警告

■チャイルドシートを取り付けるとき

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- テザーベルトがしっかり固定されて、ベルトがねじれていないか確認してください。
- テザーベルトはトップテザーアンカレッジ以外に掛けないでください
- チャイルドシートを固定したあとは、シートを調整しないでください。
- 必ずチャイルドシートに付属の取扱説明書をよくお読みの上、確実に取り付け、使用方法をお守りください。

注意

■トップテザーアンカレッジについて

使用しないときはフタを確実に閉めてください。開けたままにしておくとフタが破損するおそれがあります。

イモビライザーシステム

キーに信号発信機が内蔵してあり、あらかじめ登録されたキー以外では FC システムを始動できません。

車両から離れる場合は、車内にキーを残さないでください。

このシステムは車両盗難の防止に寄与する機能であり、すべての車両盗難に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

システムを作動させるには

パワースイッチを OFF にすると、システムの作動を知らせるためにインジケーターが点滅します。

登録されたキーを携帯し、パワースイッチを ACC または ON にするとシステムが解除され、インジケーターが消灯します。

知識

■メンテナンスについて

イモビライザーシステムのメンテナンスは不要です。

■システムが正常に作動しないとき

- キーが金属製のものに接したり、覆われているとき
- キーが他の車両のセキュリティシステム用キー（信号発信機内蔵キー）と重なっているときや接近しているとき

注意

■イモビライザーシステムを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

オートアラーム

オートアラームとは、侵入を検知した場合に音と光で警報する機能です。オートアラームを設定すると、次のような状況でオートアラームが作動します。※

- 施錠されたドアまたはトランクが、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使わずに解錠されたり、開けられたとき
- ボンネットが開けられたとき
- 侵入センサーが車内で動く物体を検知したとき（侵入者がガラスを割るなどして車内に乗り込んだとき）

※ T-Connect サービスをご利用のお客様へは、オートアラームが作動した場合 E メールや電話でお知らせすることができます。
詳しくは、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

オートアラームを設定／解除／停止する

■ ドアを施錠する前の確認

オートアラームの思わぬ作動、および盗難を防ぐため、次のことを必ず確認してください。

- 車内に人が乗っていないか
- ドアガラスが閉じているか
- 車内に貴重品などを放置していないか

■ オートアラームを設定するには

ドア・トランク・ボンネットを閉め、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使って施錠します。
30 秒以上経過すると、自動的に設定されます。

オートアラームがセットされるとインジケーターは点灯から点滅にかわります。

■ オートアラームを解除／停止するには

次のいずれかを行ってください。

- スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンを使ってドアまたはトランクを解錠する
- パワースイッチを ACC または ON にするか、FC システムを始動する（数秒後に解除・停止します）

知識

■ メンテナンスについて

オートアラームシステムのメンテナンスは不要です。

■ T-Connect（ご契約のお客様のみ）

- うっかり通知機能によって、施錠のし忘れや非常点滅灯の消し忘れ、ドアガラスの閉め忘れを、ご指定の E メール

アドレスへお知らせすることができます。
うっかり通知機能は車内の電子キー検知を使用しているため、スマートエントリー＆スタートシステムが正しく作動しない場合は、うっかり通知機能が正しく働かないことがあります。

●リモート確認機能によって、ドアの開閉や施錠の状態、非常点滅灯の点滅状態、電子キーの車内への置き忘れなどを携帯電話で確認できます。

詳しくは、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

■オートアラームの作動について

次のような場合、オートアラームが作動することがあります。オートアラームを解除・作動を停止する操作を行ってください。

●メカニカルキーを使ってドアを解錠したとき

●メカニカルキーを使ってトランクを解錠したとき

●車内に残った人が、ドア・トランク・ボンネットを開けたり、解錠したとき

●施錠後、補機バッテリーあがりなどで補機バッテリーの充電や交換をしたとき（→P.467）

■オートアラーム作動によるドアロック機能

次のとき、自動的にドアが施錠されることがあります。

●車内に残った人がドアを解錠し、オートアラームが作動したとき

●オートアラーム作動中に車内に残った人がドアを解錠したとき

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.480）

⚠注意

■オートアラームを正常に作動させるために

システムの改造や取りはずしをしないでください。システムが正常に作動しないおそれがあります。

侵入センサー

■ 侵入センサーの検知について

侵入センサーは、車内に不正に入

り込んだ侵入者の動きを超音波で検知するセンサーです。侵入者の動きで検知するため、ドアを開けずガラスを割って入り込んだ侵入者なども検知できます。

このシステムは、車両盗難を防止または抑止する機能であり、すべての侵入に対する完全なセキュリティを保証するものではありません。

■ 侵入センサ ― を設定する

オートアラームを設定すると、自動でセットされます。（→P.57）

■ 侵入センサ ― を停止する

車内で動くものに反応するため、ペットや動くものを車内に残すときは、必ず侵入センサ ― を停止してからオートアラームを設定してください。

1 パワースイッチを OFF にする

2 侵入センサ ―OFF スイッチを押す

もう一度スイッチを押すと、侵入センサ ― は再びセットされます。

侵入センサ ― を OFF/ON するたびに、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

知識

■侵入センサ ― の作動・停止について

●侵入センサ ― の作動を停止しても、オートアラームは作動します。

●侵入センサ ― を停止したあとにパワースイッチを押すか、スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンによる解錠操作を行うと、侵入センサ ― は復帰します。

●オートアラームの設定を解除するたびに侵入センサ ― は復帰します。

■侵入センサーについての留意事項

次のような場合、侵入センサーの検知によりオートアラームが作動することがあります。状況に応じ、侵入センサーを停止してからアラームを設定してください。

●車内に乗員やペットなどを残して車両から離れる場合

●ドアガラスが開いている場合、次のものを検知することがあります。

・室内に入った落ち葉・虫・風など

・他車の侵入センサーなどが発する超音波

・室外の歩行者の動き

●蛾やハエなど小さな虫が車内にいる場

合

●マスコットやアクセサリーをぶら下げた状態で取り付けたり、コートフックに衣類をかけているときなど、動きやすいものが車内にある場合

●立体駐車場のような振動や騒音の激しい場所に駐車したとき

●雪かきやガラスに付着した氷を削り落とす際に、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき

●高圧洗車機や自動洗車機などを使うとき

●ひょうや落雷などにより、連続的な衝撃や振動が車両に伝わったとき

注意

■侵入センサーを正しく作動させるために

●センサーの穴はふさがないようにしてください。

●センサーの穴に向かって、直接消臭スプレーなどを噴霧しないでください。

●運転席と助手席のシートのあいだに、トヨタ純正品以外のアクセサリーを装着したりものを放置したりすると、検知性能が低下することがあります。

●電子キーがお車の近くにある場合は、センサーの作動を停止する場合があります。

FC システム

2

2-1. 燃料電池車について

燃料電池車の特徴 62
燃料電池車の注意 66
燃料電池車運転のアドバイス 75

2-2. DC 外部給電システムについて

DC 外部給電システム 77
正常に給電できないときは 85

燃料電池車の特徴

燃料電池車は、FC スタックで水素と酸素の化学反応によって発電された電気と、駆動用電池に蓄えられた電気を効率よく使用して、電気モーターで走行します。

燃料は H_2（圧縮水素ガス）を使用するので、走行中に排出するのは水や水蒸気のみです。CO_2（二酸化炭素）や NO_x（窒素酸化物）といった排気ガスを出さない、環境にやさしい車両です。

燃料電池車固有部品について

イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

A FC スタック（燃料電池）

B FC 昇圧コンバータ・補機インバータ

C 水素タンク

D 駆動用電池

E 電気モーター（駆動モーター）

F 排気排水管

知識

■ **燃料電池車特有の音と振動**

燃料電池車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時は確実にパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてください。

燃料電池車は、いろいろな状況で次のような音や振動が発生する場合がありますが、異常ではありません。

なお、聞こえ方は、使用環境や状況により異なる場合があります。

聞こえる音の例	音の意味
“コン、カチン”	リレー、水素タンクのバルブの作動音です。 FC システム始動時や停止時に聞こえる場合があります。
“コン、カタン”	パーキングロックがはまる音です。 P ポジションスイッチを押したとき、または FC システム停止時に聞こえる場合があります。
“シュー”、“キュー”	燃料が流れる際の気流音・作動音です。 燃料充てん時に聞こえる場合があります。
“ウィーン”、“ウー”、“シュー”	ポンプなどの回転機の作動音です。 特に、FC システム始動時、発進時、給電時、H_2O スイッチを押したときに聞こえる場合があります。 Br モード時、またはレーダークルーズコントロールでの減速時には音が大きくなる場合があります。
“ヒューン”、“キーン”	電気モーターの回転に伴う音です。 特に加速時、減速時に聞こえる場合があります。
“シャー”	水や空気を排出する音です。 寒冷時は凍結防止のため駐車中に音がする場合があります。 停車中、FC システム停止時、または駐車中に聞こえる場合があります。
“ブーン”	冷却ファンの作動音です。 特に給電時に聞こえる場合があります。

■ **メンテナンスや修理・廃車について**

お車のメンテナンスや修理・廃車の際は必ずトヨタ販売店にご相談ください。特に廃車する場合は、トヨタ販売店を通じて FC スタック・駆動用電池などの回収

を行っていますので、ご協力ください。

走行について

電気モーターならではの力強く滑らかな発進・加速が可能です。

特別な操作は不要でガソリン車と同様に走行できます。（→P.165）

エンジン音もなく静かな車のため、燃料電池車固有部品の作動音が聞こえる場合があります。（→P.63）

知識

■回生ブレーキについて

次の場合、車の運動エネルギーを電気エネルギーに変換し、減速力を得ることができます。

- シフトポジションが D で走行中に、アクセルペダルから足を離したとき
- シフトポジションが D で走行中に、ブレーキペダルを踏んだとき

■駆動用電池の充電について

FC スタックの発電による充電や回生ブレーキにより、駆動用電池が充電されるため、車外からの充電は必要ありません。しかし、車両を長時間放置すると、少しずつ放電します。そのため少なくとも、2～3ヶ月に一度、約 30 分間または 16km ほど運転してください。

万一、駆動用電池が完全に放電し、FC システムを始動できないときはトヨタ販売店にご連絡ください。

■補機バッテリーの充電について

→P.467

■燃料電池車特有の音と振動について

燃料電池車は、READY インジケーターが点灯し、走行可能な状態でも、通常の車のように、エンジン音や振動がないことがあるため、走行可能な状態であることに気が付かない場合があります。安全のため、駐車時はパーキングブレーキをかけて、確実にシフトポジションを P にしてください。

FC システムについて

寒冷時は、始動性向上のため寒冷時特有のシステム作動になる場合があります。（→P.173）

作動音（→P.63）、排水処理（→P.175）などが通常と異なりますが、異常ではありません。

燃料充てん（燃料補給）について

燃料の圧縮水素ガスは、水素ステーションで充てんできます。

燃料充てん口（補給口）の開け方（→P.204）

車両接近通報装置

燃料電池車は、従来の車両と違いエンジン音がありません。走行時、車両の接近を周囲の人に知らせるため、車速に応じた音階で音を鳴らします。車速が約 25km/h をこえると消音します。

知識

■車両接近通報装置について

次のような場合は、周囲の人に通報音が聞こえにくくなることがあります。

- 周囲の騒音が大きい場合
- 雨または強風の場合

また、車両接近通報装置は車両前側にあるので、車両前方と比較して、車両後方は聞こえにくくなることがあります。

先読みエコドライブ

本システムは走行の状況をもとに作動し、優れた実燃費に貢献する機能です。先読みエコドライブの詳細については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

■ 先読み減速支援

● ナビゲーションシステムに登録された先読み減速支援地点に車両が近づくと、マルチインフォメーションディスプレイ上のエコアクセルガイド（→P.103）の「アクセル操作の目安」Aの表示が消え、余分な加速をし続けないように支援します。

▶ 8 インチディスプレイ装着車

▶ 12.3 インチディスプレイ装着車

● アクセルペダルを離したあとに、走行状況に応じて回生ブレーキ力を高め、より効率的に駆動用電池を充電します。

燃料電池車の注意

システムの構成部品

■ 水素関係部位について

燃料電池車には、水素タンク（70MPa）・FC スタック・水素配管などの水素関係部位があります。水素関係部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してあります。

イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

A ラベル

B FC スタック（燃料電池・水素ポンプ）

C 水素ディテクタ（検知器）

D 水素タンク

E 水素タンクバルブ

F 水素配管

G 水素供給ユニット

■ 高電圧部位・高電圧配線・高温部位について

燃料電池車には、FC スタック・駆動用電池・パワーコントロールユニッ

ト・FC 昇圧コンバータ・オレンジ色の高圧ケーブル・電気モーターなどの高電圧部位（最高約 650V）や、冷却用ラジエーターなどの高温部位があります。高電圧部位などには、取り扱い上の注意を記載したラベルが貼付してあります。

イラストは説明のための例であり、実際とは異なります。

A ラベル

B 外部給電アウトレット

C 水加熱ヒーター

D FC 昇圧コンバータ・補機インバータ

E パワーコントロールユニット

F 駆動用電池

G サービスプラグ

H 電気モーター（駆動モーター）

I 高電圧ケーブル（オレンジ色）

J FC スタック（燃料電池・水素ポンプ）

K エアコンプレッサ

L エアコンコンプレッサー

M FC スタック冷却用ラジエーター

N インバーター冷却用ラジエーター

O FC ウォーターポンプ

知識

■マルチインフォメーションディスプレイに “ 水素漏れ検知　販売店で点検 ” が表示されたときは

少量の水素ガスもれのおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに “ 水素漏れによりシステム停止 安全な場所に停車して取扱書を確認 ” が表示されたときは

●水素ガスもれのおそれがあります。

水素ガスもれやその他の異常に気付いたとき：→P.71

●エアコンが自動的に停止します。

■燃料切れになったとき

燃料切れで FC システムが始動できないときは、燃料残量警告灯（→P.442）が消灯するまで充てんしてから再始動してください。少量の充てんでは始動できない場合があります。

■FC スタックについて

●使用環境により、出力は低下しますが走行への影響はほとんどありません。

●次のような状況では、通常使用時と比べて早めに出力が低下する場合があります。

・高濃度粉じんの場所で使い続ける
・火山、温泉地などの高い硫黄濃度の場所で使い続ける
・高い濃度のシンナー・塗料などの有機溶剤・アンモニア臭などのアミン系物質・塩素系物質（潮風・融雪剤など）が存在する場所で使い続ける
・エアクリーナフィルター内に海水が浸入したとき
エアクリーナフィルターの交換および周辺の清掃をおすすめします。トヨタ販売店で点検を受けてください
・FC システムの始動停止回数が過度に多い場合
・氷点下での使用期間が過度に多い場合
・ISO-14687 に準拠しない、不純物が多い水素ガスを充てんした場合

■水素タンクについて

●水素タンクは、車両の燃料である圧縮水素ガスを水素ステーションで高圧充てんしてためておく容器です。

●燃料電池車は定期的な燃料装置の点検の他に、定期的な容器（水素タンク）の再検査が法律で義務づけられています。
容器再検査に合格し、検査有効期限内でないと圧縮水素ガスを充てんすることができません。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

●水素タンクは法律により充てん可能期限が定められています。燃料充てん扉の裏側・ボンネットの裏側に明記される充てん可能期限を過ぎる場合は、水素タンクを交換する必要があります。

●水素タンクまたは水素タンクバルブを廃棄するときは、法律に従い処分する必要があります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

●高圧ガス・水素タンクの喪失・盗難時

の順守事項
・燃料電池車が盗難された場合、管轄の警察官へ被害届を必ず提出をしてください。
・その際に、盗難された車両が高圧ガスを充てんするための容器を搭載していることを、警察官に必ず伝えてください。

■FC スタック用冷却水について

●高電圧である FC スタックを安全に冷却するために、FC スタック用冷却水は絶縁性の高い専用品を使用しています。

●FC スタック用冷却水の補充・交換は、トヨタ販売店にご相談ください。

■イオンフィルタについて

●FC スタック用冷却水の絶縁性を常に維持するために、FC スタック用冷却水の経路にはイオンフィルタが設置されています。

●イオンフィルタは定期的な交換が必要となります。（→P.448）

■排気排水管について

●走行後、パワースイッチを OFF にして FC システムを停止（→P.175）したときに排気排水管から排水されます。車両後方に立つと水がかかることがありますので注意してください。

●車庫や立体駐車場で排水量を少なくしたい場合は、駐車する前にスイッチ操作で排水することが可能です。（→P.188）

●寒冷時に排気排水管から排出される白霧は水蒸気ですので異常ではありません。風向きなどによっては、車両側面から白霧が出ることがあります。気になる場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●排気排水管が異物でふさがれると FC システムが停止することがあります。

●寒冷時、以下の状況では白霧が排出されることがあります。システム保護のための水蒸気排出であり、異常ではありません。
・燃料充てん後など、フューエルリッドを開けてから数十分経過した場合
・パワースイッチを OFF にしてから数時間経過した場合

■水素ディテクタ（検知器）について

パワースイッチを ON にすると、水素ガスもれの検知を開始します。

■出力制限について

出力が制限されたときは、電気モーターに供給される電力が制限されるため、アクセルペダルを踏んでも車速があがらなかったり、減速することがあります。安全な走行速度が維持できない場合は、走行車線から離れた安全な場所に停車してください。

●急加速・急減速のくり返し、上り坂での連続走行、高地での高負荷連続走行などによって冷却水の温度が高くなったときは、マルチインフォメーションディスプレイに “FC システム高温出力制限中です” が表示され、出力が制限されることがあります。冷却水が正常な温度にもどれば出力制限は解除されます。（→P.445）

●燃料残量警告灯が点灯したあとに、しばらく走行していると走行可能な距離を伸ばすため出力が制限されることがあります。この状態になると残りわずかしか走行できません。すぐに圧縮水素ガスを充てんしてください。

●寒冷時は、通常よりも早く燃料残量警告灯が点灯し、出力が制限されることがあります。

■電磁波について

●高電圧部位や高電圧配線は、電磁シールド構造になっています。従来の車や家電製品と比べて、電磁波が多いということはありません。

●アマチュア無線の一部（遠距離通信）において、受信時に雑音が混入する場合がありますので、あらかじめご了承ください。

■駆動用電池について

駆動用電池には寿命があります。寿命は車の使い方、走行条件により異なります。

■極寒の環境での始動について

外気温の影響により駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ -30℃以下）、FC システムが始動できなくなることがあります。その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■適合宣言（駆動用電池）

この車両は、ECE100（バッテリー電気車両安全）に基づいた水素排出量に適合しています。

■水素ガスの特性

●水素ガスはガソリンにくらべて着火しやすいですが、空気にくらべて軽く拡散しやすいので、外部にもれた場合でもすぐに燃焼可能な濃度より薄くなる特徴があります。

●水素ガスは下記に示す特性を理解した上で正しく使用すれば、ガソリンや天然ガスなどと同様に危険な燃料ではありません。

	水素ガス	LPG（液化石油ガス）	ガソリン
空気中での状態	気体（空気より軽い）	気体（空気より重い）	液体。揮発後は気体（空気より重い）
着火しやすさ	ガソリンにくらべて着火しやすい	ガソリンと同程度	－
たまりやすさ	・上方に拡散し、開放空間ではすぐに安全な濃度に薄まる ・衣服などに付着しない	・地面、床に広がる ・衣服などに付着しない	・地面、床に広がる ・衣服などに付着する
発見しやすさ	・無色・無臭の気体のため、色や臭いでの発見は難しい ・ガスがもれる音やマルチインフォメーションディスプレイのメッセージで判別可能	臭い・ガスがもれる音で判別可能	色・臭いで判別可能

■水素安全の基本的な考え方

●もらさない

水素配管の接続部分はもれにくさに十分配慮した設計をしています。車検時には水素配管の接続部分のもれの確認をします。

●検知して止める

・水素ディテクタ（検知器）を装着しています。万が一水素ガスがもれた場合は、水素ガスを検知して水素タンクバルブが閉じて、水素ガスのもれが止まります。

・衝突センサーを装備しています。衝突を検知したときは、水素タンクバルブが閉じ、水素ガスの大量もれを防止します。

●もれた水素をためない

水素タンクや水素配管などは車室外に配置し、水素ガスがもれた場合も空気に拡散する設計をしています。

●火種を置かない

水素配管の付近には火種になるものを配置しない設計をしています。

⚠警告

■水素関係部位について

●改造・架装・分解は絶対にしないでください。

●床下の水素タンクやFCユニットルーム内のFCスタックおよびこれらを結ぶ部品や水素配管などには水素ガスが充てんされています。これらの部品の取りはずし・分解などを行うと、水素ガスもれの原因になり、車両火災や爆発につながり、最悪の場合死亡につながるおそれがあり危険ですので、絶対にさわらないでください。

■水素ガスもれやその他の異常に気付いたとき

●大量の水素ガスもれに気付いたときは、パワースイッチをOFFにしていったん車両から離れてください。

水素ガスがもれているときや、異常な箇所が発見できないときなどは、火気を近づけないように、付近の人に救援を求めて監視人をつけるか、火気厳禁を表示して、ただちにトヨタ販売店へ連絡してください。

●水素ガスがもれる音や、その他の異常に気付いたときは、ただちに安全で風通しのよい場所に停車し、車両から離れてください。

●マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されたときは、ただちに安全で風通しのよい場所に停車してください。

●発炎筒は車両の近くで使用しないでください。車両の近くで使用すると、もれた水素ガスに引火して車両火災になるおそれがあり危険です。（→P.427）

■排気排水管について

●排気排水管から出てくる水や水蒸気を直接さわらないでください。低温やけどをする可能性があります。

●排気排水管から生成水が排出されますが、飲料水としての処理はしていませんので、飲まないでください。

●新車納車後の一定期間や長期放置後などは、まれに排気排水管から臭いが感じられる場合がありますが、異常ではありません。また、臭いは有害ではありませんが、気分を害するおそれがあるため嗅がないでください。

警告

■高電圧・高温について

この車は、高電圧システムを使用しています。

次のことをお守りいただかないと、やけどや感電など重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）およびそのコネクターの取りはずし・分解などは絶対に行わないでください。

●走行後はFCユニットルーム内の部品が高温になります。車に貼ってあるラベルの指示に従い、常に高電圧・高温部位に注意してください。

●駆動用電池にはサービスプラグが設置してあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。サービスプラグは、トヨタ販売店での車両の修理時などに、駆動用電池の高電圧を遮断するためのものです。

■事故が発生したとき

次のことをお守りいただかないと、車両火災や感電事故などが発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●続発事故防止のため安全な場所に停車して、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションをPにする

●水素ガスもれがないか確認する

水素ガスもれの有無は、水素ガスのもれる音がする・マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されるなどの症状で確認できます。

●大量の水素ガスもれに気付いたときは、パワースイッチをOFFにしていったん車両から離れる

水素ガスがもれているときや、異常な箇所が発見できないときなどは、火気を近づけないように、付近の人に救援を求めて監視人をつけるか、火気厳禁を表示して、ただちにトヨタ販売店へ連絡してください。

●発炎筒は車両の近くで使用しない

車両の近くで使用すると、もれた水素ガスに引火して車両火災になるおそれがあり危険です。（→P.427）

●高電圧部位・高電圧配線（オレンジ色）などには、絶対にさわらない（→P.66）

●車室内および車室外にはみ出している電気配線には絶対にさわらない

●液体の付着やもれがある場合は絶対にさわらない

駆動用電池の電解液（炭酸エステルを主とする有機電解液）が目や皮膚にふれると失明や皮膚傷害のおそれがあり危険です。万一、目や皮膚に付着した場合はただちに多量の水で洗い流し、早急に医師の診察を受けてください。

●車両火災のときには、水素タンクの破損を軽減するために、水素タンク内の水素ガスが水素タンクバルブから車両右側と車両後方のななめ下に放出されます。車両から離れて、車両の右側や後方に立たないようにしてください。

警告

●万一、車両火災が発生したときは、ABC 消火器を使用して消火できます

水をかける場合は、消火栓などから大量にかけてください。

●後輪が接地した状態でけん引しない

電気モーターから発電され、破損の状態によっては、火災のおそれがあり危険です。（→P.431）

■駆動用電池について

●絶対に転売・譲渡・改造などをしないでください。廃車から取りはずされた駆動用電池は事故防止のため、トヨタ販売店を通じて回収を行っていますので、ご協力ください。

適切に回収されないと、次のようなことがおこり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

・不法投棄または放置され、環境汚染となるばかりか、第三者が高電圧部位にふれてしまい、感電事故が発生する

・装備された車両以外で駆動用電池を使用（改造などを含む）し、感電事故、発熱・発煙・発火・爆発事故、電解液漏出事故などが発生する

特に、転売・譲渡などを行うと、相手にこれらの危険性が認識されず、事故につながるおそれがあります。

●駆動用電池を取りはずさないままでお車を廃棄された場合、高電圧部品・ケーブル・それらのコネクターにふれると、深刻な感電の危険があります。お車を廃棄するときには、トヨタ販売店で駆動用電池を廃棄してください。駆動用電池は適切に廃棄しないと、感電を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■駆動用電池について

駆動用電池周辺に多量の水をこぼさないよう注意してください。

誤ってこぼしてしまったときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■FC スタック用冷却水について

水や他の種類の冷却水は故障の原因になりますので、絶対に入れないでください。

緊急停止システム

事故により衝撃を受けたときなどは、FC システムを停止して高電圧を遮断します。また、水素タンクバルブにより燃料供給を停止します。

この場合、FC システムを再始動させることができなくなるためトヨタ販売店へご連絡ください。

警告メッセージ

FC システムの異常やお知らせしたい事項が発生すると自動で表示されます。（→P.445）

警告メッセージは、マルチイン

フォメーションディスプレイに表示されます。

表示された画面の指示に従ってください。

知識

■警告灯が点灯したときや、警告メッセージが表示されたとき、または補機バッテリーとの接続が断たれたとき

FC システムを再始動できないおそれがあります。

もう一度始動操作をしても READY インジケーターが点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

駆動用電池冷却用吸入口

リヤ席横部には駆動用電池冷却用の吸入口があります。

吸入口がふさがれると駆動用電池の冷却に悪影響をおよぼします。

駆動用電池の入出力に制限がかかることで、電気モーターでの走行距離が短くなり燃費性能の低下につながります。

注意

■駆動用電池冷却用の吸入口について

●シートカバーや荷物などで吸入口をふさがないでください。
駆動用電池の入出力に制限がかかり、出力低下や故障の原因となるおそれがあります。

●吸入口が目づまりしないよう、定期的に清掃してください。（→P.414）

●吸入口に水や異物を入れないでください。
駆動用電池を損傷するおそれがあります。

燃料電池車運転のアドバイス

経済的な運転のためには、次のことを心がけてください。

FC システムインジケーターの利用

マルチインフォメーションディスプレイの FC システムインジケーターの表示をエコエリアの範囲に保つことで、走行距離をのばすことが可能です。（→P.103）

アクセルペダル・ブレーキペダルの操作

急加速・急減速を控え、スムーズな運転を心がけましょう。ゆるやかに加速・減速することで、余分な燃料消費を抑えることができます。

減速時のブレーキ操作

減速時は、早めに、ゆるやかなブレーキ操作を行いましょう。
減速時に発生する電気エネルギーをより多く回収することができます。

渋滞

加速・減速のくり返しや、長い信号待ちは燃費を悪化させます。お出かけ前に交通情報を確認するなどして、なるべく渋滞を回避するようにしましょう。また渋滞の際は、ブレーキペダルをゆるめて微前進し、アクセルペダルをあまり踏まないようにしましょう。余分な燃料消費を抑えることができます。

高出力での運転

燃料電池車は、電気自動車と同様に、急な上り坂や高速走行など高出力での運転時に燃費が悪化します。

速度を抑え、一定速度で走行しましょう。

エコドライブモードの利用

エコドライブモードを使用すると、通常にくらべてアクセルペダルの踏み込みに対するトルクの発生がゆるやかになります。また、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑え、燃費向上につながります。
（→P.319）

エアコンの ON/OFF

- 必要時以外はエアコンスイッチを OFF にしましょう。余分な燃料消費を抑えることができます。
  夏季：外気温が高いときは、内気循環モードに設定しましょう。エアコンへの負荷が減り燃費向上につながります。
  冬季：過剰な暖房を避けると、燃費向上につながります。また、シートヒーターやステアリングヒーター★の活用も効果的です。
  （→P.347）
- エコ空調モードを使用することで、エアコンが ON のときでも

燃料消費を抑えることができます。（→P.338）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

タイヤ空気圧の点検

タイヤ空気圧はこまめに点検しましょう。タイヤ空気圧が適切でないと、燃費の悪化につながります。また、冬用タイヤは転がり抵抗が大きいため、乾燥した路面では燃費の悪化につながります。季節、道路状況に応じて適切なタイミングでタイヤを交換しましょう。

荷物

重い荷物が積まれていると、燃費が悪化します。不要な荷物は、積んだままにせずに降ろしましょう。また、大型ルーフキャリアの装着も重い荷物と同様に燃費の悪化につながります。

DC 外部給電システム

車両に外部給電器 ※1 を接続することで、車両から外部へ電源供給を行います。※2, 3, 4 車両の補機バッテリーから機器起動のための電力を供給することで、停電時にも電源供給を行うことができます。

DC 外部給電システム

A 外部給電アウトレット

B 外部給電器 ※1

このシステムを使用するには、外部給電器 ※1 が必要です。（車両には付属していません）

※1 車両から電気製品へ電力を供給するために、車両から取り出した DC（直流）電力を AC（交流）電力に変換する機器。一般社団法人電動車両用電力供給システム協議会が発行する電動自動車用充放電システムガイドライン V2H DC 版または V2L DC 版に準拠したもの。

※2 外部給電器が系統連系機能を持つものは、給電できない場合があります。詳しくは外部給電器の販売業者にご相談ください。
車両側の出力定格は DC9kW です。ただし、接続する外部給電器の出力上限以上は出力されません。

※3 急速充電器や V2H 機器を使用して車両の充電はできません。

※4 プリウス PHV などのヴィークルパワーコネクタは接続できません。

警告

■安全にお使いいただくために

●給電を行うときは本書および接続する外部給電器や使用する電気製品に付属の取扱説明書に記載されている注意事項を必ずお守りください。記載されている禁止事項を守らずに給電を行うと思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●外部給電器のコンセントは照明機器などの電気製品と直接接続して使用するものであり、家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備などに接続する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。

●必ず所定の外部給電器を接続してください。ガイドライン（→P.77）に準拠していない外部給電器を使用すると車両火災や感電事故が発生し、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■外部給電アウトレットについて

外部給電アウトレットの改造や分解、修理などは絶対にしない

思わぬ故障や事故の原因になって、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。修理については、トヨタ販売店にご相談ください。

DC 外部給電作業をする前に

必ず、以下の項目をご確認ください。

● 換気のよい地面が固く平らな場所に駐車する

輪止めの使用をおすすめします。輪止めはトヨタ販売店で購入できます。

● パーキングブレーキをかける

● シフトポジションを P にする

● ヘッドランプを消灯する

● 燃料残量警告灯が点灯していないことを確認する

● パワースイッチを OFF にし、FC システムを停止する

FC システム停止動作中（作動音が消えるまでのあいだ）にパワースイッチを ON にすると、給電が開始しない場合があります。

● 前回の給電停止から 2 分以上時間を置く

DC 外部給電を開始するときは

1 ボンネットを開く（→P.395）

2 外部給電アウトレットのキャップを開ける

3 外部給電器の手順に従い、外部給電コネクターを外部給電アウトレットに挿し込む

外部給電コネクターを挿し込むときに給電ケーブルがボデーに接触してしまうことがあります。ボデーに傷などつかないようにご注意ください。

外部給電コネクターの形状や取り扱い方法などは、外部給電器のタイプにより異なります。外部給電器の取扱書に従って、作業を行ってください。

4 ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを 2 回押して ON にする

メインディスプレイに “イグニッションON” と表示されていることを確認してください。ブレーキペダルを踏んだままパワースイッチを押すと、FC システムが始動してしまい、DC 外部給電システムが使用できません。

5 外部給電器の手順に従い、外部給電器の給電操作をする

特定の外部給電器においては、パワースイッチが OFF になり、給電が停止する場合があります。そのときは、停止から 2 分以上あけてから、再度 **4** から実施してください。

6 マルチインフォメーションディスプレイに表示される使用上の注意に関する画面を確認し、メーター操作スイッチの**OK**を押す

7 マルチインフォメーションディスプレイに給電状態が表示されます

給電開始まで数秒かかります。

外部給電器に接続した電気製品を操作して、使用してください。

知識

■DC 外部給電システムの使用中は

- シフトポジションをPからほかのシフトポジションに切り替えることはできません。
- 外部給電器の定格出力上限以上の電力

を使用した場合、外部給電器が出力を制限したり、給電を停止したりすることがあります。

●車両側の定格出力以上の電力を使用した場合、車両が給電を停止することがあります。

●ワイヤレスリモコンでドアの解錠・施錠をすることができます。使用する電気製品から発生するノイズにより、正常に作動しない場合があります。

●オートアラームは作動しません。

●ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに“キーが見つかりませんキーの所在を確認してください”と表示されたりすることがあります。

●給電開始後しばらくのあいだ、出力を制限する場合があります。車両側定格出力未満で使用していても給電を停止する場合がありますが、異常ではありません。

●気温が低いときまたは高いときは、出力を制限または停止することがありますが、異常ではありません。その場合、使用する電気製品を減らしてください。

●DC 外部給電システムの作動中は、冷却ファンの音がすることがあります。

●走行中はDC外部給電システムを使用できません。

●使用する電気製品によっては、周囲のテレビやラジオに雑音が入ることがあります。

●炎天下などで車内が高温になると、駆動用電池を冷却するために自動的にエアコンが作動します。エアコン作動中はドアとドアガラスを閉めると、効率的に車内を冷却することができます。

このとき、エアコン画面に“電池冷却のため空調一定制御中”が表示され、エアコン操作スイッチの操作を受け付けなくなります。

駆動用電池が冷却されたあともエアコンは自動的に停止しません。メッセージ表示が消えたあとにエアコン操作スイッチを操作すれば、エアコンを停止することができます。

●外部給電器に異常があるようなメッセージ（例えば“車両に異常がみつかりました”、“車両故障発生”など）が表示されても、車両の異常ではなく、外部給電器と車両間の通信異常である可能性があります。

この場合、外部給電コネクターの端子故障（接点不良）などが考えられます。外部給電器に付属の取扱説明書を確認してください。

●電気製品を接続していない、もしくは使用していない場合でも、消費電力が表示されることがあります。これは外部給電器本体の消費電力を表示しています。

●燃料残量が少ないときは給電を停止します。

●給電中に排気排水管から水が出ることがありますが、異常ではありません。

■アクセサリーコンセントの使用について

DC 外部給電システムを使用しているときは、車内にあるアクセサリーコンセントからも電源を取り出すことができます。ただし、DC 外部給電システムを車両側定格出力未満で使用している場合でも、DC 外部給電システムの出力を優先させるため、アクセサリーコンセントの出力を停止する場合があります。

アクセサリーコンセントを使用したい場合には、DC 外部給電システムで使用している電気製品を減らし、もう一度 AC100V 電源を ON してください。（→P.372）

使用している電気製品を減らしても、ア

クセサリーコンセントは自動で復帰しません。

■車から離れるときは

盗難を防ぐためにドアの施錠を確実に確認してください。

■正常に給電できないときは

→P.85

警告

■DC外部給電システムを使用するときの警告

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、給電時に車両火災や感電事故などが発生し、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●傾いた場所や坂道などに停めて使用しない

●FC ユニットルーム内に顔や手を近付けないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。

●可燃物や危険物を車両の近くに置かない

●DC 外部給電システムの使用中は、燃料充てんおよび洗車を行わない

●車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しない

●お子さまなど、不慣れな方だけで給電作業を行わない

●外部給電コネクターと外部給電アウトレットは、必ず直接接続する

外部給電コネクターと外部給電アウトレットとのあいだに、変換アダプターや延長コードなどを接続しないでください。

●落雷の可能性がある天候のときはDC外部給電システムを使用しない

使用中、雷に気付いたときには DC 外部給電システムを停止してください。

●外部給電コネクター、外部給電アウトレットの端子に金属製の鋭利なもの（ピンや針金など）を挿し込まない

●外部給電アウトレットの端子がぬれないようにする

●外部給電コネクター・外部給電アウトレットに異物がないか、または、雪・氷が付着していないか確認する

付着している場合は、外部給電コネクターを接続する前にしっかりと取り除いてください。

●車庫内や雪が積もった場所など換気の悪い場所では絶対に使用しない

■車両に給電ケーブルが接続されているとき

●シフトレバーを操作しない

万一、給電ケーブルが故障していた場合、シフトポジションが P からほかのシフトポジションに切り替わることがあり、車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■DC外部給電システムがおよぼす影響について

ペースメーカー（植込み型心臓ペースメーカー／植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータ）装着のお客様は、給電の操作はご自身ではなさらず、ほかの方にお願いしてください。

警告

- 給電時は、外部給電器、給電ケーブルに近付かないでください。給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- 給電中は車内にとどまらないでください。給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。
- ものを取るときなどに、トランクルームなど含めた車内に入り込まないでください。給電により、ペースメーカーの動作に影響を与えるおそれがあります。

注意

■DC外部給電システムの故障を防ぐために

- 急速充電器や V2H 機器を使用して車両の充電はできません。
- 外部給電アウトレットのキャップに強い衝撃を与えないでください。
- 外部給電コネクターが損傷するおそれがあるので、使用中はボンネットを閉じないでください。
- 外部給電コネクターを外部給電アウトレットに挿し込むときは、過度の負荷をかけないでください。挿し込み不足の原因になります。
- 給電中に、外部給電コネクター・給電ケーブルに物をのせたり、引っかけたりしないでください。
- 給電中に、外部給電コネクター・給電ケーブルを引っ張ったり、過度の負荷をかけないでください。
- 給電中に、外部給電コネクター・給電ケーブルに異常な発熱を感じたらすぐに使用を中止してください。

■DC 外部給電システムの使用中は

給電ケーブルがボデーに接触すると、ボデーに傷や汚れがつくことがあります。給電ケーブルの取り扱いにご注意ください。

■外部給電アウトレットについて

- シールなどを貼り付けない
- 警告ラベルを汚したり、はがしたりしない

給電状態表示

A 外部給電アウトレットにおけるおおよその消費電力

B 現在の消費電力で給電可能なおおよその時間

給電を開始してしばらくのあいだ、給電可能時間が “--h” と表示されます。

使用する電気製品や使用環境などにより、表示されている時間と実際の給電時間が異なる場合があります。

DC 外部給電を停止するときは

1 使用している電気製品の電源を OFF にする

2 外部給電器を停止させる

外部給電器の取り扱い手順に従って操作してください。

パワースイッチを OFF にしても給電を停止できます。

3 外部給電コネクターのロックを解除し、外部給電コネクターを取りはずす

外部給電コネクターの形状や取り扱い方法は、外部給電器によって異なります。外部給電器の取り扱い手順に従って作業を行ってください。

4 外部給電アウトレットのキャップを閉めて、ボンネットを閉じる

車両の状態によっては、次回の FC システム始動に時間がかかることがありますが異常ではありません。

知識

■DC 外部給電後に FC システムが始動できなくなったときは

DC 外部給電後のシステム確認が正常に終了しなかった場合は、ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを押しても、FC システムを始動できなくなります。

次の手順で外部給電システム確認を実施してください。

1 パーキングブレーキをしっかりとかけ、パワースイッチを OFF にする
2 外部給電コネクターを取りはずす
3 外部給電アウトレットのキャップを閉め、ボンネットを閉じる
4 2 分間待つ
5 パワースイッチを ON にすると、マルチインフォメーションディスプレイに“外部給電システム確認のためボンネットを閉めてください　取扱書を確認”と表示されたのち、“外部給電システム確認中”と表示されます。外部給電システム確認中は、ボンネットを開けないでください。システム確認が終了すると、パワースイッチが自動で OFF になります。
6 ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを押し、READY インジケーターが点灯することを確認する

外部給電システム確認を実施しても FC システムが始動できない場合は、トヨタ販売店にご連絡ください。

注意

■DC外部給電システムの故障を防ぐために

- 外部給電アウトレットのキャップに強い衝撃を与えないでください。
- 外部給電コネクターを外部給電アウトレットから取りはずすときは、過度の負荷をかけないでください。
- 給電を停止するときは、使用している電気製品の電源を切ってから停止してください。

■給電後の注意

- 給電ケーブルがボデーに接触すると、ボデーに傷や汚れがつくことがあります。給電ケーブルの取り扱いにご注意ください。
- 外部給電アウトレットから外部給電コネクターを取りはずしたあとは、必ず外部給電アウトレットのキャップとボンネットを閉める

注意

外部給電アウトレットを開けたまま放置すると、外部給電アウトレットに水や異物が入り、故障につながるおそれがあります。

正常に給電できないときは

正しい手順に従って作業しても給電が開始されない場合や、給電作業後にエラーを伝えるメッセージが表示された場合は、次の事項をご確認ください。

DC 外部給電システムが正常に作動しないとき

次の記載を参照してそれぞれ必要な処置を行ってください。

■ 給電が開始されない

考えられる原因	対処方法
外部給電コネクターがしっかりと接続されていない	外部給電コネクターが外部給電アウトレットに確実に接続されているか確認してください。
ブレーキペダルを踏みながらパワースイッチを操作している	ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを操作してください。
パワースイッチが ACC になっている	パワースイッチが OFF の状態でパワースイッチを 2 回押して、メーターに “イグニッション ON” と表示されていることを確認してください。
シフトポジションが P 以外にある	シフトポジション表示灯でシフトポジションが P になっていることを確認してください。
燃料の残量が不足している	燃料の残量を確認し、残量が少なくなっているときは、燃料充てんしてください。
開始操作が適切でない	外部給電器によっては，開始操作が通常の手順と異なるものがあります。外部給電器の製造業者または販売業者にご確認ください。
外部給電器に異常が発生している（→P.77）	外部給電器の取扱説明書に従って、適切な処置を行ってください。
外部給電器の電源が OFF になっている	
前回給電停止から時間をあけずに給電をおこなった	給電後、パワースイッチが OFF の状態で、2 分待ってから再度開始操作（→P.78）を行ってください。
前回使用時に正常終了していない	DC 外部給電後、マルチインフォメーションディスプレイに “外部給電システム確認のため ボンネットを閉めてください 取扱書を確認” が表示されたときの手順に従い、処置してください。（→P.87）その後、再度開始操作を行ってください。

考えられる原因	対処方法
車両が出力を制限している	給電開始操作後、約 15 秒間は車両が出力を制限する場合があります。使用する電気製品を減らして、再度給電開始操作を行ってください。
FC システムの温度が極端に低い	外部給電器によっては、FC システム暖機中に作動停止するものがあります。FC システム暖機の作動音が停止後、再度開始操作を行ってください。
駆動用電池の温度が極端に低いまたは高い	FC システムを始動し、エアコンで車室内の温度を十分に暖めるか冷ましてから、開始操作（→P.78）を行ってください。車を走行させて FC システムを暖機することで暖めることもできます。
その他	「DC 外部給電作業をする前に」（→P.78）を確認し、再度開始操作を行ってください。

■ 給電が途中で停止する

考えられる原因	対処方法
外部給電器の電源が何らかの理由で OFF になっている	外部給電器の取扱説明書に従って、適切な処置を行ってください。
車両の出力を超過する電気製品を使用している	使用する電気製品を減らして、再度開始操作を行ってください。
車両が出力を制限している	給電開始操作後、約 15 秒間は車両が出力を制限する場合があります。使用する電気製品を減らして、再度給電開始操作を行ってください。
外部給電器に異常が発生している	外部給電器の取扱説明書に従って、適切な処置を行ってください。

■ 使用後、FC システムが始動しない

考えられる原因	対処方法
車両に外部給電器が接続されている	外部給電器の取扱説明書に従って、外部給電コネクターを取りはずしてください。
前回使用時に正常終了していない	DC 外部給電後、マルチインフォメーションディスプレイに “外部給電システム確認のため ボンネットを閉めてください 取扱書を確認” が表示されたときの手順に従い、処置してください。（→P.87）

■ 給電終了後、外部給電コネクターがはずれない

考えられる原因	対処方法
外部給電コネクターが何らかの理由でロックされている	外部給電器の取扱説明書に従って、適切な処置を行ってください。

給電に関するメッセージが表示されたときは

DC 外部給電後にパワースイッチを ON にするか、FC システムを始動すると、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されることがあります。その場合は、メッセージの指示に従って、それぞれ必要な処置を行ってください。

■ “外部給電システム確認のためボンネットを閉めて下さい　取扱書を確認” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
DC 外部給電時のシステム確認が正常に終了しなかった	システム確認が正常に終了するまで、FC システムを始動できなくなります。P.83 の記載に従って、システム確認を実施してください。

■ “外部給電器の要因により給電停止しました” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
外部給電器が故障している	外部給電器の製造業者または販売業者にご確認ください。
外部給電器の非常停止操作をした	本メッセージが表示されますが、異常ではありません。
ガイドライン（→P.77）に準拠していない外部給電器を使用した	ガイドライン（→P.77）に準拠している外部給電器で給電してください。

■ “使用電力が許容値を超えたため給電停止しました” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
車両の定格出力 9kW を超える電気製品を使用した	使用する電気製品を減らしてから、再度、開始操作をおこなってください。

■ “燃料の残量低下により給電停止しました” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
燃料残量が少なくなった	燃料充てん後、再度、開始操作をおこなってください。

■ “給電コネクター接続によりFCシステム停止　取扱書を確認” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
FC システム始動中、外部給電アウトレットに外部給電コネクターを接続した	外部給電アウトレットから外部給電コネクターを取り外してください。

■ “給電コネクター接続により始動できません　取扱書を確認” と表示されたとき

考えられる原因	対処方法
FC システム始動時に、外部給電アウトレットに外部給電コネクターが接続されている	外部給電アウトレットから外部給電コネクターを取り外してから再度、FC システムを始動してください。

走行に関する情報表示

3

3-1. 計器の見方

警告灯／表示灯 90
計器類（8 インチディスプレイ装着車）..... 94
計器類（12.3 インチディスプレイ装着車）..... 97
マルチインフォメーションディスプレイ 100
ヘッドアップディスプレイ 108
エネルギーモニター／燃費画面／エアピュリフィケーション画面 113

警告灯／表示灯

メーター・センターパネル・ドアミラーの警告灯／表示灯でお車の状況をお知らせします。

メーターの警告灯／表示灯

次のイラストは、説明のためすべての警告灯／表示灯を示しています。

■ 8 インチディスプレイ装着車

■ 12.3 インチディスプレイ装着車

警告灯一覧

システム異常などを警告します。

H2 警告灯 ※1
（→P.437）

ブレーキ警告灯 ※1
（→P.437）
（赤色）

ブレーキ警告灯 ※1
（→P.437）
（黄色）

高水温警告灯
（→P.437）
（赤色）

FC システム過熱警告灯
※2（→P.438）

充電警告灯 ※2
（→P.438）

SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯 ※1
（→P.438）

ポップアップフード警告灯 ※1（→P.438）

ABS ＆ブレーキアシスト警告灯 ※1（→P.438）

パワーステアリング警告灯 ※1（→P.439）
（赤色）

パワーステアリング警告灯 ※1（→P.439）
（黄色）

PCS 警告灯 ※1
（→P.439）
（点滅または点灯）

LTA 表示灯（→P.439）
（橙色）

LCA 表示灯★ ※3
（→P.439）
（橙色）

クリアランスソナー OFF 表示灯 ※4（→P.440）

PKSB OFF 表示灯 ※1
（→P.440）

RCTA OFF 表示灯 ※1
（→P.440）
（点滅）

RCD OFF 表示灯★
（→P.440）
（点滅または点灯）

スリップ表示灯 ※1
（→P.441）

ペダル誤操作警告灯 ※2
（→P.441）

ブレーキホールド作動表示灯 ※1（→P.441）
（点滅）

パーキングブレーキ表示灯（→P.442）
（点滅）

燃料残量警告灯
（→P.442）

タイヤ空気圧警告灯 ※1
（→P.442）

運転席・助手席シートベルト非着用警告灯
（→P.442）

リヤ席シートベルト非着用警告灯（→P.443）

Advanced Drive 警告灯
★ ※1, 3

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 作動確認のためにパワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後または FC システムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※2 メッセージと一緒にマルチインフォ

メーションディスプレイに表示されます。

※3「Toyota Teammate Advanced Drive 取扱書」を参照してください。

※4クリアランスソナー機能が ON のときは、パワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後に消灯します。

警告

■安全装置の警告灯が点灯しないとき

ABS や SRS エアバッグなどの安全装置の警告灯が、パワースイッチを ON にしても点灯しない場合や点灯したままの場合は、事故にあったときに正しく作動せず、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

注意

■FC システムや構成部品への損傷を防ぐために

この車両には、水温計のかわりに高水温警告灯が装備されています。高水温警告灯が点滅または点灯したときは、オーバーヒートのおそれがあるため、ただちに安全な場所に停車してください。完全に冷えたあと、FC システムを確認してください。（→P.470）

表示灯一覧

システムの作動状況を表示します。

方向指示表示灯（→P.182）

尾灯表示灯（→P.190）

ハイビーム表示灯（→P.192）

アダプティブハイビームシステム表示灯★（→P.193）

オートマチックハイビーム表示灯★（→P.196）

リヤフォグランプ表示灯★（→P.199）

（青色）
低水温表示灯 ※1

スマートエントリー＆スタートシステム表示灯 ※2（→P.173）

クルーズコントロール表示灯（→P.236）

レーダークルーズコントロール表示灯（→P.236）

クルーズコントロールセット表示灯（→P.236）

（※3）
LTA 表示灯（→P.214, 228）

（※3）
LCA 表示灯★ ※4

クリアランスソナー OFF 表示灯 ※5, 6（→P.267）

PKSB OFF 表示灯 ※5, 7（→P.285）

（点滅）
スリップ表示灯 ※7（→P.322）

VSC OFF 表示灯 ※5, 7（→P.322）

PCS 警告灯 ※5, 7（→P.216）

BSM ドアミラーインジケーター ※7（→P.262, 276）
（ドアミラーに表示されます。）

BSM OFF 表示灯 ※5, 7（→P.262）

RCTA OFF 表示灯 ※5, 7（→P.276）

RCD OFF 表示灯★ ※5（→P.282）

ブレーキホールドスタンバイ表示灯 ※7（→P.186）

ブレーキホールド作動表示灯 ※7（→P.186）

セキュリティ表示灯（→P.56, 57）
（センターパネルに表示されます。）

READY インジケーター（→P.173）

低温表示灯 ※8（→P.95, 98）

パーキングブレーキ表示灯（→P.183）

Br モード表示灯（→P.178）

エコドライブモード表示灯（→P.319）

スポーツモード表示灯（→P.319）

スノーモード表示灯（→P.320）

ITS Connect アイコン表示灯★（→P.256）
（※9）

プラスサポート表示灯★（→P.327）

Advanced Drive 表示灯★ ※4

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1 冷却水温が低いとき点灯します。

※2 メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

※3 システムの作動状態により、表示色と点灯・点滅の状態が変化します。

※4「Toyota Teammate Advanced Drive 取扱書」を参照してください。

※5 システムが OFF のときに点灯します。

※6 クリアランスソナー機能が ON のときは、パワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後に消灯します。

※7 作動確認のためにパワースイッチを ON にすると点灯し、数秒後または FC システムを始動すると消灯します。点灯しない場合や点灯したままのときはシステム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

※8 外気温が約 3 ℃以下のとき、約 10 秒間点滅後に点灯します。

※9 現在の通信状況により、アイコンの意匠がかわります。

計器類（8 インチディスプレイ装着車）

さまざまな走行状況に関する情報がメーターに表示されます。

メーターの表示について

A シフトレンジ表示

選択されているシフトレンジを表示します。（→P.178）

B マルチインフォメーションディスプレイ

走行に関するさまざまな情報を表示します。（→P.100）

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→P.445）

C スピードメーター

車両の走行速度を示します。

D 時計（→P.95）

表示される時刻は、マルチメディアシステムと連動しています。設定方法は、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

E 燃料計／航続可能距離（→P.96）

F オドメーター／トリップメーター（→P.95）

G 外気温（→P.95）

知識

パワースイッチが ON のとき

■ **メーター・ディスプレイの作動条件**

■走行モードを切りかえたとき

選択した走行モードに従って、背景の一部表示色が変化します。（→P.319, 320）

■時計の設定画面

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ に “時計：00” が表示される場合は、システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■外気温度表示について

●外気温度を-40℃～50℃のあいだで表示します。

●外気温度が約 3 ℃以下のときは、外気温表示の横に ❄ が点滅し、そのあと点灯します。

●次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
・停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
・外気温度が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

● “--” または “E” が表示されたときは、システム異常のおそれがあります。
トヨタ販売店で点検を受けてください。

■液晶ディスプレイについて

→P.101

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ 画面で、メーターの表示を変更できます。（→P.480）

オドメーター／トリップメーターディスプレイ

■ 表示項目

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター A ／トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

■ 表示の切りかえ

スイッチを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中にスイッチを押し続けると、走行距離を 0 にすることができます。

インストルメントパネル照明の明るさを調整するには

インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。

1 明るくする
2 暗くする

知識

■メーター照度調整について

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調節することができます。ただし、周囲が明るいとき（昼間など）に車幅灯を点灯しても、メーターの明るさは切りかわりません。

燃料計／航続可能距離

■ 燃料計

燃料残量を示します。

■ 航続可能距離

● 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。

● エアコンの作動中は航続可能距離の下に❄が表示され、エアコンを使用した場合の航続可能距離にかわります。

知識

■燃料残量警告灯が点灯したときは

燃料が少なくなると燃料残量警告灯（→P.442）が点灯します。その場合は、燃料を充てんしてください。

■航続可能距離について

●使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの設定など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。

●システムの電力消費により、走行していなくても航続可能距離が減少する場合があります。

●次の場合に、航続可能距離が“---km”と表示されます。

・燃料残量を計算しているとき（短時間）
・燃料残量計が“E”まで到達したとき
・航続可能距離が計算できない異常が発生したとき

計器類（12.3 インチディスプレイ装着車）

さまざまな走行状況に関する情報がメーターに表示されます。

メーターの表示について

A マルチインフォメーションディスプレイ

走行に関するさまざまな情報を表示します。（→P.100）

車両に異常が発生したときは警告メッセージを表示します。（→P.445）

B 外気温（→P.98）

C スピードメーター

車両の走行速度を示します。

D 時計（→P.98）

表示される時刻は、マルチメディアシステムと連動しています。設定方法は、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

E 燃料計／航続可能距離（→P.99）

F シフトレンジ表示

選択されているシフトレンジを表示します。（→P.178）

G FC システムインジケーター

FC システムの出力や回生レベルを示します。（→P.98）

H オドメーター／トリップメーター（→P.99）

知識

■Advanced Drive ★使用時の表示について

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

Advanced Drive 使用時は表示内容や配置が異なります。詳細は「Toyota Teammate Advanced Drive 取扱書」を参照してください。

■メーター・ディスプレイの作動条件

パワースイッチが ON のとき

■走行モードを切りかえたとき

選択した走行モードに従って、背景の一部表示色が変化します。（→P.319, 320）

■FC システムインジケーターについて

A チャージエリア

回生※ ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を充電します。

B エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。インジケーターのバー表示をエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。

C パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲をこえている状態を示します。

※ ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

次の場合、FC システムインジケーターは作動しません。

●READYインジケーターが点灯していないとき

●シフトポジションが D または Br モード以外のとき

■時計の設定画面

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ に“時計：00”が表示される場合は、システム異常のおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■外気温度表示について

●外気温度を-40℃～50℃のあいだで表示します。

●外気温度が約 3 ℃以下のときは、外気温表示の横に ❄ が点滅し、そのあと点灯します。

●次の場合は、正しい外気温度が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
・停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
・外気温度が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

●“--”または“E”が表示されたときは、システム異常のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■液晶ディスプレイについて

→P.101

■カスタマイズ機能

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ 画面で、メーターの表示を変更できます。（→P.480）

オドメーター／トリップメーターディスプレイ

■ 表示項目

● オドメーター

走行した総距離を表示します。

● トリップメーター A ／トリップメーター B

リセットしてからの走行距離を表示します。トリップ A・トリップ B の 2 種類で使い分けることができます。

■ 表示の切りかえ

スイッチを押すごとに表示が切りかわります。また、トリップメーター表示中にスイッチを押し続けると、走行距離を 0 にすることができます。

インストルメントパネル照明の明るさを調整するには

インストルメントパネル照明の明るさを調整できます。

1 明るくする

2 暗くする

知識

■メーター照度調整について

車幅灯消灯時と点灯時それぞれの明るさのレベルを調節することができます。ただし、周囲が明るいとき（昼間など）に車幅灯を点灯しても、メーターの明るさは切りかわりません。

燃料計／航続可能距離

■ 燃料計

燃料残量を示します。

■ 航続可能距離

● 運転履歴から学習した燃費と現在の燃料残量から算出した走行可能な距離を表示します。

● エアコンの作動中は航続可能距離の横に✤≋が表示され、エアコンを使用した場合の航続可能距離にかわります。

知識

■燃料残量警告灯が点灯したときは

燃料が少なくなると燃料残量警告灯（→P.442）が点灯します。その場合は、

燃料を充てんしてください。

■航続可能距離について

●使用環境（気象、渋滞など）や運転方法（急発進、エアコンの設定など）に応じて燃費がかわるため、実際に走行できる距離とは異なります。

●システムの電力消費により、走行していなくても航続可能距離が減少する場合があります。

●次の場合に、航続可能距離が “---km” と表示されます。
・燃料残量を計算しているとき（短時間）
・燃料残量計が “E” まで到達したとき
・航続可能距離が計算できない異常が発生したとき

マルチインフォメーションディスプレイ

マルチインフォメーションディスプレイは、燃費に関する情報や、走行に関する各種の情報などを表示します。また、メーター操作スイッチの操作で、各システムの設定などを変更することもできます。

画面の見方

マルチインフォメーションディスプレイには、次の情報が表示されます。

■ 8インチディスプレイ装着車

A 運転支援システム情報表示部

以外のメニューアイコンが選択されている状態で、次のシステムが作動しているとき、各システムの作動状況を表示します。
・LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.223）
・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.235）
・RSA（ロードサインアシスト）（→P.232）

B 情報表示部

メニューアイコンを切りかえることにより、さまざまな情報を表示することができます。

また、車両の状況に応じて、各種の注意喚起やアドバイスなどが割り込み表示されます。

C メニューアイコン（→P.102）

■ 12.3インチディスプレイ装着車

メニューアイコン（→P.102）を切りかえることにより、さまざまな情報を表示することができます。

また、車両の状況に応じて、各種の注意喚起やアドバイスなどが割り込み表示されます。

知識

■ マルチインフォメーションディスプレイの作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ 走行モードを切りかえたとき

選択した走行モードに従って、背景の一部表示色が変化します。（→P.319, 320）

■ 液晶ディスプレイについて

ディスプレイに小さな斑点や光点が表示されることがあります。これは液晶ディスプレイ特有の現象でそのまま使用しても問題ありません。

表示を切りかえるには

メーター操作スイッチを使って次のように操作します。

A 画面のスクロール※・表示内容の切りかえ※・カーソルの移動

B 短押し：決定

長押し：リセット・詳細項目表示

C ひとつ前の画面にもどる

D 電話の発着信・履歴表示

ハンズフリーシステムと連携して、発着信の表示や操作を行うことができます。ハンズフリーシステムについて詳しくは、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

※ 画面のスクロールや表示の切りかえなどが可能な画面では、スクロールバー、または表示可能な画面数を示す丸いアイコンが表示されます。

警告

■走行中の警告

安全のため、メーター操作スイッチはできるだけ走行中に操作しないでください。メーター操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。また、走行中は画面を見続けないでください。

メニューアイコン一覧

メーター操作スイッチを操作してアイコンを選択することで、各アイコンに関連付けられた情報を表示することができます。

項目によっては状況に応じて自動で表示されます。

アイコン	表示される画面
	走行情報表示画面（→P.102）
	運転支援機能情報表示画面 ※1（→P.105）
	ナビゲーションシステム連携表示 ※2（→P.105）
	オーディオ連携画面（→P.105）
	車両情報表示画面（→P.105）
	設定画面（→P.106）
	警告メッセージ表示画面（→P.107）

※1 8 インチディスプレイ装着車

※2 12.3 インチディスプレイ装着車

走行情報表示画面について

燃費に関するさまざまな情報を表示します。

■ 燃費グラフ

A 瞬間燃費

現在の瞬間燃費を表示します。

B 平均燃費

平均燃費をリセットするには、メーター操作スイッチの**OK**を長押しします。

平均燃費の表示は、メニューアイコンの ⚙ から変更することができます。表示できる項目は次のとおりです。

● 始動後平均燃費

FC システム始動後の平均燃費を表示します。

● 充てん後平均燃費

燃料充てん後の平均燃費を表示します。

■ FC システムインジケーター（8 インチディスプレイ装着車）

A チャージエリア

回生※ ブレーキ機能により、エネルギーを回収している状態を示します。回生した電力は、駆動用電池を充電します。

B エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。インジケーターのバー表示をエコエリアに保つことで、エコ運転が可能です。

C パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲をこえている状態を示します。

※ ここでの「回生」の意味は、運動エネルギーを電気エネルギーに変換することです。

次の場合、FC システムインジケーターは作動しません。

- READY インジケーターが点灯していないとき
- シフトポジションが D または Br モード以外のとき

■ エコアクセルガイド／エコジャッジ

走行状況に適したアクセル操作の目安や、走行状況を評価して採点結果を表示します。

▶ 8 インチディスプレイ装着車

▶ 12.3インチディスプレイ装着車

A エコアクセルガイド

B エコジャッジ

● エコアクセルガイドの見方

▶ 8 インチディスプレイ装着車

▶ 12.3 インチディスプレイ装着車

A エコエリア

エコ運転（環境に配慮した走行）をしている状態を示します。

B パワーエリア

全開走行時など、エコ運転の範囲をこえている状態を示します。

C 現状のアクセル開度

D アクセル操作の目安

発進・安定走行などの各走行状況に適したアクセル操作範囲の目安が、エコエリアの下側に青く表示されます。

エコアクセルガイドの表示は、発進・安定走行などの走行状況に応じて変化します。

アクセルペダルの操作を示す表示が、アクセル操作の目安をこえないように走行することで、環境に配慮した走行が、より容易に行えます。

● エコジャッジの見方

なめらかな発進加速（エコ発進）・急な加減速のない安定した走行（安定走行）・スムーズな停車（エコ減速）という 3 つの観点から、走行状況をそれぞれ 5 段階で評価し、車両が停車するたびに 100 点満点で採点結果を表示します。

A 採点結果

B エコ発進の状況

C 安定走行の状況

D エコ減速の状況

走行中は 3 つの走行状況がそれぞれのアイコンで表示されます。

各採点項目のゲージは、それぞれ次の意味を示しています。

状況	表示
未評価	
評価が低い	
評価が高い	

発進後、車速が約 30km/h をこえるまで、エコジャッジの表示は開始されません。

エコジャッジは発進するたびにリセットされ、新たに評価が開始されます。

FC システムを停止すると、今回の走行における総合的な採点結果が表示されます。（“今回の走行” の設定 [→P.106] で “エコジャッジ” が選択されているときのみに表示されます）

知識

■エコアクセルガイド／エコジャッジの作動条件

次の場合、エコジャッジとエコアクセルガイドの作動が停止します。

●FC システムインジケーターが作動していないとき

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用しているとき

運転支援機能情報表示画面について

■ 運転支援システム連携表示

次のシステムの作動状況を表示します。

● LTA（レーントレーシングアシスト）※（→P.223）

● レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）※（→P.235）

※ Toyota Teammate Advanced Drive 装着車は、「Toyota Teammate Advanced Drive 取扱書」を参照してください。

■ ナビゲーションシステム連携表示

ナビゲーションシステムと連携して次の情報を表示します。

● 目的地案内

● コンパス（ノースアップ／ヘッディングアップ表示）

ナビゲーションシステム連携表示（12.3 インチディスプレイ装着車）

ナビゲーションシステムと連携して次の情報を表示します。

● 目的地案内

● コンパス（ノースアップ／ヘッディングアップ表示）

オーディオ連携画面について

オーディオソースの選択、選曲などの操作を行うことができます。

車両情報表示画面について

■ ドライブインフォメーション

“ドライブインフォ項目選択”の設定で選択した項目（平均車速・走行距離・走行時間）を上下に 2 つ、表示させることができます。

各情報の内容は、“ドライブインフォタイプ”の設定（始動後・リセット間）との組み合わせによって変化します。（→P.106）

表示される情報は、参考としてご利用ください。

表示できる組み合わせは次のとおりです。

● 始動後 ※

・平均車速：FC システム始動後の平均車速を表示

・走行距離：FC システム始動後の走行距離を表示

・走行時間：FC システム始動後の経過時間を表示

※ FC システムを始動するたびに、表示がリセットされます。

● リセット間 ※

・ 平均車速：リセット後の平均車速を表示

・ 走行距離：リセット後の走行距離を表示

・ 走行時間：リセット後の経過時間を表示

※ **OK**を押し続けるとリセットされます。

■ エネルギーモニター

→P.113

■ タイヤ空気圧

タイヤが装着されている位置ごとに、現在のタイヤ空気圧を表示します。

設定画面について

■ 変更できる項目（メーター表示）

● 言語

マルチインフォメーションディスプレイに表示される言語を変更することができます。

● （走行情報表示画面設定）

次の設定を変更することができます。

・ FC システムインジケーター

エコアクセルガイド（→P.103）の作動／非作動を変更することができます。

・ 燃費グラフ

燃費グラフ（→P.102）に表示する平均燃費の種類を変更することができます。

● （オーディオ設定）

画面の表示・非表示を変更することができます。

● （車両情報表示画面設定）

・ 表示コンテンツ

次の設定を変更することができます。

エネルギーモニター：

エネルギーモニター（→P.113）の表示・非表示を変更することができます。

・ ドライブインフォタイプ

ドライブインフォメーション（→P.105）に表示する項目の種類を“始動後”・“リセット間”から選択することができます。

・ ドライブインフォ項目選択

ドライブインフォメーション画面の上段・下段に表示する項目を“平均車速”・“走行距離”・“走行時間”から、それぞれ選択することができます。

● 今回の走行

パワースイッチを OFF にしたときに表示される情報を選択することができます。

● 割込表示

割り込み表示される項目の表示・非表示を、項目ごとに変更することができます。

● マルチインフォメーションディスプレイの消灯

マルチインフォメーションディスプレイの表示をオフにすることができます。
再度表示させるにはメーター操作スイッチのいずれかのスイッチを押してください。

● 表示設定初期化

メーターの表示設定を初期状態にもどすことができます。

知識

■設定画面の操作について

●設定画面操作中に次の状況になると操作が一時中断されます。

・ 警告メッセージが表示されたとき

・ 走行し始めたとき

●車両に装着されていない機能の設定項目は表示されません。

●設定変更の対象となる機能が OFF になっているときは、関連する設定項目も選択不可になります。

⚠注意

■ディスプレイの設定を変更するとき

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実に FC システムが作動している状態で実施してください。

警告メッセージ表示画面について

車両に異常が発生した場合に、内容・対処法などのメッセージを表示します。（→P.445）

提案サービス機能

状況に応じて運転者に提案メッセージを表示する機能です。提案メッセージが表示されたときにメーター操作スイッチを操作することで、提案された内容を直接操作することができます。

■ ヘッドランプ点灯提案

周囲が暗いとき、車速 5km/h 以上でランプスイッチが消灯または≡DOE≡のままましばらく走行すると、ヘッドランプの点灯を提案するメッセージを表示します。

■ ヘッドランプ消灯提案

パワースイッチを OFF にしたあとにランプスイッチが AUTO の状態でヘッドランプを点灯したまましばらく車内にいると、ヘッドランプの消灯を提案するメッセージを表示します。

ランプスイッチが AUTO のとき：このとき “はい” を選択すると、ヘッドランプが消灯します。

パワースイッチを OFF にしてからメッセージが表示されるまでのあいだに運転席のドアを開けたときは、提案メッセージが表示されません。

■ 窓閉め提案（ワイパー連動）

雨が車内に入ることを防ぐために、ドアガラスが開いている状態でワイパーが動き始めるとドアガラスを閉める提案メッセージを表示します。このとき “はい” を選択すると、開いているすべてのドアガラスが閉まります。

■ ウインドウロック解除提案

ウインドウロックスイッチ（→P.161）を ON にした状態で運転席ドアのパワーウインドウスイッチで運転席以外のドアガラスを閉めようとすると、ウインドウロックスイッチを OFF にする提案メッセージを表示します。

知識

■カスタマイズ機能

提案サービス機能の作動／非作動を変更できます。（カスタマイズ一覧：→P.480）

ヘッドアップディスプレイ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ヘッドアップディスプレイは、フロントウインドウガラスに運転支援システムの作動状況や走行に関するさまざまな情報を表示することができます。

システムの構成部品

イラストは説明のための例であり、実際の表示状況とは異なります。

A 走行状況表示エリア

次の内容が表示されます。
・ スピードメーター
・ シフトポジション（→P.178）
・ Br モード（→P.178）

B 外気温表示エリア

パワースイッチを ON にしたとき、または低温表示が点滅しているときに表示されます。

C RSA（ロードサインアシスト）表示エリア（→P.232）

D 運転支援システム表示エリア（→P.111）

E ナビゲーションシステム連携表示エリア

ナビゲーションシステムと連携して、次の内容が表示されます。
・ 交差点名
・ 目的地案内

・レーン（車線）案内

F FC システムインジケーター表示エリア（→P.112）

知識

■Advanced Drive ★使用時の表示について

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

Advanced Drive 使用時は表示内容や配置が異なります。詳細は「Toyota Teammate Advanced Drive 取扱書」を参照してください。

■ヘッドアップディスプレイの作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ヘッドアップディスプレイを使用するときは

サングラス（特に偏光サングラス）を着用していると、ヘッドアップディスプレイの表示が見づらくなる場合があります。表示が見づらい場合は、輝度を調整するか、サングラスをはずしてください。

■交差点名表示について

地図データに情報がない場合など、状況によっては交差点名称が表示されない場合があります。

■レーン（車線）表示について

地図データに情報のない交差点では、レーン表示は行われません。また、交差点によっては、レーン表示と実際の交差点形状が異なる場合があります。現場の標識、道路形状に従ってください。

■外気温表示について

●外気温が約 3 ℃以下のとき、低温表示灯が約 10 秒間点滅し、外気温が非表示になります。
外気温が約 5 ℃以上になると再度外気温が表示されます。

●次の場合は、正しい外気温が表示されなかったり、温度表示の更新が遅くなったりすることがありますが、故障ではありません。
・停車しているときや、低速走行（約 20km/h 以下）のとき
・外気温が急激に変化したとき（車庫・トンネルの出入り口付近など）

●“--”または“E”が表示されたときは、システム故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

■ヘッドアップディスプレイを使用するときは

●映像の明るさ、および表示位置は、安全運転に支障がないよう適切な状態に調整してください。
調整が不適切だと運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●ヘッドアップディスプレイを見続けないでください。前方の歩行者、障害物などを見落とすおそれがあり危険です。

注意

■ヘッドアップディスプレイ映写部について

●映写部の付近に飲み物を置かないでください。水やその他の液体が映写部にかかると、装置が故障する原因になります。

●映写部の上にものを置いたり、シールなどを貼り付けたりしないでください。
ヘッドアップディスプレイの表示のさまたげとなります。

●映写部の内部にふれたり、とがったものを押し付けたりしないでください。
装置が故障する原因となります。

ヘッドアップディスプレイの使い方

■ ヘッドアップディスプレイの表示／非表示切りかえ

HUD スイッチを押すと表示／非表示が切りかわります。

■ ヘッドアップディスプレイの設定

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ から、次の設定を変更することができます。（→P.480）

● 表示の明るさ／上下位置

表示の明るさや、上下の位置を調整することができます。

● FC システムインジケーター

FC システムインジケーターの表示／非表示を設定することができます。

● 表示内容

次の内容の表示／非表示を設定することができます。

・目的地案内
・レーン表示
・運転支援システム表示 ※
・オーディオ表示

※ 運転支援システムを使用するときは、表示に設定してください

● 表示の傾き

表示の傾きを調整することができます。

知識

■ヘッドアップディスプレイの表示／非表示について

ヘッドアップディスプレイを非表示にしたときは、パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、非表示のままです。

■表示の明るさについて

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ による明るさの調整に加えて、周囲の明るさに応じて表示の明るさが自動

で調整されます。

■ヘッドアップディスプレイ表示位置の自動調整★

お好みのヘッドアップディスプレイ表示位置をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→P.137）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■補機バッテリー端子の脱着をしたときは

ヘッドアップディスプレイの設定がリセットされます。

⚠注意

■ヘッドアップディスプレイの設定を変更するときは

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実に FC システムが始動している状態で実施してください。

運転支援システム表示エリア

次のシステムの作動状況を表示します。

- LTA（レーントレーシングアシスト）（→P.223）
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.235）
- 先行車発進告知機能（→P.247）

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。詳しくは各システムの説明を参照してください。

割り込み表示について

状況に応じて、次の項目が割り込み表示されます。

■ 運転支援システム

次のシステムの警告／注意喚起／通知／作動状況を表示します。

- PCS（プリクラッシュセーフティ）（→P.213）
- FCTA（フロントクロストラフィックアラート）★※1
- 先行車発進告知機能（→P.247）
- ドライバー異常時対応システム※2（→P.249）
- ITS Connect★（→P.255）
- パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）（→P.289）
- ブレーキオーバーライドシステム（→P.166）
- ドライブスタートコントロール（→P.170）

表示される内容はマルチインフォメーションディスプレイの表示と同様です。詳しくは各システムの説明を参照してください。

※1「Toyota Teammate Advanced Drive 取扱書」を参照してください。

※2仕様によっては表示されない場合があります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ⚠／ⓘアイコン

マルチインフォメーションディス

プレイと連携して、次のアイコンが表示されます。

⚠：マスターウォーニングアイコン

マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されているときに表示されます。（→P.445）

ⓘ：インフォメーションアイコン

マルチインフォメーションディスプレイに提案サービス（→P.107）や操作アドバイスなどのメッセージが表示されているときに表示されます。

■ メッセージ表示

次のメッセージを表示します。

● 警告メッセージ

一部の警告メッセージが表示されます。（マルチインフォメーションディスプレイの表示と同内容）

● ETC に関する通知

■ オーディオ表示

ハンドル上のオーディオ操作スイッチを使用したときに表示されます。

■ ハンズフリー作動表示

ハンズフリーの作動中に表示されます。

知識

■割り込み表示について

割り込み表示される項目によっては、一部の表示エリアが非表示になります。割り込み表示終了後、もとの表示にもどります。

FC システムインジケーター

A チャージエリア

B エコエリア

C パワーエリア

表示される内容はメーターの FC システムインジケーターと同様です。詳しくは、P.103 を参照してください。

エネルギーモニター／燃費画面／エアピュリフィケーション画面

FC システムの状態や燃費に関する情報を、マルチインフォメーションディスプレイおよびマルチメディア画面に表示します。

システムの構成部品

A マルチメディア画面

B メーター操作スイッチ

C マルチインフォメーションディスプレイ

エネルギーモニターの見方

車両の駆動状況、FC システムの作動状況、およびエネルギーの回収状況を確認できます。

■ 表示のしかた

▶ マルチインフォメーションディスプレイ

メーター操作スイッチの 〈 または 〉 を押して を選択し、∧ または ∨ を押してエネルギーモニターを選択する

▶ マルチメディア画面

メインメニューの にタッチし、サブメニューの “エネルギーフロー” にタッチする

マルチメディアディスプレイの操作方法については、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

■ 表示について

エネルギーの流れに応じて矢印が表示されます。エネルギーの流れがないときは矢印は表示されません。

矢印の色は次のように変化します。

緑：電気エネルギーを回収・充電しているとき

黄：電気エネルギーを使用しているとき

赤：FC システムの動力を使用しているとき

▶ マルチインフォメーションディスプレイ

図は説明のためにすべての矢印を掲載しており、実際の表示内容とは異なります。

A FC システム

B 駆動用電池

C フロントタイヤ

D リヤタイヤ

▶ マルチメディア画面

図は説明のためにすべての矢印を掲載しており、実際の表示内容とは異なります。

A FC システム

B 駆動用電池

C 電気モーター

D リヤタイヤ

E フロントタイヤ

知識

■駆動用電池の残量表示について

駆動用電池の残量に応じて、表示が 8 段階に変化します。

・ 図はマルチインフォメーションディスプレイで説明しています。

・ 表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

・ 電池残量表示の増減と FC システムインジケータの充放電矢印表示は必ずしも一致しない場合がありますが異常ではありません。

A 少ない

B 多い

燃費履歴画面の見方（マルチメディア画面のみ）

■ 表示のしかた

メインメニューの にタッチし、サブメニューの “トリップインフォメーション” にタッチする

■ 表示について

表示される平均燃費は、参考として利用してください。

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

A 最新値表示

B 過去最高値表示

C 過去平均燃費表示

D 履歴削除

E 最新値更新

知識

■過去の区間平均燃費の記録を更新するには

燃費履歴画面で“更新”を選択すると、平均燃費の値とグラフが更新され、新たに平均燃費の記録を開始します。

■燃費データをリセットするには

“履歴消去”を選択すると、燃費データがリセットされます。

■音声対話サービスでの操作について★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

音声対話サービスを使用して、燃費や航続可能距離などの情報を確認することができます。

音声対話サービスについては、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

エアピュリフィケーション画面の見方（マルチメディア画面のみ）

お客様のアクセル操作やFCシステムの作動状態により、FCシステムが最適に発電をしますが、このときFCシステムがきれいにした空気量を表示します。

■ 表示のしかた

メインメニューの にタッチし、

サブメニューの“エアピュリフィケーション”にタッチする

■ 表示について

A 瞬間空気清浄量

単位時間あたりの瞬間空気清浄量を表示します。

B 始動後空気清浄量

FCシステム始動からの空気清浄積算量を表示します。

C リセット間空気清浄量

リセット後の空気清浄積算量を表示します。

D ランナー表示

リセット間空気清浄積算量に応じてランナーが増加します。

E 履歴消去

今までの履歴を消去します

表示画面については実際の状況とわずかに異なる場合があります。

知識

■エアピュリフィケーション内のデータをリセットするには

“履歴消去”を選択すると、“リセット間空気清浄量”と“ランナー表示”のデータがリセットされます。

■ランナー表示について

ランナーが10人たまるとランナーマークに吸収されます。

■表示について

●使用環境（気候、標高など）や発電状態、走行状態によって発電に必要な空気の量が変わるため、実際の空気量とは異なる場合があります。

●瞬間空気清浄量が微小に動いたり、遅れて動くことがありますが、異常ではありません。

運転する前に

4

4-1. キー

キー 118

4-2. ドアの開閉、ロックのしかた

ドア 122

トランク 127

スマートエントリー＆スタートシステム 131

4-3. シートの調整

フロントシート 136

パワーイージーアクセスシステム／ポジションメモリー／メモリーコール機能 137

ヘッドレスト 141

4-4. ハンドル位置・ミラー

ハンドル 143

インナーミラー 144

デジタルインナーミラー 145

ドアミラー 157

4-5. ドアガラスの開閉

パワーウインドウ 159

4-6. お好み設定

マイセッティング 162

キー

キーの種類

お客様へ次のキーをお渡しします。

A 電子キー

・スマートエントリー&スタートシステムの作動 （→P.131）
・ワイヤレス機能の作動（→P.120）

B メカニカルキー

C キーナンバープレート

D カードキー★

スマートエントリー&スタートシステムの作動 （→P.131）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■カードキー★について

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

●カードキーは非防水です。

●カードキーに内蔵されているメカニカルキーは、カードキーが正常に作動しないなどの緊急時にのみ使用してください。

●メカニカルキーが取り出しにくいときは、ボールペンの先などでロック解除ボタンを押してください。引き出しにくいときは、コインなどで引っかけてください。

●メカニカルキーをカードキーへ入れるときは、ロック解除ボタンを押しながら奥まで入れてください。

●電池カバーがはずれたときやぬれたときに電池をはずした場合は、電池の＋極をトヨタエンブレム面側にして取り付けてください。

■航空機に乗るとき

航空機に電子キーを持ち込む場合は、航空機内で電子キーのスイッチを押さないでください。また、かばんなどに保管する場合でも、簡単にスイッチが押されないように保管してください。スイッチが押されると電波が発信され、航空機の運行に支障をおよぼすおそれがあります。

■電池の消耗について

●電池の標準的な寿命は 1 ～ 2 年です。（カードキーは 1 年半程度で消耗します）

●電池残量が少なくなると、FC システムを停止した際に車内から警告音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

●電子キーを長時間使用しないときは、節電モードに設定することで、電池の消耗を抑えることができます。（→P.133）

●電子キーは常に電波を受信しているため、使用していないあいだでも電池が消耗します。次のような状態になったときは、電池が消耗している可能性があります。新しい電池に交換してください。

・スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが作動しない
・作動範囲が狭くなった
・電子キーの LED が点灯しない

●電池の著しい消耗を防ぐため、次のような磁気を発生する電化製品の 1m 以内に電子キーを保管しないでください。

・TV
・パソコン
・携帯電話やコードレス電話機、および充電器
・電気スタンド
・電磁調理器

■電池の交換方法

→P.417

■キー登録本数の確認について

車両に登録されたキーの本数を確認することができます。詳しくはトヨタ販売店へご相談ください。

■電子キーの取り扱いについて

電子キーは電波法の認証に適合しています。
必ず以下のことをお守り下さい。
・電池交換時以外は、不用意に分解しないで下さい。分解、改造したものを使用することは法律で禁止されています。
・必ず日本国内でご使用下さい。

■マルチインフォメーションディスプレイに “新しいキーが登録されました 詳しくは販売店に問い合わせください” と表示されたときは

追加で新しく電子キーが登録された場合、車外から解錠して運転席ドアを開けたときにメッセージが表示されることが 10 日ほど続きます。電子キーの登録をした覚えがないにも関わらずメッセージが表示されたときは、お持ちの電子キー以外に登録されている電子キーがないかをトヨタ販売店で確認してください。

⚠注意

■キーの故障を防ぐために

●落としたり、強い衝撃を与えたり、曲げたりしない

●温度の高いところに長時間放置しない

●ぬらしたり超音波洗浄器などで洗ったりしない

●キーに金属製または磁気を帯びた製品を取り付けたり、近付けたりしない

注意

●分解しない

●電子キー表面にシールなどを貼らない

●テレビやオーディオ・電磁調理器などの磁気を帯びた製品や、低周波治療器などの電気医療機器の近くに置かない

■キーを携帯するとき

電源を入れた状態の電化製品とは10cm 以上離して携帯してください。10cm 以内にあると電化製品の電波と干渉し正常に機能しない場合があります。

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

→P.462

■電子キーを紛失したとき

→P.461

■カードキー★の取り扱いについて

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

●メカニカルキーをカードキーに挿し込むときは、無理な力を与えないでください。カードキーが破損するおそれがあります。

●電池やカードキーの電極がぬれた場合は、電池が腐食するおそれがあります。
水の中に落としたときや飲料水などをこぼしたときは、ただちに電池カバーをはずして電池および電極部分をふき取ってください（電池カバーをはずすには、軽く持って引き抜いてください）。電池が腐食した場合は、トヨタ販売店で電池を交換してください。

●電池カバーを取りはずす場合は、押しつぶしたりドライバーなどを使用したりしないでください。
無理にこじ開けようとすると、曲がったり傷を付けたりするおそれがあります。

●電池カバーをひんぱんに取りはずすと、電池カバーが抜けやすくなることがあります。

●電池を取り付けるときは、必ず電池の向きを確認してください。電池の向きを間違えると、電池が急激に消耗する原因になります。

●次のような使い方をした場合は、カードキーの表面に傷を付けたり塗装がはがれたりするおそれがあります。

・小銭や鍵などの硬いものと同時に携帯したとき

・シャープペンシルの先端などの鋭利なものでこすったとき

・シンナーやベンジンでカードキーの表面をふいたとき

ワイヤレス機能について

キーには次のワイヤレス機能が搭載されています。

A ドアを施錠する（→P.122）

B ドアガラスを閉める ※

（→P.122）

C ドアを解錠する（→P.122）

D ドアガラスを開く ※

（→P.122）

E トランクを開ける（→P.129）

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

メカニカルキーを使うには

電子キーからメカニカルキーを取り出すには、解除レバーAをスライドさせてキーを取り出してください。カードキー★からメカニカルキーを取り出すには、解除ボタンを押してキーを取り出してください。

メカニカルキーは挿し込み方向に指定のある片溝キーです。キーシリンダーに挿し込めないときは、キー溝面の向きをかえて挿し込んでください。

使用後はもとにもどし、電子キーと一緒に携帯してください。電子キーの電池が切れたときやスマートエントリー＆スタートシステムが正常に作動しないとき、メカニカルキーが必要になります。（→P.462）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■駐車場などでキーを預けるとき

必要に応じてトランクオープナーメインスイッチを OFF（→P.130）にして、グローブボックスを施錠（→P.355）します。
メカニカルキーを取り出し、電子キーのみを渡してください。

■メカニカルキーを紛失したとき

→P.461

■不正キーの使用について

指定のメカニカルキー以外のキーを使用すると、キーシリンダーが空まわりして解錠できません。

ドア

車外から解錠／施錠するには

■ スマートエントリー＆スタートシステムを使用する

電子キーを携帯して操作します。

1 ハンドルを握って解錠する

ハンドル裏面のセンサー部に確実にふれてください。

施錠操作後 3 秒間は解錠できません。

2 ドアハンドル表面のロックセンサー部（ハンドルのくぼみ部）にふれ施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

■ ワイヤレス機能を使用する

1 全ドアを施錠する

必ず施錠されたことを確認してください。

押し続けるとドアガラスが閉まります。※

2 全ドアを解錠する

押し続けるとドアガラスが開きます。※

※ トヨタ販売店での設定が必要です。

知識

■解錠するドアを切りかえるには

ワイヤレスリモコンを使用して、スマートエントリー＆スタートシステムで解錠できるドアの設定を切りかえることができます。

1 パワースイッチを OFF にする

2 オートアラームの侵入センサーを停止する
（操作中のオートアラーム誤作動防止：→P.59）

3 キー表面のインジケーターが消灯しているときに 🔒 ボタンと同時に、🔓 または 🚗 のいずれかを約 5 秒間押し続ける

操作を行うごとに次のように設定が切りかわります。（続けて切りかえ操作を行う場合は、ボタンから手を離したあと 5 秒以上間隔をあけてから手順 **3** を行ってください）

マルチインフォメーションディスプレイ表示／ブザー音	解錠できるドア
 車外：“ピピッ”（3 回） 車内：“ポーン”（1 回）	運転席のドアハンドルを握ると運転席のみ解錠
	運転席以外のドアハンドルを握ると全席解錠
 車外：“ピピッ”（2 回） 車内：“ポーン”（1 回）	いずれかのドアハンドルを握ると全席解錠

オートアラームの誤作動防止のため、登録後はいったんワイヤレスリモコンで解錠し、ドアを開閉してください。（ボタンを押して 30 秒以内にドアを開けなかった場合は、ドアが再び施錠されオートアラームが設定されます）

オートアラームが作動し警報が鳴ってしまったときは、作動を停止する操作を行ってください。（→P.57）

■衝撃感知ドアロック解除システム

車両が前後左右から強い衝撃を受けると、すべてのドアが解錠されます。
衝撃の度合いや事故の状況によっては作動しないことがあります。

■作動の合図

ドアの施錠・解錠を、ブザーと非常点滅灯の点滅で知らせます。（施錠は 1 回、解錠は 2 回）

ドアガラスの開閉をブザーで知らせます。

■解錠操作のセキュリティ機能

解錠操作後、約 30 秒以内にドアを開けなかったときは、盗難防止のため自動的に施錠されます。

■ドアハンドル表面のロックセンサーで施錠できないとき

ドアハンドル表面のロックセンサーに指でふれても施錠できないときは、手のひらでロックセンサーにふれてください。

手袋を着用しているときは、手袋をはずしてください。

■半ドア警告ブザー

ドアが完全に閉まっていない状態でドアを施錠しようとすると、ブザーが鳴ります。
ドアを完全に閉めてから、もう一度施錠してください。

■オートアラームの設定制御

施錠するとオートアラームが設定されます。（→P.57）

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に働かないおそれのあるとき

→P.133

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠ができます。（→P.462）
電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→P.417）

■補機バッテリーがあがったときは

スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンでドアを施錠・解錠することはできません。

メカニカルキーを使ってドアの施錠・解錠をしてください。（→P.462）

■リヤシートリマインダー機能

●リヤシートへの荷物の置き忘れなどを防止するため、次の操作を行ってからパワースイッチを OFF にするとブザーが鳴り、約 6 秒間マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
・リヤドアを開閉したあと約 10 分以内に FC システムを始動した
・FC システムが始動している状態でリヤドアを開閉した

ただし、リヤドアを開けてから約 2 秒以内にリヤドアを閉めたときは、リヤシートリマインダー機能は作動しません。

●リヤシートリマインダー機能は、リヤドアの開閉によりリヤシートに荷物などを載せたと判断します。そのため使い方によっては、リヤシートに荷物などを置き忘れていてもリヤシートリマインダー機能が作動しないなど、実際の状況とは異なる作動をする場合があります。

●リヤシートリマインダー機能の作動／非作動を設定できます。（→P.480）

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.480）

⚠警告

■事故を防ぐために

運転中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、不意にドアが開き車外に放り出されるなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●すべてのドアを確実に閉め、施錠する

●走行中はドア内側のドアハンドルを引かない
特に、運転席はドアロックボタンが施錠側になっていてもドアが開くため、注意してください。

●お子さまをリヤ席に乗せるときは、チャイルドプロテクターを使用して車内からドアが開かないようにする

■ドアを開閉するときの留意事項

傾斜地・ドアと壁などのあいだが狭い場所・強風など、周囲の状況を確認し、予期せぬ動きにも対処できるよう、ドアハンドルを確実に保持してドアを開閉してください。

■ワイヤレスリモコンを使ってドアガラスを操作するとき

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

車内から解錠／施錠するには

■ ドアロックスイッチを使用する

1 全ドアを施錠する

2 全ドアを解錠する

■ ドアロックボタンを使って施錠する

ドアロックボタンを押し下げて、ドアを施錠する

■ ドアハンドルを使って解錠する

▶ 運転席ドア

ドアハンドルを引くとドアが解錠され、ドアが開きます。

ドアが解錠されると、ドアロックボタンが上がります。

▶ 運転席以外のドア

ドアハンドルを引くとドアが解錠され、再度ドアハンドルを引くとドアが開きます。

ドアが解錠されると、ドアロックボタンが上がります。

知識

■キーを使わずに外側からフロント席を施錠するには

1 ドアロックボタンを押し下げる

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

パワースイッチが ACC または ON のときや車内に電子キーが放置されているときは施錠されません。ただし、キーが正しく検知されずに施錠される場合があります。

■イージークローザー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤ席ドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが作動し自動で完全に閉まります。

- パワースイッチが OFF になっていても、イージークローザーは作動します。
- 車内のドアハンドルや車外のドアハンドルを引いたままドアを閉めたときは、イージークローザーは作動しません。
- イージークローザーが作動中でも、車内のドアハンドルや車外のドアハンドルを引いてドアを開けることができます。（ドアロックボタンやチャイルドプロテクターが施錠側のときを除く。）
- イージークローザーでドアが閉まったあと数秒間モーター音が聞こえますが、

異常ではありません。

■半ドア走行時警告ブザー

いずれかのドア・トランクまたはボンネットが確実に閉まっていない状態のまま、車速が約 5km/h をこえるとマスターウォーニングが点滅し、警告ブザーが鳴ります。
開いているドア・トランクまたはボンネットがマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

警告

■イージークローザー★について

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤ席ドアが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き完全に自動で閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などをドアのあいだに挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
チャイルドプロテクターが施錠側になっているドアは、車内のドアハンドルを引いてもイージークローザーの作動を停止できないため、特にご注意ください。

注意

■イージークローザー★の故障を防ぐために

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ひんぱんにドアの開閉をくり返したり、イージークローザーの作動中にドアに無理な力をかけたりしないでください。

チャイルドプロテクター

施錠側にすると、リヤ席ドアが車内から開かなくなります。

1 解錠
2 施錠

お子さまが車内からリヤ席ドアを開けられないようにできます。両側のリヤ席ドアを施錠側にしてください。

知識

■チャイルドプロテクター使用時のドアの開け方

ドアを解錠して車外のドアハンドルを引くと開きます。万一、車内から開ける場合は、ドアガラスを下げて手を出し、車外のドアハンドルを引いてください。

オートドアロック・アンロック機能

次の機能を設定・解除することができます。

設定変更のしかたについては、P.480を参照してください。

機能	作動内容
車速感応オートドアロック	速度が約 20km/h 以上になると全ドアが施錠されます。
シフト操作連動ドアロック	FC システムが作動中にシフトポジションを P 以外にしたとき全ドアが施錠されます。
シフト操作連動アンロック	シフトポジションを P にしたとき全ドアが解錠されます。
運転席ドア開連動アンロック	パワースイッチを OFF にしてから 45 秒以内に運転席ドアを開けると全ドアが解錠されます。

トランク

トランクオープナースイッチやスマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスリモコンを使って開けることができます。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■走行する前に

●走行前にトランクが閉まっていることを確認してください。
完全に閉まっていないと走行中に突然開き、車外のものにあたったり、荷物が投げ出されたりして思わぬ事故につながるおそれがあります。

●トランクの中でお子さまを遊ばせないでください。
誤って閉じ込められた場合、熱射病や窒息などを引き起こすおそれがあります。

●お子さまにはトランクの開閉操作をさせないでください。
不意にトランクリッドが開いたり、閉めるときに手・頭・首などを挟んだりするおそれがあります。

■走行中の留意事項

トランク内には絶対に人を乗せないでください。
急ブレーキ・急旋回をかけたときや衝突したときなどに、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■トランクの使用にあたって

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、体を挟むなどして重大な傷害につながるおそれがあり危険です。

- トランクを開ける前に、トランクリッド上の雪や氷などの重量物を取り除いてください。開いたあとに重みでトランクリッドが突然閉じるおそれがあります。
- トランクを開閉するときは、十分に周囲の安全を確かめてください。
- 人がいるときは、安全を確認し動かすことを知らせる「声かけ」をしてください。
- 強風時の開閉には十分注意してください。
  トランクリッドが風にあおられ、勢いよく開いたり閉じたりするおそれがあります。
- 半開状態で使用すると、トランクリッドが突然閉じて重大な傷害を受けるおそれがあります。特に傾斜地では、平坦な場所よりもトランクの開閉がしにくく、急にトランクが開いたり閉じたりするおそれがあります。必ずトランクが全開で静止していることを確認して使用してください。

- トランクを閉めるときは、トランクリッドで指などを挟まないよう十分注意してください。

- トランクは必ず外からトランクリッド上面を軽く押して閉めてください。トランクグリップで直接トランクを閉めると、手や腕を挟むおそれがあります。
- トランクリッドにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を取り付けないでください。トランクリッドの重量が重くなると、開いたあとに突然閉じるおそれがあります。

■イージークローザー★について

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

トランクが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き完全に自動で閉まります。また、作動し始めるまでに数秒かかります。指などをトランクのあいだに挟まないように注意してください。骨折など重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■イージークローザー★の故障を防ぐために

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

イージークローザーの作動中は、トランクに無理な力をかけないでください。

トランクを開閉するには

■ トランクオープナースイッチを使用して開く

スイッチを押す

■ スマートエントリー＆スタートシステムを使用して開く

電子キーを携帯し、トランクのスイッチを押す

次のいずれかの方法ですべてのドアを解錠したときは、電子キーを携帯しなくてもトランクを開けることができます。

- スマートエントリー＆スタートシステム
- ワイヤレス機能
- ドアロックスイッチ
- オートドアアンロック機能
- メカニカルキー

■ ワイヤレス機能を使用して開く

スイッチを押し続ける

ブザーが鳴ります。

■ トランクグリップを使用して閉じる

トランクグリップを持って、横方向に力をかけないようにトランクを引き下げ、外から押して閉める。

知識

■トランクランプ

- トランクを開けたとき、トランクランプが点灯します。

●パワースイッチが OFF の場合、トランクランプが点灯したままのときは、約 20 分後に自動消灯します。

■イージークローザー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

トランクが半ドア状態になったとき、イージークローザーが働き自動で閉まります。

●パワースイッチが OFF になっていても、イージークローザーは作動します。

●イージークローザーが作動しないときには、いったんトランクを半分以上開けてから、再度閉めてください。

■トランク内キー閉じ込み防止機能について

●すべてのドアが施錠されている場合、トランク内に電子キーを置いたままトランクを閉めると、警告音が鳴ります。この場合、車外にあるトランクオープンスイッチで開けられます。

●すべてのドアが施錠されている状態で、予備のキーをトランクに入れたときも、キー閉じ込み防止機能が働き、トランクを開けることができます。盗難防止のため、車から離れるときは必ずすべての電子キーを携帯してください。

●すべてのドアが施錠されている状態でトランク内に電子キーを置いても、電子キーが置かれた場所や、周囲の電波状況によっては、トランク内の電子キーを検知できないことがあります。この場合は、キー閉じ込み防止機能が働かず、トランクを閉めたときに施錠されてしまいます。トランクを閉めるときには、必ず電子キーの所在を確認してください。

●ドアがひとつでも解錠されている場合は、キー閉じ込み防止機能は働きません。この場合は、車内のトランクオープナースイッチでトランクを開けてください。

■メカニカルキーについて

トランクはメカニカルキーを使用して開けることもできます。（→P.463）

■スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンが正常に作動しないとき

メカニカルキーを使ってトランクを開けることができます。（→P.463）
電子キーの電池が消耗しているときは、電池を交換してください。（→P.417）

■半ドア走行時警告ブザー

→P.126

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.480）

荷物の盗難防止などのために

トランクに積んだ荷物の盗難防止などのために、トランクオープナースイッチを一時的に無効にすることができます。

グローブボックス内のメインスイッチを OFF にする

A ON

B OFF

ワイヤレスリモコン・スマートエント

リー＆スタートシステムでもトランクを開けられなくなります。

知識

■駐車場などでキーを預けるときは

→P.121

スマートエントリー＆スタートシステム

電子キー（カードキー★含む）をポケットなどに携帯すると、次の操作が行えます。必ず運転者がキーを携帯してください。

- ドアを解錠・施錠する（→P.122）
- トランクを開ける（→P.129）
- FC システムを始動する（→P.173）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■アンテナの位置

A 車外アンテナ

B 車室内アンテナ

C トランク内アンテナ

D トランク外アンテナ

■作動範囲（電子キーの検知エリア）

A ドアの施錠・解錠時

ドアハンドルから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。（電子キーを検知しているドアハンドルのみ作動します）

B トランクの解錠時

トランクオープンスイッチから周囲約 70cm 以内で電子キーを携帯している場合に作動します。

C FC システム始動時またはパワースイッチ切りかえ時

車内で電子キーを携帯している場合に作動します。

■警告音が鳴ったり警告表示が出たりしたとき

誤操作などによる予期せぬ事故や盗難を防ぐため、警告音が鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告が表示されることがあります。警告が表示されたときは、ディスプレイの表示をもとに適切に対処してください。
（→P.445）

警告音のみが鳴る場合の状況と対処方法は次の通りです。

●車外から警告音が “ピー” と 5 秒鳴るとき

状況	対処方法
いずれかのドアが開いているときにスマートエントリー＆スタートシステムもしくは、ワイヤレス機能で施錠しようとした	全ドアを閉めたあと、再度施錠する
全ドアが施錠されている状態で電子キーをトランク内に置いたままトランクを閉じた	トランク内から電子キーを取り出した後、トランクを閉じる

●車内から警告音が “ポーン、ポーン” と鳴り続けるとき

状況	対処方法
運転席ドアが開いている状態でパワースイッチを ACC にした（パワースイッチが ACC のとき運転席ドアを開いた）	パワースイッチを OFF にしたあと、運転席ドアを閉める
運転席ドアが開いている状態でパワースイッチを OFF にした	運転席ドアを閉める

■マルチインフォメーションディスプレイに “車室内にキーがあります” と表示されたとき

車内に電子キーを置いたまま、スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠しようとすると、警告メッセージが表示されます。車内から電子キーを取り出したあと、再度施錠してください。

■節電機能

長期駐車時に電子キーの電池と車両の補機バッテリーあがりを防止するため、節電機能が働きます。

●次の状況では、スマートエントリー＆スタートシステムによる解錠に時間がかかる場合があります。
・車の外約 2m 以内に電子キーを 10 分以上放置した

・5日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった

●14日間以上スマートエントリー&スタートシステムを使用しなかった場合、運転席以外での解錠ができなくなります。この場合は、運転席のドアハンドルを握る、もしくは、ワイヤレス機能、メカニカルキーで解錠してください。

■電子キーを節電モードにするには

●節電モードに設定すると、電子キーによる電波の受信待機を停止し、電子キーの電池の消耗を抑えることができます。

電子キーの を押しながら、 を2回押し、電子キーのインジケータが4回光ることを確認してください。

節電モード中は、スマートエントリー&スタートシステムを使用できません。節電モードを解除するには、電子キーのいずれかのスイッチを押してください。

●長時間使用しない電子キーは節電モードに設定しておくことをおすすめします。

■機能が正常に働かないおそれのある状況

スマートエントリー&スタートシステムは微弱な電波を使用しています。次のような場合は電子キーと車両間の通信をさまたげ、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコン、イモビライザーシステムが正常に作動しない場合があります。(対処方法:→P.462)

●電子キーの電池が消耗しているとき

●近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき

●無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器を携帯しているとき

●電子キーが、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき
・アルミ箔などの金属の貼られたカード
・アルミ箔を使用したタバコの箱
・金属製の財布やかばん
・小銭
・カイロ
・CDやDVDなどのメディア

●近くで他の電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●電子キーを、次のような電波を発信する製品と同時に携帯しているとき
・他の電子キーや電波式ワイヤレスリモコン
・パソコンや携帯情報端末(PDAなど)
・デジタルオーディオプレーヤー
・ポータブルゲーム機器

●リヤウインドウガラスに金属を含むフィルムなどが貼ってあるとき

●充電器など電子機器の近くに電子キーを置いたとき

●コインパーキングなど通信をさまたげる電波がある場所に駐車したとき

■ご留意いただきたいこと

●電子キーが作動範囲内(検知エリア内)にあっても、次のような場合は正しく作動しないことがあります。
・ドアの施錠・解錠時に電子キーがドアガラスやドアハンドルに近付きすぎている、または地面の近くや高い場所にある
・トランクを開けるとき、電子キーが地

面の近くや高い場所にある、またはリヤバンパー中央に近付きすぎている
・FC システム始動時やパワースイッチの切りかえ時、電子キーがインストルメントパネルやフロア上・リヤ席後方のパッケージトレイ上・ドアポケット、またはグローブボックス内などに置かれている

●インストルメントパネル上面やドアポケット付近に電子キーを置いたまま車外に出ると、電波の状況によっては車外アンテナに検知され車外から施錠でき、電子キーが車内に閉じ込められるおそれがあります。

●電子キーが作動範囲内にあれば、電子キーを携帯している人以外でも施錠・解錠できます。ただし、電子キーを検知しているドア以外は解錠しません。

●車外でも電子キーがドアガラスに近付いていると、FC システムを始動できることがあります。

●電子キーが作動範囲内にあるとき、洗車や大雨などでドアハンドルに大量の水がかかると、ドアが施錠・解錠することがあります。（ドアの開閉操作がなければ、解錠されても約 30 秒後に自動で施錠します）

●ワイヤレスリモコンなどでの施錠時にキーが車両の近くにあると、スマートエントリー＆スタートシステムでの解錠ができないことがあります。（ワイヤレスリモコンを使用すると解錠できます）

●手袋を着用していると施錠・解錠しないことがあります。

●ロック操作は、連続で 2 回まで有効です。3 回目以降はロック動作しません。

●電子キーを携帯したまま洗車をすると、水がドアハンドルにかかったときに施錠・解錠をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をしてください。
・キーを車両から 2m 以上離れた場所におく（盗難に注意し保管してください）
・キーを節電モードに設定してスマートエントリー＆スタートシステムの作動を停止する（→P.133）

●洗車機での洗車中にキーが車内にあると、水がドアハンドルにかかったときに、マルチインフォメーションディスプレイに警報が表示され車外のブザーが吹鳴することがあります。全てのドアを施錠すると警報は止まります。

●ロックセンサーの表面に氷や雪、泥が付着すると、センサーが反応しないことがあります。その場合は氷や雪、泥を取り除いて再度操作してください。

●すばやいドアハンドル操作や、車外アンテナの作動範囲内へ入ってすぐのドアハンドル操作では、解錠しないことがあります。センサーにふれ解錠したことを確認してからドアハンドルを引いてください。

●作動範囲内に他の電子キーがあると、解錠に時間がかかることがあります。

■長期間運転しないとき

●盗難防止のため、電子キーを車両から 2m 以上離しておいてください。

●あらかじめスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることができます。

●電子キーを節電モードに設定すると、電池の消耗を抑えることができます。（→P.133）

■システムを正しく作動させるために

●電子キーを必ず携帯した上で作動させてください。また、車外から操作する場合は電子キーを車両に近付けすぎないようにしてください。
作動時の電子キーの位置や持ち方によっては、電子キーが正しく検知され

ず、システムが正しく作動しないことがあります。（誤って警報が鳴ったり、キー閉じ込み防止機能が働かないこともあります。）

● トランク内に電子キーを置かないでください。
電子キーの場所（トランク内側の端）、状況（金属製のかばんの中、金属製のものの付近など）、または周囲の電波環境によっては、キー閉じ込み防止機能が作動しない場合があります。
（→P.130）

■ **電子キーが正常に働かないときは**

● ドア・トランクの施錠・解錠：→P.462

● FC システムの始動：→P.464

■ **カスタマイズ機能**

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.480）

■ **カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたとき**

● ドア・トランクの施錠・解錠：ワイヤレス機能、またはメカニカルキーを使ってドア・トランクの施錠・解錠ができます。（→P.122, 129, 462）

● FC システムの始動・パワースイッチのモード切りかえ：→P.464

● FC システムの停止：→P.175

警告

■ **電波がおよぼす影響について（スマートエントリー＆スタートシステムアンテナ）**

● 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器を装着されている方は、スマートアンテナ（→P.131）から 22cm 以内に植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器が近づかないようにしてください。電波により植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器の作動に影響を与える場合があります。

● 植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータまたは植込み型除細動器以外の医療用電気機器をお使いの方は、電波による影響について医療用電気機器製造業者などに事前に確認してください。電波が医療用電気機器の動作に影響を与えるおそれがあります。

スマートエントリー＆スタートシステムを非作動にすることもできます。
詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

フロントシート

警告

■シートを調整するとき

●同乗者がシートにあたってけがをしないように注意してください。

●シートの下や動いている部分に手を近付けないでください。
指や手を挟み、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

●足元のスペースを確保し足を挟まないように注意してください。

■リクライニング調整について

背もたれは必要以上に倒さないでください。
必要以上に倒しすぎると、事故のときに体がシートベルトの下にもぐり、腹部などに強い圧迫を受けたり肩部ベルトが首にかかるなどして、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■運転席またはリヤ席からの助手席操作について（助手席側面スイッチ装着車）

助手席に乗員がいるときは操作をしないでください。また、操作中やヘッドレストが前倒しになっているときは、助手席に座らないでください。
足や頭を挟むなどして助手席乗員がけがをするおそれがあります。

■助手席を前倒しにしたとき

運転席からドアミラーが見えにくい場合は、助手席の位置を調整してください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■運転席またはリヤ席からの助手席操作について（助手席側面スイッチ装着車）

操作するときは助手席の上や足元に作動をさまたげるものがないことを確認してください。シートに無理な力がかかり故障するおそれがあります。

調整するには

■ シート調整スイッチでの調整

A 前後位置調整

B リクライニング調整

C クッション前端の上下調整（運転席のみ）

D シート全体の上下調整（運転席のみ）

E 腰部調整（ランバーサポート）（運転席のみ）

■ 助手席側面スイッチでの調整★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

運転席やリヤ席から助手席のシートを調整できます。

A 背もたれを前に傾ける

B 背もたれをうしろに傾ける

C シートを前方に動かす

D シートを後方に動かす

知識

■ **シートを調整するとき**

ヘッドレストが天井にあたらないよう注意してください。

■ **パワーイージーアクセスシステム★**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワースイッチのモード切りかえ・運転席シートベルトの脱着に連動して、ハンドルとシートが動きます。（→P.137）

パワーイージーアクセスシステム★／ポジションメモリー★／メモリーコール機能★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

自動で運転席・ハンドル・ドアミラー・ヘッドアップディスプレイ★を動かし、乗り降りしやすい位置に調整したり、お好みのドライビングポジションに調整します。

ドライビングポジションは、2パターンまで登録できます。

ドライビングポジションを電子キー（カードキー★を含む）に登録することで、電子キーごとにドライビングポジションを自動で呼び出すことができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワーイージーアクセスシステム

乗降時に運転者が乗り降りしやすいよう、シートやハンドルが自動で動きます。

次のすべての操作を行ったとき、

シートとハンドルが乗り降りしやすい位置に自動で調整されます。

- シフトポジションを P にする
- パワースイッチを OFF にする
- シートベルトをはずす

次のいずれかの操作を行ったとき、シートとハンドルがもとの位置にもどります。

- パワースイッチを ACC または ON にする
- シートベルトを着用する

知識

■パワーイージーアクセスシステムの作動について

降車時に、シートの位置が最後方付近にあるなど、パワーイージーアクセスシステムが作動しない場合があります。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.480）

ドライビングポジションを登録する／呼び出すには（ポジションメモリー）

■ 登録方法

1. パワースイッチを ON にする
2. シフトポジションが P にあることを確認する
3. 運転席・ハンドル・ドアミラー角度・ヘッドアップディスプレイ表示★をお好みの位置に調整する
4. SET ボタンを押しながら、または SET ボタンを押したあと 3 秒以内に 1 または 2 のうち登録したいボタンをブザーが鳴るまで押す

すでに同じボタンに登録されている場合は、上書きされます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 呼び出し方法

1. パワースイッチを ON にする
2. シフトポジションが P にあることを確認する
3. 1 または 2 のうち呼び出したいポジションのボタンをブザーが鳴るまで押す

知識

■ポジションの呼び出し作動を途中で止めたいとき

次のいずれかの操作をします。

- SET ボタンを押す
- 1 または 2 のボタンを押す
- シート調整スイッチのいずれかを操作

する（シートのみ作動停止）

●ハンドル位置調整スイッチを操作する（ハンドルのみ作動停止）

■登録できるシート位置（→P.136）

次のシート位置が登録できます。

●前後位置調整

●リクライニング調整

●クッション前端の上下調整

●シート全体の上下調整

■パワースイッチ OFF 後の作動

運転席ドアを開けて 180 秒以内、または運転席ドアを閉めて 60 秒以内に呼び出したいポジションのボタンを押すと、シートの位置が調整されます。

■ポジションメモリーを正しくお使いいただくために

登録位置がシート各調整位置の最端部にある状態で、さらに同じ方向に操作をすると、呼び出し位置にずれが生じることがあります。

■ポジションを呼び出すとき

ヘッドレストが天井にあたらないよう注意してください。

■登録したシート位置が呼び出せないとき

シート位置を特定の範囲内に登録した場合、状況によってはシート位置を呼び出せないことがあります。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

警告

■シート調整時の警告

シート調整中は、シートがリヤ席乗員にあたったり、運転者の体がハンドルに圧迫されたりしないよう注意してください。

電子キー（カードキー★を含む）にドライビングポジションを登録／呼び出し／解除するには（メモリーコール機能）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 登録方法

お好みのドライビングポジションをあらかじめ 1 または 2 のいずれかのボタンに登録しておきます。

登録させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に登録できません。

1 パワースイッチを ON にする

2 シフトポジションが P にあることを確認する

3 登録させたいドライビングポジション（1 または 2）を呼び出す

4 呼び出したドライビングポジションのボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を “ピー” とブザーが鳴るまで押す

登録できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。

■ 呼び出し方法

1 ドライビングポジションを登録した電子キーを携帯し、運転席ドアをスマートエントリー＆スタートシステムまたはワイヤレスリモコンで解錠してドアを開ける

ハンドルおよびヘッドアップディスプレイ表示★を除くドライビングポジションが登録された位置へ動きますが、シート位置は乗り込みやすくするために、登録された位置より少し後方に動きます。

ドライビングポジションがすでに登録された位置にある場合は、シートやミラーは動きません。

2 パワースイッチを ACC または ON にするか、シートベルトを着用する

シート・ハンドルおよびヘッドアップディスプレイ表示★が登録したドライビングポジションに動きます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ 解除方法

解除させたいキーのみ携帯して、運転席ドアを閉めてください。
車内にキーが 2 つ以上あると、正確に解除できません。

1 パワースイッチを ON にする

2 シフトポジションが P にあることを確認する

3 SET ボタンを押しながら、ドアロックスイッチの施錠側または解錠側を “ピッピッ” とブザーが鳴るまで押す

登録できなかった場合は、約 3 秒間ブザーが鳴り続けます。

知識

■メモリーコール機能によるドライビングポジションの呼び出しについて

●電子キーごとにドライビングポジションを登録できるため、携帯する電子キーによっては呼び出されるドライビングポジションが異なる場合があります。

●運転席ドア以外のドアをスマートエントリー＆スタートシステムで解錠した場合は、ドライビングポジションの呼び出しは行われません。その場合は、登録したドライビングポジションのボタンを押してください。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.480）

ヘッドレスト

ヘッドレストはすべてのシートに装備されています。

警告

■ヘッドレストについて

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ヘッドレストは、それぞれのシート専用のものを使用する
- ヘッドレストを必ず正しい位置に調整する
- ヘッドレストを調整したあとは、ヘッドレストを押し下げて固定されていることを確認する
- ヘッドレストをはずしたまま走行しない
- 可倒式ヘッドレスト装着車：可倒式ヘッドレストを前倒しした状態で助手席に座らない

調整するには

■ 上下調整

▶ フロント席（可倒式のぞく）・リヤ席

1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタンAを押しながら操作します。

▶ フロント席（可倒式）

1 上げる

2 下げる

下げるときは、解除ボタンAを押しながら操作します。

■ 前倒し（可倒式のみ）

解除ボタンAを押しながらヘッドレストがロックするまで引き上げて、前に倒す

ヘッドレストが天井にあたるときは、シートの高さや角度をかえてください。（→P.136）

もどすときは、ヘッドレストを起こし下に押し下げる

知識

■ヘッドレストの高さについて

必ずヘッドレストの中心が両耳のいちばん上のあたりになるよう調整してください。

■リヤ中央席について

使用するときは、常に格納位置から一段上げた位置にしてください。

ヘッドレストを取りはずすには

■ フロント席（可倒式のぞく）

解除ボタンAを押しながらヘッドレストを引き上げます。

ヘッドレストが天井にあたって取りはずしにくいときは、シートの高さや角度をかえてください。（→P.136）

■ リヤ席

ヘッドレストの取りはずしはできません。

知識

■可倒式ヘッドレスト・リヤヘッドレストの取りはずしについて

ヘッドレストの取りはずし・取り付けについてはトヨタ販売店へご相談ください。

ヘッドレストを取り付けるには

ヘッドレストを取り付け穴に合わせて、ロック位置まで押し下げてください。

さらに下げるときは、解除ボタンAを押しながら操作してください。

ハンドル

調整のしかた

スイッチを操作すると、ハンドルを次の方向に動かします。

1 上方へ
2 下方へ
3 手前へ
4 前方へ

知識

■ハンドル位置調整の作動条件

パワースイッチが ACC または ON のとき※

※ 運転席シートベルトを装着していれば、パワースイッチのモードにかかわらず、ハンドルの調整ができます。

■オートチルトアウェイ＆リターン機能★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワースイッチを OFF にすると、運転者が乗り降りしやすいようにハンドルが自動で動きます。

パワースイッチを ACC または ON にするともとの位置にもどります。

■パワーイージーアクセスシステム★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

パワースイッチのモード切りかえ・運転席シートベルトの脱着に連動して、ハンドルとシートが動きます。（→P.137）

■ハンドル位置の自動調整★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

お好みのハンドル位置をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。（→P.137）

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.480）

警告

■走行中の留意事項

走行中はハンドル位置の調整をしないでください。

運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

ホーン（警音器）を使うには

ハンドルの 周辺部を押すと

ホーンが鳴ります

インナーミラー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

後方を十分に確認できるようにミラーの位置を調整することができます。

上下調整のしかた

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

警告

■走行中の留意事項

走行中はミラーの調整をしないでください。
運転を誤って、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

自動防眩機能を使うには

後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて反射光を自動的に減少させます。

自動防眩機能の ON/OFF を切りかえる

ON のときはインジケーター A が点灯します。

パワースイッチを ON にしたときは、ミラーは常に自動防眩機能が ON になっています。

ボタンを押すと OFF になりインジケーター A が消灯します。

知識

■ **センサーの誤作動防止**

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。

デジタルインナーミラー★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両後方カメラの映像をミラー内のディスプレイに表示する装置です。

切りかえレバーを操作することで、鏡面ミラーからデジタルインナーミラーに切りかえることができます。

ヘッドレストや荷物、リヤサンシェード★などで視界をさえぎられずに後方を確認することができるため、優れた後方視認性を確保できます。また、リヤ席を映さないことで乗員のプライバシーを保護することができます。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ **デジタルインナーミラーをお使いになる前に**

● 走行前に必ずミラーの調整を行ってください。（→P.147）

・ 鏡面ミラーモードに切りかえて、鏡面を後方が正しく映る位置に調整する

・ デジタルミラーモードに切りかえて、ディスプレイに表示される映像を調整する

警告

- ディスプレイに表示される映像と鏡面ミラーに映る範囲は異なりますので、あらかじめ違いを確認してください。

システムの構成部品

▶ タイプ A

▶ タイプ B

A カメラインジケーター

カメラが正常に作動していることを示します。

B アイコン表示エリア

調整アイコン（→P.148）などが表示されます。

C メニュー／決定スイッチ

調整アイコンの表示や、項目の決定を行います。

D 選択スイッチ

調整アイコンの選択や、ディスプレイの調整を行います。

E 切りかえレバー

デジタルミラーモードと鏡面ミラーモードの切りかえを行います。

モードを切りかえるには

切りかえレバーを操作することで、デジタルミラーモードと鏡面ミラーモードを切りかえることができます。

▶ タイプ A

▶ タイプ B

1 デジタルミラーモード

車両後方の映像を表示します。

ディスプレイに が表示されます。

2 鏡面ミラーモード

映像が消え、鏡面ミラーとして使用できます。

知識

■デジタルミラーモードの作動条件

パワースイッチが ON のとき

パワースイッチを ON から OFF または ACC または ON にすると、数秒後に表示が消えます。

■デジタルミラーモードについて

●カメラに水滴やホコリが付いているなどで、ディスプレイに表示される車両後方の状態が見えにくい場合は、リヤウォッシャー（→P.200）を作動させてください。それでも見えにくい場合は、鏡面ミラーモードに切りかえてください。

●ミラーの反射や汚れ、カメラに水滴や雪が付いているなどでディスプレイに表示される映像が見えにくい場合や、後続車のランプのちらつきや圧迫感が気になる場合は、鏡面ミラーモードに切りかえてください。

●トランクが開いているときは、デジタルインナーミラーの映像が正しく表示されません。走行前に必ずトランクが閉まっていることを確認してください。

●ディスプレイが反射して見えにくい場合は、サンシェード★を閉めてください。

●夜間など暗いところでは、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
・映像の色と実際の色が異なって見える
・後続車のランプの高さなどによっては、後続車の周囲が白くぼやけて見える
・周辺を明るく見せるために映像が自動的に調整されることにより、特有のちらつきが発生する

映像が見えにくい場合や、ちらつきが気になる場合は、鏡面ミラーモードに切りかえてください。

●デジタルインナーミラー本体が発熱することがありますが、異常ではありません。

●体調、年齢などにより、ディスプレイに表示される映像に焦点が合うまで時間がかかる場合があります。焦点が合わせづらいと感じたときは、鏡面ミラーモードに切りかえてください。

●主に同乗者がディスプレイを凝視すると、車酔いを起こす恐れがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■システムに異常が発生したとき（タイプ B のみ）

デジタルミラーモード時に、図で示すシンボルが表示されます。シンボルの表示は数秒後に消えます。ディスプレイスイッチを操作し、光学ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。

調整するには

■ ミラー本体の上下調整

▶ タイプ A

運転姿勢に合わせてインナーミラーの角度を調整することができます。
鏡面ミラーモードに切りかえて、インナーミラー本体を持って、角度を調整する。

フロントウインドウガラス側の回転軸

A は固定されているため、回転させないでください。

▶ タイプ B（Toyota Teammate Advanced Drive 非装着車）

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

鏡面ミラーモードに切りかえて、インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

▶ タイプ B（Toyota Teammate Advanced Drive 装着車）

運転姿勢に合わせてインナーミラーの高さを調整することができます。

鏡面ミラーモードに切りかえて、インナーミラー本体を持って、上下方向に調整する

■ ディスプレイの調整（デジタルインナーミラーモード）

▶ タイプ A

デジタルミラーモードの調整ができます。

1 メニュー／決定スイッチまたは選択スイッチのいずれかを押す

調整アイコンが表示されます。

2 選択スイッチを押して調整したい項目（調整アイコン）にカーソルを合わせて、メニュー／決定スイッチを押す

3 選択スイッチを押して調整をし、メニュー／決定スイッチを押す

調整アイコンの表示画面に戻ります。

4 選択スイッチを押して↵にカーソルを合わせて、メニュー／決定スイッチを押す

調整アイコンの表示が消えます。

調整アイコン	設定内容
	ディスプレイの明るさを調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を上下に調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を左右に調整することができます。
	ディスプレイの表示映像の傾きを調整することができます。
	ディスプレイの表示映像を拡大縮小することができます。

▶ タイプ B

デジタルミラーモードの調整、機能の ON/OFF の切りかえができます。

1 メニュースイッチを押す

調整アイコンが表示されます。

2 メニュースイッチをくり返し押して、調整したい項目（調整アイコン）を選択する

3 または を押して設定を変更する

約 5 秒以上スイッチを操作しない状態が続くと、調整アイコンの表示が消えます。

調整アイコン	設定内容
	ディスプレイの明るさを調整することができます。
	ディスプレイの表示範囲を上下に調整することができます。
	ディスプレイの表示範囲を左右に調整することができます。
	ディスプレイの表示範囲の傾きを調整することができます。
	ディスプレイの表示範囲を拡大縮小することができます。
	自動防眩機能の ON/OFF を切りかえることができます。※ ON にすることで、後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて鏡面の反射光を自動的に低減させます。 パワースイッチを ON にしたときは、常に自動防眩機能が ON になっています。

※ 鏡面ミラーモード時の機能ですが、デジタルミラーモード時にも設定できます。

■ 防眩機能の切りかえ（鏡面ミラーモード）

▶ タイプ A

防眩設定画面が表示されているときに、選択したい防眩機能アイコンのスイッチを押すことで、鏡面ミラーモードの防眩機能を切りかえることができます。

鏡面ミラーモードでいずれかのスイッチを押したとき、またはデジタルミラーモードから鏡面ミラーモードへ切りかえたときに防眩設定画面が表示されます。約 5 秒以上スイッチ操作をしないと防眩設定画面の表示が消えます。

防眩機能アイコン	設定内容
AUTO	スイッチを押すごとに、自動防眩機能の ON/OFF が切りかわります。 自動防眩機能 ON：車両前方が暗いとき、車両後方の明るさに応じて、自動的に防眩状態の ON（ミラーの反射率が低い状態）／OFF（ミラーの反射率が高い状態）を切りかえて、まぶしさを低減します。 ON：防眩 ON の状態 OFF：防眩 OFF の状態 自動防眩機能 OFF：ミラーの反射率が高い状態で固定されます。
ON	自動防眩機能 OFF かつ防眩 ON 状態（ミラーの反射率が低い状態）で固定されます。
OFF	自動防眩機能 OFF かつ防眩 OFF 状態（ミラーの反射率が高い状態）で固定されます。

▶ タイプ B

鏡面ミラーモードの自動防眩機能の ON/OFF を変更できます。

1 メニュースイッチを押す

調整アイコンが表示されます。

2 または を押して、設定を変更する

約 5 秒以上スイッチを操作しない状態が

続くと、調整アイコンの表示が消えます。

調整アイコン	設定内容
	デジタルミラーモード時に調整できます。 (→P.148)
	デジタルミラーモード時に調整できます。 (→P.148)
	デジタルミラーモード時に調整できます。 (→P.148)
	デジタルミラーモード時に調整できます。 (→P.148)
	デジタルミラーモード時に調整できます。 (→P.148)
	自動防眩機能の ON/OFF を切りかえることができます。 ON にすることで、後続車のヘッドランプのまぶしさに応じて鏡面の反射光を自動的に低減させます。 パワースイッチを ON にしたときは、常に自動防眩機能が ON になっています。

知識

■ディスプレイの調整について（デジタルミラーモード）

●約5秒以上スイッチを操作しなかったときは、調整アイコンの表示が消えます。

●ディスプレイ表示の調整を行うと、映像がゆがむ場合がありますが故障ではありません。

●ディスプレイ表示が明るすぎると、目が疲れることがあります。適度な明るさに調整してください。

目が疲れた場合には、鏡面ミラーモードに切りかえてご使用ください。

●ディスプレイ表示の明るさは、車両前方の明るさに合わせて自動でかわります。

■センサーの誤作動防止

センサーの誤作動を防ぐため、センサーにふれたりセンサーを覆ったりしないでください。

▶タイプ A

▶タイプ B

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

■走行中の留意事項

●走行中は、デジタルインナーミラーの位置やディスプレイに表示される映像を調整しないでください。

デジタルインナーミラーの操作スイッチは、安全な場所に停車して操作してください。走行中に操作すると、ハンドル操作を誤るなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●必ず車両周辺の状況を直接確認してください。

デジタルミラーモード使用時は、ディスプレイ上に映る車両や障害物が実際の大きさと異なる場合があります。後退時は、必ず後方や周囲の安全を直接確認しながら運転してください。また、夜間など暗いところで後続車が接近したときは、周囲が暗く映る場合があります。

■安全にお使いいただくために

●煙が出る、異臭がするなど異常な状態で使用すると、発火の原因になります。ただちに使用を中止してトヨタ販売店にご相談ください。

■ミラー本体の位置が下がってしまったときは（タイプ A のみ）

ミラー本体を“カチッ”と音がして固定されるところ（通常使用位置 A）まで引き上げてください。下がった状態のままでは、運転者の視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

お手入れについて

■ デジタルインナーミラーのお手入れについて

ミラー表面が汚れていると、映像が見えにくくなることがあります。あらかじめ、乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。

■ カメラのお手入れについて

カメラに水滴、雪、泥などの異物や汚れが付着していると、鮮明な画像を見ることができません。この場合、リヤウォッシャーでカメラレンズの汚れを流してください。

ワイパーレバーを前方へ押すとリヤウォッシャーが作動します。（→P.200）

知識

■カメラについて

デジタルインナーミラーのカメラは、図の位置にあります。

■ウォッシャー液によるカメラ洗浄について

●カメラ洗浄中は、噴射されるウォッシャー液により、車両後方の状態が見えにくくなることがありますので、周囲の状況に注意して運転してください。

●カメラ洗浄後にウォッシャー液がカメラレンズ面に残った場合、夜間に後方車両のヘッドランプの高さや傾きにより、車両後方の状態が見えにくくなることがあります。この場合、鏡面ミラーモードに切りかえてください。

●カメラ洗浄をしても、汚れによっては完全にきれいにならない場合があります。この場合、大量の水でカメラの汚れを流し、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズの水滴をふき取ってください。

●カメラ洗浄は、カメラレンズ面にウォッシャー液を噴射するため、カメラ周辺に付着した氷や雪などの映り込むものについては、洗浄することができません。

注意

■デジタルインナーミラーの故障や誤作動を防ぐために

ミラー本体の取り外し、分解、改造はしないでください。

●ミラーをふくときはシンナー・ベンジン・アルコールなどの溶剤を使用しないでください。変色・劣化・故障の原因になります。

●ミラーの近くでは、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こしたりしないでください。故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●デジタルインナーミラーの取りはずし・改造・分解・塗装などをしないでください。システムが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●ミラーの通風口をふさがないでください。ミラー内部に熱がこもり、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

■カメラの故障や誤作動を防ぐために

●デジタルインナーミラーが正常に作動しなくなるおそれがありますので、次のことにご注意ください。

・カメラ部を強くたたいたり、ものをぶつけるなど、強い衝撃を与えないでください。カメラの位置、取り付け角度がずれるおそれがあります。

・カメラ部は取りはずし・分解・改造をしないでください。

注意

・カメラレンズを洗うときは、大量の水でカメラの汚れを流した後、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズをふき取ってください。

カメラレンズを強くこするとカメラレンズが傷ついて、鮮明な画像を見ることができなくなるおそれがあります。

・カメラのカバーは樹脂ですので、有機溶剤・ボディワックス・油膜取り剤・ガラスコート剤などを付着させないでください。付着したときは、すぐにふき取ってください。

・寒いときにお湯をかけるなどして急激な温度変化を与えないでください。

・洗車時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。強い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●カメラ部をぶつけたときは、カメラの故障などのおそれがあります。早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

故障とお考えになる前に

デジタルミラーモード使用時に下記のような症状で気になったりお困りになった時は、考えられる原因と処置を参考に、もう一度確認してください。

処置をしても直らないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイに表示される映像が見にくい。	ミラー表面が汚れている。	乾いたやわらかい布などで汚れをそっとふき取ってください。
	強い光（太陽やヘッドランプの光など）がデジタルインナーミラーにあたった。	鏡面ミラーモードに切りかえてください。 （パノラマルーフ★からの光があたっているときは、サンシェード★を閉めてください。）
	・夜間など暗いところで使用した。 ・テレビ塔・放送局・発電所など、強い電波やノイズが発生する場所の近くで使用した。 ・カメラ付近の温度が高い、または低い。 ・外気温が低い。 ・雨天時など湿度が高い。 ・太陽やヘッドランプの光が直接カメラのレンズにあたった。 ・蛍光灯、ナトリウム灯、水銀灯などの照明の下で使用した。 ・排気排水管から排出される水蒸気が映り込んでいる。	鏡面ミラーモードに切りかえてください。 （カメラおよびその周辺環境が改善されてから、再びデジタルミラーモードをご使用ください。）
	カメラのレンズに水滴、雪、泥など異物や汚れが付着している。	リヤウォッシャーを作動させ、カメラレンズの汚れを洗浄してください。（→P.200） 鏡面ミラーモードに切りかえてください。 大量の水でカメラの汚れを流した後、水で湿らせた柔らかい布でカメラレンズをふき取ってから、再びデジタルミラーモードをご使用ください。
ディスプレイに表示される映像がずれている。	トランクが完全に閉まっていない。	トランクを閉めてください。
	カメラ部に強い衝撃が与えられた。	鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。

症状	考えられる原因	処置
ディスプレイ上に が表示され、ディスプレイに表示される映像が暗くなった。	システムに異常が発生した。	鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
ディスプレイ上の が消灯した。		
ディスプレイ上に が表示された。	デジタルインナーミラーの温度が非常に高い。 （徐々にディスプレイ上が暗くなり、その後も温度が上がり続けると映像が消えます。）	ミラーの温度を下げるために、車室内の温度を下げることを推奨します。 （ミラーの温度が下がると が消えます。） ミラーの温度が下がっても が消えない場合は、鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。
切りかえレバーが正常に作動しない。	切りかえレバーに異常が発生した。	鏡面ミラーモードに切りかえて、トヨタ販売店で点検を受けてください。 （メニュー／決定スイッチを約10秒間押し続けることで、鏡面ミラーモードに切りかえることができます。）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ドアミラー

安全に運転していただくためには、運転する前に視界が確保できるようミラーの角度を調整してください。

知識

■寒冷時にドアミラーを使用するとき

寒冷時にドアミラーが凍結していると、ドアミラーの格納・復帰や鏡面の調整ができない場合があります。ドアミラーに付着している氷や雪などを取り除いてください。

警告

■走行中の留意事項

走行中は次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、運転を誤って重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ミラーの調整をしない
- ドアミラーを格納したまま走行しない
- 走行前に必ず、運転席側および助手席側のミラーをもとの位置にもどして、正しく調整する

調整するには

1 調整するミラーを選ぶ

A 左

B 右

2 ミラーの鏡面を調整するにはスイッチを操作する

A 上

B 右

C 下

D 左

知識

■鏡面調整の作動条件

パワースイッチが ACC または ON のとき

■ミラーの曇りを取りたいときは

リヤウインドウデフォッガーを作動させ

ると、ミラーヒーターが同時に作動し、曇りを取ることができます。(→P.339)

■ **ミラー角度の自動調整（ポジションメモリー装着車）**

お好みのミラー角度をポジションメモリーに登録すると、自動で調整されます。(→P.137)

警告

■ **ミラーヒーターが作動しているとき**

ドアミラーの鏡面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

ドアミラーを格納するには

1 ミラーを格納する

2 ミラーをもとの位置にもどす

スイッチを中立の位置（A）にするとオート作動に切りかわり、スマートエントリー&スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠・解錠と連動して作動します。

知識

■ **カスタマイズ機能**

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.480)

警告

■ **ミラーが動いているとき**

手をふれないでください。
手を挟んでけがや、ミラーの故障などの原因になるおそれがあります。

リバース連動機能

ミラー選択スイッチのLまたはRどちらかが選択されているときは、後退時に鏡面が下向きになり、下方が見やすくなります。

この機能を使用しないときは、ミラー選択スイッチの選択が解除された状態にしてください。

■ **後退時に下向きになる角度を調整するとき**

シフトポジションをRにした状態で鏡面位置を調整することで、下向きに動く角度を調整できます。

次回からシフトポジションをRにするたびに、その角度で作動します。

通常時（シフトポジションがR以外のとき）の鏡面位置を基準に下向きに動く角度を記憶するため、調整後に通常時の鏡面位置を変更すると、それに伴って後退時の鏡面位置も変化します。

通常時の鏡面位置を変更したときは、後退時に下向きになる角度も調整してください。

パワーウインドウ

ドアガラスを開閉するには

スイッチでドアガラスを開閉できます。

スイッチを操作すると、ドアガラスを次のように動かします。

1 閉める
2 自動全開 ※
3 開ける
4 自動全開 ※

※ 途中で停止するときは、スイッチを反対側へ操作します。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■FC システム停止後の作動

パワースイッチを ACC または OFF にしたあとでも、約 45 秒間はドアガラスを開閉できます。ただし、そのあいだに運転席ドアを開閉すると作動しなくなります。

■挟み込み防止機能

ドアガラスを閉めているときに、窓枠とドアガラスのあいだに異物が挟まると、作動が停止し、少し開きます。

■巻き込み防止機能

ドアガラスを開けているときに、異物がドアガラスとドアのすき間に巻き込まれると、作動が停止します。

■ドアガラスを開閉することができないとき

挟み込み防止機能や巻き込み防止機能が異常に作動してしまい、ドアガラスを開閉することができないときは、開閉することができないドアのパワーウインドウスイッチで、次の操作を行ってください。

●車を停止し、パワースイッチを ON の状態で、挟み込み防止機能や、巻き込み防止機能が作動したあと約 4 秒以内に、パワーウインドウスイッチを自動全閉の位置で引き続ける。または自動全開の位置で押し続けることでドアガラスを開閉することができます。

●上記の操作を行ってもドアガラスが開閉できない場合、機能の初期化を次の手順で実施してください。

1 パワースイッチを ON にする
2 パワーウインドウスイッチを自動全閉の位置で引き続け、ドアガラスを全閉にする
3 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを自動全閉の位置で約 6 秒以上引き続ける
4 パワーウインドウスイッチを自動全開の位置で押し続け、ドアガラスを全開にしたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上押し続ける
5 いったんパワーウインドウスイッチから手を離して、再度パワーウインドウスイッチを自動全開の位置で約 4 秒以上押し続ける
6 再度、パワーウインドウスイッチを自動全閉の位置で引き続け、ドアガラスを閉めたあと、さらにスイッチを約 1 秒以上引き続ける

ドアガラス作動途中でスイッチから手を離すと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても反転して閉じ切らない、または全開にならない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ドアロック連動ドアガラス開閉機能

●メカニカルキーでドアガラスを開閉できます。※（→P.463）

●ワイヤレスリモコンでドアガラスを開閉できます。※（→P.122）

●オートアラームがセットされているときに、ドアロック連動ドアガラス開閉機能でドアガラスを閉めると、オートアラームが作動することがあります。（→P.57）

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■窓開警告ブザー

パワースイッチが OFF でドアガラスが開いていると、運転席ドアを開けたときにブザーが鳴り、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.480）

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ドアガラスを開閉するとき

●運転者は、乗員の操作を含むすべてのドアガラス開閉操作について責任があります。特にお子さまの誤った操作による事故を防ぐため、お子さまにはドアガラスの操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。
また、お子さまが同乗するときはウインドウロックスイッチを使用することをおすすめします。（→P.161）

●ドアガラスを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだり巻き込んだりしないようにしてください。特にお子さまへは手などを出さないよう声かけをしてください。

●ワイヤレスリモコンやメカニカルキーを使ってドアガラスを操作するときは、ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、ワイヤレスリモコンやメカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

●車から離れるときはパワースイッチを OFF にし、キーを携帯してお子さまも一緒に車から離れてください。いたずらなどによる誤った操作により、思わぬ事故につながるおそれがあります。

警告

■挟み込み防止機能

●挟み込み防止機能を故意に作動させようとして、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

●挟み込み防止機能は、ドアガラスが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。指などを挟まないように注意してください。

■巻き込み防止機能

●巻き込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・服などを巻き込ませたりしないでください。

●巻き込み防止機能は、ドアガラスが完全に開く直前に異物を巻き込むと作動しない場合があります。手・腕・服などを巻き込まないように注意してください。

誤操作を防止するには（ウインドウロックスイッチ）

お子さまが誤ってドアガラスを開閉することを防止できます。

スイッチを押すと、インジケーター A が点灯し、運転席以外のドアガラスが非作動になります。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■補機バッテリーをはずしたとき

ウインドウロックスイッチが OFF になるため、補機バッテリーを接続したあと、再度ウインドウロックスイッチを ON にする必要があります。

マイセッティング

Bluetooth デバイスから個人を特定し、運転者ごとの車両設定を記憶しておくことで、次回乗車時に再生します。

あらかじめ認証デバイスを割り当てておくことで、運転者に合わせたお好みの設定で乗車することができます。

マイセッティングには、運転者 3 名分の設定を記憶することができます。

Bluetooth デバイスの割り当て／削除、ドライバー名の設定、初期化方法、運転者の手動きりかえ、記憶してあるドライバーの削除については別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

割り当てる認証デバイスの種類

次の認証デバイスから個人を特定します。

● Bluetooth デバイス

ハンズフリー電話で利用する、前回乗車時と同じ Bluetooth デバイスがオーディオシステムに接続されることで個人を認識します。

再生される機能

認証デバイスから個人が特定されたとき、次の機能の設定を再生します。

● マルチメディアディスプレイで設定可能な車両設定 ※

個人が特定されると、前回パワースイッチを OFF にしたときの車両設定を再生します。

※ 一部の設定項目を除く

5-1. 運転にあたって

運転にあたって 165
荷物を積むときの注意..... 171

5-2. 運転のしかた

パワースイッチ 173
シフトポジション 177
方向指示レバー 182
パーキングブレーキ..... 183
ブレーキホールド 186
ASC（アクティブサウンドコントロール）..... 188
ウォーターリリース（H_2O スイッチ）..... 188

5-3. ランプのつけ方・ワイパーの使い方

ランプスイッチ 190
AHS（アダプティブハイビームシステム）..... 193
AHB（オートマチックハイビーム）..... 196
リヤフォグランプ 199
ワイパー＆ウォッシャー..... 200

5-4. 燃料充てんのしかた

燃料充てん口（補給口）の開け方 204

5-5. 運転支援装置について

Toyota Safety Sense.....208
PCS（プリクラッシュセーフティ）.....213
LTA（レーントレーシングアシスト）.....223
RSA（ロードサインアシスト）232
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）.....235
先行車発進告知機能.....247
ドライバー異常時対応システム249
ITS Connect 255
BSM（ブラインドスポットモニター）.....262
クリアランスソナー 266
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）.....275
RCD（リヤカメラディテクション）.....281
PKSB（パーキングサポートブレーキ）.....284
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）.....289
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）.....292
パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）.....294
トヨタチームメイト アドバンストパーク.....296
ドライブモードセレクトスイッチ.....319
スノーモード.....320
運転を補助する装置 321
プラスサポート（販売店装着オプション）.....327

5-6. 運転のアドバイス

寒冷時の運転 331

運転にあたって

安全運転を心がけて、次の手順で走行してください。

安全に走行するには

■ FC システムを始動する

→P.173

■ 発進する

1 ブレーキペダルを踏んだまま、シフトポジションを D にする

シフトポジション表示灯が D であることをメーターで確認します。

2 パーキングブレーキがかかっているときは、パーキングブレーキを解除する（→P.183）

3 ブレーキペダルから徐々に足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み発進する

■ 停車する

1 ブレーキペダルを踏む

2 必要に応じて、パーキングブレーキをかける

長時間停車する場合は、シフトポジションを P にします。（→P.178）

■ 駐車する

1 ブレーキペダルを踏み、車を完全に停止させる

2 パーキングブレーキが解除されているときは、パーキングブレーキをかける（→P.183）

3 シフトポジションを P にする（→P.178）

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

4 パワースイッチを押して FC システムを停止する

5 ブレーキペダルからゆっくり足を離す

6 電子キーを携帯していることを確認し、ドアを施錠する

坂道の途中で駐車する場合は、必要に応じて輪止め ※ を使用してください。

※ 輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

■ 上り坂で発進する

1 ブレーキペダルをしっかり踏み、シフトポジションを D にする

ヒルスタートアシストコントロールが作動します。

2 パーキングブレーキをかける（→P.183）

3 ブレーキペダルから足を離し、アクセルペダルをゆっくり踏み車を発進する

4 車が動き出す感触を確認したら、パーキングブレーキを解除する（→P.183）

知識

■燃費を良くする走り方

燃料電池車も急加速を控えるなど、通常のガソリン車と同様の心がけが必要です。（→P.75）

■雨の日の運転について

- 雨の日は視界が悪くなり、またガラスが曇ったり、路面がすべりやすくなったりするので、慎重に走行してください。
- 雨の降りはじめは路面がよりすべりやすいため、慎重に走行してください。

●雨の日の高速走行などでは、タイヤと路面のあいだに水膜が発生し、ハンドルやブレーキが効かなくなるおそれがあるので、スピードは控えめにしてください。

■エコアクセルガイド（→P.103）

エコアクセルガイドの表示を参考に走行することで、環境に配慮した走行がより容易に行えます。また、エコアクセルガイドを活用することで、エコジャッジの評価も高くなりやすくなります。

●発進時は：

エコアクセルガイドの範囲をこえないように、アクセルペダルをやさしく踏み込み、目的の速度まで加速します。必要以上の急加速を控えることで、エコ発進の評価が高くなります。

●走行中は：

目的の速度まで加速したらアクセルペダルをもどし、エコアクセルガイドの範囲を目安にして、安定した速度で走行します。エコアクセルガイドの範囲内に収まるように走行し続けると、安定走行の評価が高くなります。

●停車時は：

停車時は、早めにアクセルペダルをもどすことで、エコ停車の評価が高くなります。

■FC システム出力の抑制について（ブレーキオーバーライドシステム）

●アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたとき、FC システム出力を抑制する場合があります。

●ブレーキオーバーライドシステム作動中は、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■パーキングブレーキについて

ドラムインタイプのパーキングブレーキシステムは、定期的またはブレーキシューやブレーキドラムを交換したとき、ブレーキシューのすり合わせが必要です。トヨタ販売店でブレーキシューのすり合わせをしてください。

■運転標識の取り付け

磁石式の初心運転者標識や高齢運転者標識などを樹脂バンパーやアルミ部分に取り付けることはできません。

■環境に配慮した運転

→P.103

警告

次の警告をお守りください。お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■発進するとき

READY インジケーターが点灯している状態で停車しているときは、常にブレーキペダルを踏んでください。クリープ現象で車が動き出すのを防ぎます。

■運転するとき

●踏み間違いを避けるため、ブレーキペダルとアクセルペダルの位置を十分把握した上で運転してください。

・アクセルペダルをブレーキペダルと間違えて踏むと、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあります。

・後退するときは体をひねった姿勢となるため、ペダルの操作がしにくくなります。ペダル操作が確実にできるよう注意してください。

・車を少し移動させるときも正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

警告

・ブレーキペダルは右足で操作してください。左足でのブレーキ操作は緊急時の反応が遅れるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●燃料電池車は電気モーターで走行するため、エンジン音が無く、周囲の人が車両の接近に気が付かない場合があります。車両接近通報装置が作動していても、周囲の騒音などが大きい場合は車両の接近に気が付かないことがありますので、十分注意して運転してください。

●通常走行時は、走行中に FC システムを停止しないでください。走行中に FC システムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。
なお、通常の方法で車両を停止することができないような緊急時は、P.428 を参照してください。

●急な下り坂では、フットブレーキを連続して使いすぎると、ブレーキが過熱して正常に機能しなくなります。

●走行中はハンドル・シート・ドアミラー・インナーミラーの調整をしないでください。
運転を誤るおそれがあります。

●すべての乗員は頭や手、その他の体の一部を車から出さないようにしてください。

■すべりやすい路面を運転するとき

●急ブレーキ・急加速・急ハンドルはタイヤがスリップし、車両の制御ができなくなるおそれがあります。

●急激なアクセル操作、シフト操作による回生ブレーキは、車が横すべりするなどして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●水たまり走行後はブレーキペダルを軽く踏んでブレーキが正常に働くことを確認してください。ブレーキパッドがぬれるとブレーキの効きが悪くなったり、ぬれていない片方だけが効いたりしてハンドルをとられるおそれがあります。

■シフトポジションを変更するとき

●前進側のシフトポジションのまま惰性で後退したり、R のまま惰性で前進することは絶対にやめてください。思わぬ事故や故障の原因となるおそれがあります。

●車両が動いているあいだは、P ポジションスイッチを押さないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が前進しているあいだは、シフトポジションを R にしないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●車両が後退しているあいだは、シフトポジションを前進側のシフトポジションにしないでください。
トランスミッションにダメージを与えたり、車両のコントロールができなくなるおそれがあります。

●走行中にシフトポジションを N にすると、FC システムの動力伝達が解除され、回生ブレーキが効かなくなります。

警告

●アクセルペダルを踏み込んだまま操作をしないように気を付けてください。
シフトポジションがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。
シフトポジションの変更後は、メーター内のシフトポジション表示灯で現在のシフトポジションを必ず確認してください。

■継続的にブレーキ付近から警告音（キーキー音）が発生したとき

できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、ブレーキパッドを交換してください。

必要なときにパッドの交換が行われないと、ディスクローターの損傷につながる場合があります。

パッドやローターなどの部品は、役割を果たすと共に摩耗していきます。摩耗の限度をこえて走行すると故障を引き起こすばかりでなく、事故につながるおそれがあります。

■停車するとき

●不必要にアクセルペダルを踏み込まないでください。
シフトポジションがPまたはN以外にあると、車が急発進して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●車が動き出すことによる事故を防ぐため、READYインジケーターが点灯しているときは常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

●坂道で停車するときは、前後に動き出して事故につながることを防ぐため、常にブレーキペダルを踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

■駐車するとき

●炎天下では、メガネ・ライター・スプレー缶、炭酸飲料の缶や消毒液などのアルコール含有物を車内に放置しないでください。
放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

・ライター、スプレー缶や消毒液などのアルコール含有物からガスがもれたり、出火する

・プラスチックレンズ・プラスチック素材のメガネが、変形またはひび割れを起こす

・炭酸飲料の缶が破裂して車内を汚したり、電気部品がショートする原因になる

●ライターを車内に放置したままにしないでください。ライターをグローブボックスなどに入れておいたり、車内に落としたままにしておくと、荷物を押し込んだりシートを動かしたときにライターの操作部が誤作動し、火災につながるおそれがあり危険です。

●ウインドウガラスなどには吸盤を取り付けないでください。また、インストルメントパネルやダッシュボードの上に芳香剤などの容器を置かないでください。
吸盤や容器がレンズの働きをして、車両火災につながるおそれがあり危険です。

●シルバー色などの金属蒸着フィルムを曲面ガラスに貼った場合は、ドアやウインドウを開けたまま放置しないでください。
直射日光が曲面ガラスの内側に反射し、レンズの働きをして火災につながるおそれがあり危険です。

警告

●車から離れるときは、必ずパーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にし、FC システムを停止し、施錠してください。
READY インジケーターが点灯しているあいだは、車から離れないでください。
パーキングブレーキをかけずにシフトポジションを P にした状態では、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■仮眠するとき

必ず FC システムを停止してください。READY インジケーターが点灯した状態のまま仮眠すると、無意識にシフトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、車が発進して事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ブレーキをかけるとき

●ブレーキがぬれているときは、普段よりも注意して走行してください。
ブレーキがぬれていると、制動距離が長くなり、ブレーキのかかりに、左右の違いが出るおそれがあります。
また、パーキングブレーキがしっかりとかからないおそれもあります。

●電子制御ブレーキシステムが機能しないときは、他の車に近付いたりしないでください。また、下り坂や急カーブを避けてください。
この場合ブレーキは作動しますが、通常よりも強く踏む必要があります。
また制動距離も長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

●ブレーキシステムは 2 つ以上の独立したシステムで構成されており、1 つの油圧システムが故障しても、残りは作動します。この場合、ブレーキペダルを通常より強く踏む必要があり、制動距離が長くなります。ただちにブレーキの修理を受けてください。

注意

■運転しているとき

●運転中にアクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏まないでください。
アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏むと、FC システム出力を抑制する場合があります。

●坂道で停車するために、アクセルペダルを使ったり、アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだりしないでください。

■駐車するとき

必ずパーキングブレーキをかけシフトポジションを P にしてください。パーキングブレーキをかけシフトポジションを P にしておかないと、車が動き出したり、誤ってアクセルペダルを踏み込んだときに急発進するおそれがあります。

■部品の損傷を防ぐために

●パワーステアリングモーターの損傷を防ぐため、ハンドルをいっぱいにまわした状態を長く続けないでください。

●ディスクホイールなどの損傷を防ぐため、段差などを通過するときは、できるだけゆっくり走行してください。

注意

■走行中にタイヤがパンクしたら

次のようなときはタイヤのパンクや損傷が考えられます。ハンドルをしっかり持って徐々にブレーキをかけ、スピードを落としてください。

●ハンドルがとられる

●異常な音や振動がある

●車両が異常に傾く

タイヤがパンクした場合の対処法はP.448 を参照してください。

■冠水路走行に関する注意

大雨などで冠水した道路では、次のような重大な損傷を与えるおそれがあるため、走行しないでください。

●FC システムが停止する

●電装品がショートする

●水の浸入による FC システムの破損

万一、冠水した道路を走行し、水中に浸かってしまったときは必ずトヨタ販売店で次の点検をしてください。

●FC システム

●ブレーキの効き具合

●トランスミッションフルードの量および質の変化

●各ベアリング・各ジョイント部などの潤滑不良

冠水によりシフト制御システムが損傷すると、シフトポジションが P に切りかえられない、または P から他のシフトポジションに切りかえられなくなる可能性があります。その場合はトヨタ販売店へご連絡ください。

急発進および後退速度の抑制（ドライブスタートコントロール）

■ 急発進の抑制制御

アクセルペダルを踏み込んだまま、次のようにシフトポジションを切りかえたとき、FC システム出力を抑制することがあります。

・ R に切りかえたとき ※
・ P または R から、D などの前進シフトポジションに切りかえたとき ※

この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。

※ 状況によっては操作できない場合があります。

■ 後退速度の抑制制御

後退時の速度が所定以下となるように FC システム出力を抑制 ※ します。

後退速度の抑制制御が作動しているときは、マルチインフォメーションディスプレイに “速度抑制中” が表示されます。

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります。

知識

■ドライブスタートコントロールについて

●TRC の作動を停止（→P.322）すると、急発進の抑制制御も停止します。急発進の抑制制御により、ぬかるみや新雪などからの脱出が困難な場合は、TRC の作動を停止してください。（→P.322）

●タイヤがスリップ（空転）していると、後退速度の抑制制御が作動することがあります。

●後退速度の抑制制御の ON（作動）／OFF（非作動）を切りかえることができます。（→P.490）

・パワースイッチを ON にしたときは、後退速度の抑制制御は常に ON（作動）になっています。

・後退速度の抑制制御を OFF（非作動）にしても、急発進の抑制制御は作動します。

荷物を積むときの注意

安全で快適なドライブをするために、荷物を積むときは次のことをお守りください。

⚠警告

■積んではいけないもの

次のようなものを積むと引火するおそれがあり危険です。

●燃料が入った容器

●スプレー缶

■荷物を積むとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、ブレーキペダル・アクセルペダルを正しく操作できなかったり、荷物が視界をさえぎったり、荷物が乗員に衝突したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●できるだけ荷物はトランクに積んでください。

●次の場所には荷物を積まないでください。

・運転席足元

・助手席やリヤ席（荷物を積み重ねる場合）

・パッケージトレイ

・インストルメントパネル

・ダッシュボード

●室内に積んだ荷物はすべてしっかりと安定させてください。

■荷物の重量・荷重のかけ方について

●荷物を積み過ぎないでください。

●荷重を不均等にかけないようにしてください。

警告

これはタイヤに負担をかけるだけでなく、ハンドル操作性やブレーキ制御の低下により思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ルーフフィルムについて（電動サンシェード装着車）

フィルム貼付け部にルーフキャリアを取り付けないでください。フィルムが破損するおそれがあります。

パワースイッチ

電子キーを携帯して次の操作を行うことで、FC システムの始動またはパワースイッチのモードを切りかえることができます。

FC システムを始動するには

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く（→P.183）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

2 ブレーキペダルをしっかり踏む

マルチインフォメーションディスプレイに とメッセージが表示されます。

表示されないと、FC システムは始動しません。

シフトポジションが N と表示されているときは、FC システムを始動できません。FC システムの始動時は、シフトポジションを P にしてください。（→P.178）

3 パワースイッチを短く確実に押す

短く確実に押せば、押し続ける必要はありません。

READY インジケーターが点灯すれば、FC システムは正常に始動しています。

READY インジケーターが点灯するまでブレーキペダルを踏み続けてください。

パワースイッチのどのモードからでも FC システムを始動できます。

4 READY インジケーターが点灯したことを確認する

READY インジケーターが消灯している状態では走行できません。

プラスサポートをご使用の方は、P.327 も併せて参照してください。

知識

■寒冷時の FC システム始動について

- 寒冷時に FC システムを始動すると、発電時の廃熱を利用して FC スタックが急速暖機されます。通常より作動音が大きくなりますが異常ではありません。状況によっては、READY インジケーター点灯後も作動音が一定時間続くことがあります。（→P.63）
- 寒冷時は、READY インジケーターが点灯するまでに通常よりも時間がかかることがあります。その場合、マルチインフォメーションディスプレイに FC システム始動進捗状況を表示します。

A “FC システム暖機中　完了までおま

ちください”

●寒冷時に FC システムを始動する際、マルチインフォメーションディスプレイに“凍結により FC システム停止　安全な場所に停車して取扱書を確認”が表示される場合があります。FC システムが凍結し、始動できない状態となっています。トヨタ販売店に連絡してください。

●FC システムの暖機が完了するまでは、一時的に出力が低下します。

●極寒の環境などで駆動用電池の温度が著しく低くなっている場合（およそ -30 ℃以下）、FC システムが始動できなくなることがあります。その場合は気温の上昇を待つなど、駆動用電池の温度が上がってから再度始動操作をしてください。

■FC システムが始動しないとき

●イモビライザーシステムが解除されていない可能性があります。（→P.56）トヨタ販売店へご連絡ください。

●始動操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されている場合は、画面の指示に従ってください。

●燃料充てん扉が開いていると始動できません。閉めてから始動してください。（→P.205）

●車両の外部給電アウトレットに外部給電コネクターが接続されているときは、FC システムを始動できません。取りはずしてから始動してください。（→P.82）

●外部給電アウトレットのキャップが開いていると、FC システムを始動できない場合があります。閉めてから始動してください。（→P.82）

■燃料電池車特有の音と振動について

→P.63

■補機バッテリーがあがったときは

スマートエントリー＆スタートシステムで FC システムを始動することができません。FC システムを始動するには、P.465 を参照してください。

■電子キーの電池の消耗について

→P.119

■スマートエントリー＆スタートシステムが正常に働かないおそれのある状況

→P.133

■ご留意いただきたいこと

→P.133

■“スマートエントリー＆スタートシステム故障　取扱書を確認”が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■万一、READY インジケーターが点灯しないときは

正しい手順で始動操作を行っても READY インジケーターが点灯しない場合は、ただちにトヨタ販売店へご連絡ください。

■FC システムに異常があるときは

→P.445

■電子キーの電池交換

→P.417

■パワースイッチの操作について

●スイッチを短く確実に押せていない場合は、モードの切りかえや FC システムの始動ができない場合があります。

●パワースイッチ OFF 後、すぐに再始動した場合は、FC システムが始動しない場合があります。パワースイッチ OFF 後の再始動は、数秒待ってから操作してください。

■カスタマイズ機能

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムを非作動にしたときは、P.462 を参照してください。

警告

■FC システムを始動するとき

必ず運転席に座って行ってください。このとき決してアクセルペダルは踏まないでください。
思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■FC システムを始動するとき

もし FC システムが始動しにくい場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■パワースイッチの操作について

パワースイッチ操作時に引っかかりなどの違和感があるときは、故障のおそれがあります。すみやかにトヨタ販売店にご連絡ください。

FC システムを停止するには

1 車両を完全に停止させる

2 パーキングブレーキをかける（→P.183）

3 P ポジションスイッチを押す（→P.178）

シフトポジション表示灯が P であることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認します。

4 パワースイッチを押す

FC システムが停止し、メーター表示が消えます。（シフトポジション表示灯は、メーター表示が消えたあとも数秒間表示されています）

5 ブレーキペダルから足を離してメーターの“アクセサリー”や“イグニッション ON”の表示が消灯していることを確認する

知識

■寒冷時の FC システム停止について

●寒冷時に、パワースイッチを押して FC システムを停止したときは、FC スタックの凍結を防止するために排気排水管から通常より長い時間排水されることがあります。

●マルチインフォメーションディスプレイに“FC システム排水処理中　完了後に自動で停止します”と表示されることがありますが、降車して問題ありません。

●FC システムの暖機が完了する前に停止した場合は、さらに長い時間排水されることがあります。

●排水中は作動音がします。（→P.63）

●排水中に燃料充てん操作をすることは問題ありません。数十分後に自動的に排水処理が実施され、白霧が出ることがありますが異常ではありません。

■寒冷時の駐車について

●寒冷時は駐車中に、FC スタックや水素配管などの凍結を防止するために、FC システムが停止していても自動で排気排水管から排水されることがあります。同時に水蒸気が排出されることがありますが、異常ではありません。

●排水中は作動音がします。（→P.63）

■シフト制御システムについて

シフト制御システムが故障すると、パワースイッチを操作して OFF にしようとしても ACC になることがあります。その

場合は、パーキングブレーキをかけてからパワースイッチを操作すると OFF にすることができる場合があります。
システムが故障した場合は、すみやかにお近くのトヨタ販売店で点検を受けてください。

■自動Pポジション切りかえ機能について

→P.179

■ウォーターリリース（H_2O スイッチ）

→P.188

警告

■緊急時の FC システム停止方法

●走行中に FC システムを緊急停止したい場合には、パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押してください。（→P.428）
ただし、緊急時以外は走行中にパワースイッチにふれないでください。
走行中に FC システムを停止してもハンドルやブレーキの操作は可能ですが、ハンドルの操作力補助がなくなり、ハンドル操作が困難になります。安全を確認した上で、すみやかに道路脇に停車してください。

●走行中にパワースイッチを操作すると、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示され、警告ブザーが鳴ります。

●走行中に FC システムを緊急停止したあと、走行中に FC システムを再始動させる場合は、パワースイッチを押してください。

パワースイッチを切りかえるには

ブレーキペダルを踏まずにパワースイッチを押すと、モードを切りかえることができます。（スイッチを押すごとにモードが切りかわります）

A “アクセサリー”

B “イグニッション ON”

1 OFF

非常点滅灯が使用できます。

2 ACC

オーディオなどの電装品が使用できます。
メーターに “アクセサリー” が表示されます。

3 ON

すべての電装品が使用できます。
メーターに “イグニッション ON” が表示されます。

知識

■自動電源 OFF 機能

シフトポジションが P にあるとき、20 分以上 ACC か 1 時間以上 ON（FC システムが作動していない状態）にしたままにしておくと、パワースイッチが自動で OFF になります。
ただし、自動電源 OFF 機能は、補機バッテリーあがりを完全に防ぐものではありません。FC システムが作動していないときは、パワースイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

●FC システム停止中は、パワースイッチを ACC または ON にしたまま長時間放置しないでください。

●FC システム停止中に、メーターの“アクセサリー”や“イグニッション ON”の表示が消灯していない場合、パワースイッチが OFF になっていません。パワースイッチを OFF にしてから車両を離れてください。

シフトポジション

目的や状況に応じてシフトポジションを選択してください。

シフトポジションの使用目的について

シフトポジション	目的および状態
P	駐車または FC システムの始動
R	後退
N	動力が伝わらない状態
D	通常走行

Br モードはシフトポジションではありません。（→P.181）

知識

■シフト操作に関するメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示されたとき

誤操作やシステムの状況等によりシフトポジションが切りかわらない、またはシフト操作が無効にされたときには、切りかえができない原因や、正しい操作方法などに関するメッセージが、マルチインフォメーションディスプレイに表示されます。その場合は、メッセージに従って操作し直してください。

注意

■シフト制御システムの異常が考えられるとき

次のような状態になったときは、シフト制御システムの異常が考えられます。安全で平坦な場所に停車し、パーキングブレーキをかけて、トヨタ販売店にご連絡ください。

●マルチインフォメーションディスプレイにシフト制御システムに関する警告メッセージが表示されたとき（→P.445）

●シフトポジションが選択されていない表示状態が、数秒以上続いているとき

シフトポジションの切りかえ方法と表示について

A シフトレバー

シフトレバーは、シフトポジション表示灯の矢印に従って、ゆっくり確実に操作してください。

N に切りかえるときは、矢印に沿って操作したあと、しばらく保持します。

シフトレバーを操作したあとは、シフトレバーから手を離してください。シフトレバーが定位置（●）にもどります。

Br モードへの切りかえは、シフトポジションが D のときのみ可能です。

P から N・D・R、および N・D・Br モード・R から P へ、または D・Br モードから R、および R から D へ切りかえるときは、ブレーキペダルを踏み、車が完全に停止している状態で行ってください。

B シフトポジション表示灯

メーター表示：

現在のシフトポジションが強調表示されます。

D、Br モード以外のときは、シフトポジション表示灯の Br モード表示がグレー表示されます。

C P ポジションスイッチ

P ポジションに切りかえるには、車を完全に停止させ、パーキングブレーキをかけ、P ポジションスイッチを押してください。

シフトポジションを P にすると、スイッチが点灯します。

シフトポジション表示灯が P であることを必ず確認してください。

知識

■パワースイッチの各モードにおけるシフトポジション切りかえ

●パワースイッチが OFF または ACC のときはシフトポジションの切りかえはできません。

●パワースイッチが ON で、READY インジケーターが消灯しているときは、N

のみに切りかえが可能です。

●READY インジケーターが点灯中は、P から、D・N・R を選択できます。

●READYインジケーターが点滅しているときは、シフトレバーを操作しても、P から他のシフトポジションへ切りかえることはできません。READY インジケーターが点滅から点灯にかわってから、再度シフトレバーを操作してください。

■Pから他のシフトポジションに切りかえる

●ブレーキペダルをしっかり踏みながら、シフトレバーを操作します。（ブレーキペダルを踏まずにシフトレバーを操作すると、ブザーが鳴りシフトポジションの切りかえができません）

●操作後は、シフトポジション表示灯で、目的のシフトポジションに切りかわったことを必ず確認してください。

●P から直接、シフトポジションを Br モードに切りかえることはできません。

■シフトポジションを切りかえられなかった場合

次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションが切りかえられなかったことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切りかえてください。

●ブレーキペダルを踏まずに、P からシフトレバーを操作したとき

●アクセルペダルを踏んだまま、P からシフトレバーを操作したとき

●ブレーキペダルを踏まずに、停車中または極低速走行中に N からシフトレバーを操作したとき

●アクセルペダルを踏んだまま、停車中または極低速走行中に N からシフトレバーを操作したとき

●P または N から、Br モードを選択した

●走行中に、P ポジションスイッチを押した

極低速走行時は、P に切りかわることがあります

■シフトポジションが自動的にNに切りかわった場合

次の操作を行うとブザーが鳴り、シフトポジションが N に切りかわったことをお知らせします。適切な操作で、再度シフトポジションを切りかえてください。

●車両が前進しているときにRを選択した

低速走行時は R に切りかわることがあります。

●車両が後退しているときにDを選択した

低速走行時は D に切りかわることがあります。

●R から Br モードを選択した

■走行中に N を選択した場合

一定以上の速度で走行中に N を選択した場合、シフトレバーを N の位置で保持しなくても N に切りかわります。この場合はブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに確認メッセージが表示され、N にかわったことを運転者に知らせます。

■リバース警告ブザー

シフトポジションを R にするとブザーが鳴り、R にあることを運転者に知らせます。

■自動Pポジション切りかえ機能について

次のときは、自動的にシフトポジションが P に切りかわります。

●パワースイッチが ON、かつシフトポジションが P 以外の状態で、車両を停止させパワースイッチを押したとき（シフトポジションが P に切りかわったあと、パワースイッチが OFF になります）※

●シフトポジションがＰ以外の状態で、万が一、運転席ドアを開け、次の条件をすべて満たしているとき
・パワースイッチが ON
・運転席シートベルトを着用していない
・ブレーキペダルを踏んでいない

シフトポジションがＰに切りかわったあと、車両を発進させるときは、シフトレバーを操作してください。

●走行中に FC システムを緊急停止したあと、停車したとき

●シフトポジションがＰ以外の状態で、補機バッテリーの電圧が低下したとき

※停車直前など、極低速走行時にパワースイッチを押すと、自動的にシフトポジションがＰに切りかわる場合があります。必ず車両が完全に停止している状態でパワースイッチを押してください。

■シフトポジションがPから切りかわらない場合は

補機バッテリーあがりの可能性があります。補機バッテリーがあがってしまった場合の対処法は、P.465 を参照してください。

警告

■シフトレバーについて

●シフトレバーのノブを取りはずしたり、純正品以外のノブを取り付けたりしないでください。また、ものをぶら下げたりしないでください。シフトレバーが定位置にもどらなくなって、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外はシフトレバーにふれないでください。

■Ｐポジションスイッチについて

●車が動いているときは、Ｐポジションスイッチにふれないでください。停車直前など、極低速走行中にＰポジションスイッチを押すと、シフトポジションがＰに切りかわることがあるため、車が急停止して思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●意図せぬシフトポジションの切りかわりを防止するため、操作時以外はＰポジションスイッチにふれないでください。

注意

■シフトポジションの切りかえ操作について

ＰからＰ以外、およびＰ以外からＰへの切りかえ操作を短時間にくり返し行わないでください。そのような操作を行うと、システム保護のため、一定時間Ｐからの切りかえができなくなることがあります。その場合は、時間をおいてから操作し直してください。

■車を降りるとき（運転席のみ）

シフトポジション表示灯がＰであることと、パーキングブレーキ表示灯が点灯していることを確認してから、ドアを開け、降車してください。

自動Ｐポジション切り替え機能を作動させずに、シフトポジションをＮに保持したいときは

● 次の操作を行うと、シフトポジションがＰに切りかわるまでの間、自動Ｐポジション切り替え機能を作動させずに、シフトポジションをＮに保持することができます。

1 FC システムが始動しているときにシフトレバーを操作し、シフトポジションを N に切りかえる

2 シフトレバーを定位置（●）にもどす

3 シフトレバーを N の位置に操作しブザーが鳴るまで保持する

4 ブザーが鳴ったあと、5 秒以内にパワースイッチを押す

シフトポジションが N のまま FC システムが停止します。※

ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに “N 保持中 解除するには P スイッチを押してください” が表示されたことを必ず確認してください。

- シフトポジションを N 以外にするには、P ポジションスイッチを押して、一旦シフトポジションを P に切りかえてください
- 必ずFCシステムが始動している状態で操作してください。
  FC システム停止状態では、シフトポジションを N に保持できない場合があります。

※ この状態を維持したい場合は、パワースイッチを操作しないでください。パワースイッチを繰り返し操作すると、自動的にシフトポジションが P に切りかわったあと、パワースイッチが OFF になります。

走行モードの選択

■ ドライブモード

→P.319

■ スノーモード

→P.320

■ Br モード

下り坂など、強い減速力を必要とする走行に適しています。

Br モードを選択すると、メーター内の Br モード表示灯が点灯します。通常走行モードにもどすときは、アクセルペダルを踏むか、シフトレバーで D ポジションを再選択してください。

知識

■Br モードについて

駆動用電池の状態によっては、Br モードを使用できない場合があります。この場合、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

■Br モード時の音について

→P.63

方向指示レバー

操作のしかた

レバー操作により、次のように運転者の意思を表示することができます。

1 左折

2 左側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで左側方向指示灯が点滅します。

3 右側へ車線変更
（レバーを途中で保持）

レバーを離すまで右側方向指示灯が点滅します。

4 右折

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■表示灯の点滅が異常に速くなったとき

方向指示灯の電球が切れていないか確認してください。

パーキングブレーキ

自動または手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

オートモードのときは、シフトレバーの操作に応じてパーキングブレーキが自動で作動します。また、オートモードのときでも手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

操作のしかた

■ マニュアルモード

手動でパーキングブレーキをかける・解除することができます。

1 スイッチを引き、パーキングブレーキをかける

作動後、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

緊急時、走行中にパーキングブレーキをかける必要があるときは、スイッチを引き続けてください。

2 スイッチを押し、パーキングブレーキを解除する

・ブレーキペダルを踏みながら操作してください。

・パーキングブレーキ自動解除機能により、アクセルペダルを踏むことでパーキングブレーキを解除することができます。アクセルペダルを踏むときはゆっくり踏んでください。

解除後、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。

■ オートモードを ON にする

停車中に、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを引き続ける

A “EPB シフト連動機能 ON”

オートモードを ON にすると、パーキングブレーキが次のように作動します。

- シフトポジションをPからP以外にすると、パーキングブレーキが解除され、パーキングブレーキ表示灯が消灯します。
- シフトポジションをP以外からPにすると、パーキングブレーキがかかり、パーキングブレーキ表示灯が点灯します。

シフトレバーおよび P ポジションスイッチは、停車した状態でブレーキペダルを踏みながら操作してください。

■ オートモードを OFF にする

停車中に、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが出るまでスイッチを押し続ける

A “EPB シフト連動機能 OFF”

シフトレバーおよび P ポジションスイッチは、停車した状態でブレーキペダルを踏みながら操作してください。

知識

■パーキングブレーキの作動

●パワースイッチが ON 以外では、パーキングブレーキスイッチによる解除はできません。

●パワースイッチが ON 以外では、オートモードによる作動（かける・解除する）はできません。

■パーキングブレーキ自動解除について

オートモード：シフトポジションを P から P 以外にすると、パーキングブレーキが自動的に解除されます。

マニュアルモード：

次の条件をすべて満たしたとき、アクセルペダルを踏むことによりパーキングブレーキを解除することができます。

●運転席ドアが閉まっているとき

●運転席シートベルトを着用しているとき

●シフトポジションが D または R のとき

■マルチインフォメーションディスプレイに “EPB が連続で操作されました しばらくお待ちください” と表示されたときは

短時間に作動をくり返すと、システム過熱防止のために作動制限することがあります。その場合は、操作を控えてください。1 分程度でもとの状態にもどります。

■マルチインフォメーションディスプレイに “EPB 動作が途中で停止しました” または “EPB 現在使用できません” と表示されたときは

パーキングブレーキスイッチを操作してください。何度か操作しても表示が消えない場合は、システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■パーキングブレーキの作動音

パーキングブレーキが作動するとき、モーターの音（“ウィーン” という音）が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキ表示灯について

●パーキングブレーキをかけたとき、パワースイッチのモードによって、次のようにパーキングブレーキ表示灯が点灯します。
ON：パーキングブレーキを解除するまで点灯します。
ON 以外：約 15 秒間点灯します。

●パーキングブレーキをかけた状態でパワースイッチを OFF にしたとき、パーキングブレーキ表示灯が約 15 秒間点灯したままになりますが、異常ではありません。

■パーキングブレーキスイッチが故障したとき

自動的にオートモードが ON になります。

■駐車するとき

→P.165

■パーキングブレーキ未解除警告ブザー

パーキングブレーキをかけたまま走行すると、警告ブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに “EPB がロックされています” と表示されます（車速が 5km/h をこえたとき）

■パーキングブレーキ表示灯が点滅したとき

→P.442

■冬季のパーキングブレーキの使用について

→P.331

警告

■駐車するとき

お子さまだけを車の中に残したままにしないでください。お子さまが誤ってパーキングブレーキを解除し、車が動き出して思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■駐車するとき

車から離れるときは、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にし、車が動かないことを確認してください。

■システムに異常が発生したら

安全な場所に車を停め、警告メッセージを確認してください。

■故障などでパーキングブレーキが解除できないとき

パーキングブレーキがかかったまま走行すると、ブレーキ部品が過熱し、ブレーキの効きが悪くなったり、早く摩耗したりするおそれがあります。この場合は、ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

ブレーキホールド

シフトポジションがDまたはNでブレーキホールドシステムがONのとき、ブレーキペダルを踏んで停車するとブレーキがかかったまま保持されます。シフトポジションがDのとき、アクセルペダルを踏むと同時に解除され、スムーズに発進できます。

システムを作動させるには

スイッチを押して、ブレーキホールドシステムをONにする

ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）A が点灯します。ブレーキ保持中はブレーキホールド作動表示灯（黄）B が点灯します。

知識

■システムの作動条件

次のときはブレーキホールドシステムをONにできません。

- 運転席ドアが閉まっていない
- 運転席シートベルトを着用していない
- パーキングブレーキがかかっている

ブレーキホールドシステムがONのときに上記いずれかを検出したときは、システムがOFFになり、ブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が消灯します。ブレーキ保持中に検出した場合は、さらに警告音と共にマルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、自動的にパーキングブレーキがかかります。

■ブレーキ保持について

- ブレーキ保持中にブレーキペダルが踏まれていない状態が約3分継続すると、自動的にパーキングブレーキがかかります。このときはブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。
- 急坂路ではブレーキ保持できないことがあり、その場合運転者が、ブレーキをかける必要があります。このときブザーが鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。表示された画面の指示に従ってください。
- ブレーキ保持中にシステムをOFFにするときは、ブレーキペダルをしっかり踏み、もう一度スイッチを押してください。

■ブレーキ保持中にパーキングブレーキが自動的にかかったとき

発進時は次のいずれかの操作でパーキングブレーキを解除してください。

- 運転席シートベルトを着用した状態でアクセルペダルを踏む
- ブレーキペダルを踏みながら、パーキングブレーキスイッチを操作して手動で解除する

操作したあとパーキングブレーキ表示灯が消灯したことを確認してください。（→P.183）

■トヨタ販売店で点検が必要なとき

ブレーキホールドシステムの作動条件を

満たしているときに、ブレーキホールドスイッチを押してもブレーキホールドスタンバイ表示灯（緑）が点灯しないときはシステムの異常が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに“BrakeHold 故障”が表示されたときは

システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■警告メッセージ・警告ブザーについて

操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

■ブレーキホールド作動表示灯（黄）が点滅したときは

→P.441

警告

■急坂路では

急坂路でブレーキホールドシステムを使用するときは注意してください。急坂路ではブレーキホールドシステムにてブレーキを保持できないことがあります。

■すべりやすい路面では

タイヤのグリップ限界をこえて停車させることはできません。すべりやすい路面での使用は控えてください。

注意

■駐車するとき

ブレーキホールドは長時間駐車するための機能ではありません。ブレーキ保持中にパワースイッチを OFF にすると、保持が解除されて車が動き出す場合があります。パワースイッチを操作するときは、ブレーキペダルを踏み、シフトポジションを P にして、パーキングブレーキをかけてください。

ASC（アクティブサウンドコントロール）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ASC は、車の加速や減速といった走行状態を、運転者に音で伝えるシステムです。

運転者のアクセル操作やブレーキ操作に対する車の反応が音で伝えられます。ノーマルモードとスポーツモードでそれぞれ音色がかわります。（→P.319）

知識

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。(→P.485)

■作動条件

ドライブモードが、エコドライブモード以外のとき。

■機能の一時解除

ASC システムは、例えば急加速によってタイヤがスリップするようなときなど、走行状態によって一時的に解除される場合があります。

短時間で連続的にドライブモードを切り替えると、音が鳴らない場合があります。

ウォーターリリース（H_2O スイッチ）

走行後、FC システムを停止すると排気排水管から自動的に排水されます。

車庫や立体駐車場などで排水量を少なくしたい場合は、駐車する前に排水を行うことができます。

H_2O スイッチ

READY インジケーターが点灯している状態で H_2O スイッチを押すと、排水を開始します。

再度スイッチを押すと、排水を中止します。

マルチインフォメーションディスプレイに排水の実行および完了のメッセージが表示されます。

知識

■寒冷時のウォーターリリース機能について

次のような場合には、FC システムの自動排水が実施されず、FC スタックや水素配管などの凍結により、FC システムが始動できなくなることがあります。

●氷点下地域に車両を輸送、けん引する

とき

- 氷点下地域で補機バッテリ端子をはずして放置するとき

そのため、次の手順で直前にウォーターリリースを実施してください。

1 パワースイッチを ON にし、H_2O スイッチを押す

マルチインフォメーションディスプレイに “アクティブ排水モードに入りました” のメッセージが表示されたことを確認してください。

2 ブレーキを踏みながらパワースイッチを押し、FC システムを始動する

READY インジケーターが点灯していることを確認してください。

3 パワースイッチを押し、FC システムを停止する

ウォーターリリースが自動的に実施されます。（通常の排水よりも長くなります）

■駐車時の排水について

ウォーターリリース機能は、駐車時の排水を完全に防ぐものではありません。駐車時の排水量は外気温や走行状態によりかわります。

ウォーターリリース実施後、REDAY インジケータを点灯したままの状態を続けると、水が生成され、駐車時に排水されることがあります。

ナビ連動排水

ナビゲーションシステムとの連携により、自宅到着前に自動的に排水を行うことができます。マルチインフォメーションディスプレイで設定変更が可能です。（→P.480）

使用するには、ナビ上で自宅の設定が必要です。詳細は「マルチメディア取扱書」を参照ください。

H_2O スイッチ操作時と異なり、排水の実行および完了はマルチインフォメーションディスプレイで通知されません。

ランプスイッチ

自動または手動でヘッドランプなどを点灯できます。

点灯のしかた

次のように スイッチを操作すると、ランプが点灯します。

※ スイッチを 3 の位置へ操作し手を離すと、自動的に 2AUTOの位置へ戻ります。

	点灯状態	
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
1	ヘッドランプ・スモールランプが点灯	
2AUTO※1	LED デイライト（→P.191）が点灯	ヘッドランプ・スモールランプが点灯
3 ※1	スモールランプが点灯	スモールランプが点灯 ※2

上記の表のスモールランプは、車幅灯・尾灯・インストルメントパネルランプを意味します。

※1操作するたびに、2AUTOによる点灯状態と 3 による点灯状態が切りかわります。

※2停車中のみ点灯可能。車両を発進させると 2AUTOによる点灯状態に切りかわります。

消灯のしかた

スイッチを 3 ≡D◇/○の位置で 1 秒以上保持すると、次のように作動します。

消灯中に 1 ≡D か 3 ≡D◇/○の位置へ操作すると消灯状態が解除されます。

※ スイッチを 3 ≡D◇/○の位置へ操作し手を離すと、自動的に 2AUTOの位置へ戻ります。

	点灯状態	
ポジション	周囲が明るいとき	周囲が暗いとき
3 ≡D◇/○	ヘッドランプ・スモールランプ・LED デイライト（→P.191）が消灯	ヘッドランプ・スモールランプが消灯 ※

※ 停車中のみ消灯可能。車両を発進させると消灯状態が解除されます。

知識

■ AUTO モードの作動条件

パワースイッチが ON のとき

■ LED デイライト

日中での走行時、自車が他の運転者から見やすくなるように、FC システム始動後、パーキングブレーキを解除して、ランプスイッチをAUTOにすると、LED デイライトが自動で点灯します。（車幅灯より明るく点灯します。）

LED デイライトは夜間の使用を意図したものではありません。

■ 自動で点灯／消灯する明るさについて

周囲の明るさに応じて自動的にランプが点灯／消灯します。日中走行中でも周囲の環境や明るさによって、ヘッドランプが自動点灯する場合があります。

■ ライトセンサー

センサーの上にものを置いたり、センサーをふさぐようなものをウインドウガラスに貼らないでください。周囲からの光がさえぎられると、自動点灯・消灯機能が正常に働かなくなります。

■ランプ消し忘れ防止機能

パワースイッチを ACC または OFF にして運転席ドアを開けるとすべてのランプが自動的に消灯します。

再びランプを点灯する場合は、パワースイッチを ON にするか、一度ランプスイッチをAUTOにしてから/または

の位置にします。

■ランプ消し忘れ警告ブザー

ヘッドランプ・尾灯が点灯している状態で運転席ドアを開けると、ランプ類の消し忘れを警告するブザーが鳴ります。

■オートレベリングシステム

通行人や対向車がまぶしくないように、乗車人数・荷物の量などによる車の姿勢の変化に合わせて、ヘッドランプの光軸を自動で調整します。

■ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能

日中での走行時、ランプスイッチがAUTOでワイパーを作動してしばらくすると、自車が他車から見やすくなるようにヘッドランプが自動点灯します。※

※ トヨタ販売店での設定変更が必要です。

■節電機能

車両の補機バッテリーあがりを防止するため、パワースイッチが ACC または OFF の状態でヘッドランプまたは尾灯が点灯している場合、節電機能が働き約 20 分後にすべてのランプが自動消灯します。パワースイッチを ON にすると、節電機能は解除されます。次のいずれかを行った場合、節電機能はいったん解除され、再度節電機能が働き、約 20 分後すべてのランプが自動消灯します。

●ランプスイッチを操作したとき

●ドアまたはトランクを開閉したとき

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.480）

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

FC システムを停止した状態でランプ類を長時間点灯しないでください。

ハイビームにするには

1 ヘッドランプ点灯時ハイビームに切りかえ

レバーをもとの位置へもどすとロービームにもどります。

2 レバーを引いているあいだ、ハイビームを点灯

ランプが消灯していても、ハイビームが点灯します。レバーを離すと、ロービームにもどる、または消灯します。

AHS（アダプティブハイビームシステム）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

アダプティブハイビームシステムは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、ヘッドランプの配光を制御します。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

アダプティブハイビームシステムを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■アダプティブハイビームシステムの誤作動を防ぐために

荷物を積み過ぎないでください。

システムの制御

- 車速に応じて、ハイビームの明るさと照らす範囲を調整します。
- カーブを走行しているとき、進行方向側をハイビームでより明るく照らします。
- 前方車両の周辺を遮光したハイビームを点灯します。（遮光ハイビーム）

前方車両へのまぶしさを緩和しつつ、前方視界の確保を補助します。

A ハイビームで照らす範囲

B ロービームで照らす範囲

- 先行車との距離に応じて、ロービームの照らす範囲を調整します。

アダプティブハイビームシステムを使うには

1 アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

2 ランプスイッチを≣Dまたは AUTOの位置にする

レバーがロービームの位置にあるとき、アダプティブハイビームシステムが作動

し、AHS 表示灯が点灯します。

知識

■システムの作動条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームが点灯し、システムが作動します。
・車速が約 15km/h 以上※
・車両前方が暗い

※車速が約 30km/h 以上になると、カーブ走行時に進行方向側を明るく照らします。

●次の条件をすべて満たすと、前方車両の位置に応じて遮光ハイビームに切りかわり、ロービームの照らす範囲を調整します。
・車速が約 15km/h 以上
・車両前方が暗い
・前方にランプを点灯した車両がいる

●次の条件のいずれかのとき、ロービームに切りかわります。
・車速が約 15km/h 以下
・車両前方が明るい
・前方車両の台数が多い
・前方車両の動きが速く、その車両にまぶしさを与える可能性がある

■前方カメラの検知について

●次のような状況では、ハイビームが自動で遮光ハイビームに切りかわらない場合があります。
・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が無灯火のとき

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームが遮光ハイビームに切りかわる場合や切りかわらない場合、または遮光範囲が変化する場合があります。

●次の原因により、遮光範囲の追従速度やロービームへの切りかえのタイミングが変化する場合があります。
・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ヘッドランプの配光制御が運転者の感覚に合わない場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次のような状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・前方カメラが変形しているときや、汚れているとき
・前方カメラが極端に高温になっている

とき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た光があるとき
・前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
・先行車から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
・急激な明るさの変化が連続するとき
・起伏や段差が多い道路を走行しているとき
・カーブが多い道路を走行しているとき
・車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
・コンテナなど、先行車の後部が光を強く反射するとき
・自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
・パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
・ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
・ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.480）

手動制御に切りかえるには

■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

AHS 表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、レバーをもとの位置にもどします。

■ ロービームへの切りかえ

アダプティブハイビームシステムスイッチを押す

AHS 表示灯が消灯します。

アダプティブハイビームシステムにもどすには、再度スイッチを押します。

■ 一時的なロービームへの切りかえ

レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度アダプティブハイビームシステムが作動します。

知識

■一時的なロービームへの切り替えについて

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるときに使用します。

AHB（オートマチックハイビーム）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

オートマチックハイビームは、フロントウインドウガラス上部に設置された前方カメラにより前方車両のランプや街路灯などの明るさを判定し、自動的にハイビームとロービームを切りかえます。

警告

■安全にお使いいただくために

オートマチックハイビームを過信しないでください。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけ、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切りかえてください。

■オートマチックハイビームの誤作動を防ぐために

荷物を積み過ぎないでください。

オートマチックハイビームを使うには

1 オートマチックハイビームスイッチを押す

2 ランプスイッチを≡Dまたは AUTOの位置にする

レバーがロービームの位置にあるとき、オートマチックハイビームが作動し、AHB 表示灯が点灯します。

知識

■ハイビームとロービームの自動切りかえ条件

●次の条件をすべて満たすと、ハイビームを点灯します。
・車速が約 30km/h 以上
・車両前方が暗い
・前方にランプを点灯した車両がいない
・前方の道路沿いの街路灯の光が少ない

●次の条件のいずれかのときはロービームが点灯します。
・車速が約 25km/h 以下
・車両前方が明るい
・前方車両がランプを点灯している
・前方の道路沿いの街路灯の光が多い

■前方カメラの検知について

●次のような状況では、ハイビームが自動でロービームに切りかわらない場合があります。
・見通しの悪いカーブで対向車と突然すれ違ったとき
・他車が前方を横切ったとき
・連続するカーブや中央分離帯、街路樹などで前方車両が見え隠れするとき
・前方車両が離れた車線から接近してきたとき
・前方車両が無灯火のとき

●前方車両のフォグランプにより、ハイビームがロービームに切りかわる場合があります。

●街路灯や信号・広告などの照明、または標識・看板などの反射物によりハイビームがロービームに切りかわる場合や、ロービームが継続する場合があります。

●次の原因により、ハイビームとロービームの切りかえのタイミングが変化する場合があります
・前方車両のランプの明るさ
・前方車両の動きや向き
・前方車両のランプが片側のみ点灯しているとき
・前方車両が二輪車のとき
・道路の状態（勾配やカーブ、路面状況など）
・乗車人数や荷物の量

●ハイビームとロービームが運転者の感覚に合わず切りかわる場合があります。

●自転車などの軽車両は検知しない場合があります。

●次のような状況では、周囲の明るさが正確に検知されず、ハイビームが歩行者や前方車両などの迷惑になる場合や、ロービームが継続する場合があります。このような場合は、手動でハイビームとロービームを切りかえてください。
・悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
・フロントウインドウガラスが汚れているときや、曇っているとき
・フロントウインドウガラスにひび割れや破損があるとき
・前方カメラが変形しているときや、汚れているとき
・前方カメラが極端に高温になっているとき
・周囲にヘッドランプや尾灯などに似た

光があるとき
- 前方車両のランプが無灯火のときや、ランプに汚れや変色があったり光軸がずれているとき
- 先行車から水・雪・土埃などの巻き上げがあるとき
- 急激な明るさの変化が連続するとき
- 起伏や段差が多い道路を走行しているとき
- カーブが多い道路を走行しているとき
- 車両前方に標識やミラーのように光を強く反射するものがあるとき
- コンテナなど、先行車の後部が光を強く反射するとき
- 自車のヘッドランプが破損または汚れているとき
- パンクやけん引などにより車両が傾いているとき
- ハイビームとロービームをひんぱんに切りかえているとき
- ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になると思われるとき

手動制御に切りかえるには

■ ハイビームへの切りかえ

レバーを前方へ押す

AHB 表示灯が消灯し、ハイビーム表示灯が点灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、レバーをもとの位置にもどします。

■ ロービームへの切りかえ

オートマチックハイビームスイッチを押す

AHB 表示灯が消灯します。

オートマチックハイビームにもどすには、再度スイッチを押します。

■ 一時的なロービームへの切りかえ

レバーを手前に引き、もとの位置にもどす

レバーを引いているあいだはハイビームが点灯しますが、レバーがもとの位置にもどるとしばらくのあいだロービームが点灯します。その後、再度オートマチックハイビームが作動します。

知識

■ 一時的なロービームへの切りかえについて

ハイビームの使用に問題がある、または他の運転者・付近の歩行者の迷惑になる

と思われるときに使用します。

リヤフォグランプ★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

雨や霧などの悪天候下で後続車両に自車の存在を知らせることができます。

操作のしかた

リヤフォグランプを点灯する

操作後に手を離すと ○ の位置までもどります。再度操作すると消灯します。

知識

■点灯条件

ヘッドランプが点灯しているときに使用できます

■リヤフォグランプについて

●リヤフォグランプが点灯しているときは、メーター内の表示灯が橙色に点灯します。

●雨や霧、雪などで視界が悪いときに後続車に自分の車の存在を知らせるために使用します。視界が悪いとき以外に

使用すると後続車の迷惑になる場合があります。必要なとき以外は使用しないでください。

ワイパー&ウォッシャー

レバー操作で、ワイパーの作動を自動／手動に切りかえたり、ウォッシャーを作動させたりすることができます。

⚠注意

■**フロントウインドウガラスが乾いているとき**

ワイパーを使わないでください。
ガラスを傷付けるおそれがあります。

操作のしかた

次のように レバーを操作すると、ワイパーまたはウォッシャーが作動します。AUTOを選択したときは、雨滴量や車速に応じてワイパーが自動で作動します。

1 ○ 停止

2 AUTO雨滴感知オート作動

（AUTO）

雨滴量や車速に応じてワイパーが作動します。

3 ▼ 低速作動（LO）

4 ▼▼ 高速作動（HI）

5 △ 一時作動（MIST）

AUTOが選択されているときは、次のようにツマミをまわして、雨滴センサーの感度を調整することができます。

6 雨滴センサーの感度調整（高）
7 雨滴センサーの感度調整（低）

8 ウォッシャー液を出す

レバーを手前に引くとワイパーと連動してウォッシャーが作動します。
（数回作動したあと、液だれ防止としてさらに 1 回作動します。ただし、走行中は液だれ防止作動は行いません。）

9 ★ ウォッシャー液を出す（リヤカメラ）

レバーを前方へ押すとウォッシャーが作動して、リヤカメラとデジタルインナーミラーのカメラを洗浄します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■車速による作動への影響

AUTO選択時以外でも、車速によってウォッシャー連動時のワイパー作動（液だれ防止作動が働くまでの時間）への影響があります。

低速作動選択時は停車時のみ間欠作動へ切りかわります。
（雨滴センサーの感度調整が最高に調整されているときは、低速作動を続けます）

■雨滴感知センサー

●雨滴感知センサーが雨滴量を判定します。
光学センサーを使用しているため、フロントウインドウガラスに朝日や夕日が断続的にあたるときや、虫などで汚れたときに、正しく作動しないことがあります。

●パワースイッチが ON のときに AUTO

モードにすると、動作確認のためワイパーが 1 回作動します。

●雨滴感知センサーの温度が 85 ℃以上または－ 15 ℃以下のときは、AUTO 作動しないことがあります。その場合は、AUTO以外を選択してワイパーを使用してください。

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャー液量が不足していないのにウォッシャー液が出ないときは、ノズルのつまりを点検してください。

■ドア開連動ワイパー停止機能

AUTO選択中、シフトポジションが P の状態でワイパーが作動しているときにフロントドアを開けると、ワイパーの水しぶきが車両の近くにいる人にかかるのを防ぐためにワイパーの作動が停止します。フロントドアを閉めると作動を再開します。

■走行中に FC システムを緊急停止したときは

FC システムを停止したときにワイパーが作動していた場合は、高速作動でワイパーの作動が継続します。車両停止後にパワースイッチを ON にすると通常作動を再開し、運転席ドアを開けるとワイパーの作動を停止します。

警告

■AUTO選択時のワイパー作動について

AUTOを選択しているときは、センサーにふれたり、フロントウインドウガラスに振動があるなどの要因で不意にワイパーが動くおそれがあります。ワイパーで指などを挟まないように注意してください。

■ウォッシャー使用時の警告

寒冷時はフロントウインドウガラスが暖まるまでウォッシャー液を使用しないでください。ウォッシャー液がフロントウインドウガラスに凍りつき、視界不良を起こして思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■ウォッシャー液が出ないとき

ウォッシャースイッチを操作し続けないでください。
ポンプが故障するおそれがあります。

■ノズルがつまったとき

ノズルがつまったときはトヨタ販売店へご連絡ください。
ピンなどで取り除かないでください。
ノズルが損傷するおそれがあります。

ワイパーの停止位置切りかえ／ワイパーの立て方

ワイパーは使用していないとき、ボンネット下に格納されています。寒冷時やワイパーゴムを交換するときは、ワイパーの停止位置を格納位置からサービスポジションに

切りかえた上でワイパーを立ててください。

■ サービスポジションへ切りかえる

パワースイッチを OFF にしたあと、約 45 秒以内にワイパースイッチを △ の位置で約 2 秒以上保持する

ワイパーがサービスポジションに移動します。

■ ワイパーを立てる

ワイパーアームのフック部 A を持ってガラス面から引き上げる

知識

■ ワイパーを格納位置にもどすには

ワイパーを倒した状態でパワースイッチを ON にし、いずれかのワイパー操作をしてください。作動後は格納位置で停止します。パワースイッチが OFF のときにワイパーがずれてしまっていても、作動後は正常な位置にもどります。

注意

■ ワイパーを立てるときは

- ワイパーがボンネット下の格納位置にあるときは、ワイパーを立てないでください。格納位置でワイパーを立てるとボンネットに干渉し、傷が付くおそれがあります。
- ワイパーブレードのみを持ってワイパーを立てないでください。ブレードが変形するおそれがあります。

- ワイパーを立てた状態でワイパーを作動させないでください。ワイパーがボンネットに干渉し、傷が付くおそれがあります。

燃料充てん口（補給口）の開け方

- 燃料の圧縮水素ガスは、水素ステーションで充てんできます。
- 水素ステーションの設備によっては、充てん時間や充てん量が異なり、走行可能距離が短くなる場合があります。
- 水素タンクの検査有効期限を過ぎている場合は、水素ステーションで圧縮水素ガスを充てんすることはできません。トヨタ販売店にご相談ください。

充てんする前に

- ドアとドアガラスを閉め、パワースイッチを OFF にしてください。
- パーキングブレーキをかけてください。
- シフトポジションを P にしてください。
- ヘッドランプなどのスイッチを OFF にしてください。

知識

■燃料の種類について

→P.476

■最高充てん圧力

通常の使用圧力は 70MPa になりますが、燃料充てん時の一時的な最高圧力（最高充てん圧力）として、87.5MPa もラベルに表示されています。

警告

■充てんするとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと火災・爆発を引き起こすなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- パワースイッチを OFF にして、水素ステーションの係員の指示に従ってください。
- タバコなどの火気を近づけないでください。
- 充てん時、充てんガスが冷たいため、水素ガス充てんノズルや燃料充てん口表面が冷たくなったり、霜がついたりする場合があります。充てん直後は素手で水素ガス充てんノズルや燃料充てん口にさわらないでください。凍傷になる恐れがあります。

注意

■充てんするとき

- 指定以外の燃料を使用しないでください。故障の原因になります。
- 充てん時、水素ガス充てんノズルにぶらさがったり、大きな力をかけないでください。故障の原因になります。
- 充てん後は必ずキャップを取り付けてください。燃料充てん口内に異物が入ると、故障の原因になります。
- 燃料充てん口の開口部にドライバーなどの鋭利なものを入れないでください。燃料充てん口の損傷により、充てん時に水素ガスがもれるおそれがあります。

注意

- 燃料充てん口に凍結防止剤などを付着させないでください。燃料充てん口内に不純物が入ると、故障の原因になります。
- 充てん時、水滴が付着した水素ガス充てんノズルを使用しないでください。付着した水滴が凍結し、水素ガス充てんノズルが外せなくおそれがあります。

燃料充てん口の開け方

1 燃料充てん扉オープナースイッチを押して、ロックを解除する

燃料充てん扉は READY インジケーターが点灯しているときや、パワースイッチが ON のときは、ロックが解除されません。

2 キャップをはずして、ホルダーに取り付ける

3 燃料充てん作業は、水素ステーションの係員が行います。

知識

■マルチインフォメーションディスプレイに“水素充填口は安全な場所でパワースイッチオフ後操作”が表示されたときは

1 車両を安全な場所に停車させて、シフトポジションを P にする
2 パワースイッチを OFF にする
3 燃料充てん扉オープナースイッチを押す

■燃料充てん中の音について

圧縮水素ガス充てんの際、気流音や水素タンクバルブの作動音が聞こえる場合があります。（→P.63）

燃料充てん口の閉め方

1 充てん終了後、水素ガス充てんノズルを燃料充てん口から取りはずす

燃料充てん作業は、水素ステーションの係員が行います。

2 キャップを取り付ける

3 燃料充てん扉を閉める

知識

■誤操作防止機能について

燃料充てん扉が開いているときは、安全のため FC システムは始動しません。また、READY インジケーターが点灯しているときは、燃料充てん扉は開きません。

同様に、燃料充てん扉が開いている時は非常時給電機能（→P.378）も使用できません。

■マルチインフォメーションディスプレイに “ 水素充填口開検知　安全な場所に停車して閉じてください ” が表示されたときは

燃料充てん扉が開いています。安全な場所に駐車して、燃料充てん扉を閉めてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに “ 水素充填口を閉じた後　もう一度始動操作をしてください ” が表示されたときは

燃料充てん扉が開いて始動できません。シフトポジションを P にして、パワースイッチを OFF にしてから、以下の手順でもう一度燃料充てん扉を閉めてください。

1 キャップが取り付けられているか確認する

2 燃料充てん扉を閉める

マルチインフォメーションディスプレイの表示が消えたときは異常ではありません。ただし、表示が続く場合は、センサーの故障のおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

始動操作を 5 回繰り返す（ブレーキを踏んだ状態でパワースイッチ操作を 2 秒程度の間隔で 9 回押す）毎に 1 回始動できます。車両に水素充てんノズルが接続されていないことを十分確認の上、車両を走行してください。

セルフ充てんをする場合

SAE J2601 に準拠した水素ステーションで充てんしてください。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

水素ステーションで表示されている注意書きをご確認ください。

■ 充てん時のご注意

2021 年 8 月現在、日本では原則セルフ充てんは許可されていません。特例として、所定の講習を受講された方のみ、許可された車両・場所にて行うことができます。許可された方が充てん作業をする場合は、次のことをお守りください。

- 水素ステーションの供給圧力よりも車両の水素タンク残圧が高い場合は、充てんできません。水素タンク内の水素残量が容量の半分以上ある場合は、H35 水素ガス充てん機では充てんできません。満充てんするためには H70 水素ガス充てん機（供給圧力 70MPa）を使用してください。
- 水素ステーション設備の不具合で充てんが完了しない場合は、水素ステーションの係員にお知

らせください。

警告

■充てんするとき

●乗用車向け水素ステーションで充てん作業を行ってください。充てん作業方法は水素ステーションの係員の指示に従ってください。

●70MPa または 35MPa 乗用車用の水素ガス充てんノズルを使用し、商用車専用の水素ガス充てんノズルは使用しないでください。充てん作業方法は水素ステーションの係員の指示に従ってください。

●充てん前、水素ガス充てんノズルが燃料充てん口に対して、確実にロックしていることを確認し、水素ガス充てんノズルを手前に引いても外れないことを確認してください。水素ガス充てんノズルや車両が故障する原因になります。

注意

■充てんするとき

●充てんが完了しても水素ガス充てんノズルが外れない場合、燃料充てん口が凍結している可能性があります。解凍するまで、しばらくお待ちください。無理に外そうとすると、水素ガス充てんノズルや車両が損傷し、故障の原因になります。

●車両の燃料充てん口に異変を見受けられた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●水素ガス充てん機や水素ガス充てんノズルに異変を見受けられた場合は、水素ステーションの係員、または水素ガス充てん機に記載されている問合せ先へお知らせください。

Toyota Safety Sense※

※ Toyota Teammate Advanced Drive 装着車は、「Toyota Teammate Advanced Drive 取扱書」を参照してください。

Toyota Safety Sense は、次の運転支援装置によって運転者を補助し、安全で快適なドライブを支援します。

運転支援装置

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）

→P.213

■ LTA（レーントレーシングアシスト）

→P.223

■ AHS（アダプティブハイビームシステム）★

→P.193

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ AHB（オートマチックハイビーム）★

→P.196

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ RSA（ロードサインアシスト）

→P.232

■ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

→P.235

■ 先行車発進告知機能

→P.247

■ ドライバー異常時対応システム

→P.249

警告

■Toyota Safety Sense について

Toyota Safety Sense は運転者の安全運転を前提としたシステムであり、事故被害や運転負荷の軽減に寄与することを目的としています。

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

前方センサー

フロントグリルとフロントウインドウガラスにある 2 種類のセンサーにより、各運転支援装置に必要な情報を認識します。

A レーダー

B 前方カメラ

警告

■レーダーの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、レーダーが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●レーダーとレーダー専用カバーは常にきれいにしておく

A レーダー

B レーダー専用カバー

レーダー前面やレーダー専用カバー前後面に汚れ・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

お手入れをする際は、レーダーやレーダー専用カバーを傷付けないよう、やわらかい布を使ってください。

●レーダーやレーダー専用カバー周辺にアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）などを貼ったりしない

●レーダー周辺への強い衝撃を避ける

レーダー・フロントグリル・フロントバンパーに強い衝撃を受けた際は、必ずトヨタ販売店で点検を受けてください。

●レーダーを分解しない

●レーダーやレーダー専用カバーを改造したり、塗装したりしない

●次のようなときは、レーダーの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

・レーダー・フロントグリルを脱着や交換したとき

・フロントバンパーを交換したとき

■前方カメラの故障や誤作動を防ぐために

次のことをお守りください。

お守りいただかないと、前方カメラが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●フロントウインドウガラスは常にきれいにしておく

・フロントウインドウガラス外側に汚れ・油膜・水滴・雪などが付着した場合は、取り除いてください。

・フロントウインドウガラスにガラスコーティング剤を使用していても、前方カメラ前部に水滴などが付着した場合は、ワイパーでふき取ってください。

・フロントウインドウガラス内側の前方カメラ取り付け部が汚れた場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

●フロントウインドウガラスの前方カメラ前部（図に示す範囲内）にステッカー（透明なものを含む）などを貼り付けない

A フロントウインドウガラス上端から前方カメラ下端より下約 1cm まで

B 約 20cm（前方カメラ中心から左右約 10cm）

●前方カメラ前部のフロントウインドウガラスが曇ったり、結露したり、凍結したりした場合は、エアコンの機能を使用する（フロントウインドウガラスの曇りを取る：→P.338）

●前方カメラ前部のフロントウインドウガラスの水滴をワイパーが正しくふき取れないときは、ワイパーゴムまたはワイパーブレードを交換する

●フロントウインドウガラスにフィルムを貼らない

●フロントウインドウガラスに傷・ひびなどが生じた場合は、そのまま放置せずに交換する

フロントウインドウガラスの交換後は、前方カメラの再調整が必要です。詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

●前方カメラに液体をかけない

●前方カメラに強い光を照射しない

●前方カメラのレンズを汚したり、傷を付けたりしない

フロントウインドウガラス内側を掃除するときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。

レンズに汚れ・傷がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●前方カメラに強い衝撃を加えない

●前方カメラの取り付け位置や向きを変更したり、取りはずしたりしない

●前方カメラを分解しない

●インナーミラーなどの前方カメラ周辺部品や天井を改造しない

●ボンネット・フロントグリル・フロントバンパーに、前方カメラの視界をさえぎる可能性のあるアクセサリーを取り付けない

詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

●ルーフ上に全長の長い荷物（サーフボードなど）を積むときは、前方カメラの視界をさえぎらないようにする

●ヘッドランプなどのランプ類を改造しない

知識

■レーダーの取り扱い

レーダーセンサーは電波法の基準に適合しています。センサーに印字されているマークはその証明ですので消さないでください。また、製品を分解・改造すると罰せられることがあります。必ず日本国内でご使用下さい。

■マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたとき

前方センサーが一時的に作動しない、または異常があるおそれがあります。

●次の状況が改善されると警告メッセージが消え、作動可能状態になります。

対処を行っても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

状況	対処法
前方カメラ周辺に汚れや付着物（曇り、結露、凍結などを含む）があるとき	ワイパーやエアコンの機能などを使って、汚れや付着物を取り除く（フロントウインドウガラスの曇りを取るには：→P.338）
炎天下や極寒の環境など、前方カメラ周囲の温度などが作動条件外のとき	炎天下での駐車時など、前方カメラが高温のときは、エアコンでカメラ周辺の温度を下げる 特に駐車時に太陽光を反射するサンシェードなどをフロントウインドウガラスに使用すると前方カメラが高温になりやすくなります。
	極寒での駐車時など、前方カメラが低温のときは、エアコンで前方カメラ周辺の温度を上げる
ボンネットが開いているときや、フロントウインドウガラスの前方カメラ前部にステッカーが貼り付けられているときなど、前方カメラの前方がさえぎられているとき	ボンネットを閉じる、またはステッカーを剥がすなど、前方カメラの視界がさえぎられないようにする
“プリクラッシュセーフティレーダー向き調整中取扱書確認ください” が表示されたとき	レーダーおよびレーダー専用カバーに付着物がないか確認し、あった場合には取り除く

●次のときは周囲の環境が前方センサーの作動可能状態になれば警告メッセージが消えます。
周囲の環境が改善されたり、しばらく走行したりしても警告メッセージが表示されたままの場合はトヨタ販売店にご相談ください。

・炎天下や極寒の環境など、レーダー周囲の温度などが作動条件外のとき

・ 暗闇・逆光・雪・霧など、前方カメラが周囲の状況を認識できないとき
・ 車両周辺の状況によってはレーダーが正しく周囲の環境を認識できないとき
その場合には “プリクラッシュセーフティ現在使用できません取扱書確認ください” が表示されます。

PCS（プリクラッシュセーフティ）※

※ Toyota Teammate Advanced Drive 装着車は、「Toyota Teammate Advanced Drive 取扱書」を参照してください。

進路上の作動対象（→P.213）を前方センサーで検出し、衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに、警報やブレーキ力制御により運転者の衝突回避操作を補助します。また、衝突の可能性がさらに高まったと判断したときは、自動的にブレーキを作動させることで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与します。

必要に応じて、プリクラッシュセーフティの ON/OFF や、警報タイミングを切りかえることができます。（→P.216）

システムの作動対象

システムは次のものを作動対象として検出しています。（機能によって、作動対象が異なります）

- 車両
- 自転車運転者
- 歩行者

機能一覧

■ 衝突警報

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、“ピピピ・・・”とブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、回避操作をうながします。

A “ブレーキ！”

■ プリクラッシュブレーキアシスト

衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、ブレーキペダルが踏まれる強さに応じてブレーキ力を増強します。

■ プリクラッシュブレーキ

衝突の可能性が高いとシステムが判断したときは、ブレーキが自動でかかり、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の低減に寄与します。

■ 低速時加速抑制

低速走行時にアクセルペダルが強く踏み込まれ、衝突の可能性があるとシステムが判断したとき、FC システム出力を抑制または弱いブレーキをかけることで加速を抑制します。作動時には、ブザー音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに警告灯とメッセージを表示します。

A “アクセルを戻してください”

■ 緊急時操舵支援

衝突する可能性が高く自車線内に回避するための十分なスペースがあるとシステムが判断した場合で、運転者の回避操舵があったとき、操舵支援を行い、車両安定性確保と車線逸脱抑制に寄与します。作動時には、表示灯が緑色に点灯します。

■ 交差点右左折支援

次のような状況において衝突の可能性が高いとシステムが判断したとき、衝突警報およびプリクラッシュブレーキによる支援を行います。
交差点の形状によっては正しく支援できない場合があります。

● 交差点で右折して対向車の進路を横切るとき

● 右左折中に、対向方向からの横断歩行者を検出したとき（自転車運転者は対象ではありません）

警告

■安全にお使いいただくために

● 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

プリクラッシュセーフティを日常のブレーキ操作のかわりには絶対に使用しないでください。本システムはあらゆる状況で衝突を回避または衝突の被害を軽減するものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

警告

●プリクラッシュセーフティは衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき：（→P.219）

・システムが正常に作動しないおそれがあるとき：（→P.221）

●お客様ご自身でプリクラッシュセーフティの作動テストを行わないでください。対象（マネキンや段ボールで作動対象を模したものなど）や状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。

■プリクラッシュブレーキについて

●プリクラッシュブレーキが作動したときは、強いブレーキがかかります。

●プリクラッシュブレーキの作動により車両が停止したときは、約 2 秒後にプリクラッシュブレーキが解除されます。必要に応じて運転者自らブレーキをかけてください。

●プリクラッシュブレーキは運転者の操作状態によっては作動しません。運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを操作したりしていると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキが作動しない場合があります。

●プリクラッシュブレーキ作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを操作したりすると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動が解除されます。

●ブレーキペダルを踏んでいるときは、運転者の回避操作とシステムが判断し、プリクラッシュブレーキの作動開始タイミングが遅れる場合があります。

■低速時加速抑制について

運転者がハンドルを操作していると、回避操作とシステムが判断し、低速時加速抑制が作動しない場合があります。

■緊急時操舵支援について

●緊急時操舵支援は車線逸脱抑制制御が完了したとシステムが判断した段階で作動を解除します。

●緊急時操舵支援は運転者の操作状態によっては作動しない、または作動中に解除される場合があります。

・運転者がアクセルペダルを強く踏んでいたり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいたり、方向指示レバーを操作すると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援が作動しない場合があります。

・緊急時操舵支援作動中に、アクセルペダルを強く踏んだり、ハンドルを大きく操作したり、ブレーキを踏んでいると、場合によっては運転者の回避操作とシステムが判断し、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

・緊急時操舵支援作動中に、ハンドルを保持したりシステムと逆方向にハンドル操作した場合には、緊急時操舵支援の作動が解除されます。

警告

■プリクラッシュセーフティを OFF にするとき

次のときは、システムを OFF にしてください。

システムが正常に作動せず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- けん引されるとき
- けん引するとき
- トラック・船舶・列車などに積載するとき
- 車両をリフトで上げ、FC システムを始動しタイヤを空転させるとき
- 点検でシャシーダイナモやフリーローラーなどを使用するとき
- 事故などにより、フロントバンパーやフロントグリルに強い衝撃が加わったとき
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- メーカー指定サイズ以外のタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーンを装着しているとき
- 応急用タイヤやタイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- 車両に前方センサーをさえぎるような装備品（除雪装置など）を一時的に取り付けているとき

プリクラッシュセーフティの設定変更

■ プリクラッシュセーフティの ON/OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙（→P.480）から、プリクラッシュセーフティの ON（作動）／ OFF（非作動）を変更することができます。

パワースイッチが ON になるとシステムは ON になります。

システムを OFF にすると、PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

A “プリクラッシュセーフティが Off になりました”

■ 衝突警報の作動タイミングを変更する

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙（→P.480）から、衝突警報の作動タイミングを変更することができます。

変更した作動タイミングはパワースイッチを OFF にしても継続しますが、プリ

クラッシュセーフティを OFF から ON の状態にすると「中間」に戻ります。

衝突警報の作動タイミングを変更すると、緊急時操舵支援のタイミングも変更されます。

「遅い」を選択した場合、緊急時操舵支援はほとんどの場合作動しません。

1 早い

2 中間

初期設定

3 遅い

知識

■ **プリクラッシュセーフティ各機能の作動条件**

プリクラッシュセーフティが ON で、前方の作動対象と衝突の可能性が高いとシステムが判断したときに作動します。

ただし、次のときシステムは作動しません。

・ 補機バッテリー端子を脱着したあと、しばらく走行するまでのあいだ

・ シフトポジションが R のとき

・ VSC OFF 表示灯が点灯しているとき（衝突警報のみ作動可能状態になります）

各機能の作動速度、作動解除は次のとおりです。

●衝突警報

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
対向車両	約 10 ～ 180km/h	約 20 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

衝突警報が作動中にハンドルを大きく操作するか、すばやく操作すると、衝突警報が解除される場合があります。

●プリクラッシュブレーキアシスト

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両	約 30 ～ 180km/h	約 30 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 30 ～ 80km/h	約 30 ～ 80km/h

●プリクラッシュブレーキ

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両	約 10 ～ 180km/h	約 10 ～ 180km/h
対向車両	約 10 ～ 180km/h	約 20 ～ 180km/h
自転車運転者・歩行者	約 10 ～ 80km/h	約 10 ～ 80km/h

プリクラッシュブレーキ作動中に次の操作をすると、プリクラッシュブレーキの作動が解除される場合があります。

・ アクセルペダルを強く踏み込む

・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

●低速時加速抑制

方向指示灯が点滅しているときは、低速時加速抑制が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両・自転車運転者・歩行者	約 15km/h 以下	約 15km/h 以下

低速時加速抑制の作動中に次の動作をすると、低速時加速抑制の作動が解除されます。

・ アクセルペダルを離す

・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

●緊急時操舵支援

方向指示灯が点滅しているときは、緊急時操舵支援が作動しません。

作動対象	自車速度	相対速度
先行車両・静止車両・自転車運転者・歩行者	約 40 ～ 80km/h	約 40 ～ 80km/h

緊急時操舵支援作動中に次の操作をすると、緊急時操舵支援の作動が解除される場合があります。

・ アクセルペダルを強く踏み込む

・ ハンドルを大きく操作する、またはすばやく操作する

・ ブレーキペダルを踏む

●交差点右左折支援（衝突警報）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 10 ～ 25km/h	約 30 ～ 55km/h	約 40 ～ 80km/h
歩行者	約 10 ～ 25km/h	―	約 10 ～ 25km/h

●交差点右左折支援（プリクラッシュブレーキ）

方向指示灯が点滅していないときは、対向車に対する交差点右左折支援が作動しません。

作動対象	自車速度	対向車速度	相対速度
対向車両	約 15 ～ 25km/h	約 30 ～ 45km/h	約 45 ～ 70km/h
歩行者	約 10 ～ 25km/h	―	約 10 ～ 25km/h

■**作動対象の検出**

大きさ・輪郭・動きなどから検出します。周囲の明るさや、作動対象の動き・姿勢・角度などによっては、作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。（→P.221）
図は作動対象として検出する対象のイメージです。

■**衝突の可能性が高くなくてもシステムが作動するおそれがあるとき**

●例えば次のような状況では、システムが衝突の可能性が高いと判断し、作動するおそれがあります。

・作動対象などのすぐそばを通過するとき
・車線を変更して作動対象などを追いこすとき
・進路変更時や曲がりくねった道を走行時など、自車前方の隣車線や路側に作動対象が存在するとき

・作動対象などに急接近したとき
・道路脇の作動対象や物体（ガードレール・電柱・木・壁など）などに近付いたとき
・カーブ入り口の道路脇に作動対象や物体などが存在するとき

・自車の前方に作動対象との区別がつきにくい模様・ペイントがあるとき
・自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの

巻き上げがあるとき
・車線変更や右左折している作動対象などを追い抜くとき

・右左折待ちの作動対象などとすれ違うとき

・作動対象などが自車進路内に入る手前で停止したとき
・路面にうねり・凹凸があるときなど、車両姿勢が変化しているとき
・構造物に囲まれた道（トンネルや鉄橋など）を走行するとき
・自車の前方に金属物（マンホール・鉄板など）・段差・突起物があるとき
・道路上方に物体（道路標識や看板など）がある場所を走行するとき

・ETC ゲートや駐車場のゲートなどの開閉バーに接近したとき
・洗車機を使用するとき
・自車に覆い被さるような障害物（生い茂った草・垂れ下がった枝・垂れ幕など）がある場所を走行するとき

・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
・電波の反射が強い物体（大型トラック・ガードレールなど）の横を走行するとき
・テレビ塔・放送局・発電所・レーダー搭載車両など、強い電波やノイズが発生する場所の近くを走行するとき
・周囲にレーダーの電波を反射するものが多いとき（トンネルやトラス橋、砂利道、わだちのある雪道など）
・右折中に、対向車が自車の前方を通過したとき
・右折中に、対向車の手前を通過しようとしたとき
・右折中に、対向車が自車進路に入る手前で停止したとき
・交差点内で右折中、対向車が右折しているとき、または左折しているとき

・対向車の進路に接近するようにハンドルを操作したとき
・右左折中に、横断歩行者が自車進路に入る手前で停止したとき
・右左折中に、横断歩行者が自車の前方を通過したとき
・右左折中に、横断歩行者の手前を通過しようとしたとき

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば次のような状況では、前方センサーが作動対象を検出できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

・自車に向かって作動対象が近付いてくるとき
・自車や作動対象がふらついているとき
・作動対象が急な動きをしたとき（急ハンドル・急加速・急減速など）
・作動対象に急接近したとき
・作動対象が自車の中心軸からずれているとき

・作動対象が壁やフェンス・ガードレール・マンホール・路面の鉄板、他の車両などのそばにいるとき
・上方に構造物がある場所の下に作動対象がいるとき
・作動対象の一部が他のもので隠れているとき（大きな荷物や傘、またはガードレールなど）
・周囲にレーダーの電波を反射するものが多いとき（トンネルやトラス橋、砂利道、わだちのある雪道など）
・他車両に載っているレーダーにより電波の影響を受けているとき
・作動対象が複数重なっているとき
・作動対象が太陽光などの強い光を反射しているとき
・作動対象の色合いが白系統で、極端に明るく見えるとき
・作動対象の色合いや明るさが背景に溶け込んでいるとき
・作動対象が割り込んできたり、飛び出してきたりしたとき
・自車の前方に水・雪・土ぼこりなどの巻き上げがあるとき
・自車の正面方向から強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラにあたっているとき
・横向き、または自車方向を向いている前方車両に近付いたとき
・前方車両がオートバイのとき
・前方車両の全幅が狭いとき（超小型モビリティなど）
・前方車両の後端面積が小さいとき（空荷のトラックなど）
・前方車両の後端が低い位置にあるとき（低床トレーラーなど）

・前方車両の最低地上高が極端に高いとき

・前方車両の荷台から荷物がはみ出しているとき
・前方車両が特殊な形状のとき（トラクター・サイドカーなど）
・子供用自転車、大きい荷物を載せた自転車、2 人以上乗車している自転車、または特殊な形状の自転車（チャイルドシート装着車・タンデム自転車など）
・歩行者・自転車運転者の大きさが約 1m 以下、または約 2m 以上のとき
・歩行者・自転車運転者の全身の輪郭があいまいなとき（レインコート・ロン

グスカートを着用している場合など）
・歩行者・自転車運転者が前かがみになっている、またはしゃがんでいるとき
・歩行者・自転車運転者の移動速度が速いとき
・歩行者がベビーカー・車いす・自転車などを押しているとき
・悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）のとき
・自車の前方に水蒸気や煙などがあるとき
・周囲が薄暗い（朝方・夕方など）、または周囲が暗い（夜間やトンネル内など）など、作動対象が背景に溶け込んでいるとき
・周囲の明るさが急激に変化する場所を走行するとき（トンネルの出入り口など）
・FC システムを始動したあと、走行を開始してしばらくのあいだ
・右左折中および右左折後の数秒間
・カーブ走行中およびカーブを曲がりきってからの数秒間
・自車が横すべりしているとき
・車両姿勢が変化しているとき

・ホイールアライメントがずれているとき
・ワイパーブレードが前方カメラの視界をさえぎっているとき
・過度な高速走行をしているとき
・坂道を走行しているとき
・前方センサーの向きがずれているとき
・右折中に、対向車が自車の走行する車線よりも 2 つ以上離れた車線を走行しているとき
・右折中に、自車の向きが対向車線に対する正対方向から大きく外れているとき

・右左折中に、横断歩行者が自車と同じ方向から直進して近づいてくるとき

●上記に加えて、例えば次のような状況では緊急時操舵支援が作動しないおそれがあります。
・車線を区切る白（黄）線が認識できない（かすれている、分岐・合流している、影が重なっているなど）とき
・車線幅が狭いとき、または広いとき
・工事の補修跡などで、道路面に濃淡の模様があるとき
・対象に近づきすぎたとき
・回避するための十分なスペースがない、または回避先に物があるとき
・対向車がいるとき
・VSC が作動しているとき

●例えば次のような状況では、制動力や旋回力が十分に得られず、システムの性能を発揮できないおそれがあります。
・ブレーキ性能が十分に発揮できない場合（ブレーキ部品が極度に冷えている・過熱している・ぬれているなど）
・車両の整備状態（ブレーキ部品・タイヤの摩耗や空気圧など）が良好でないとき

・砂利道やすべりやすい路面を走行しているとき
・道路面に深いわだちがあるとき
・坂道を走行しているとき
・左右に傾きのある道路を走行しているとき

■VSC を停止したとき

●VSC の作動を停止（→P.322）したときは、プリクラッシュブレーキアシスト・プリクラッシュブレーキの作動も停止します。

●PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “VSC が Off のため プリクラッシュブレーキも停止します ” が表示されます。

LTA（レーントレーシングアシスト）※

※ Toyota Teammate Advanced Drive 装着車は、「Toyota Teammate Advanced Drive 取扱書」を参照してください。

機能概要

白（黄）線が整備された道路を走行中、車線または走路 ※ からの逸脱の可能性を警告するとともに、車線または走路 ※ からの逸脱を避けるためのハンドル操作の一部を支援します。また、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）（→P.235）の作動中は、車線維持に必要なハンドルの操作を支援します。

白（黄）線または走路 ※ を前方カメラで認識します。また、先行車を前方カメラやレーダーで認識します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

警告

■LTA をお使いになる前に

●LTA を過信しないでください。LTA は自動で運転する装置でも前方への注意を軽減する装置でもないため、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。また、長時間の運転などによる疲労時は適切に休憩をとってください。

●適切な運転操作をしなかったり、注意を怠ったりすると、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■LTA を使用してはいけない状況

次の状況では、LTA スイッチでシステムを OFF にしてください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●雨天時や積雪・凍結などで、すべりやすい路面を走行しているとき

●雪道を走行しているとき

●水たまりや雨・雪・霧・砂ぼこりなどで白（黄）線が見えにくいとき

●工事によって規制された車線・仮設の車線を走行しているとき

●工事区間を走行しているとき

●応急用タイヤ・タイヤチェーンなどを装着しているとき

●タイヤの残り溝が十分にないとき、または空気圧が不足しているとき

●車両けん引時

■LTA の故障、または誤作動を防ぐために

●ヘッドランプを改造したり、ランプの表面にステッカーなどを貼ったりしないでください。

●サスペンションなどを改造しないでください。交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●ボンネットやグリルの上には、何も取り付けたり置いたりしないでください。また、グリルガード（ブルバー・カンガルーバーなど）を取り付けたりしないでください。

●フロントウインドウガラスの修理が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、各機能が正しく作動せず車線から逸脱するおそれがあります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、本機能を過信せずにハンドル操作で進路を修正してください。

●先行車追従表示中（→P.228）に、先行車が車線変更したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線変更するおそれがあります）

●先行車追従表示中（→P.228）に、先行車がふらついたとき（先行車の動きに合わせて自車もふらついて走行しレーンをはみ出すおそれがあります）

●先行車追従表示中（→P.228）に、先行車が車線から逸脱したとき（先行車の動きに合わせて自車も車線から逸脱するおそれがあります）

警告

- 先行車追従表示中（→P.228）に、先行車がレーン内を右、または左に片寄って走行したとき（先行車の動きに合わせて自車も片寄って走行しレーンをはみ出すおそれがあります）
- 急カーブを走行しているとき
- 路側物に白（黄）線と見間違えるような構造物や模様があるとき（ガードレール・反射ポールなど）

- 分岐・合流路などを走行するとき

- 道路の修復で、アスファルト修復後や白（黄）線の跡が残っているとき

- 白（黄）線に平行するような影がある、または白（黄）線が影の中にあるとき
- 料金所や検札所の手前や交差点など、白（黄）線がない場所を走行するとき
- 白（黄）線がかすれている、またはキャッツアイ（道路鋲）や置き石などがあるとき
- 白（黄）線が砂ぼこりなどで見えない、または見えにくくなっているとき
- 雨天・雨上がり・水たまりなどぬれた路面を走行しているとき
- 車線が黄色のとき（白線にくらべて認識率が低下することがあります）
- 白（黄）線が縁石等の上に引かれているとき
- コンクリート路のような明るい路面を走行しているとき
- アスファルトと草・土・縁石等の境界が不明瞭または直線的でないとき
- 照り返しなどにより明るくなった路面を走行しているとき
- トンネルの出入口など明るさが急変する場所を走行しているとき
- 対向車のヘッドランプ光・太陽光などが前方カメラに入射しているとき
- 坂道を走行しているとき

警告

- 左右に傾いた道路やうねった道路を走行しているとき
- 舗装されていない道路や荒れた道路を走行しているとき
- 車線の幅が極端に狭いとき、または広いとき
- 重い荷物の積載やタイヤ空気圧の不足などで、車両が著しく傾いているとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなったとき
- 走行中の路面状況（悪路・道路の継ぎ目など）により、車両が上下に大きく揺れているとき
- 夜間やトンネル内などでヘッドランプを点灯していない、またはレンズが汚れて照射が弱いときや、光軸がずれているとき
- 横風を受けているとき
- 周辺車両の走行によって発生する風の影響を受けているとき
- 車線変更をした直後、または交差点を通過した直後
- 構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用したとき
- メーカー指定のサイズ以外のタイヤを装着しているとき
- 冬用タイヤなどを装着しているとき
- 過度な高速走行をしているとき

LTA に含まれる機能

■ 車線逸脱警報機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、マルチインフォメーションディスプレイの表示および、警報ブザーまたはハンドルの振動により注意をうながします。

警報ブザーが鳴ったとき、またはハンドルに振動があったとき、まわりの道路状況を確認の上、ハンドルを慎重に操作して、白（黄）線または走路※内の中央付近にもどってください。

車線逸脱により、となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、方向指示灯の点滅中も車線逸脱警報機能が作動します。

※アスファルトと草・土・縁石等の境界

■ 車線逸脱抑制機能

車両が車線または走路※から逸脱する可能性がある場合に、短時間、小さな操舵力をハンドルに与えて、車線からの逸脱を避けるために必要なハンドル操作の一部を支援します。

車線逸脱により、となりの車線を走行中

の車両と衝突する可能性があるとシステムが判断した場合、方向指示灯の点滅中も車線逸脱抑制機能が作動します。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

■ ふらつき警報機能

車両がふらついて走行しているときに、警報ブザーおよびマルチインフォメーションディスプレイの表示により注意をうながします。

■ 車線維持支援機能

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）と連携し、現在の車線内を走行するために必要なハンドル操作の一部を、システムが支援します。

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していないときは、車線維持支援機能は作動しません。

渋滞のときなど白（黄）線が見えにくい、または見えない場合、先行車の軌跡を利用して先行車に追従する支援を行います。

設定のしかた

■ 車線維持支援機能の ON/OFF を変更するには

LTA スイッチを押す

スイッチを押すごとに、車線維持支援機能の ON/OFF が切りかわります。

現在の設定はマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

▶ 車線維持支援機能 ON

A “LTA　操舵支援　あり　センタートレース　あり ”

▶ 車線維持支援機能 OFF

A “LTA　操舵支援　あり ”

■ LTA を OFF にする

LTA スイッチを長押しする

LTA が OFF されると、LTA 表示灯が消灯します。

ON にするには、再度スイッチを押します。

パワースイッチが ON になるとシステムは ON になります。

ただし、車線維持支援機能は、パワースイッチが OFF になる前の状態が継続します。

マルチインフォメーションディスプレイ表示

A LTA 表示灯

表示灯の点灯状態で、システムの作動状況をお知らせします。

白色に点灯：車線逸脱監視中

緑色に点灯：車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

橙色に点滅：車線逸脱警報中

B ハンドル操舵支援の作動表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

車線逸脱抑制機能、または車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中であることを示しています。

両側点灯：車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中

片側点灯：車線逸脱抑制機能によるハンドル操舵支援が作動中

両側点滅：車線維持支援機能の注意喚起が作動中

C 先行車追従表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

車線維持支援機能によるハンドル操舵支援が作動中（先行車に追従中）であることを示しています。

先行車の動きに合わせて自車も同じ動きをする場合があります。運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、ハンドル操作で進路を修正し、安全運転を心がけてください。

D 車線逸脱警報機能表示

マルチインフォメーションディスプレイを運転支援機能情報に切りかえると表示されます。

▶ 白線表示の内側が白いとき

システムが白（黄）線または走路※を認識していることを示しています。車両が車線から逸脱した場合、逸脱している側の白線表示が橙色で点滅します。

▶ 白線表示の内側が黒いとき

システムが白（黄）線または走路※を認識できていない、またはシステムが一時的に解除されていることを示しています。

※ アスファルトと草・土・縁石等の境界

知識

■各機能の作動条件

●車線逸脱警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・LTA を ON にしているとき
・車速が約 50km/h 以上のとき ※1
・システムが白（黄）線または走路 ※2 を認識しているとき（白［黄］線または走路 ※2 が片側しかないとき、認識している方向のみ作動します）
・車線の幅が約 3m 以上のとき
・方向指示レバーを操作していないとき（方向指示灯方向に車両がいる場合は除く）
・急カーブを走行していないとき
・システムの異常が検知されていないとき（→P.232）

※1 車線維持支援機能が作動中は約 50km/h 以下でも作動します。

※2 アスファルトと草・土・縁石等の境界

●車線逸脱抑制機能

車線逸脱警報機能の作動条件に加えて、次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・一定以上の加減速がないとき
・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
・ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
・TRC または VSC を OFF にしていないとき

●ふらつき警報機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ で“ふらつき検知”を“有”に設定しているとき（→P.480）
・車速が約 50km/h 以上のとき
・車線の幅が約 3m 以上のとき
・システムの異常が検知されていないとき（→P.232）

●車線維持支援機能

次の条件をすべて満たしたとき作動します。

・LTA を ON にしているとき
・マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ で“センタートレース”を“有”に設定しているとき（→P.480）
・システムが白（黄）線を認識しているとき、または先行車の軌跡を認識しているとき（先行車が二輪車の場合を除く）
・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が車間制御モードで作動しているとき
・車線の幅が約 3 ～ 4m のとき
・方向指示レバーを操作していないとき
・急カーブを走行していないとき
・システムの異常が検知されていないとき（→P.232）
・一定以上の加減速がないとき
・車線変更に相当する程度の操舵力でハンドルを操作していないとき
・ABS・VSC・TRC・PCS が作動していないとき
・TRC または VSC を OFF にしていないとき
・手放し運転に対する注意喚起（→P.231）が行われていないとき
・車線中央付近を走行しているとき
・車線逸脱抑制機能が作動していないとき

■機能の一時解除

●作動条件（→P.229）が満たされなくなった場合、一時的に機能が解除されますが、ふたたび作動条件が満たされると、自動的に復帰します。

●車線維持支援機能作動中に、作動条件（→P.229）が満たされなくなった場合、ハンドル振動または“ピピッ”とブザー音で、一時的に機能が解除されたことをお知らせする場合があります。また、カスタマイズ設定で“警報手段”を⟪⟫に設定している場合は、ブザーの代わりにハンドル振動でお知らせします。

■車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能について

●車速や車線の逸脱状況・路面状況などにより、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能の作動を感じなかったり、車線逸脱抑制機能／車線維持支援機能が作動しなかったりすることがあります。

●これらの各機能によるステアリング制御は、運転者のハンドル操作によって修正することができます。

●車線逸脱抑制機能の作動テストを行わ

ないでください。

■車線逸脱警報機能について

●外部の騒音やオーディオの音などにより、警報ブザーが聞きとりにくい場合があります。また、路面状況などにより、ハンドルの振動を感じにくい場合があります。

●走路※がはっきり見えない場合、または直線的でない場合は走路逸脱に対する警報・制御が作動しない場合があります。

●となりの車線を走行中の車両と衝突する可能性を判断できない場合があります。

●車線逸脱警報機能の作動テストを行わないでください。

※アスファルトと草・土・縁石等の境界

■手放し運転に対する注意喚起について

次の状況では、ハンドル保持をうながすメッセージと図で示すシンボルがマルチインフォメーションディスプレイに表示され注意喚起を行います。ハンドルを握ったとシステムが判断すると、注意喚起を停止します。システムを使用する際は注意喚起にかかわらず、常にハンドルをしっかりと握ってください。

●車線維持支援機能作動中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに操作しない状態が続くとブザーが鳴り、注意喚起が行われ、機能が一時的に解除されます。運転者のハンドル操作が小さい状態が続いたときも同様に注意喚起が行われます。

また、“警報手段”を〈〈〈〉〉〉に選択している場合でも、ブザーが鳴ります。

●車線維持支援機能作動中にカーブを曲がりきれず車線から逸脱する可能性があるとシステムが判断したとき

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。また、システムがカーブを走行中と判断した場合は、直線走行時に比べて早いタイミングで注意喚起が行われます。

●車線逸脱抑制機能による車線逸脱を避けるためのハンドル操舵支援中に、手放し運転をしているとシステムが判断したとき

さらに、操作しない状態が続きハンドル操舵支援が行われると、ブザーが鳴り注意喚起が行われます。ハンドル操舵支援の回数が増えるごとに、ブザーの継続時間が長くなります。

また、“警報手段”を〈〈〈〉〉〉に選択している場合でも、ブザーが鳴ります。

■ふらつき警報機能について

システムの作動中に、車両がふらついて走行しているとシステムが判断したとき、ブザーと同時にマルチインフォメーションディスプレイに休憩をうながすメッセージと図で示すシンボルで注意喚起を行います。

車両の状態や路面状況によっては注意喚起が行われない場合があります。

■警告メッセージ

次のメッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、LTA 表示灯が橙色で点灯した場合は、対処方法に従って適切に対処してください。また、その他の警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。

● “LTA 故障 販売店で 点検してください”

システムが正常に作動しなくなっているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

● “LTA 現在利用できません”

前方カメラ以外のセンサーの異常によりシステムが一時停止しています。いったん LTA を OFF にして、しばらくしてから再度、LTA を ON にしてください。

● “LTA 現在の車速では 使用できません”

車速が LTA の作動可能範囲をこえたため、使用できません。車速を落として走行してください。

■カスタマイズ機能

機能の設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.480）

RSA（ロードサインアシスト）※

※ Toyota Teammate Advanced Drive 装着車は、「Toyota Teammate Advanced Drive 取扱書」を参照してください。

機能概要

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）を使って特定の道路標識を認識し、ディスプレイ表示によって道路標識の情報を運転者にお知らせします。

認識した道路標識の制限速度に対し、運転者が制限速度を超過して走行、または禁止行為を行っている等とシステムが判断した場合に、告知表示およびブザー音もしくはハンドルの振動で運転者に告知します。

警告

■RSA をお使いになる前に

RSA は、道路標識の情報を知らせることで運転者を支援しますが、運転者自身の確認や認識を代行するものではありません。安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

マルチインフォメーションディスプレイ表示

前方カメラまたはナビゲーションシステム（情報を取得した場合）によって標識を認識すると、マルチインフォメーションディスプレイに表示します。

● 運転支援機能情報を選択したときは、最大 3 つの標識を表示できます。（→P.100）

● 運転支援機能情報以外を選択したときは、次のいずれかの標識が表示されます。

・最高速度標識

・車両進入禁止標識（告知時のみ）

速度制限標識以外を認識した場合、速度標識の重複表示にてお知らせします。

認識される道路標識の種類

電光標識も含めて、次の種類の道路標識を認識します。

ただし、規定外の標識、新しく導入された標識は認識されない場合があります。

最高速度

車両進入禁止

一時停止

はみ出し通行禁止

終わり ※

※ マルチインフォメーションディスプレイに、表示されません。

告知機能

次の状況では、システムが告知表示で運転者に告知します。

- 自車の車速がマルチインフォメーションディスプレイに表示されている制限速度より、一定の速度を超過すると、最高速度標識の強調やブザーの吹鳴をします。
- システムが進入禁止の標識を認識し、自車が進入禁止区域に進入したと判定したときには、マルチインフォメーションディスプレイに表示される車両進入禁止標識の点滅やブザーの吹鳴をします。
- はみ出し通行禁止標識がマルチインフォメーションディスプレイに表示されているときに、自車の追い越しを検出すると、はみ出し通行禁止標識の点滅やハンドル振動をします。

状況によっては、告知表示が正常に作動しない場合があります。

知識

■設定のしかた

1 メーター操作スイッチの 〈 または 〉 を押して ⚙ を選択する

2 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “RSA” を選択し、**OK** を押す

■RSA 標識表示

次の状況では、最高速度・はみ出し通行禁止・車両進入禁止の標識表示が消えます。

- 一定の距離を走行中、新しい標識が認識されないとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき
- 終わり標識の下に対象標識を認識したとき

次の状況では、一時停止の標識表示が消えます。

- 標識を通過したとシステムが判定したとき
- 右左折等により走行する道路が変わったとシステムが判定したとき

■機能が正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況では、システムが正常に標識を認識できず、正しい標識の表示がされない場合があります。

- 前方カメラやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
- 汚れ・雪・ステッカー等がフロントウインドウの前方カメラの近くにあるとき
- 悪天候時（霧・雪・砂嵐・大雨など）
- 強い光（太陽光や対向車のヘッドランプ光など）が前方カメラに直接あたっているとき
- 標識に汚れ・色あせ・傾きや曲がりがあるとき
- 電光標識のコントラストが低いとき
- 標識の全体または一部が、木・電柱などで隠れているとき
- 前方カメラが標識を認識する時間が短いとき
- 運転の状況（曲がる・車線変更等）が誤って判断されたとき

- 標識が高速道路の分岐した直後、または合流直前の隣の車線にあるとき
- 先行車の後部分にステッカーが貼ってあるとき
- システムが対応している標識と類似した標識が認識されたとき
- 側道の速度標識が前方カメラの認識範囲内に入ったとき
- ロータリー（環状交差路）を走行しているとき
- 重い荷物を積むなど車両が傾いているとき
- 十分な光がなかったり、明るさが急激に変化したりしたとき
- トラックなどの車両を対象にした標識を認識したとき
- ナビゲーションシステムの地図情報が古いとき
- ナビゲーションシステムを利用できないとき
- マルチインフォメーションディスプレイとナビゲーションシステムに表示される最高速度標識が異なる場合があります。

■速度制限標識表示

マルチインフォメーションディスプレイに最高速度標識が表示されているときに、パワースイッチを OFF にすると、次にパワースイッチを ON にしたときには再度同じ標識が表示されます。

■マルチインフォメーションディスプレイに “RSA 故障 販売店で点検してください” が表示されたとき

システムに異常があるおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

一部の機能は、設定を変更することができます。（カスタマイズ一覧：→P.480）

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）※

※ Toyota Teammate Advanced Drive 装着車は、「Toyota Teammate Advanced Drive 取扱書」を参照してください。

機能概要

アクセルペダルを踏まなくても、車間制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行い、自動的に加速・減速・停止をします。定速制御モードでは、一定の車速で走行できます。

通信利用型レーダークルーズコントロールは ITS Connect を装備している車両のみ使用できます。

高速道路や自動車専用道路で使用してください。

- 車間制御モード（→P.238）
- 定速制御モード（→P.242）
- 通信利用型レーダークルーズコントロール（ITS Connect 装着車）（→P.242）

システムの構成部品

■ メーター表示

A マルチインフォメーションディスプレイ

B 設定速度

C 表示灯

■ 操作スイッチ

A 車間距離切りかえスイッチ

B “+RES” スイッチ

C クルーズコントロールメインスイッチ

D キャンセルスイッチ

E “-SET” スイッチ

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は運転者の操作の一部を支援し、操作負担を軽減するためのシステムで、支援の範囲には限りがあります。
次の項目をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

・センサーが正しく検知しないおそれのある先行車：→P.245

・車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況：→P.246

●設定速度は、制限速度・交通の流れ・路面環境・天候などを考慮して適切に設定してください。設定速度の確認は、運転者が行う必要があります。

●システムが正常に機能していても、運転者が認識している先行車の状況とシステムが検知している状況が異なる場合があります。従って注意義務・危険性の判断・安全の確保は運転者が行う必要があります。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使わないときはクルーズコントロールメインスイッチでシステムを OFF にしてください。

警告

■システムの支援内容に関する注意点

システムの支援には限界があるため、次の点に注意してください。システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●運転者が見る過程での支援内容

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離を検知するのみであり、わき見やぼんやり運転を許容するシステムでも、視界不良を補助するシステムでもありません。
運転者自らが周囲の状況に注意を払う必要があります。

●運転者が判断する過程での支援内容

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、自車と設定された先行車との車間距離が適正かどうかを判断しており、それ以外の判断はしません。このため、危険性があるかどうかなど運転者は自ら安全の判断をする必要があります。

●運転者が操作する過程での支援内容

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）は、先行車への追突を防止する機能はありません。このため、危険性があれば運転者自らが安全を確保する必要があります。

■レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用してはいけない状況

次の状況では、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を使用しないでください。適切な制御が行われず、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●歩行者や自転車等が混在している道

●交通量の多い道

●急カーブのある道

●曲がりくねった道

●雨天時や、凍結路・積雪路などのすべりやすい路面

●急な下り坂や急で勾配の変化が激しい坂

急な下り坂では車速が設定速度以上になることがあります。

●高速道路や自動車専用道路の出入り口

●センサーが正しく検知できないような悪天候時（霧・雪・砂嵐・激しい雨など）

●レーダー前面または、前方カメラ前面に雨滴や雪などが付着しているとき

●ひんぱんに加速・減速をくり返すような交通状況のとき

●車両けん引時

●接近警報がひんぱんに鳴るとき

車間制御モードでの走行

車間制御モードでは、レーダーにより車両前方約 100m 以内の先行車の有無・先行車との車間距離を判定して、先行車との適切な車間距離を確保する制御をします。また、車間距離切りかえスイッチを操作して、希望の車間距離に設定することもできます。

下り坂を走行しているときは、車間距離が短くなることがあります。

A 定速走行：

先行車がいないとき

運転者が設定した速度で定速走行します。

B 減速走行一追従走行：

設定した速度より、遅い先行車が現れたとき

先行車を検知すると自動で減速し、より大きな減速が必要な場合はブレーキがかかります（このとき制動灯が点灯します）。先行車の車速変化に合わせて、運転者の設定した車間距離になるように追従走行します。十分に減速できない状態で先行車に接近した場合は、接近警報を鳴らします。

先行車が停止したときは、続いて停止します（制御停車）。先行車の発進後、“+RES” スイッチを押すか、アクセルペダルを踏むと追従走行にもどります（発進操作）。自車が発進操作を行わなかった場合は、制御停車を続けます。

約 80km/h 以上で走行中に追い越し車線側へ車線変更する場合、方向指示レバーの操作と連動して設定速度まで加速することで、追い越しを支援します。

C 加速走行：

設定した速度より、遅い先行車がいなくなったとき

設定速度まで加速し、定速走行にもどります。

速度を設定する（車間制御モード）

1 クルーズコントロールメインスイッチを押して、システムをONにする

レーダークルーズコントロール表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。OFFにするには再度スイッチを押します。

クルーズコントロールメインスイッチを1.5秒以上押し続けると定速制御モードでシステムがONします。（→P.242）

A “Radar Ready”

2 希望の車速（約30km/h以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、“-SET”スイッチを押して速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

スイッチを離したときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる

■ スイッチで設定速度をかえる

設定速度をかえるには、希望の速度が表示されるまで“+RES”スイッチまたは“-SET”スイッチを押します。

1 速度を上げる（車間制御モードの制御停車中は除く）

2 速度を下げる

微調整：スイッチを押す

大幅調整：スイッチを押し続けて速度をかえ、希望の速度で手を離す

車間制御モードでは、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ、5km/hずつ

定速制御モード（→P.242）で

は、設定速度は、次のとおりに増減されます：

微調整：スイッチを押すごとに 1km/h

大幅調整：スイッチを押し続けているあいだ連続して変化

■ **アクセルペダルで設定速度を上げる**

1 設定したい車速になるまで、アクセルペダルを踏んで加速する

2 “-SET” スイッチを押す

車間距離を変更する（車間制御モード）

スイッチを押すごとに次のように車間距離を切りかえます。

1 長い

2 中間

3 短い

先行車がいる場合、先行車マーク A も表示されます。

車間距離選択の目安（車間制御モード）

次の目安を参考に車間距離を選択してください。

（車速 80km/h で走行している場合）

なお、車速に応じて車間距離は増減します。また、制御停車時は設定にかかわらず状況に応じた車間距離で停車します。

車間距離選択	車間距離
長い	約 50m
中間	約 40m
短い	約 30m

制御停車から追従走行に復帰させる（車間制御モード）

先行車の発進後、“+RES” スイッチを押す

先行車の発進後にアクセルペダルを踏んでも追従走行に復帰します。

A “クルーズスイッチまたはアクセルで追従できます”

制御を解除する・復帰させる

1 制御を解除するには、キャンセルスイッチを押す

ブレーキペダルを踏んだときも解除されます。（車間制御モードの制御停車中は、ブレーキペダルを踏んでも解除されません）

2 制御を復帰させるには、“+RES” スイッチを押す

接近警報（車間制御モード）

追従走行中の他車の割り込みなど、十分な減速ができない状態で先行車に接近したときは、表示の点滅とブザーで運転者に注意をうながします。その場合は、ブレーキペダルを踏むなど適切な車間距離を確保してください。

■ 警報されないとき

車間距離が短くても、次のような場合は警報されないことがあります。

- 先行車と自車の車速が同じか先行車の方が速いとき
- 先行車が極端な低速走行をしているとき
- 速度を設定した直後
- アクセルペダルを踏んだとき

カーブ速度抑制機能

車間制御モードでの走行中、システムが必要と判断したときに車速を抑制します。

■ システム作動について

ハンドルをまわし始めると、車速の抑制を開始します。その後、ハンドルを戻すと車速の抑制が終了します。

状況に応じて車間制御モードの設定速度まで復帰します。

先行車に割り込まれる等で、追従走行が優先された場合も車速抑制は終了します。

■ システム作動時の表示

車速抑制中であることを示しています。

車速の抑制が終了すると、表示が消灯します。

■ カーブ速度抑制機能の設定を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙（→P.100）から、カーブ速度抑制機能の速度抑制の強弱や、ON ／ OFF を切りかえることができます。

OKを押すごとに設定が切りかわります。

定速制御モードでの走行

定速制御モードでは、先行車の車速変化に合わせた追従走行を行わず、一定の車速で走行します。
レーダーの汚れなどにより、車間制御モードで走行できない場合のみご使用ください。

1 クルーズコントロールが OFF の状態で、クルーズコントロールメインスイッチを 1.5 秒以上押し続ける

クルーズコントロールメインスイッチを押した直後は、レーダークルーズコントロール表示灯が点灯します。その後、クルーズコントロール表示灯に切りかわります。

システムが OFF の状態から操作したときのみ、定速制御モードへの切りかえが可能です。

2 希望の車速（約 30km/h 以上）までアクセルペダル操作で加速／減速し、“-SET” スイッチを押して速度を設定する

クルーズコントロールセット表示灯が点灯します。

スイッチを離したときの車速で定速走行できます。

設定速度をかえる（→P.239）

制御を解除する・復帰させる（→P.240）

通信利用型レーダークルーズコントロール（ITS Connect 装着車）

通信利用型レーダークルーズコントロールは、ITS Connect が装着されている車両のみ利用できます。

ITS Connect については P.255 を参照してください。

このシステムは車間制御モードでの追従走行中、先行車も通信利用型レーダークルーズコントロールに対応している場合に自動的に作動します。

■ 情報取得

A 先行車との通信

加減速情報などを取得します。

B レーダー

車間距離情報などを取得します。

■ システム作動について

先行車の加減速の情報を通信で取得することにより、先行車の加減速に素早く追従して車間距離や速度の変動を抑制し、スムーズな追従走行に寄与します。また、先行車が認識できなくなった場合は自動的に車間制御モードに切りかわります。

車間制御モードに比べて、次のような作動になります。

● 車間制御モード

1 先行車の発進に遅れて気づく

● 通信利用型レーダークルーズコントロール

1 先行車の発進に素早く気づく

2 スムーズな加速で追従

3 短時間で渋滞解消

■ 通信利用型レーダークルーズコントロールの ON/OFF を変更する

マルチインフォメーションディスプレイの ⚙（→P.480）から、通信利用型レーダークルーズコントロールの ON（作動）／ OFF（非作動）を変更することができます。

■ システム作動時の表示

A 先行車通信マーク

B 車間距離表示

■ 通信利用型レーダークルーズコントロールの作動目安

レーダークルーズコントロールの車間距離設定に応じて、本機能の作動レベルがかわります。
（→P.240）

車間距離設定	作動目安
長い	ゆったりとした加減速による追従走行
中間	中間の追従走行
短い	きびきびとした加減速による追従走行

知識

■設定条件について

- シフトポジションがDのとき設定できます。
- 車速が約 30km/h 以上のとき、希望の設定速度に設定できます。
（ただし車速が約 30km/h 未満で設定したときは、設定速度が約 30km/h に設定されます）

■車速設定後の加速について

通常走行と同様にアクセルペダル操作で加速できます。加速後、車速が設定速度にもどります。ただし、車間制御モード時は先行車との距離を保持するため車速が設定速度以下になることもあります。

■追従走行中の停車制御について

- 制御停車中に “+RES” スイッチを押した場合、約 3 秒以内に先行車が発進すれば追従走行にもどります。
- 先行車に続いて停車したあと約3秒以内に先行車が発進した場合、追従走行にもどります。

■車間制御モードの自動解除

次のとき、自動的に車間制御モードが解除されます。

- VSC が作動したとき
- TRC が一定時間作動したとき
- TRC または VSC を OFF にしたとき
- センサーが何かでふさがれて正しく検知できないとき
- 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）
- パーキングブレーキが作動したとき
- 急坂路で制御停車したとき
- 制御停車中に次を検出したとき
・運転席シートベルトを着用していない
・運転席ドアが開いた
・車両が停止したあと約 3 分経過した
- Br モードにしたとき
- プラスサポートの急アクセル時加速抑制（→P.327）が作動したとき

上記以外の理由で車間制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■定速制御モードの自動解除

次のとき、自動的に定速制御モードが解除されます。

- 設定速度より車速が約 16km/h 以上低下したとき
- 車速が約 30km/h 未満になったとき
- VSC が作動したとき
- TRC が一定時間作動したとき
- TRC または VSC を OFF にしたとき
- 運転支援装置によるブレーキ制御、出力抑制が作動したとき
（例：プリクラッシュセーフティ、ドライブスタートコントロール）
- Br モードにしたとき

●プラスサポートの急アクセル時加速抑制（→P.327）が作動したとき

上記以外の理由で定速制御モードが自動解除されるときは、システムが故障している可能性があります。トヨタ販売店にご相談ください。

■カーブ速度抑制機能が作動しないおそれがある状況

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が作動しない場合があります。

●緩やかなカーブを走行しているとき

●アクセルペダルを操作しているとき

●極端に短いカーブを走行しているとき

■通信利用型レーダークルーズコントロールについて

●本機能によって、車間制御モードの速度や車間距離設定が変更されることはありません。

●先行車が通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していないときは、本機能は作動しません。

●先行車や周囲の車両の走行状態によっては、スムーズな追従走行が行われない場合や、自車の速度や先行車との車間距離に影響がおよぶ場合があります。必要に応じてブレーキ・アクセルを操作してください。

■通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しないおそれがある状況

次のような状況では、通信利用型レーダークルーズコントロールが作動しない、または通信利用型レーダークルーズコントロールから車間制御モードに切りかわる場合があります。

●先行車との通信が途絶したとき

●センサーが先行車を誤って検知したとき

●トンネルやビル街などで、自車または先行車の GPS 受信状態や通信状態が悪化しているとき

●雪道などスリップしやすい路面を走行しているとき

●急な坂道を走行しているとき

●追従していた先行車が車線変更などで離脱したとき

●通信していた先行車とのあいだに、通信利用型レーダークルーズコントロールに対応していない車両が割りこんできたとき

■ブレーキが作動したとき

ブレーキの作動音が聞こえたり、ブレーキペダルの踏み応えがかわったりすることがありますが異常ではありません。

■レーダークルーズコントロールの警告メッセージ・警告ブザー

走行操作に関して注意が必要な場合や、システムに異常が発生したときには、警告メッセージ・警告ブザーで注意をうながします。マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたときは、表示された画面の指示に従ってください。（→P.211, 445）

■センサーが正しく検知しないおそれのある先行車

次のような場合にシステムによる減速が不十分な場合はブレーキペダルを、加速が必要な場合はアクセルペダルを、状況に応じて操作してください。

センサーが正しく車両を検知できず、接近警報（→P.241）も作動しないおそれがあります。

●先行車が急に割り込んできたとき

●先行車が低速で走行中のとき

●同じ車線に停車中の車がいるとき

●先行車の後部分が小さすぎるとき（荷物を積んでいないトレーラーなど）

●同じ車線を二輪車が走行中のとき

●周囲の車より水や雪がまき散らされ、レーダーの検知のさまたげになる場合

●自車の車両姿勢が上向きになる場合（重い荷物を積んだときなど）

●先行車の車高が極端に高いとき

■車間制御モードが正しく作動しないおそれのある状況

次の状況では、必要に応じてブレーキペダルで減速（場合によってアクセルペダルを操作）してください。

センサーが正常に車両を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

●カーブや車線幅が狭い道路などを走行する場合

●ハンドル操作が不安定な場合や、車線内の自車の位置が一定でない場合

●先行車が急ブレーキをかけた場合

●道路脇に構造物がある道（トンネル・橋など）を走行する場合

●アクセルペダルを踏んで加速したあと、車速が設定速度にもどるとき

■カーブ速度抑制機能が正しく作動しないおそれのある状況

次のような状況では、カーブ速度抑制機能が正しく作動しない場合があります。

●上り坂、または下り坂のカーブを走行しているとき

●カーブの形状とは異なる経路で走行しているとき

●カーブへの進入速度が過度に高いとき

●急なハンドル操作を行ったとき

先行車発進告知機能

先行車の発進後、自車が停止し続けた場合、警告ブザーとマルチインフォメーションディスプレイの表示でお知らせする機能です。

先行車発進告知機能

前の車に続いて停止しているときに先行車を認識し続け、先行車が発進してしばらく進んでも自車が停止し続けた場合にお知らせします。

知識

■作動条件

次のいずれかの条件を満たしたときに作動します。

- シフトポジションがP・R以外でブレーキペダルを踏んで、停止している、またはシフトポジションがNで停止しているとき
- ブレーキホールドが作動中のとき
- レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）が作動していて、制御停車中のとき

■先行車が発進していても告知しない場合があるとき

例えば次のような状況では、前方カメラとレーダーが対象を検出できず、システムが正常に作動しない場合があります。

- 自車と先行車の停止位置がずれており、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車との車間距離が極端に短くなり、先行車を正しく認識できないとき
- 坂道やカーブなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車の背面形状（けん引をしている車両や荷物を積んでいないトレーラー、雪や泥などが大量に付着している車両など）やボデーカラーなどにより、先行車を正しく認識できないとき
- 先行車がオートバイ・自転車などのとき
- 先行車の右左折や車線変更などにより、先行車を認識できなくなったとき
- 悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）・煙・水蒸気などにより、先行車を認識できないとき
- 前方カメラとレーダー前面に雨滴、雪などが付着し、先行車を正しく認識できないとき
- 前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車を正しく認識できないとき
- プリクラッシュセーフティが一時的に使用できないときや、故障などによりPCS警告灯が点滅または点灯しているとき
- 右左折や車線変更などのために、ハンドルを大きくまわしたとき

■先行車が発進していなくても告知する場合があるとき

例えば次のような状況では、先行車が発

進したと判断し、システムが作動する場合があります。

●悪天候（雨・霧・雪・砂嵐など）により、先行車の発進を誤認識したとき

●坂道やカーブなどにより、先行車ではないものを先行車と認識しているとき

●前方カメラとレーダー周辺への強い衝撃などにより、前方カメラとレーダーの向きがずれ、先行車ではないものを先行車と認識しているとき

●先行車がいない状態での停止時に、交差点の先にいる車両や自車の正面を横切る車両などを先行車として認識したとき

●自車と先行車とのあいだに、ほかの車両が割り込んだり通過したりしたとき

■先行車発進告知機能の設定を変更するには

●先行車発進告知機能の ON/OFF

システムの ON/OFF を切りかえることができます。

1 メーター操作スイッチの ＜ または ＞ を押して ⚙ を選択する

2 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “ 車両設定 ” を選択し、**OK**を押す

3 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “ 先行車発進告知 ” を選択し、**OK**を押す

4 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “ 先行車発進告知 ” を選択し、**OK**を押す

●先行車発進告知機能の告知距離

告知する距離を切りかえることができます。

1 メーター操作スイッチの ＜ または ＞ を押して ⚙ を選択する

2 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “ 車両設定 ” を選択し、**OK**を押す

3 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “ 先行車発進告知 ” を選択し、**OK**を押す

4 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “ 告知距離 ” を選択し、**OK**を押す

ドライバー異常時対応システム ※

※ Toyota Teammate Advanced Drive 装着車は、「Toyota Teammate Advanced Drive 取扱書」を参照してください。

ドライバー異常時対応システムは、自動車専用道路（一部除く）を走行中の運転者が、急病などにより運転の継続が困難になった場合に、自動的に自車線内で自車を減速、停車させるシステムです。
LTA（レーントレーシングアシスト）制御中に、手放しなどの無操作運転状態からシステムが運転者が異常状態であると判断すると、周囲に警告を行いながら自車線内で減速、停車し、衝突事故の回避・衝突被害の低減に寄与します。

ドア解錠やヘルプネット ※ 自動接続による運転者の救命要請も行います。

※ 別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

システム概要

本システムは 4 つの状態に分けられます。B「警告 1 状態」、C「警告 2 状態」で運転者への注意喚起や速度抑制を実施しながら、運転者の正常／異常判定を行います。システムが、運転者が異常状態であると判断した場合には D「減速停止制御」、E「停止保持」で自車を減速、停車させ、E「停止保持」を継続します。

A 手放し運転警告 （→P.231）

B「警告 1 状態」

C「警告 2 状態」

D「減速停止制御」

E「停止保持」

F 制御解除

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。ドライバー異常時対応システムは、運転者が急病などにより運転の継続が困難になった場合を対象とするシステムであり、居眠り運転や注意散漫な運転、体調が悪い場合の運転を対象とするものではありません。

●ドライバー異常時対応システムは、システムが運転者による運転の継続が困難と判断した場合に、自車線内で減速、停車を行うことで、衝突回避を支援、あるいは衝突被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。そのため、常に同じ性能を発揮できるものではありません。また、作動には条件があり、作動条件を満たさない場合は作動しません。

警告

- お客様自身でドライバー異常時対応システムの作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあります。
- ヘルプネット自動接続は、T-Connect 通信エリア内、かつ T-Connect 契約がされている場合にのみ行われます。
  T-Connect 通信エリア外や T-Connect 未契約、T-Connect 契約が未更新の場合は接続が行われず、警察・救急への通報が行われません。あらかじめ通信エリアとご自身の T-Connect 契約をご確認の上、システムをご利用ください。
- システム作動後、異常から復帰できた場合には、速やかに運転を再開するか、路肩へ避難し、停止表示板・停止表示灯および発煙筒を設置して後続車両に停車していることをお知らせください。(→P.426)
- システム作動後、同乗者は運転者への救護措置をはじめとした必要な危険防止措置をとり、路側帯やガードレールの外側などの安全な場所にすみやかに退避してください。
- 本システムは運転者の異常をハンドルの操作状態などで判断しています。正常な運転者が意図的に無操作を続けた場合には、システムが作動することがあります。また、運転者が異常状態であっても、ハンドルにもたれかかるなどシステムが手放し運転と判断できない場合は、システムが作動しないことがあります。

知識

■システムの作動条件

次の条件をすべて満たすと作動します。

- 車速と前方カメラによって自動車専用道路と認識しているとき
  システムが誤って一般道を自動車専用道路と認識する場合があります。
- LTA スイッチを ON し、LTA 制御中
- レーダークルーズコントロールメインスイッチを ON し、レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）制御中
- 自車速が約 50km/h 以上

■システムの作動解除条件

- B「警告 1 状態」、C「警告 2 状態」、D「減速停止制御」作動時、次のいずれかの条件を満たすとシステムの作動が解除されます。
  - ・LTA 制御がキャンセルされたとき（LTA スイッチを押した場合など）
  - ・レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）制御がキャンセルされたとき（レーダークルーズコントロールメインスイッチを押した場合など）
  - ・手放し運転を終了したとき（ハンドルを握る、ハンドルに手や体が触れるなど）
  - ・自車が一般道を走行しているとシステムが判断したとき
  - ・運転者がブレーキ操作をしたとき
  - ・運転者がアクセル操作をしたとき
  - ・ブレーキ異常検出時
  - ・方向指示レバーを操作したとき
- E「停止保持」中、次のいずれかの条件を満たすとシステムの作動が解除されます。

・シフトポジションを P にした状態で LTA スイッチを押したとき
・パワースイッチを ON から OFF にしたとき
・ブレーキ異常検出時

■システム作動解除時の LTA 制御

下記の条件でシステム作動が解除された場合、LTA 制御がキャンセルされます。LTA を再度使用する場合は、LTA スイッチを押し LTA 制御を ON にしてください。

●B「警告 1 状態」において、LTA スイッチを押しシステム作動を解除したとき
●C「警告 2 状態」、D「減速停止制御」において、システム作動を解除したとき
●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）制御がキャンセルされたとき（レーダークルーズコントロールメインスイッチを押した場合など）
●手放し運転を終了したとき（ハンドルを握る、ハンドルに手や体が触れるなど）（C「警告 2 状態」および D「減速停止制御」のみ）
●運転者がブレーキ操作をしたとき
●運転者がアクセル操作をしたとき
●方向指示レバーを操作したとき

■警告メッセージ

LTA システムに異常が発生した場合や、一時使用不可となった場合、警告メッセージがマルチインフォメーションディスプレイに表示され、ドライバー異常時対応システムが使用できなくなります。（→P.232）

■ドライバー異常時対応システムの留意事項

●ヘルプネット通話中は、音声が聞き取りやすいようブザー吹鳴を中止します。
●LTA 制御が継続できない場合は、システムがキャンセルされます。

B「警告 1 状態」

手放し運転警告がされてからも運転操作がない場合、ブザー吹鳴（「ピッ、ピッ、・・・」）とマルチインフォメーションディスプレイ表示により注意喚起を行い、運転者の正常／異常判定を行います。レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）および LTA による制御が継続され、警告を継続してもハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合、C「警告 2 状態」に移行します。

C「警告 2 状態」

ブザー吹鳴（「ピッピッピッピッ・・・」）とマルチインフォメーションディスプレイ表示により注意喚起を行い、引き続き運転者の正常／異常判定を行います。このとき、ブザーを聞き取りやすくするために、オーディオがミュート（消音）※ されます。LTA 制御は継続され、緩やかな減速度で車速を一定速度内（約 40km/h ～ 50km/h の間）まで減速させます。この状態で、約 30 秒以上警告を継続してもハンドル保持などの運転者による操作がされなかった場合には、システムが運転者が異常状態であると判断し、D「減速停止制御」に移行します。

※ 異常状態から復帰するまで継続します。

知識

■非常点滅灯（ハザードランプ）について

C「警告 2 状態」移行後に、約 10km/h 程度減速した場合、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。すでに運転者がハザードスイッチを操作していた場合は、システムによる非常点滅灯の点滅は行われません。また、ハザードスイッチを 2 回押すと、非常点滅灯が消灯されます。

D「減速停止制御」

本制御では運転者が異常状態にあると判断し、緩やかな減速度で車両を停車させます。車内ではブザー吹鳴（「ピーーー」）とマルチインフォメーションディスプレイ表示で運転者に状況を知らせ、車外ではストップランプ、非常点滅灯（ハザードランプ）とホーン吹鳴によって周囲に緊急事態を知らせます。車両が停車すると E「停止保持」に移行します。

知識

■非常点滅灯（ハザードランプ）について

D「減速停止制御」においては、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。すでに運転者がハザードスイッチを操作していた場合は、システムによる非常点滅灯の点滅は行われません。また、ハザードスイッチを２回押すと、非常点滅灯が消灯されます。

E「停止保持」

車両停車後、停止保持制御により車両停車状態を保持します。ストップランプは消灯しますが、引き続き、非常点滅灯（ハザードランプ）とホーン吹鳴によって周囲に緊急事態を知らせ、ドア解錠やヘルプネット自動接続による運転者の救命・救護要請を行います。

知識

■非常点滅灯（ハザードランプ）について

E「停止保持」においては、非常点滅灯（ハザードランプ）が点滅します。すでに運転者がハザードスイッチを操作していた場合は、システムによる非常点滅灯の点滅は行われません。

■ヘルプネット自動接続について

ヘルプネット自動接続後、ヘルプネットのオペレーターからの声掛けに対して車内からの応答がない場合、救命・救護のために救急や警察へ通報を行います。
ヘルプネット通話中は音声が聞き取りやすいよう、ブザー吹鳴を停止します。

■非常点滅灯（ハザードランプ）について（制御解除後）

システムの作動が終了しても、非常点滅灯（ハザードランプ）の点滅は継続します。ハザードスイッチを２回押すと、非常点滅灯が消灯します。

ITS Connect ★※

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ Toyota Teammate Advanced Drive 装着車は、「Toyota Teammate Advanced Drive 取扱書」を参照してください。

ITS Connect は、交通情報や周辺車両の情報を受信することにより、安全運転や快適な運転を支援するシステムです。

ITS Connect の概要

■ 安全運転を支援する通知・案内・注意喚起

ITS Connect は、道路に設置された DSSS※ 用路側装置や通信機を搭載した車両と無線通信することで、見通しが悪い交差点の交通状況などの情報を受信します。

A 路側装置

受信した情報は、状況に応じて通知・案内や注意喚起としてマルチインフォメーションディスプレイなどに表示され、運転者に注意を促すことにより安全運転を支援します。

※ DSSS（Driving Safety Support Systems）とは、運転者の認知・判断の遅れや誤りによる交通事故を未然に防止することを目的とするシステムで、警察庁が推進しているプロジェクトです。

■ 通信利用型レーダークルーズコントロール

先行車との通信により受信した加速／減速情報をレーダークルーズコントロールの制御に利用し、よりスムーズな追従走行に寄与することで快適な運転を支援します。詳細は P.242 を参照してください。

知識

■ITS Connect 機器に関する情報

- 本製品は、トロンフォーラム（www.tron.org）の T-License2.0 に基づき T-Kernel ソースコードを利用しています。
- 本機は、ITS Connect 推進協議会が規定する相互接続性確認試験に適合しています。
  機種名：DTU-1010
  型式認定番号：10005
- 本システムは、周波数 760MHz の電波を発信するため、お車を海外へ持ち込んだ場合はその国の関連法規に違反する場合があります。

■ITS Connect に関するお問い合わせについて

ITS Connect に関するお問い合わせ（機器の調子・機能・使用方法や路側装置の整備計画など）はトヨタ販売店にお問い合わせください。

警告

■安全にお使いいただくために

●安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。
ITS Connect はあらゆる状況で安全運転の支援をするものではありません。システムに頼ったり、安全を委ねる運転をしたりすると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ITS Connect は安全運転の支援を目的として設計していますが、その効果はさまざまな条件によりかわり、常に同じ性能を発揮できるものではありません。
「システムが正常に作動しないおそれがあるとき」（→P.259）をお読みいただき、システムを過信せず安全運転に努めてください。

■ITS Connect について

●次のような状況では、ITS Connect は作動しません。

・交差点に DSSS 用路側装置が設置されていないとき

・先行車や接近してくる車両に通信機が搭載されていないとき

●交差点に進入する方向によっては、作動する通知・案内・注意喚起が異なる場合があります。

■右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）について

DSSS 用路側装置が設置された交差点であっても、DSSS 用路側装置の種類や交差点に進入する方向によっては、対向車のみを検知し、歩行者に対する注意喚起をしない場合があります。
そのため、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。
「割り込み表示による通知・案内・注意喚起」（→P.257）をお読みいただき、必ず自らの目視による安全確認を行ってください。

■右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）・出会い頭注意喚起について

通信機を搭載した車両が接近してきても、地図データと実際の道路状況が異なるときは、交差点付近であることが判断できず、注意喚起をしなかったり、注意喚起の表示内容が実際の交通状況と異なる場合があります。

注意

■ITS Connect 機器取り扱いの注意

・ITS Connect 機器は電波法の基準に適合しています。
ITS Connect 機器に貼り付けられているラベルはその証明ですのではがさないでください。

・ITS Connect 機器を分解・改造すると、法律により罰せられることがあります。

ITS Connect アイコンの見方

ITS Connect の機能が利用可能なとき、マルチインフォメーションディスプレイに次のアイコンを表示して通信の接続状態をお知らせします。

アイコン	接続状態
	道路に設置された DSSS 用路側装置から必要な情報を取得できている
	通信機を搭載した車両から必要な情報を取得できている
	道路に設置された DSSS 用路側装置、および通信機を搭載した車両、両方から必要な情報を取得できている

割り込み表示による通知・案内・注意喚起

状況に応じて、次の通知・案内・注意喚起をマルチインフォメーションディスプレイに割り込み表示します。

ヘッドアップディスプレイ装着車：右折時注意喚起、赤信号注意喚起、出会い頭注意喚起はヘッドアップディスプレイにも割り込み表示します。

■ 右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）

交差点で右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、対向車や歩行者がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車や右折先の歩行者を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

交差点に設置されている DSSS 用路側装置（感知器）の種類によって、注意喚起の表示は次のように異なります。

▶ 対向車および歩行者を感知する交差点

▶ 対向車のみを感知する交差点

・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ 右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）

DSSS 用路側装置が設置されていない交差点で、地図データを用いることにより、右側方向指示灯を点滅させて右折待ちをしているときに、通信機を搭載した対向車がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、対向車を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ 出会い頭注意喚起

地図データを用いることにより、交差点で停車しているときに、右または左方向から交差点に進入してくる車両がいるにもかかわらず発進しようとしているなど、接近する右または左方向の車両を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

・ 注意喚起の表示内容は、実際の交通状況と異なる場合があります。
・ 一定時間経過後に注意喚起が消えますが、周囲に車や人がいないことを示すものではありません。

■ 赤信号注意喚起

赤信号の交差点手前にさしかかってもアクセルペダルを踏み続けているなど、赤信号を見落している可能性があるとシステムが判断したときに、ブザーと表示で注意喚起を行います。

■ 信号待ち発進準備案内

赤信号で停車したとき、青信号にかわるまでの待ち時間の目安をバー表示で表します。

待ち時間が残り少なくなるとバー表示が消え、まもなく信号がかわることを表します。

■ 緊急車両存在通知

緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているときに、ブザーが鳴り、自車に対する緊急車両のおおよその方向・距離・進行方向を表示します。

緊急車両の距離と進行方向が表示されていないときは、自車のすぐ近くに緊急車両がいることを表します。

通信車両接近通知

交差点などで停車しているときに、通信機を搭載した車両が接近してくると、通信車両のおおよその方向を表示します。

接近してくる方向が正面の場合は、右側方向指示灯を点滅させているときのみ表示します。

■ 通信車両接近通知の使い方

● 割込表示の通信車両接近通知をONにしているときに、マルチインフォメーションディスプレイに割り込み表示でお知らせします。

● 通信車両接近通知の表示設定方法については、マルチインフォメーションディスプレイの ⚙（→P.480）をご覧ください。

知識

■交差点ごとの作動する通知・案内・注意喚起について

道路に設置されているDSSS用路側装置の種類により発信している情報が異なるため、交差点によって作動する通知・案内・注意喚起は異なります。

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば次のような状況などでは、車両の位置や向きを正しく特定できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

・高いビルや高い街路樹に囲まれているとき
・トンネルや高架下を通過しているとき
・FCシステムを始動してから、しばらく

走行するまでの間

●例えば次のような状況などでは、正しく通信ができず、システムが正常に作動しないおそれがあります。
・周囲に大型車が走行しているときなど、通信が遮られたとき
・通信を妨害する電波が発せられているとき
・DSSS 用路側装置の向きが変わってしまっているとき
・DSSS 用路側装置がメンテナンス中や故障しているとき
・他車両の通信機が故障しているとき

●右折時注意喚起（DSSS 用路側装置との通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
・周囲の環境や天候、DSSS 用路側装置の劣化などの影響により、対向車や歩行者の検知性能が低下しているとき
・対向車や歩行者が周囲の建物や別の車両に隠れているとき
・DSSS 用路側装置の検知範囲外に対向車や歩行者がいるとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●右折時注意喚起（通信機を搭載した車両との通信）は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・交差点内で一旦停止せずに右折しようとしたとき
・地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

●出会い頭注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・交差点手前で一旦停止せずに通過しようとしたとき
・地図データと実際の道路状況が異なるため、交差点付近であることが判断できないとき
・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

●赤信号注意喚起は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・遅い速度で走行しているとき
・停車しているとき
・交差点付近の側道や駐車場内の通路など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所を走行しているとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●信号待ち発進準備案内は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・前方の信号機が青信号、黄信号または矢印信号のとき
・青信号にかわるまでの待ち時間が残り少ないとき
・停車していないとき
・交差点付近の側道や駐車場など、DSSS 路側装置が設置された道路と並行する場所に停車しているとき
・DSSS 用路側装置から受信した情報が誤っているとき

●緊急車両存在通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・緊急車両と自車の距離が一定以上離れているとき
・緊急車両が自車から遠ざかる方向に走行しているとき
・立体交差付近を走行しているとき
・緊急車両から受信した情報が誤っているとき

●通信車両接近通知は、次のような状況などでは正常に作動しないおそれがあります。
・相手通信車両から受信した情報が誤っているとき

各機能の設定変更

マルチインフォメーションディスプレイの⚙（→P.480）で、機能の設定を変更することができます。

● 信号情報

次の機能の ON/OFF を変更することができます。（初期設定：ON）※1

・ 赤信号注意喚起

・ 信号待ち発進準備案内

● 道路環境情報

次の機能の ON/OFF を変更することができます。（初期設定：ON）※1

・ 右折時注意喚起

・ 出会い頭注意喚起

● 通知感度

次の機能の通知感度（高い／低い）を切り替えることができます。（初期設定：高い）※2, 3

・ 右折時注意喚起

・ 出会い頭注意喚起

・ 赤信号注意喚起

● 緊急車両通知

緊急車両存在通知の ON/OFF を変更することができます。（初期設定：ON）

● クルーズ（ITS）

通信利用型レーダークルーズコントロールの ON/OFF を変更することができます。（初期設定：ON）

※1「信号情報」または「道路環境情報」に含まれる各機能を個別に ON/OFF することはできません。

※2各機能の通知感度を個別に変更することができません。

※3「高い」に設定すると通知タイミングが早くなり、「低い」に設定すると通知タイミングが遅くなります。

BSM（ブラインドスポットモニター）

ブラインドスポットモニターは、リヤバンパー内側にある後側方レーダーセンサーを使用し、運転者による車線変更時の判断を支援するシステムです。

警告

■安全にお使いいただくために

安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。

ブラインドスポットモニターは、ドアミラーの死角領域に入った車両の存在とその死角領域に急速に接近してくる車両の存在を運転者に提供する、補助的なシステムです。本システムだけで安全な車線変更の可否を判断できるものではないため、システムを過信すると思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

状況によっては本システムが有効に機能しないことがあるため、運転者は自らの目視とミラーによる安全確認をおこなう必要があります。

システムの構成部品

A メーター操作スイッチ

ブラインドスポットモニターの ON/OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

ドアミラーの死角領域に車両を検知したとき、または後方からその死角領域に急速に接近してくる車両を検知したときは、検知した側のドアミラーインジケーターが点灯します。検知した側に方向指示レバーを操作している場合は、ドアミラーインジケーターが点滅します。

知識

■ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに “BSM 現在使用できません取扱書を確認ください” が表示されたときは

センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに “BSM 故障　販売店で点検してください” が表示されたときは

センサーの故障や電圧異常などが考えられます。トヨタ販売店にて点検を受けてください。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.480）

■後側方レーダーセンサーの取り扱いについて

本製品は各国の電波法に適合しています。製品表面の印字はその証明ですので消さないでください。
製品を改造しないでください。改造すると認証番号が無効となります。

R 202 -LSC077

C3-001

警告

■システムを正しく作動させるために

ブラインドスポットモニターのセンサーは、車両リヤバンパー内側に左右ひとつずつ設置されています。システムを正しく作動させるために次のことをお守りください。

●センサー周辺のリヤバンパーは常にきれいにしておく

センサー周辺のリヤバンパーに汚れや着雪がある場合、警告表示（→P.262）とともにシステムが作動しなくなることがあります。その場合、汚れや雪を落としたあと、BSM 機能の作動条件（→P.265）でしばらく走行してください（目安：約 10 分）。それでも警告表示が消えない場合はトヨタ販売店にて点検を受けてください。

●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーにアクセサリーを付けたり、ステッカー（透明なものを含む）やアルミテープなどを貼ったりしない

●センサー周辺のリヤバンパーへの強い衝撃を避ける
センサーの位置や向きが少しでもずれると、車両を正しく検知できなくなったり、装置が正常に動作しなくなるおそれがあります。
次のような場合には、必ずトヨタ販売店にて点検を受けてください。

・センサーやセンサー周辺に強い衝撃を受けた

・センサー周辺のリヤバンパーなどに傷や凹みがある、一部が外れている

●センサーを分解しない

●センサーやセンサー周辺のリヤバンパーを改造しない

●センサーやリヤバンパーの脱着や交換が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

●リヤバンパーの塗装修理の際にはトヨタ設定色以外への変更は行わないでください

ブラインドスポットモニターのON/OFF を切りかえるには

メーター操作スイッチを使ってON/OFF を切りかえます。（→P.101）

1 〈 または 〉 を押して ⚙ を選択する

2 ∧または∨を押して

“BSM” を選択し、OKを押す

ブラインドスポットモニターが OFF になると、BSM OFF 表示灯（→P.92）が点灯します。

パワースイッチが ON になるたび、ブラインドスポットモニターは ON になります。

ブラインドスポットモニターの作動

■ 検知できる車両

ブラインドスポットモニターは後側方レーダーセンサーにより隣の車線を走行する次の車両を検知し、ドアミラーのインジケーターによってその車両の存在を運転者に知らせます。

A ドアミラーに映らない領域（死角領域）を併走する車両

B 後方からドアミラーに映らない領域（死角領域）に急速に接近してくる車両

■ 検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。

検知できる範囲：

A 車両の両側面について、側面から約 0.5m 離れた面から約 3.5m の領

域 ※1

B リヤバンパーから約 1m 前方の領域

C リヤバンパーから約 3m 後方の領域

D リヤバンパーから後方約 3m ～ 60m の領域 ※2

※1車両側面から外側に約 0.5m は検知しません。

※2自車と他車の速度差が大きいほど、ドアミラーインジケーターは他車がより遠くにいる状況で点灯・点滅します。

知識

■作動条件

次の条件をすべて満たしているときに作動します。

- ブラインドスポットモニターがONのとき
- シフトポジションが R 以外のとき
- 車速が約 16km/h 以上のとき

■センサーが車両を検知する条件

ブラインドスポットモニターは、次のような状況で検知範囲に入った車両を検知します。

- 隣の車線を走行する他車に自車が追いこされるとき
- 小さい速度差で隣の車線を走行する他車を追いこすとき
- 他車が車線変更中に検知範囲に進入するとき

■システムが検知しない条件

ブラインドスポットモニターは、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

- 小型のオートバイ・自転車・歩行者など ※
- 対向車
- ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※
- 同じ車線を走行する後続車 ※
- 2 つ隣の車線を走行する他車 ※
- 大きい速度差で自車が追い越す他車 ※

※ 状況によっては検知をすることがあります。

■システムが正しく作動しないおそれがある状況

- 次のような状況では車両を正しく検知しないおそれがあります。
  - ・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
  - ・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき
  - ・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
  - ・複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき
  - ・自車と後続車の車間距離が短いとき
  - ・検知範囲に入る他車と自車の速度差が大きすぎるとき
  - ・自車と他車の速度差に変化があるとき
  - ・検知範囲に入る他車と自車の速度がほとんど等しいとき
  - ・停止状態から発進した際に、検知範囲に他車が存在し続けたとき
  - ・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき

・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・車線の幅が広い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線の他車が自車から離れすぎているとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき
・検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき
・ブラインドスポットモニターを ON にした直後

●特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・車線の幅が狭い、もしくは車線の端を走行するなど、隣の車線以外を走行する車両が検知範囲に入ったとき
・きついカーブや連続したカーブ、起伏がある場所を走行するとき
・タイヤがスリップ（空転）しているとき
・自車と後続車の車間距離が短いとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

クリアランスソナー

クリアランスソナーは、車両と壁などの静止物とのおおよその距離を超音波センサーによって検知して、メーター内のマルチインフォメーションディスプレイおよびマルチメディア画面の距離表示とブザー音、音声案内で運転者にお知らせします。

システムの構成部品

■ センサーの種類

A フロントコーナーセンサー

B フロントセンターセンサー

C リヤコーナーセンサー

D リヤセンターセンサー

E フロントサイドセンサー（アドバンストパーク装着車）

F リヤサイドセンサー（アドバンストパーク装着車）

■ クリアランスソナーの表示のしかた

壁などの静止物を検知すると、マルチインフォメーションディスプ

レイまたはマルチメディア画面に表示されます。

▶ マルチインフォメーションディスプレイの表示

▶ マルチメディア画面の表示（アドバンストパーク装着車）

A フロントコーナーセンサー作動表示

B フロントセンターセンサー作動表示

C リヤコーナーセンサー作動表示

D リヤセンターセンサー作動表示

E フロントサイドセンサー作動表示

F リヤサイドセンサー作動表示

システムを作動させるには

メーター操作スイッチを使ってON/OFF を切りかえます。（→P.101）

1 〈または〉を押して ⚙ を選択する

2 ∧または∨を押して P を選択し、OKを押す

クリアランスソナー機能が OFF の時は、クリアランスソナー OFF 表示灯（→P.92）が点灯します。

OFF（停止）に切りかえて、クリアランスソナーを停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ から P を ON（作動）にし、システム作動状態にしないとクリアランスソナーは復帰しません。（パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にしても、復帰しません）

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● センサーに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。

警告

- センサー付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート・フォグランプ・フェンダーポール・無線アンテナなど）を取り付けないでください。
- センサー周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。前後のバンパーやグリルの脱着や交換が必要な場合はトヨタ販売店にご相談ください。
- 改造・分解・塗装をしないでください。
- ライセンスプレートカバーを取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。

■クリアランスソナーを OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。クリアランスソナーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 上記の内容が守られないとき
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

■洗車時の注意

- 高圧洗車機を使用して洗車するときは、センサー部に直接水をあてないでください。強い水圧により衝撃が加わり、正常に作動しなくなるおそれがあります。
- スチームを使用した洗車機などで洗車するときは、スチームをセンサー部に近付けすぎないようにしてください。スチームにより、正常に作動しなくなるおそれがあります。

知識

■作動条件

- パワースイッチが ON のとき
- クリアランスソナー機能が ON のとき
- 車両の速度が約 10km/h 以下のとき
- シフトポジションが P 以外にあるとき

■マルチインフォメーションディスプレイに “ソナーの汚れを除去してください” が表示されたときは

クリアランスソナーのセンサーに水滴・氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。
この場合はセンサーの水滴・氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。
また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、静止物があっても検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。
水滴・氷・雪・泥がないのに異常表示が出ている場合は、センサーの異常が考えられますので、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■マルチインフォメーションディスプレイに “クリアランスソナー使用できません” が表示されたとき

大雨などでセンサー表面に水が継続的に流れている可能性があります。システムが正常と判断した時に復帰します。

■センサーの検知について

- センサーの検知範囲は車両前部と後部のバンパー周辺に限られます。

●静止物の形状・条件によって検知できる範囲が短くなることや、検知できないことがあります。

●センサーが静止物に近づきすぎると検知できないことがあります。

●静止物を検知してから、表示が出る（ブザーが鳴る）までに多少時間がかかります。低速走行時の場合でも表示が出る（ブザーが鳴る）までに、静止物まで約 30cm 以内に接近するおそれがあります。

●オーディオ・エアコン使用時は、音楽やファンの音などにより、ブザーの音が聞き取りづらくなる場合があります。

●他システムのブザー音などにより本システムの音が聞き取りづらくなる場合があります。

■**システムが正しく検知できないことがある静止物**

静止物の形状・条件によっては検知できる範囲が短くなることや、次のようなものは検知しないことがあります。注意して運転してください。

●針金・フェンス・ロープなどの細いもの

●綿・雪などの音波を吸収しやすいもの

●鋭角的な形のもの

●背の低いもの

●背が高く上部が張り出しているもの

■**システムが正常に作動しないおそれのある状況**

次のような状況では、センサーが正常に作動しないことがあります。

●センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●センサー部が凍結したとき（解ければ、正常に復帰します）
特に低温時には凍結などにより異常表示が出たり、壁などの静止物があっても検知しないことがあります。

●炎天下や寒冷時

●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など

●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

●大雨や水しぶきがかかったとき

●センサーに静止物が近付きすぎたとき

●超音波を反射しにくい歩行者（例：ギャザーやフリルの多いスカートなど）

●地面に対して垂直でないもの、車両進行方向に対して直角でないもの、凹凸なもの、波打っているものが検知範囲にあるとき

●風が強いとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●作動対象物と車両の間に検知できない対象物があるとき

●車・オートバイ・自転車・歩行者などの作動対象が車両の横から割り込んだり、飛び出してきたとき

●衝突などで、センサーの方向がずれたとき

●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウ

ンなど）

●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

■**衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況**

次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

●狭い道路を走行するとき

●垂れ幕や旗やのれん、垂れ下がった枝、遮断機（踏切のバー・ETC のバー・駐車場のバーなど）に向かって走行するとき

●地面にわだちや穴がある場合

●排水溝などの金属のフタ（グレーチング）走行時

●急な登坂路や降坂路を走行するとき

●冠水している道路でセンサーに水がかぶったとき

●センサーに水滴・氷・雪・泥などが付着したとき（取り除けば、正常に復帰します）

●大雨や水しぶきがかかったとき

●霧・雪・砂嵐などの悪天候のとき

●風が強いとき

●他車のホーン・オートバイのエンジン音・大型車のエアブレーキ音・他車のセンサーなど超音波を発生するものが近付いたとき

●積載状況などにより車高が著しく変化したとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）

●衝突などで、センサーの方向がずれたとき

●背の高い縁石や直角の縁石に向かって進んだとき

●立体駐車場や工事現場などで柱（H 形鋼など）の付近を走行するとき

●事故や故障で自車の走行が不安定なとき

●凸凹道・坂道・砂利道・草むら走行時など

●タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

距離表示の見方

■ 静止物を検知できる範囲

▶ アドバンストパーク非装着車

A 約 100cm

B 約 150cm

C 約 60cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

▶ アドバンストパーク装着車

A 約 200cm

検知できる範囲は図のとおりです。ただし、静止物がセンサーに近付きすぎると検知できません。

静止物の形状・条件によっては、検知できる距離が短くなることや、検知できないことがあります。

■ 検知距離とブザー音

▶ アドバンストパーク非装着車

静止物までのおおよその距離	ブザー音
フロントセンターセンサー： 約 100cm ～ 60cm※ リヤセンターセンサー： 約 150cm ～ 60cm※	断続音
約 60cm ～ 45cm※	早い断続音
約 45cm ～ 30cm※	非常に早い断続音
約 30cm ～ 15cm	連続音
約 15cm 以下	

※ 自動ミュート機能あり（→P.272）

▶ アドバンストパーク装着車

静止物までのおおよその距離	ブザー音
フロントセンターセンサー： 約 200cm ～ 100cm リヤセンターセンサー： 約 200cm ～ 150cm サイドセンサー： 約 200cm ～ 125cm コーナーセンサー： 約 200cm ～ 60cm	なし（表示のみ）
フロントセンターセンサー： 約 100cm ～ 60cm※ リヤセンターセンサー： 約 150cm ～ 60cm※ サイドセンサー： 約 125cm ～ 60cm※	断続音
サイドセンサー以外： 約 60cm ～ 45cm※ サイドセンサーのみ： 約 60cm ～ 40cm※	早い断続音
サイドセンサー以外： 約 45cm ～ 30cm※ サイドセンサーのみ： 約 40cm ～ 30cm※	非常に早い断続音
約 30cm ～ 15cm	連続音
約 15cm 以下	

※ 自動ミュート機能あり（→P.272）

音声案内とブザー音

■ ブザー動作と静止物までの距離

静止物を検知すると、ブザーが鳴ります。

ブザー音と同時に音声案内を行います。

● 静止物との距離が近付くと、ブザーの断続時間が短くなります。静止物との距離が約 30cm 以下のとき、ブザーは断続音「ピピ」から連続音「ピー」になります。

● 複数のセンサーが同時に静止物を検知しているときは、もっとも近い静止物との距離に合わせたブザー音が鳴ります。

● ブザー吹鳴後、静止物との距離が近づかない場合は、自動でブザーが消音されます。（自動ミュート機能）

■ **ブザー音量調整**

マルチインフォメーションディスプレイ上でクリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音量の調整が一括でできます。

メーター操作スイッチを使って設定を変更します。（→P.101）

1 メーター操作スイッチの〈または〉を押して ⚙ を選択する

2 メーター操作スイッチの∧または∨を押して P を選択し、**OK**を押し続ける

3 音量を選択し、**OK**を押す

1, 2, 3 の間で音量が切りかわります。

■ **ブザー音の一時ミュート（消音）**

作動対象を検知した場合、マルチインフォメーションディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

🔈 を押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

一時ミュート（消音）が解除されるとき：

● シフトポジションを切りかえたとき

● 車速が一定値以上になったとき

● センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき

● 使用中の機能を OFF にしたとき

● パワースイッチを OFF にしたとき

巻き込み警報機能（アドバンストパーク装着車）

サイドエリアの静止物が車両の経路内にある場合に、表示とブザーで運転者に知らせます。

A 静止物

B 計算した車両経路

走行中にサイドセンサーまたはサイドカメラで静止物を検知します。車両が移動して静止物がサイドセンサーまたはサイドカメラで検知できない位置にあった場合も、車両の位置を計算することで静止物の位置を算出し、車両の経路内に静止物がある場合に、巻き込み警報機能が作動します。

A サイドセンサーまたはサイドカメラで検知した静止物

1 停車時はサイドエリアの静止物の検知は行いません。

2 車両移動中に静止物を検知

3 サイドセンサーまたはサイドカメラで静止物を直接検知していない状態でも、表示とブザーで知らせます。

知識

■巻き込み警報機能の作動条件

●アドバンストパーク作動中のとき

●FC システム始動後、車両が約 7m 移動するあいだ

●シフトポジションが R のとき

●シフトポジションを R から D にしたあと、車両が約 7m 移動するあいだ

●VIEW が押され、マルチメディア画面が表示されているとき

●フロントまたはリヤセンサーが静止物を検知しているとき

■サイドエリアの静止物の検知について

●サイドエリアの静止物は、センサーまたはカメラで直接検知するのではなく、車両前後のサイドセンサーまたはサイドカメラで検知したあと車両の位置を計算することで静止物の位置を算出します。そのためパワースイッチを ON にしたあと、しばらく走行してセンサーまたはカメラでサイドエリアのスキャンが完了するまでは、サイドエリアに静止物があっても検知できない場合があります。

●サイドセンサーまたはサイドカメラで車・人・動物などがサイドセンサーまたはサイドカメラの検知範囲から出ても検知している状態が継続します。

警告

■巻き込み警報機能について

次のとき、巻き込み警報機能が正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

警告

- パワースイッチをONにした直後の発進時、フロントサイドセンサーで検知できないような小さい車両や静止物が隣にあるとき

下図の場合、前進しても左側にある車両を検知できないため、巻き込み防止警報機能は作動しません。

- サイドセンサーまたはサイドカメラで検知できない位置に静止物がある場合や、人がいる場合
- サイドエリアのスキャン完了後でも、車・人・動物などが車両の横からサイドエリアに侵入してきた場合は検知できません。
- サイドミラーが閉じられているときは、障害物を検知ができません。
- 補機バッテリーを脱着したときやあがったときはサイドミラーの開閉を実施してください。

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）

RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能はリヤバンパー内側にあるブラインドスポットモニターの後側方レーダーセンサーを使用し、運転者の目視だけでは感知しづらい領域の確認を補助する機能です。後退時に運転者を支援します。

警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。（→P.262）

■システムを正しく作動させるために

→P.263

システムの構成部品

A メーター操作スイッチ

メーター操作スイッチを操作して、マルチインフォメーションディスプレイ上でRCTA 機能の ON/OFF を切りかえます。

B ドアミラーインジケーター

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、両側のドアミラーインジケーターが点滅します。

C マルチメディア画面

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディア画面に検知した側の RCTA アイコン（→P.277）が点灯します。

イラストは両後方から車両が接近している例です。

D RCTA ブザー

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、ブザーが鳴ります。

設定のしかた

メーター操作スイッチを使って ON/OFF を切りかえます。（→P.101）

1 〈 または 〉 を押して ⚙ を選択する

2 ∧または∨を押して “RCTA” を選択し、**OK**を押す

RCTA 機能が OFF の時は、RCTA OFF 表示灯（→P.92）が点灯します。
パワースイッチが ON になるたび、RCTA 機能は ON になります。

知識

■ ドアミラーインジケーターの視認性について

強い日差しのもとでは、ドアミラーインジケーターが見えづらいことがあります。

■ RCTA ブザー音の聞こえ方について

大音量のオーディオなど大きな音がする場合、RCTA ブザー音が聞こえづらくなる場合があります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに “RCTA 現在使用できません” が表示されたときは

センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

■ マルチインフォメーションディスプレイに “RCTA 故障 販売店で点検してください” が表示されたときは

センサーの故障や電圧異常などが考えら

れます。トヨタ販売店にて点検を受けてください。

■後側方レーダーセンサーについて

→P.263

RCTA 機能

■ RCTA 機能の作動

RCTA 機能は後側方レーダーセンサーにより自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、ドアミラーのインジケーターとブザーによってその車両の存在を運転者に知らせます。

A 接近車両

B 接近車両を検知できる範囲

■ RCTA アイコンの表示

自車の右後方または左後方から接近している車両を検知したときは、マルチメディア画面上に次の表示をします。

例：両方向から車両が接近しているとき

■ RCTA 機能で検知できる範囲

次の範囲に入った車両を検知します。

速度が速い車両に対しては、より離れた位置で警報ブザーを鳴らします。

例：

接近車両の速度	A 警報距離（概算）
56km/h（速い）	40m
8km/h（遅い）	5.5m

知識

■RCTA 機能の作動条件

RCTA 機能は、次の条件をすべて満たしているときに作動します。

●パワースイッチが ON のとき

●RCTA 機能が ON のとき

●シフトポジションが R のとき

●自車の車速が約 15km/h 以下のとき

●接近する他車の車速が約 8km/h ～ 56km/h のあいだのとき

■ブザーの音量調整

マルチインフォメーションディスプレイ上でブザー音量の調整ができます。

メーター操作スイッチを使って設定を変更します。（→P.101）

1 メーター操作スイッチの ＜ または ＞ を押して ⚙ を選択する

2 メーター操作スイッチの ∧ または ∨ を押して “RCTA” を選択し、**OK**を押し続ける

3 音量を選択し、**OK**を押す

1, 2, 3 の間で音量が切りかわります。

■ブザー音の一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチインフォメーションディスプレイ上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

🔊 を押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音が一括でミュート（消音）されます。

一時ミュート（消音）が解除されるとき：

●シフトポジションを切りかえたとき

●車速が一定値以上になったとき

●センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき

●使用中の機能を OFF にしたとき

●パワースイッチを OFF にしたとき

■システムが検知しない車両について

RCTA 機能は、次のような車両や車両以外のものを検知対象としません。

●真後ろから接近する車両

●自車の隣の駐車スペースで後退する車両

●障害物のためにセンサーが検知できない車両

●ガードレール・壁・標識・駐車車両などの静止物 ※

●小型のオートバイ・自転車・歩行者など ※

●自車から遠ざかる車両 ※

●自車の隣の駐車スペースから接近する車両

●センサーと接近車両との距離が近すぎる場合

※ 状況によっては検知することがあります。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

RCTA 機能は、次のような状況では車両を有効に検知しないおそれがあります。

●センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき

●泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに付着したとき

●大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどのぬれた路面を走行するとき

●複数台の他車が狭い間隔で連続して接近するとき

●車両が高速で接近するとき

●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●勾配の変化が激しい坂で後退しているとき

●斜めの駐車場から出庫するとき

●RCTA 機能を ON にした直後

●RCTA 機能を ON にした状態で、FC システムを始動した直後

●障害物のためにセンサーが検知できない車両

●検知範囲に入る他車と自車の高さに差がありすぎるとき

●炎天下や寒冷時

●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

●車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

●自車が旋回しているとき

●旋回しながら車両が近づいてきたとき

■**衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況**

RCTA 機能は、特に次のような状況では不要な検知が増えることがあります。

●駐車場に面した道を車両が走行しているとき

●車両後方に電波の反射しやすい金属（ガードレール・壁・標識・駐車車両など）が存在するとき

●センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき

●車両が自車の横を通過するとき

●自車の近くで旋回していく移動物が存在するとき

●自車近くに室外機などの回転体があるとき

●センサーに向けてスプリンクラーなどによる水の飛散があったとき

●動いているもの（旗・排気ガス・大粒の雨や雪、路面の雨水など）

●ガードレールや壁などとの距離が短い状況で、それらが検知範囲に入ったとき

●グレーチングや側溝

●炎天下や寒冷時

●ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき

●車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウンなど）

RCD（リヤカメラディテクション）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両後退時、リヤカメラが後方の歩行者を検知すると、ブザーとマルチメディア画面上の表示により注意喚起を行います。

⚠警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。

システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

■システムを正しく作動させるために

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- カメラに傷を付けたりせずに、常にきれいにしておいてください。
- カメラ付近に市販の電装部品（字光式ナンバープレート、フォグランプ等）を取り付けないでください。
- カメラ周辺へ衝撃を与えないでください。衝撃を受けた際はトヨタ販売店で点検を受けてください。
- カメラを分解・改造・塗装しないでください。
- カメラにアクセサリー・ステッカーを付けないでください。
- リアバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリム等）を取り付けないでください。
- 適正なタイヤ空気圧を維持してください。
- トランクを完全に閉めてください。

■RCD の機能を OFF にするとき

次のときはシステムを OFF にしてください。RCD 機能が正常に作動しないことがあり思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 上記の内容が守られないとき
- トヨタ純正品以外のサスペンションを取り付けたとき

システムの構成部品

リヤカメラの位置

RCD の表示

A 歩行者検知表示

車両後方の歩行者を検知すると、自動的に表示されます。

システムを作動させるには

メーター操作スイッチを使って ON/OFF を切りかえます。（→P.101）

1 〈または〉を押して ⚙ を選択する

2 ∧または∨を押して“RCD”を選択し、**OK**を押す

RCD 機能が OFF の時は、RCD OFF 表示灯（→P.92）が点灯します。

パワースイッチが ON になるたび、RCD 機能は ON になります。

歩行者を検知した場合

車両後方エリアに歩行者がいる場合や、車両後方に向かって歩行者が接近してくるのをリヤカメラが検知した場合、下記のようにブザーとマルチメディア画面の歩行者検知表示で運転者に注意を促します。

A 歩行者がAエリアにいる場合

ブザー：繰り返し吹鳴

歩行者検知表示：点滅

B 歩行者がBエリアにいる場合

ブザー（自車静止時）：3 回吹鳴

ブザー（自車移動時および歩行者接近時）：繰り返し吹鳴

歩行者検知表示：点滅

C Cエリアにいる歩行者と自車が、接触する可能があるとシステムが判断した場合

ブザー：繰り返し吹鳴

歩行者検知表示：点滅

知識

■作動条件

- パワースイッチが ON のとき
- RCD 機能が ON のとき
- シフトポジションが R にあるとき
- アドバンストパークが作動中でないとき

■ブザーの音量調整

マルチインフォメーションディスプレイ上でクリアランスソナー、RCTA、RCD のブザー音量の調整が一括で調整できます。（→P.273）

■ブザー音を一時ミュート（消音）

作動対象を検知した場合、マルチメディア画面上に一時ミュート（消音）スイッチが表示されます。

🔊 を押すとクリアランスソナー、RCTA、RCD のブザーが一括でミュート（消音）されます。

次のいずれの操作をすると、自動的にミュート（消音）を解除します：

●シフトポジションを切りかえたとき

●車速が一定値以上になったとき

●センサー異常やシステムが一時使用不可となったとき

●使用中の機能を OFF にしたとき

●パワースイッチを OFF にしたとき

■マルチインフォメーションディスプレイに “ リヤカメラ検知現在使用できません レンズの汚れを除去してください ” が表示されたときは

リヤカメラのレンズに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。リヤカメラのレンズの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。場合によっては、汚れを取り除いた後も、復帰までに一定距離の走行を必要とすることがあります。

■マルチインフォメーションディスプレイに “ リヤカメラ検知 現在使用できません ” が表示されたときは

●トランクが開いている場合は、半ドアが解除されるまでトランクをしっかり閉めてください。

●シフトポジションがR時のみ表示される場合は、リヤカメラのレンズに汚れが付着している可能性があります。汚れを取り除いてください。

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

●例えば、次のような歩行者はカメラが正しく検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

・前かがみになっている、またはしゃがんでいる人
・寝転んでいる人
・走っている人
・自車や建物の影から突然現れる歩行者
・自転車やスケートボード等に乗っている人
・合羽やロングスカートなどを着ていて、全身の輪郭があいまいな歩行者
・カートや荷物、傘等により体の一部が隠れている歩行者
・夜間の歩行者や周囲の色とよく似た色の服装の歩行者

●例えば、次のような状況ではカメラが対象となる歩行者を検知できず、システムが正常に作動しないおそれがあります。

・悪天候（雨、雪、霧等）
・レンズに汚れ（泥、融雪剤等）や傷があるとき
・強い光がカメラに直接あたっているとき
・明暗差があるとき（ガレージや地下駐車場の開いたシャッター付近等）
・夜間（日没後）や薄暗い駐車場
・カメラの位置や向きがずれているとき
・けん引フックを取り付けているとき
・カメラレンズ上に水滴が流れているとき
・車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウン）
・タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
・ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けたとき
・リヤカメラ付近に市販の電飾部品（字光式ナンバープレート、フォグランプ等）を取り付けているとき
・リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリム等）を取り付けているとき

■システムが作動するおそれがあるとき

●例えば、次のようなものに対しては、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。

・立体物（柱、パイロン、フェンス、駐車車両等）
・移動物（通行車両、バイク等）

・動いている物（旗、排気ガス、大粒の雨や雪、路面の雨水等）
・路面に模様があるとき（白線、横断歩道、石畳、路面電車のレール、補修痕、落ち葉、砂利等）
・金属のフタ（グレーチング）や側溝
・水たまりや濡れた路面への物体の映り込み
・影

●例えば、次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
・路肩や段差があるとき
・勾配変化があるとき
・車高が極端に変化しているとき（ノーズアップ、ノーズダウン）
・リヤカメラ付近に市販の電飾部品（字光式ナンバープレート、フォグランプ等）を取り付けているとき
・リヤバンパーに市販の保護パーツ（バンパートリム等）を取り付けているとき
・カメラの位置や向きがずれているとき
・けん引フックを取り付けているとき
・カメラレンズ上に水滴が流れているとき
・カメラが汚れているとき（泥、融雪剤等）
・点滅する光源があるとき（ハザードランプ等）
・タイヤチェーン・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき

●検知を妨げる状況
・オーディオの音量が大きい場合や周囲が騒がしい場合、ブザーの警報音が聞こえない場合があります。
・高温／低温環境では、ディスプレイの表示が見にくい場合があります。

PKSB（パーキングサポートブレーキ）

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、駐車時などの低速走行時に作動対象を検知した場合、警報と自動ブレーキ制御で作動対象との衝突被害の軽減に寄与するシステムです。壁などの静止物を検知するパーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）、後退時に後方接近車両を検知するパーキングサポートブレーキ（後方接近車両）、後方歩行者を検知するパーキングサポートブレーキ（後方歩行者）があります。

駐車支援機能

■ **パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物★）**

→P.289

■ **パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）**

→P.292

■ **パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）★**

→P.294

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。
道路状況、車両状態および天候など、状況によっては作動しない場合があります。
センサー、レーダーでの検知には限界があります。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。PKSB（パーキングサポートブレーキ）は作動対象への衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与できる場合がありますが、状況によっては作動しない場合もあります。
- PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、完全に車両を停止させるシステムではありません。また、車両を停止させることができたとしても、ブレーキ制御は約 2 秒で解除されるため、すぐにブレーキペダルを踏んでください。
- 故意に車や壁に向かって走行するなど、システムの作動を確認する行為は大変危険です。絶対におやめください。

■パーキングサポートブレーキを OFF にするとき

次のときは、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF にしてください。衝突の可能性がなくてもシステムが作動する場合があります。

- 点検などで、シャシーローラー・シャシーダイナモ・フリーローラーなどを使用する場合
- 船舶・トラックなどへ積載する際の進入時
- ローダウンサスペンションや、純正と異なるサイズのタイヤを取り付けた場合
- 積載状況などにより車高が著しく変化した場合（ノーズアップ、ノーズダウンなど）
- センサー付近にけん引フック・バンパープロテクター・バンパートリム・サイクルキャリア・除雪装置（スノーブラウ）などを取り付けたとき
- 自走式洗車機を使用する場合
- 事故や故障で自車の走行が不安定なとき
- オフロード走行やスポーツ走行をするとき
- タイヤの空気圧が適正でないとき
- 著しく摩耗したタイヤを装着しているとき
- タイヤチェーン・応急用タイヤ・タイヤパンク応急修理キットを使用しているとき
- けん引しているとき

■サスペンションの取り扱いについて

車高や車の傾きが変化すると、センサーが作動対象を正しく検知できなくなり、システムが作動しなくなるおそれがあります。サスペンションの改造はしないでください。

システムを作動させるには

パーキングサポートブレーキ（前

後方静止物／周囲静止物）、パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）を一括で ON/OFF します。

メーター操作スイッチを使って ON/OFF を切りかえます。（→P.101）

1 〈 または 〉を押して ⚙ を選択する

2 ∧または∨を押して“PKSB”を選択し、OKを押す

PKSB システムを OFF した場合、PKSB OFF 表示灯（→P.92）が点灯します。

OFF（停止）に切りかえて、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させた場合、再度、マルチインフォメーションディスプレイの ⚙ から“PKSB”を ON（作動）にし、システム作動状態にしないと PKSB（パーキングサポートブレーキ）は復帰しません。（パワースイッチの操作では復帰しません）

FC システム出力抑制制御・ブレーキ制御の表示・ブザーについて

FC システム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチメディア画面（アドバンストパーク装着車）、マルチインフォメーションディスプレイおよびヘッドアップディスプレイ★にメッセージが表示されます。

出力抑制制御は状況により、加速制限制御か出力最大抑制制御のいずれかが作動します。

● FC システム出力抑制制御作動中（加速制限制御）

一定以上の加速をシステムが制限しているとき：

マルチメディア画面表示：表示なし

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“加速抑制中です”

ヘッドアップディスプレイ表示★：表示なし

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：吹鳴なし

● FC システム出力抑制制御作動中（出力最大抑制制御）

通常よりやや強めのブレーキ操作が必要だとシステムが判断したとき：

マルチメディア画面表示：“ブレーキ！”

マルチインフォメーションディスプレイ・ヘッドアップディスプレイ★表示：“ブレーキ！”

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー（単発音）

● ブレーキ制御作動中

急ブレーキが必要だとシステムが判断したとき：

マルチメディア画面表示：“ブレーキ！”

マルチインフォメーションディスプレイ・ヘッドアップディスプレイ★表示：“ブレーキ！”

PKSB OFF 表示灯：消灯のまま

ブザー：ピー（単発音）

● システム作動により車両停止

ブレーキ制御作動後に車両が停止したとき：

マルチメディア画面表示：“ブレーキを踏んでください”

マルチインフォメーションディスプレイ表示：“アクセルが踏まれています　ブレーキを踏み直してください”
アクセルが踏まれていない場合は“ブレーキを踏み続けてください”が表示されます。

ヘッドアップディスプレイ表示★：“ブレーキを踏み直してください”
アクセルが踏まれていない場合は“ブレーキを踏んでください”が表示されます。

PKSB OFF 表示灯：点灯

ブザー：ピピピピ（連続音）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

PKSB（パーキングサポートブレーキ）の作動について

PKSB（パーキングサポートブレーキ）は、衝突の可能性がある作動対象（壁などの静止物、後方接近車両や後方歩行者）を検知したとき、FC システムの出力を抑制することにより車速の上昇を抑えます。（FC システム出力抑制制御：図 2）また、そのままアクセルペダルを踏み続けた場合は、ブレーキをかけ減速させます。（ブレーキ制御：図 3）

● 図 1（PKSB（パーキングサポートブレーキ）非作動時）

A FC システム出力

B 制動力

C 時間

● 図 2（FC システム出力抑制制御時）

A FC システム出力

B 制動力

C 時間

D FC システム出力抑制制御開始
（作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき）

● 図 3（FC システム出力抑制制御かつブレーキ制御時）

A FC システム出力

B 制動力

C 時間

D FC システム出力抑制制御開始（作動対象と衝突の可能性があるとシステムが判断したとき）

E ブレーキ制御開始（作動対象と衝突の可能性が非常に高いとシステムが判断したとき）

知識

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動したときは

システム作動により車両が停止した場合、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止して、PKSB OFF 表示灯が点灯します。また、PKSB（パーキングサポートブレーキ）が作動した場合でもブレーキ制御は 2 秒で解除されるため、そのまま発進できます。また、ブレーキペダルを踏んでも解除されるため、再度アクセルペダルを踏むと発進できます。

■PKSB（パーキングサポートブレーキ）の復帰について

システム作動により PKSB（パーキングサポートブレーキ）が停止したあとに、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を復帰させたい場合は、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を再度 ON にする（→P.285）か、パワースイッチをいったん OFF にしてから、再度 ON にしてください。

また、次の状況でも自動的に PKSB（パーキングサポートブレーキ）が復帰し、PKSB OFF 表示灯が消灯します。

●シフトポジションを P にした

●進行方向の作動対象がなくなった状態で車両を走行させた

●車両の進行方向が切りかわった ※

※ パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）を除く

■マルチインフォメーションディスプレイに “ パーキングサポートブレーキ 現在使用できません ” が表示され、PKSB OFF 表示灯が点灯したときは

●パワースイッチを ON にした直後に、上記表示が出ることがあります。その場合は周囲を確認しながら注意して走行してください。一定距離の走行で使用可能となりますが、使用できない場合は安全な場所に車を停止し、センサーやカメラレンズの汚れを取り除いてください。

●センサー部に水滴・氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。この場合はセンサーの水滴・氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、低温時にはセンサーの凍結などにより異常表示が出たり、作動対象を検知しないことがあります。氷が解ければ、正常に復帰します。

●シフトポジションがR時のみ表示される場合は、リヤカメラの汚れを取り除いてください。シフトポジションが R 時以外も表示される場合は、クリアランスソナーセンサーのバンパー周辺の汚れを取り除いてください。

●センサーの汚れを取り除いても表示が出るとき、センサーが汚れていなくても表示がでるときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●アドバンストパーク装着車の場合はドアが開いていると周囲静止物の検知ができません。全てのドアが閉まっていることを確認してください。

パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物★）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

駐車時や低速走行時において、壁などの静止物への衝突のおそれがあるときや、アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急発進、および、シフトポジション選択を誤って発進時に、センサーが前後進行方向の静止物を検知するとシステムが作動し、衝突を緩和し衝突被害低減に寄与します。

システム作動例（前後方静止物）

次のようなときに進行方向の静止物を検知してシステムが作動します。

■ 低速走行時にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき

■ アクセルペダルを踏みすぎてしまったとき

■ 誤ってシフトポジションを D にして前進してしまったとき

■ 前進中に内輪差で巻き込みによる衝突

■ 後退中に外輪差で巻き込みによる衝突

システム作動例（周囲静止物）（アドバンストパーク装着車）

次のようなときに周囲の静止物を検知してシステムが作動します。

センサーの種類

→P.266

警告

■ システムを正しく作動させるために

→P.267

警告

■万一、踏切内などで PKSB（パーキングサポートブレーキ）が誤って作動したときは

→P.288

■洗車時の注意

→P.268

知識

■パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯（→P.92, 440）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●FC システム出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
・車速が約 15km/h 以下
・車両進行方向に作動対象となる静止物があるとき（約 2 ～ 4m 先まで）
・衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
・FC システム出力抑制制御作動中
・衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（周囲静止物）の作動開始条件 （アドバンストパーク装着車）

前後方静止物の作動条件に加えて、次の条件のいずれかを満たすと作動します。

●FC システム始動後、車両が 7m 移動するあいだ

●シフトポジションが R のとき

●シフトポジションが R から D にしたあと、車両が 7m 移動するあいだ

■パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●FC システム出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとシステムが判断したとき
・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m 先まで）

●ブレーキ制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき
・車両進行方向の作動対象となる静止物がなくなったとき（約 2 ～ 4m まで）

■パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）の検知範囲は、クリアランスソナーの検知範囲（→P.271）とは異なります。そのため、クリアランスソナーが静止物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（前後方静止物／周囲静止物）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正しく検知できないことがある静止物

→P.269

■巻き込み警報機能について

→P.274

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.269

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.270

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況（周囲静止物）（アドバンストパーク装着車）

パーキングサポートブレーキ（前後方静止物）の作動条件（→P.291）に加えて、次のような状況では、センサーが検知するおそれがあります。

●縦列駐車時など側方の幅寄せをするとき

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）

後側方レーダーセンサーで自車の右後方または左後方から接近している車両を検知し、システムが衝突の危険性があると判断した場合にブレーキ制御をすることで、接近車両への衝突を緩和し衝突被害軽減に寄与します。

システム作動例

次のようなときに進行方向の車両を検知してシステムが作動します。

■ **後退時、近接車両接近中にブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったとき**

センサーの種類

→P.263

警告

■システムを正しく作動させるために

→P.263

知識

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯（→P.92, 440）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●FC システム出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
・車速が約 15km/h 以下
・後側方から接近する車両の車速が約 8km/h 以上
・シフトポジションが R のとき
・後側方からの接近車両への衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
・FC システム出力抑制制御作動中
・接近車両への衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●FC システム出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
・自車後側方への接近車両がなくなったとき

●ブレーキ制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき

■パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）の検知範囲は、RCTA の検知範囲（→P.277）とは異なります。そのため、RCTA が障害物との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）は作動を開始していない場合があります。

■RCTA のブザーについて

RCTA の機能の ON/OFF に関係なく、PKSB（パーキングサポートブレーキ）を停止させていなければ、ブザーが鳴り注意喚起をおこないます。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

→P.278

■衝突の可能性がなくてもシステムが作動する状況

→P.279

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車両後退時、リヤカメラが検知した車両後方にいる歩行者と接触する可能性が高いとシステムが判断した場合は、警報やブレーキ制御により、後方歩行者との衝突を緩和し、衝突被害軽減に寄与します。

システム作動例

後退時、歩行者が車両後方に接近中、ブレーキペダルを踏み損なってしまった、または踏み遅れてしまったときにシステムが作動します。

後方歩行者の画面表示

車両後方の歩行者を検知すると自動的に表示され、回避操作を促します。マルチメディア画面上に表示されます。

A 歩行者検知表示

B “ブレーキ！”

警告

■**万一、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）が誤って作動したときは**

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）作動後はすぐにブレーキを踏んでください。（ブレーキを踏むとシステムは解除されます。）

■**パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）を正しくお使いいただくために**

→P.281

注意

■**マルチインフォメーションディスプレイに“パーキングサポートブレーキ 現在使用できません リアカメラの汚れを除去してください”が表示され、PKSB OFF 表示灯が点灯したときは**

パワースイッチを ON にした直後に、上記表示が出ることがあります。その場合は周囲を確認しながら注意して走行してください。

知識

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動開始条件

PKSB OFF 表示灯が点灯（→P.92, 440）しておらず、次の条件をすべて満たすと作動します。

●FC システム出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を ON（作動）にしているとき
・車速が 15km/h 以下
・シフトポジションが R のとき
・自車後方に歩行者がいる
・衝突回避には、通常よりやや強めのブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

●ブレーキ制御
・FC システム出力抑制制御作動中
・後方歩行者との衝突回避には、急ブレーキ操作が必要とシステムが判断したとき

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の作動終了条件

次のいずれかの条件のときに作動が終了します。

●FC システム出力抑制制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・通常のブレーキ操作で衝突回避が可能になったとき
・後方歩行者がいなくなった、または検知できなくなったとき

●ブレーキ制御
・PKSB（パーキングサポートブレーキ）を OFF（非作動）にしたとき
・ブレーキ制御により車両が停止して約 2 秒が経過したとき
・ブレーキ制御により車両が停止したあとに、ブレーキペダルを踏んだとき

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の復帰について

→P.288

■パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲について

パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）の検知範囲は、RCD の検知範囲（→P.282）とは異なります。そのため、RCD が後方歩行者との接近をお知らせしても、パーキングサポートブレーキ（後方歩行者）は作動を開始していない場合があります。

■システムが正常に作動しないおそれがあるとき

→P.283

■システムが作動するおそれがあるとき

→P.283

トヨタチームメイト アドバンストパーク★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

機能概要

アドバンストパークは、画面表示や音声・ブザー音による操作案内および、ハンドル操作、アクセル、ブレーキ、シフトチェンジの全操作を車両が支援するとともに、俯瞰映像に車両周辺の死角や目標駐車位置などを常に表示し、安全・安心でスムーズな駐車や出庫を実現するシステムです。また、パノラミックビューモニター※で、障害物の位置をディスプレイのカメラ映像上に表示することで、運転者に周辺状況をわかりやすく伝えます。駐車時の路面や自車の状況・目標駐車位置までの距離などにより、設定した目標駐車位置に到達できない場合があります。

※パノラミックビューモニターの詳細は、別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

機能一覧

■ 並列前向き・バック駐車機能

目標駐車位置の横に停車した状態から、目標駐車位置までアシストを行います。（→P.303）

■ 並列前向き・バック出庫機能

並列駐車状態からアシストを開始し、駐車スペースから出られる位置までアシストを行います。（→P.305）

■ 縦列駐車機能

目標駐車位置の横に停車した状態から、目標駐車位置までアシストを行います。（→P.306）

■ 縦列出庫機能

縦列駐車状態からアシストを開始し、駐車スペースから出られる位置までアシストを行います。（→P.309）

■ メモリ機能

事前に登録した駐車スペースまでアシストを行います。（→P.311）

警告

■安全にお使いいただくために

本システムは認識性能・制御性能に限界があります。システムを過信せず、運転者は常に自らの責任で周囲の状況を把握し、安全運転を心がけてください。

- 一般の車と同様、必ず車両周辺の安全を直接確認しながら慎重に前進または後退してください。
- システムを使用するときは、必ず車両周辺の安全を直接確認してください。必要であれば、減速、停車のためにブレーキを踏んでください。
- 駐車するときは、必ず目標駐車位置に車を駐車できるかを確認してから操作を行ってください。
- 駐車時の路面や自車の状況、駐車スペースまでの距離などにより、駐車スペースを認識できなかったり、最後までアシストできないことがあります。

警告

●本システムは適切な経路で切り返し位置の案内を出しますが、隣接車両への接近など、運転者が不安に感じた場合は、任意のタイミングでブレーキを踏んでからシフトポジションを切りかえてください。ただし、切り返し回数が多くなったり、駐車精度が悪化することがあります。

●次のようなものは検知できないことがあるため、周辺の安全を直接確認し、接触のおそれがある場合はブレーキを踏んで停車してください。

・針金・フェンス・ロープなどの細いもの

・綿・雪などの音波を吸収しやすいもの

・鋭角的な形のもの

・背の低いもの（縁石やブロックなど）

・背が高く上部が張り出しているもの

●駐車スペース内に障害物が存在しても、検出できずにアシストすることがあります。

●周辺の車両や障害物、車止め、人などに接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを中止してください。

●マルチメディア画面だけを見ながら走行することは絶対にしないでください。画面に映っている映像と実際の状況は異なることがあり、画面だけを見て走行すると車をぶつけたり、思わぬ事故を引き起こすおそれがあります。走行するときは、必ず目視やミラーなどで周辺の安全を直接確認してください。

●外気温が低い場合、画面が暗くなったり、映像が薄れることがあります。とくに動いているものの映像が歪む、または画面から見えなくなることがあるため、必ず周囲の安全を直接目で確認しながら運転してください。

●次のとき、アドバンストパークによる停車保持が解除され、車両が動き出すおそれがあります。思わぬ事故につながるおそれがあるため、ただちにブレーキペダルを踏んでください。

・作動中に運転席のドアが開けられたとき

・作動中に一定時間システムの指示に従わなかったとき

・作動中に一定時間ブレーキペダルを踏んで停車しているとき

・作動中に故障が発生したとき

●使用中はハンドルが回転するため、次の点に注意してください。

・ネクタイ・スカーフ・腕などを巻き込むおそれがあります。上体をハンドルに近づけないでください。また、お子さまがハンドルに近づかないよう注意してください。

・爪が長いとハンドルが回転する際にけがをするおそれがあります。

・万一のときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを中止してください。

●使用中は窓から手を出さないでください。

■アドバンストパークを正しく作動させるために

必ず次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

警告

●次のような状況では使用しないでください。

・駐車場以外の場所

・砂地、砂利地のような駐車スペースのない整備されていない駐車場

・傾斜、段差のある平坦でない駐車場

・機械式駐車場

・車両下部に接触して固定する装置がある駐車場

・凍結したり、すべりやすい路面、または雪道

・真夏の炎天下でアスファルトがとけているようなとき

・車両周辺に障害物があるとき

・目標駐車位置（青色の枠の中）や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物があるとき

・目標駐車位置（青色の枠の中）や自車と目標駐車位置とのあいだに側溝があるとき

・出庫方向に穴や側溝があるとき

・人や車両などの通行量が多いとき

・駐車スペースの確保が困難な場所（車両が入らないほど狭いなど）

・カメラのレンズの汚れ・西日・影・雪などで画面が見にくいとき

・タイヤチェーン・応急用タイヤを使用しているとき

・ドアまたはトランクが完全に閉まっていないとき

・窓から手を出しているとき

・降雪や豪雨のとき

●メーカー出荷時装着タイヤ以外のタイヤは使用しないでください。アドバンストパークが正常に作動しないおそれがあります。また、タイヤを交換すると、画面に表示される線や枠の表示位置に誤差が生じることがあります。タイヤを交換するときはトヨタ販売店にご相談ください。

●次のような状況では、設定した位置にアシストできない場合があります。

・タイヤが極端に摩耗していたり、空気圧が低いとき

・極端に重いものを積んでいるとき

・車両の片側にだけ荷物などを積んで車両が傾いているとき

・駐車場にロードヒーター（路面凍結防止用のヒーター）が設置されているとき

・タイヤを縁石などに強く当てて、ホイールアライメントが正常でないとき

・アシスト中に歩行者や通行車両を検知したとき

・区画線と認識してしまうようなもの（光・建物の映り込み・段差・側溝・路面ペイント・引き直し線など）があるとき

上記以外で設定位置と車両の位置が大きくずれる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

注意

■アドバンストパークをお使いいただくために

補機バッテリーを脱着したときやあがったときはドアミラーの開閉を実施してください。

アドバンストパークで使用するカメラとセンサーの種類

カメラとセンサーにより駐車車両を検出して、駐車位置を特定しやすくします。

▶ フロントカメラ

▶ サイドカメラ

▶ リヤカメラ

▶ センサー

→P.266

知識

■カメラの映像について

特殊なカメラを使用しているため、実際と異なる色味で表示されることがあります。

■使用上の注意点について

次の内容は、別冊「マルチメディア取扱書／周辺監視／パノラミックビューモニター」を参照してください。

●画面の映る範囲について

●カメラについて

●画面と実際の路面との誤差について

●画面と実際の立体物との誤差について

■カメラとセンサーの検知範囲について

●駐車車両が目標駐車位置の奥にある場合は、距離が遠くなるため検出できないことがあります。駐車車両の形状や条件によっては検出距離が短くなったり、検出できないことがあります。

●柱や壁など駐車車両以外は検出できないことがあります。また、検出できても目標駐車位置がずれることがあります。

■区画線認識が正常に作動しないおそれのある状況

●次のような状況では、路面の区画線を検出することができない場合があります。

・区画線のない駐車場（駐車スペースがロープ、ブロックなどでつくられている場合）

・区画線がかすれや汚れなどによってはっきり見えないとき

・路面が白っぽく白線とのコントラスト差が小さいとき（コンクリート路面に白線など）

・路面の区画線が黄色と白以外の色のとき

・夜間や地下、立体駐車場など周囲が暗

いとき
・降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあるとき
・朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入るとき
・積雪や融雪剤があるとき
・路面補修痕、路面表示などやポールなどの障害物があるとき
・路面の色や明るさが一様でないとき
・カメラにお湯や水をかけたときなど、レンズが曇っているとき
・自車の影や木陰などの影響を受けてしまった場合
・カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき

●次のような状況では、目標駐車位置を誤認識する場合があります。
・路面補修痕、路面標示などや車止め、ポールなどの障害物があるとき
・降雨時や雨上がりなど、路面が濡れて光っていたり、水たまりがあるとき
・車両周辺が暗いときや逆光のとき
・路面の色や明るさが一様でないとき
・勾配がついている駐車場
・ゼブラゾーンのある駐車スペース
・駐車車両の影響を受けてしまった場合（駐車車両の影、駐車車両のグリルやサイドステップなど）
・カメラの視界をさまたげるようなアクセサリーを取り付けたとき
・区画線のかすれや汚れなどによってはっきり見えないとき
・自車の影や木陰などの影響を受けてしまった場合

■**センサーの検知について**

→P.268

■**センサーが正しく検知できないことがある静止物**

→P.269

■**センサーが正常に作動しないおそれのある状況**

→P.269

■**衝突の可能性がなくてもアシストが作動する状況**

→P.270

警告

■**カメラとセンサーの取り扱いについて**

●カメラのレンズの特性により、画面に映る人や障害物は、実際の位置や距離と異なります。詳しくは別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

●センサーが正常に作動しなくなり、思わぬ事故につながるおそれがありますので、クリアランスソナー使用時の注意を参照してください。→P.267

●次のとき、センサーが正常に作動しないことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。注意して運転してください。

・目標駐車位置の隣に駐車車両があるにもかかわらず、駐車枠が目標駐車位置から大きくずれた位置に表示されるときは、センサーの角度がずれているおそれがあります。トヨタ販売店で点検を受けてください。

・センサーが検知する範囲には、アクセサリー用品などを取り付けないでください。

アドバンストパークの ON/OFF を変更する

アドバンストパークメインスイッチを押す

アシスト中にスイッチを押すと、アシス

トを中止します。

知識

■アドバンストパークの作動条件

次の条件をすべて満たしているときにアシストを開始できます。

- ブレーキペダルを踏んでいる
- 停車している
- 運転席シートベルトを着用している
- ハンドルを操作していない
- アクセルペダルを踏んでいない
- ドアおよびトランクが閉まっている
- ドアミラーが格納されていない
- パーキングブレーキがかかっていない
- レーダークルーズコントロールが作動していない
- ABS・VSC・TRC・PCS・PKSB が作動していない
- 急勾配でない
- TRC または VSC を OFF にしていない

アシストを開始できないときは、マルチメディア画面のメッセージを確認してください。（→P.318）

アドバンストパークのガイド画面を使う

マルチメディア画面に表示されます。

▶ ガイド画面（開始時）

A 目標駐車枠（青色）

B アドバイス表示

C 駐車形態切りかえスイッチ

複数表示された場合は、スイッチの表示状態により次のことができます。

P または P：他の駐車可能な位置に変更

P または P：選択されている駐車位置

(P)：縦列駐車機能への切りかえ

P：並列前向き・バック駐車機能への切りかえ

D “MODE” スイッチ

メモリ機能と、並列前向き・バック駐車機能、縦列駐車機能を切りかえます。（→P.313）

E “開始” スイッチ

駐車アシストを開始します。

F 並列駐車向き切りかえスイッチ

並列前向き駐車機能と並列バック駐車機能を切りかえます。

：並列前向き駐車への切りかえ

：並列バック駐車への切りかえ

G カスタマイズ設定スイッチ

アドバンストパークの設定画面に切りかわります。（→P.316）

H 登録開始スイッチ

駐車スペースの登録を開始します。

▶ ガイド画面（後退時）

A 作動中アイコン

アドバンストパークが作動中に表示されます。

B ガイド線（黄色と赤色）

車両の前端部または後端部から目標停車位置までの距離※（黄色）と約 0.3m 先（赤色）を示しています。

C 移動物警報アイコン

D 緊急ブレーキ制御の作動表示

“ブレーキ！”と表示されます。

E クリアランスソナー表示

→P.266

※ 2.5m 以上の位置に目標停車位置がある場合は、横線（黄色）が非表示になります。

知識

■クリアランスソナーの割り込み表示について

アドバンストパーク作動中は、クリアランスソナーの ON/OFF（→P.267）に関係なく、クリアランスソナーが障害物を検知すると、ガイド画面に自動的にクリアランスソナー表示が割り込み表示されます。

■アドバンストパーク作動中の緊急ブレーキ制御の作動について

アドバンストパーク作動中は、衝突の可能性がある移動物または静止物を検知したとき、FC システム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動します。

ブレーキ作動後はアドバンストパークの作動を中断し、ブレーキの作動がマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■音声案内について

システムの作動状態、運転者への操作案内を音声でお知らせします。

音量はマルチメディアシステムの設定に連動します。

■ブザー音について

他システムや周囲の音により、本システムのブザー音が聞き取りづらくなることがあります。

■アドバンストパーク作動中にマルチメディア画面が黒くなったときは

無線の電波による影響を受けているか、システムに何らかの異常が発生しているおそれがあります。無線のアンテナをカメラ近くに設置している場合は、できるだけ離して設置してください。無線のアンテナがカメラの近くになく、パワースイッチを一度 OFF にしてから再度 FC シ

ステムを始動しても画面が正常に表示されない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

アドバンストパークの並列前向き・バック駐車機能を使う

目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、並列前向き・バック駐車機能を使用することができます。また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

■ 並列前向き・バック駐車機能を使用して駐車する

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で車両を停車する

▶ 区画線がある場合

A 約 1m※

B 約 2.5m※

C 約 6m 以上※

D 約 5.5m 以上※

片側しか区画線がない場合でも作動します。

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

▶ 隣接車両がある場合

A 約 1m※

B 約 3m 以上※

C 約 6m 以上※

D 約 5.5m 以上※

片側しか隣接車両がいない場合でも作動します。

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

2 アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディア画面に駐車可能なスペースが表示されたことを確認する

● 自車が駐車できるスペースがある場合に目標駐車枠が表示されます。

● 縦列駐車が可能な場合、駐車スペースを選択して、 にタッチすると縦列駐車機能に切りかわります。

● 入庫向きの変更が可能な場合、駐車スペースを選択して、 もしくは にタッチすると、入庫向きが変更できます。

● 環境によっては使用できない場合があります。マルチメディア画面の表示内容を参考に別の駐車スペースで使用してください。

3 “開始” スイッチにタッチする

“ピッ” という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。

● ブレーキペダルを離すと、“前進します” または “後退します” の音声案内と表示が出たあと、前進・後退が始まります。

● アシストを中止するには、アドバンストパークメインスイッチを押します。

アシストが中止されると “Advanced Park を中止しました” の音声案内と表示が出ます。

周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは：→P.304

4 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が停車したら、“Advanced Park を終了しました” の音声案内と表示が出たあと、駐車アシストを終了します。

マルチメディア画面の にタッチすると、駐車アシスト完了画面の車両が回転します。

知識

■周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは

ブレーキペダルを踏んで停車し、進行方向とは逆のシフトポジションに切りかえてください。このときアシストは中断されますが、マルチメディア画面の “再開” スイッチにタッチするとシフトポジションの方向へアシストを再開します。

■ブレーキが作動したとき

ブレーキが作動したときにブレーキの作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

注意

■並列前向き・バック駐車機能を使用するときは

●黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物がないことを必ず確認してください。黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置のあいだに障害物がある場合は中止してください。

●路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では使用しないでください。

●狭いスペースに駐車するときは隣接車両に接近します。接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車してください。

●駐車車両の車幅が狭いときや駐車車両が路肩側に極端に近いときは、駐車をアシストする位置も路肩に接近します。接触、脱輪しそうなときはブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを解除してください。

アドバンストパークの並列前向き・バック出庫機能を使う

並列駐車スペースから出庫する際、システムが出庫可能と判断すれば、並列前向き・バック出庫機能を使用することができます。また、周辺の環境により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

■ 並列前向き・バック出庫機能を使用して出庫する

1 ブレーキを踏み、シフトポジションが P の状態でアドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディア画面が出庫方向を選択する画面に切りかわったことを確認する

2 マルチメディア画面上の矢印で、出庫したい方向を選択する

方向指示レバーを使って操作する場合は、左右方向のみ選択することができます。

3 ブレーキペダルを踏んで“開始”スイッチにタッチする

“ピッ”という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。

アシストを中止するにはアドバンストパークメインスイッチを押します。

アシストが中止されると“Advanced Park を中止しました”の音声案内と表

示が出ます。

周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは：→P.304

4 車両が出庫可能位置に到達するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が出庫可能な位置に到達すると“ハンドルを操作すると終了できます”のメッセージが表示され、ハンドル操作すると、“Advanced Park を終了しました”の音声案内と表示が出たあと、アシストが終了します。走行中にアシストを終了するので、そのままハンドルを持ち、前進してください。ハンドル操作がない場合は、出庫完了位置に停車するため、ブレーキペダルまたはアクセルを踏むと終了できます。

知識

■ **周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは**

→P.304

■ **並列前向き・バック出庫機能について**

並列駐車から出庫する以外の目的では、並列前向き・バック出庫機能を使用しないでください。万が一、誤ってアシストを開始してしまった場合は、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを操作してアシストを中止してください。

■ **並列前向き・バック出庫機能が作動しない状況**

次のような状況では並列前向き・バック出庫は作動しません。

●出庫方向に駐車待ちの車両がある場合

●フロントまたはリヤのセンター・コーナーセンサー付近に壁・柱などの障害物がある場合や、人がいる場合

■ **ブレーキが作動したとき**

→P.304

アドバンストパークの縦列駐車機能を使う

目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車し、駐車スペースが検出できれば、縦列駐車機能を使用することができます。また、駐車スペースなどの状況により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

■ 縦列駐車機能を使用して駐車する

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する

▶ 区画線がある場合

A 約 1m※

B 約 6m※

C 約 4.5m 以上 ※

D 約 8m 以上 ※

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

▶ 駐車車両がある場合

A 約 1m※

B 約 7m 以上 ※

C 約 4.5m 以上 ※

D 約 8m 以上 ※

※ 駐車スペースとして検出させるための目安です。周囲の環境によっては検出できないことがあります。

2 アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディア

画面に駐車可能なスペースが表示されたことを確認する

● 自車が駐車できるスペースがある場合に目標駐車枠が表示されます。

● 並列前向き・バック駐車が可能な場合、駐車スペースを選択して、にタッチすると並列前向き・バック駐車機能に切りかわります。

● 周囲の環境によっては使用できないことがあります。マルチメディア画面の表示内容を参考に別の駐車スペースで使用してください。

3 “開始” スイッチにタッチする

“ピッ” という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。

● ブレーキペダルを離すと、“前進します” の音声案内と表示が出たあと、前進が始まります。

● アシストを中止するには、アドバンストパークメインスイッチを押します。

アシストが中止されると “Advanced Park を中止しました” の音声案内と表示が出ます。

周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは：→P.304

4 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が停車したら、“Advanced Park を終了しました” の音声案内と表示が出たあと、駐車アシストを終了します。

マルチメディア画面のにタッチすると、駐車アシスト完了画面の車両が回転します。

知識

■周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは

→P.304

■“駐車できる場所が見つかりません”が表示されたときは

駐車位置の横に停車しても駐車車両を検知できていない場合があります。駐車車両を検知できる位置まで進むと開始できる場合があります。

■ブレーキが作動したとき

→P.304

注意

■縦列駐車機能を使用するときは

●黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置とのあいだに障害物がないことを必ず確認してください。黄色のガイド線の中や自車と目標駐車位置のあいだに障害物がある場合は、縦列駐車機能は中断・中止されます。

●路面に段差や勾配があると正しい位置に目標駐車位置を設定できないため、駐車位置がずれたり、車両が傾くことがあります。このような場所では、縦列駐車機能は使用しないでください。

●隣接車両の車幅が狭いときや駐車車両が路肩側に極端に近いときは、駐車をアシストする位置も路肩に接近します。接触、脱輪しそうなときはブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを解除してください。

●駐車スペースの奥側に壁などがある場合は、通路に少しはみ出した位置に目標駐車位置が設定されることがあります。

アドバンストパークの縦列出庫機能を使う

縦列駐車スペースから出庫する際、システムが出庫可能と判断すれば、縦列出庫機能を使用することができます。また、周辺の環境により、切り返しが必要な場合は、切り返し操作もアシストします。

■ 縦列出庫機能を使用して出庫する

1 ブレーキを踏み、シフトポジションが P の状態でアドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディア画面が出庫方向を選択する画面に切りかわったことを確認する

2 マルチメディア画面上の矢印で、出庫したい方向を選択する

方向指示レバーを使って操作する場合は、左右方向のみ選択することができます。

3 ブレーキペダルを踏んで “開始” スイッチにタッチする

“ピッ” という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。

アシストを中止するにはアドバンストパークメインスイッチを押します。

アシストが中止されると “Advanced Park を中止しました” の音声案内と表示が出ます。

周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは：→P.304

4 車両が出庫可能位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

車両が出庫可能な位置に到達すると “ハンドルを操作すると終了できます” のメッセージが表示され、ハンドル操作すると “Advanced Park を終了しました” の音声案内と表示が出たあと、アシストが終了します。走行中にアシストを終了するので、そのままハンドルを持ち、前進してください。ハンドル操作がない場合は、出庫完了位置に停車するため、ブレーキペダルまたはアクセルを踏むと終了できます。

知識

■周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは

→P.304

■縦列出庫機能について

縦列駐車から出庫する以外の目的では、縦列出庫機能を使用しないでください。万が一、誤ってアシストを開始してし

まった場合は、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを操作してアシストを中止してください。

■縦列出庫機能が作動しない状況

次のような状況では縦列出庫機能は作動しません。

●出庫方向に信号待ちの車両がある場合

●出庫方向の後方に車両が待っている場合

●フロントまたは、リヤのサイドセンサー付近に壁、柱などの障害物がある場合や、人がいる場合

●縁石に乗り上げて駐車し、サイドセンサーが路面を検知している場合

●車両の前方に駐車車両がない場合

●車両の前端と駐車車両との間隔があきすぎている場合

■ブレーキが作動したとき

→P.304

アドバンストパークのメモリ機能を使う

事前に駐車スペースを登録することで、区画線や隣接車両のいない駐車スペースでも使用することができます。
登録できる駐車スペースは3つです。

■ 駐車スペースの登録

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する

A 約 1m

2 アドバンストパークメインスイッチを押し、にタッチする

区画線や隣接車両のいない駐車スペースでアドバンストパークメインスイッチを押した場合、”駐車できる場所が見つかりません”と表示されることがありますが、続けてにタッチしてください。

3 並列（前向き・バック）駐車または縦列駐車を選択する

アシスト可能な駐車スペースのみが表示されます。

4 駐車の向きを選択する

手順 **3** で並列（前向き・バック）駐車を選択した場合：

手順 **3** で縦列駐車を選択した場合：

5 登録する駐車スペースの位置を方向キーで調整し、“設定完了”スイッチにタッチする

6 “開始”スイッチにタッチする

“ピッ”という音が鳴り、マルチインフォメーションディスプレイに作動中のメッセージを表示して、アシストが開始されます。ブレーキペダルを離すと、“前進します”の音声案内と表示が出たあと、前進が始まります。

周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは：→P.304

7 車両が目標駐車位置に停車するまで、音声案内とアドバイス表示の指示に従って操作する

8 車両が停車したら登録する位置を確認して、必要に応じて方向キーで調整したら、“登録”スイッチにタッチする

マルチメディア画面に“登録を完了しました”と表示されます。

● 太枠内に障害物がない位置で登録してください。

● 調整できる範囲には限りがあります。

■ **メモリ機能を使用して登録した駐車スペースに駐車する**

1 目標駐車位置の中央がほぼ真横に見える位置で停車する

A 約 1m

2 アドバンストパークメインスイッチを押し、マルチメディア画面に駐車可能なスペースが表示されたことを確認する

“MODE”スイッチが表示されたときは、スイッチをタッチすることで、メモリ機能と並列前向き・バック駐車機能、縦列駐車機能を切りかえることができます。

3 駐車したいスペースを選択し、“開始” スイッチにタッチします

このあとの手順は、並列前向き・バック駐車機能の手順 **3** 以降と同じです。（→P.303）

知識

■**周辺の車両や障害物・人・溝などに近いと感じたときは**

→P.304

■**登録した駐車スペースを上書きするときは**

登録した駐車スペースのメモリが上限になっている状態で にタッチすると、上書きするメモリを選択して、新しいメモリを登録することができます。

■**登録した駐車スペースが複数あるときは**

駐車スペースを選択してから、“開始” にタッチします。

■**ブレーキが作動したとき**

→P.304

注意

■**メモリ機能を使用するときは**

→P.305, 309

●メモリ機能は、事前に登録した駐車スペースへアシストするシステムです。路面や自車の状況、周囲の環境が登録時と異なる場合、正しく駐車位置を認識できなかったり、最後までアシストできなかったりする場合があります。

●次のような状況では、駐車スペースの登録を実施しないでください。設定した位置に登録できない、または次回以降のアシストができなくなる場合があります。

・カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき

・雨雪が降っているとき

・夜間（周囲が暗いとき）

●次のような環境では、駐車スペースの登録を実施できない場合があります。

・道幅と駐車位置に十分なスペースがない駐車場

・駐車スペース周辺にシステムが認識できる路面模様がない駐車場

●次のような環境で駐車スペースの登録をした場合、次回以降のアシストが開始できない、または設定した位置にアシストできない場合があります。

注意

・駐車スペースに影が出ているとき（カーポートがある駐車場など）

・駐車スペースに落ち葉・ゴミ（次回以降なくなる、または移動する可能性があるもの）が落ちているとき

・駐車スペース周辺の路面が同一の模様で構成されているとき（レンガなど）

●次のような状況では、設定した位置にアシストできない場合があります。

・自車の影や木陰などの影響を受けてしまったとき

・設定した駐車スペースに障害物があるとき

・システム作動中に歩行者や通行車両を検知したとき

・アシスト開始時の車両停車位置が登録したときと異なるとき

・輪止めなどにより、設定した駐車スペースに到達できないとき

・駐車スペース周辺の路面模様が変化したとき（路面の経年劣化、リフォーム等）

・日照条件が登録したときと異なるとき（天気・時間帯）

・朝日や夕日など、太陽の光がカメラに入るとき

・路面の色や明るさが一様でないとき

・駐車スペースに一時的な光（他車のライトや防犯用ライトなど）が差し込んでいるとき

・駐車スペース周辺の路面が同一の模様で構成されているとき

・駐車スペース周辺の路面に低い突起物のようなものがあるとき

・勾配がある駐車場

・カメラにお湯や水をかけたときなど、レンズが曇っているとき

・カメラのレンズが汚れたり、水滴が付着しているとき

・カメラの視界をさまたげるようなアクセサリーを取り付けたとき

登録中に制御終了した場合は、再度登録し直してください。

●メモリ機能を登録するとき、路面から模様を検出できない場所では、“登録に必要な駐車目標が見つかりません”と表示されることがあります。

●メモリ機能を使用するときは、停めたい駐車スペースの真横に停車してください。正しく駐車位置を認識できなかったり、最後までアシストできなかったりする場合があります。

●カメラ部をぶつけたときや、パノラミックビューモニター映像のつながりが著しくずれている場合、メモリ機能を使用しないでください。

⚠注意

● カメラ故障時・交換時は、カメラの取り付け角度が変わるため、メモリ機能の登録をやり直す必要があります。

アドバンストパークを中止・中断する

■ アシストが中止されるとき

次のような状況のとき、アドバンストパークのアシストを中止します。ハンドルをしっかり持ち、ブレーキペダルをしっかり踏んで車両を停止してください。

システムが解除されているため、最初からやり直すか、通常通りハンドルを操作して駐車してください。

- アドバンストパークメインスイッチを押した
- シフトポジションを P に変更した
- パーキングブレーキをかけた
- ドアまたはトランクを開けた
- 運転席シートベルトをはずした
- ドアミラーを格納した
- TRC・VSC を OFF にした
- TRC・VSC・ABS が作動した
- パワースイッチを押した
- システムがアシスト継続できない駐車環境と判断した
- システム異常
- 停止中にマルチメディア画面上で“中止”にタッチした

■ アシストが中断されるとき

次のような状況のとき、アドバンストパークのアシストを中断します。

マルチメディア画面の指示に従うことでアシストを再開できます。

また、アシストが中断されているときにブレーキを踏みながらシフトポジションを 2 回変更した場合は、そのシフトポジションのままでアシストを中止します。ただし、シフトポジションを変更してアシストが中断した場合は、1 回のシフトポジション変更によりアシストを中止します。

- ハンドルを操作した
- アクセルペダルを踏んだ
- シフトポジションを変更した
- 衝突の可能性がある移動物または静止物を検知し、FC システム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動した
- カメラスイッチを押した

アドバンストパークの設定を変更する

マルチメディア画面の ⚙ にタッチして、“Advanced Park” にタッチします。

■ 音声案内

音声案内の ON/OFF を設定できます。

■ 速度モード

アシスト中の自車の速度を設定できます。

メモリ機能で登録時は設定できません。

■ 障害物回避距離

アシスト中に回避する障害物との

距離を設定できます。

■ 優先駐車方法

並列前向き・バック駐車と縦列駐車のどちらでも駐車可能なとき、優先的に表示する駐車方法を設定できます。

■ 優先駐車向き

並列前向き駐車と並列バック駐車がどちらも可能な時に、優先的に表示する駐車向きを選択できます。

■ 優先出庫方向（並列）

並列前向き出庫と並列バック出庫で左右どちらへも出庫可能な時に、優先的に表示する方向を選択できます。

■ 優先出庫方向（縦列）

縦列出庫で左右どちらへも出庫可能な時に、優先的に表示する方向を選択できます。

■ 駐車時の映像

並列前向き・バック駐車中、縦列駐車中に表示するカメラ映像の画角の設定ができます。

■ 出庫時の映像

並列前向き・バック出庫中、縦列出庫中に表示するカメラ映像の画角の設定ができます。

■ 駐車進路調整

駐車アシスト中の進路が外側にふくらんでしまうとき、内側に寄ってしまうときに進路を調整できます。

タイヤがすり減ったりしたとき、駐車進路が駐車する場所の中心からずれてしまいます。その場合、駐車進路を調整してください。

■ 道幅調整

駐車アシスト開始時、前進するときの横方向の移動量を調整できます。

■ 駐車位置調整（前向き）

並列前向き駐車の駐車完了位置を調整できます。（メモリ機能は除く）

■ 駐車位置調整（バック）

並列バック駐車の駐車完了位置を調整できます。（メモリ機能は除く）

■ 後部取付部品設定

車両後部にトレーラーヒッチなどを取り付けたとき、後方障害物との接触を防ぐために、車両後部の長さを調整できます。

■ 登録した駐車場所の消去

メモリ機能で登録した駐車スペースを消去できます。アシスト中とメモリ機能の登録中は消去できません。

⚠ 注意

- “駐車位置調整（前向き）”、“駐車位置調整（バック）” による調整により、車止めや縁石など低いものへ接触するおそれがあるため、注意して使用してください。
- 周辺の車両や障害物・車止め・縁石などに接触しそうなときは、ブレーキペダルを踏んで停車し、アドバンストパークメインスイッチを押してシステムを中止してください。

マルチメディア画面に表示されるアドバンストパークのメッセージ

アドバンストパークの作動状態や操作のアドバイスなどをマルチメディア画面に表示します。メッセージが表示されたときは、内容に従って対処してください。

知識

■ “駐車できる場所が見つかりません”が表示されたときは

駐車スペース、または認識できる駐車枠がある場所に移動して使用してください。

■ “この環境では使用できません”が表示されたときは

別の場所に移動して使用してください。

■ “出庫可能なスペースがありません”が表示されたときは

自車前後と駐車車両との間隔が狭い、または出庫方向に障害物があるなどの状況により、縦列出庫機能を使用できません。周囲の状況を確認した上で、運転者自身の操作で出庫してください。

■ “速度が調整できません”が表示されたときは

傾斜や段差のある場所で使用したときに、速度が調整できないとシステムが判断すると、アシストを中止します。平坦な場所で使用してください。

■ “障害物を検知しました”が表示されたときは

衝突の可能性がある移動物または静止物を検知したため、FC システム出力抑制制御・ブレーキ制御が作動し、アシストを中断します。周囲の状況を確認してください。アシストを再開するときは、マルチメディア画面の“再開”スイッチにタッチしてください。

■ “登録に必要な駐車目標が見つかりません”が表示されたときは

駐車スペースを認識できない駐車場で

にタッチしたときに表示されます。システムが認識できる路面模様がある駐車場で操作してください。（→P.311）

ドライブモードセレクトスイッチ

走行・使用状況に合わせて次のモードを選択できます。

走行モードを選択するには

A マルチインフォメーション画面

B ドライブモードセレクトスイッチ

ドライブモードセレクトスイッチを押すと、走行モードが切りかわります。

1 ノーマルモード

燃費性能、静粛性、運動性能のバランスがよく、通常の走行に適しています。

2 スポーツモード

トランスミッションと FC システムの制御により、アクセル操作に対する反応を早め、力強い加速が可能です。

スポーツモード表示灯が点灯します。

3 エコドライブモード

アクセル操作に対する駆動力を穏やかにすると同時に、エアコン（暖房／冷房）の作動を抑えます。燃費の向上を意識した走行に適しています。

エコドライブモード表示灯が点灯します。

知識

■エコドライブモード時のエアコン作動について

エコドライブモードは、暖房／冷房の作動や風量を抑制して、燃費向上を図っています。空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。

- エコ空調モードを OFF にする（→P.338）
- 風量を調整する（→P.338）
- エコドライブモードを解除する

■スポーツモードの自動解除

スポーツモードを選択して走行後、パワースイッチを OFF にすると、自動でノーマルモードにもどります。

スノーモード

雪道など、すべりやすい路面での発進・走行するときに適しているモードです。

スノーモードに切りかえるには

スノーモードスイッチを押す

スイッチを押すとスノーモードに切りかわり、マルチインフォメーションディスプレイにスノーモード表示灯が点灯します。

再度スイッチを押すと、スノーモードが解除されます。

▶ タイプ A

▶ タイプ B

知識

■スノーモードの自動解除

スノーモードを選択して走行後、FC システムを停止すると、自動的に通常走行モードに切りかわります。

運転を補助する装置

走行の安全性や運転性能を確保するため、走行状況に応じて次の装置が自動で作動します。ただし、これらの装置は補助的なものなので、過信せずに運転には十分に注意してください。

運転を補助する装置について

■ ECB（電子制御ブレーキシステム）

電子制御により、ブレーキ操作に応じたブレーキ力を発生させます。

■ ABS（アンチロックブレーキシステム）

急ブレーキ時やすべりやすい路面でのブレーキ時にタイヤのロックを防ぎ、スリップを抑制します。

■ ブレーキアシスト

急ブレーキ時などに、より大きなブレーキ力を発生させます。

■ VSC（ビークルスタビリティコントロール）

急なハンドル操作や、すべりやすい路面で旋回するときに横すべりを抑え、車両の姿勢維持に寄与します。

■ TRC（トラクションコントロール）

すべりやすい路面での発進時や加速時にタイヤの空転を抑え、駆動力確保に貢献します。

■ アクティブコーナリングアシスト（ACA）

旋回中に加速しようとするとき、内輪にブレーキ制御を行うことで、車両が外側に膨らむことを抑制します。

■ ヒルスタートアシストコントロール

上り坂で発進するときに、車が後退するのを緩和します。

■ EPS（エレクトリックパワーステアリング）

電気式モーターを利用して、ハンドル操作を補助します。

■ VDIM（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）

ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロール・EPS を総合的に制御します。
すべりやすい路面の走行などで急な運転操作をした際に、ブレーキ・FC システム出力・ハンドル操作力・タイヤの切れる角度などを制御することで、車両の安定性確保に貢献します。

■ 後方車両への接近警報

同じ車線を走行する後方車両を後側方レーダーセンサーで検出し、追突の可能性が高いと判断したときに、非常点滅灯を高速点滅させて後方車両に注意をうながします。このときマルチインフォメーションディスプレイにメッセージを表示し、後方車両の接近を運転者に知らせます。

■ 緊急ブレーキシグナル

急ブレーキ時に非常点滅灯を自動的に点滅させることにより、後続

車に注意をうながし、追突される可能性を低減させます。

■ セカンダリーコリジョンブレーキ

SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき、自動的にブレーキと制動灯を制御することで、車両を減速させ二次衝突による被害の軽減に寄与します。

■ 衝突時の急加速抑制

SRS エアバッグのセンサーが軽度の衝突を検知したときに、急アクセルによる FC システム出力を自動的に抑制することで、二次衝突による被害の軽減に寄与します。

知識

■TRC・VSC・ABS が作動しているとき

TRC・VSC・ABS が作動しているときは、スリップ表示灯が点滅します。

■TRC を停止するには

ぬかるみや砂地、雪道などから脱出するときに、TRC が作動していると、アクセルペダルを踏み込んでも FC システムの出力が上がらず、脱出が困難な場合があります。

このようなときに OFF を押すことにより、脱出しやすくなる場合があります。

TRC を停止するには OFF を押します。

マルチインフォメーションディスプレイに “TRC Off しました ” と表示されます。

もう一度 OFF を押すと、システム作動可能状態にもどります。

A “TRC Off しました ”

■TRC と VSC を停止するには

TRC と VSC を停止するには、停車時に OFF を押し 3 秒以上保持する。

VSC OFF 表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに “TRC Off しました ” と表示されます。※

もう一度 OFF を押すと、システム作動可能状態にもどります。

※ PCS（プリクラッシュセーフティー）の各機能の作動も停止します。（衝突警報のみ作動可能状態となります。）PCS 警告灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。（→P.223, 439）

■ OFF を押さなくてもマルチインフォメーションディスプレイに TRC OFF 表示がされたとき

TRC が一時的に作動できない状態になっています。表示が継続する場合はトヨタ

販売店にご相談ください。

■ヒルスタートアシストコントロールの作動条件

次のときにシステムが作動します。

●シフトポジションがPまたはN以外(前進または後退での上り坂発進時)

●車両停止状態

●アクセルペダルを踏んでいない

●パーキングブレーキがかかっていない

●パワースイッチがON

■ヒルスタートアシストコントロールの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●シフトポジションをPまたはNにした

●アクセルペダルを踏んだ

●パーキングブレーキをかけた

●ブレーキペダルから足を離して最大2秒経過した

●パワースイッチがOFF

■ABS・ブレーキアシスト・TRC・VSC・ヒルスタートアシストコントロールの作動音と振動

●FCシステム始動時や発進直後、ブレーキをくり返し踏んだときに、FCユニットルームから作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●上記のシステムが作動すると、次のような現象が発生することがありますが、異常ではありません。
・車体やハンドルに振動を感じる
・車両停止後もモーター音が聞こえる
・ABSの作動時に、ブレーキペダルが小刻みに動く
・ABSの作動終了後、ブレーキペダルが少し奥に入る

■ECBの作動音

次のような場合にECBの作動音が聞こえることがありますが、異常ではありません。

●ブレーキペダルを操作したときに、FCユニットルームから聞こえる作動音(“カチ”、“シュー”、“ジー”、“ウィーン”という音)

●運転席ドアを開けたときに車両前方から聞こえるブレーキシステムのモーター音(“ジー”という音)

●FCシステム停止後1～2分後経過時に、FCユニットルームから聞こえる作動音(“カチ”、“シュー”、“ジー”という音)

■アクティブコーナリングアシストの作動音と振動

アクティブコーナリングアシストが作動したときに、ブレーキシステムから作動音や振動が発生することがありますが、異常ではありません。

■EPSモーターの作動音

ハンドル操作を行ったとき、モーターの音(“ウィーン”という音)が聞こえることがありますが、異常ではありません。

■TRCやVSCの自動復帰について

TRCやVSCを作動停止にしたあと、次のときはシステム作動可能状態にもどります。

●パワースイッチをOFFにしたとき

●(TRCのみを作動停止にしている場合)車速が高くなったとき
ただし、TRCとVSCの作動を停止している場合は、車速による自動復帰はありません。

■アクティブコーナリングアシストの作動条件

次のときシステムが作動します。

●TRC・VSCが作動可能状態

●旋回中に加速しようとするとき

●車両が外側に膨らんでいるとシステムにより判断された

●ブレーキペダルを踏んでいない

■EPS の効果が下がるとき

停車中か極低速走行中に長時間ハンドルをまわし続けると、EPS システムのオーバーヒートを避けるため、EPS の効果が下がりハンドルが重く感じられるようになります。
その場合は、ハンドル操作を控えるか、停車し、FC システムを停止してください。10 分程度でもとの状態にもどります。

■セカンダリーコリジョンブレーキの作動条件

走行中に SRS エアバッグのセンサーが衝突を検知して作動したとき。

ただし次のいずれかのとき、システムは作動しません。

●低速走行しているとき

●構成部品が破損したとき

■セカンダリーコリジョンブレーキの自動解除

次のとき、自動的にセカンダリーコリジョンブレーキが解除されます。

●車速が一定以下になったとき

●作動して一定時間経過したとき

●アクセルペダルを大きく踏み込んだとき

■衝突時の急加速抑制について

●次の条件をすべて満たすと、システムが作動します。
・車速が約 60km/h 以下のとき
・SRS エアバッグのセンサーが車両前方に軽度の衝突を検知したとき
・衝突の直前にブレーキ操作をしていないとき
・アクセルペダルを速く強く踏み込んだ※ あとに衝突した、または衝突後にアクセルペダルを速く強く踏み込んだ※ とき

●次のような状況では衝突していなくても、システムが作動する場合があります。
・縁石や歩道の端など、固いものにぶつかったとき
・深い穴や溝に落ちたり、乗りこえたとき
・ジャンプして地面にぶつかったり、道路から落下したとき

●アクセルペダルを離すとシステムの作動が解除されます。

※ アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき

■後方車両への接近警報の作動条件

次の条件を満たしたときシステムが作動します。

●自車から見た後方車の接近速度が約 30km/h ～ 100km/h の間

●自車の車速が約 10km/h 以下、または前進時でブレーキを踏んでいる

■後方車両への接近警報が正しく作動しないおそれがある状況

●次のような状況では後方車両を正しく検知しないおそれがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・泥・雪・氷・ステッカーなどがセンサーやセンサー周辺のリヤバンパーに

付着したとき
・大雨・雪・霧などの悪天候時、水たまりなどの濡れた路面を走行するとき
・急勾配の上り・下りが連続した坂道や道路のくぼみ等を走行しているとき
・後方車両と自車の中心がずれているとき
・斜め後方から車両が近付いてくるとき
・自車の後方に他車が急に割り込んできたとき
・後方車両の周辺に他車が存在するとき
・車両後部に自転車キャリアなどのアクセサリーを装着しているとき

●特に次のような状況では、衝突の可能性がなくてもシステムが作動するおそれがあります。
・センサーやセンサー周辺への強い衝撃などにより、センサーの位置や向きがずれているとき
・自車の周辺に複数台の他車が存在するとき
・右左折待ちで停車したときなどに、自車の真うしろを車両が通過するとき
・道路脇に停車したときなどに、車両が真横を通過するとき
・後方車両が近距離から自車を追い越したとき
・後方車両が近距離まで急接近したとき

■マルチインフォメーションディスプレイに“FHL 現在使用できません”が表示されたときは（後方車両への接近警報）

後方車両への接近警報が一時的に使用不可と判断されています。
この場合、センサー周辺のバンパーに氷・雪・泥などが付着していることが考えられます。（→P.263）センサー周辺のバンパーの氷・雪・泥などを取り除けば、正常に復帰します。また、極めて高温または低温の環境で使用した場合、正常に作動しないことがあります。

■緊急ブレーキシグナルの作動条件

次のときシステムが作動します。

●非常点滅灯が点滅していないこと

●車速 55km/h 以上

●車両の減速度から急ブレーキであるとシステムにより判断された

■緊急ブレーキシグナルの自動解除

次のいずれかのときシステムが解除されます。

●非常点滅灯を点滅させた

●ブレーキペダルを離した

●車両の減速度から急ブレーキではないとシステムにより判断された

⚠警告

■ABS の効果を発揮できないとき

●タイヤのグリップ性能の限界をこえたとき（雪に覆われた路面を過剰に摩耗したタイヤで走行するときなど）

●雨でぬれた路面やすべりやすい路面での高速走行時に、ハイドロプレーニング現象が発生したとき

■ABS が作動することで、制動距離が通常よりも長くなる可能性があるとき

ABS は制動距離を短くする装置ではありません。特に次の状況では、常に速度を控えめにして前車と安全な車間距離をとってください。

●泥・砂利の道路や積雪路を走行しているとき

●タイヤチェーンを装着しているとき

●道路のつなぎ目など、段差をこえたとき

●凹凸のある路面や石だたみなどの悪路を走行しているとき

警告

■TRCやVSCの効果を発揮できないとき

すべりやすい路面では、TRC や VSC が作動していても、車両の方向安定性や駆動力が得られないことがあります。車両の方向安定性や駆動力を失うような状況では、特に慎重に運転してください。

■アクティブコーナリングアシストの効果を発揮できないとき

●アクティブコーナリングアシストを過信しないでください。下り坂での加速中やすべりやすい路面などでは、アクティブコーナリングアシストが効かないことがあります。

●アクティブコーナリングアシストが頻繁に作動したときは、ブレーキ・TRC・VSC を正常に機能させるために、アクティブコーナリングアシストが一時的に作動しないことがあります。

■ヒルスタートアシストコントロールの効果を発揮できないとき

●ヒルスタートアシストコントロールを過信しないでください。急勾配の坂や凍った路面ではヒルスタートアシストコントロールが効かないことがあります。

●ヒルスタートアシストコントロールはパーキングブレーキのように車を長時間駐車するための機能ではありませんので、同機能を坂道での駐停車のために使用しないでください。思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■スリップ表示灯が点滅しているときは

TRC・ABS・VSC が作動中であることを知らせています。常に安全運転を心がけてください。無謀な運転は思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。表示灯が点滅したら特に慎重に運転してください。

■TRC や VSC を OFF にするときは

TRC や VSC は駆動力や車両の方向安定性を確保しようとするシステムです。そのため、必要なとき以外は TRC・VSC を作動停止状態にしないでください。TRC や VSC を作動停止状態にしたときは、路面状況に応じた速度で、特に慎重な運転を心がけてください。

■セカンダリーコリジョンブレーキについて

セカンダリーコリジョンブレーキを過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害の軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■衝突時の急加速抑制

●衝突時の急加速抑制を過信しないでください。本システムは、二次衝突による被害軽減に寄与することを目的としていますが、その効果はさまざまな条件によりかわります。システムを過信すると重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●本システムは急加速を抑制するものであり、ブレーキを作動させるものではありません。必要に応じてブレーキペダルを操作してください。

警告

■タイヤまたはホイールを交換するときは

4 輪とも指定されたサイズで、同じメーカー・ブランド・トレッドパターン（溝模様）のタイヤを使用し、推奨された空気圧にしてください。
異なったタイヤを装着すると、ABS・TRC・VSC など、運転を補助するシステムが正常に作動しません。
タイヤ、またはホイールを交換するときは、トヨタ販売店に相談してください。

■タイヤとサスペンションの取り扱い

問題があるタイヤを使用したり、サスペンションを改造したりすると、運転を補助するシステムに悪影響をおよぼし、システムの故障につながるおそれがあります。

■後側方レーダーセンサーの取り扱い

→P.263

プラスサポート（販売店装着オプション）

プラスサポートは、急アクセル時加速抑制によって運転者を補助し、安全なドライブを支援します。

プラスサポートを使用するためには、サテンゴールドに加飾された電子キー（プラスサポート電子キー、以下、「サポキー」といいます）が必要です。

プラスサポートを使用するには

■ プラスサポートを始動するには

1 サポキーを携帯していることを確認して、ドアを解錠する（→P.118, 122）

パワースイッチが OFF 以外の状態でドアが施錠されているときは、サポキーでドアを解錠しても、プラスサポートは作動可能になりません。

2 通常の手順で FC システムを始動する（→P.173）

3 READY インジケーターが点灯し、“プラスサポートで始動しました” というメッセージが表示され、プラスサポート表示灯が点灯したことを確認する

パワースイッチを OFF にするまで、プラスサポートが作動可能な状態になります。

4 メーター操作スイッチの⮌を押してメッセージを非表示にする

⮌を押すまで、“プラスサポートで始動しました”のメッセージは表示されたままになります。

■ プラスサポートが不要なときは

黒色の電子キー（標準装備のもの）を携帯してドアを解錠し、FC システムを始動したときは、プラスサポートが非作動になり、標準車と同様の制御になります。

⚠ 警告

■プラスサポートを正しく使用するために

- 必ずサポキーを携帯していることを確認してください。黒色の電子キー（標準装備のもの）を携帯しているときは、プラスサポートが始動しません。
- サポキーと黒色の電子キーを同時に携帯しないでください。プラスサポートが始動しない場合があります。
- FC システムの始動後は、プラスサポート表示灯が点灯していることを必ず確認してください（→P.92）。プラスサポート表示灯が点灯していないときは、プラスサポートが作動しません。また、プラスサポートが不要なときは、プラスサポート表示灯が消灯していることを必ず確認してください。

急アクセル時加速抑制について

低速走行（約 30km/h 以下）中に、ペダルの踏み間違いなどでアクセルペダルが速く強く踏み込まれたとシステムが判断したとき、FC システムの出力を抑制することで、車両が急加速しないように制御します。

⚠ 警告

■安全にお使いいただくために

システムを過信しないでください。システムを過信すると思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。必ず車両周辺の安全を確認しながら運転してください。

- 安全運転を行う責任は運転者にあります。常に周囲の状況を把握し、安全運転に努めてください。急アクセル時加速抑制は、状況によっては作動しない場合もあります。

警告

- 急アクセル時加速抑制は衝突を防止するシステムではありません。車両を自動で停止させる機能はないため、加速抑制後も車両は惰性で動きます。周囲の交通状況を確認の上、必ずご自身でブレーキペダルを踏んでください。
- 急アクセル時加速抑制は意図せぬ急加速の防止を補助する機能ですが、走行状況によっては、加速が必要なときにも FC システムの出力が抑制される場合があります。安全、かつ環境に優しい運転をするためにも、日頃からアクセルペダルはゆっくり操作するように心がけてください。
- お客様ご自身で急アクセル時加速抑制の作動テストを行わないでください。状況によってはシステムが正常に作動せず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動すると、FC システムの出力を抑制します。すみやかにアクセルペダルから足を離して、ブレーキペダルを踏んでください。アクセルペダルを踏み込んだままでいると、しばらくしたあとに車両が加速し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■右左折・車線変更するとき

必ず方向指示灯を点滅させてください。方向指示灯が点滅していないと、プラスサポートにより FC システムの出力が抑制され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

急アクセル時加速抑制が作動したとき

急アクセル時加速抑制が作動したときは、ブザーでお知らせするとともに、マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。

メッセージが表示されたときは、すみやかにアクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

知識

■急アクセル時加速抑制の作動条件

プラスサポートが始動したあと、次の条件をすべて満たした場合、急アクセル時加速抑制が作動します。

- シフトポジションが P・N 以外のとき
- 車速が約 30km/h 以下のとき
- アクセルペダルを速く強く踏み込んだとき（アクセルペダルを踏み込む速度と踏み込み量が一定以上のとき）

次の条件のいずれかを満たした場合、FC システムの出力抑制量を少なくし、前進時は約 30km/h、後退時は約 12km/h※までゆるやかに加速します。

- 加速抑制作動中にアクセルペダルを約5秒間踏み続けたとき
- 加速抑制作動後すぐにアクセルペダルを速く強く踏み直したとき

※ 状況によっては所定の速度以下に抑制できない場合があります

■急アクセル時加速抑制が作動しないとき

●次の場合は、加速が必要な場合を考慮し、急アクセル時加速抑制が作動しません。
アクセルペダルをゆっくり操作し、安全運転を心がけてください。
・方向指示灯の点滅中、または消灯したあと約 2 秒間
・ブレーキペダルを踏んでいるとき、またはブレーキペダルを離したあと約 2 秒間
・急な上り坂に自車がいるとき

●アドバンストパーク作動中は、急アクセル時加速抑制が作動しません。

■システムが正常に作動しないおそれのある状況

次のような状況ではシステムが正常に作動しない場合があります。

●車両の変化
・積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

●周辺環境の影響
・坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
・坂道の出口など車両姿勢が急激に変化したとき
・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

■加速したい場面でシステムが作動するおそれのある状況

次のような状況では踏み間違いでなくてもシステムが作動する場合があります。アクセルを離してゆっくり踏み直してください。

●車両の変化
・積載状況などにより車両姿勢が大きく傾いたとき（ノーズアップ・ノーズダウンなど）
・ローダウンサスペンション、純正と異なる径のタイヤなどを取り付けたとき

●周辺環境の影響
・坂道・凸凹道・砂利道などの非舗装路を走行しているとき
・雪道などスリップが発生するような場所を走行しているとき
・坂道の入り口など車両姿勢が急激に変化したとき
・スピードブレイカーや縁石など大きな段差を乗り越えるとき

●運転操作の影響
・車線変更や右折などで方向指示灯を点滅させずに急いで加速しようとしたとき
・惰性走行から急いで加速しようとしたとき
・ETC ゲート通過後に急加速したとき
・ブレーキホールドによるブレーキ保持中に急発進しようとしたとき

寒冷時の運転

寒冷時に備えて、準備や点検など正しく処置していただいた上で適切に運転してください。

冬を迎える前の準備について

- ウォッシャー液は外気温に適したものをお使いください。
- 補機バッテリーの点検を受けてください。
- 冬用タイヤ（4 輪）やタイヤチェーン（後部タイヤ用）を使用してください。

タイヤは 4 輪とも指定サイズで同一銘柄のものを、タイヤチェーンはタイヤサイズに合ったものを使用してください。
（タイヤについて：→P.400）

知識

■タイヤチェーンについて

取り付け・取りはずし・取り扱い方法については次の指示に従ってください。

- 安全に作業できる場所で行う
- 後 2 輪に取り付ける
- タイヤチェーンに付属の取扱説明書に従う
- 取り付け後約 0.5 ～ 1.0km 走行したら締め直しを行う

警告

■冬用タイヤ装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

- 指定サイズのタイヤを使用する
- 空気圧を推奨値に調整する
- 装着する冬用タイヤの最高許容速度や制限速度をこえる速度で走行しない
- 冬用タイヤを装着する際は、必ず 4 輪とも装着する

■タイヤチェーン装着時の警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、安全に車を運転することができずに、思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 装着したチェーンに定められた制限速度、もしくは 30km/h のどちらか低い方をこえる速度で走行しない
- 路面の凹凸や穴を避ける
- 急加速、急ハンドル、急ブレーキやシフト操作による急激な回生ブレーキの使用は避ける
- カーブの入り口手前で十分減速して、車のコントロールを失うのを防ぐ
- LTA（レーントレーシングアシスト）を使用しない

注意

■タイヤチェーンの使用について

トヨタ純正タイヤチェーンのご使用をおすすめします。トヨタ純正品以外のタイヤチェーンの中には、使用すると車体にあたり、走行のさまたげとなるおそれがあるものもあります。
詳しくはトヨタ販売店にご相談ください。

■タイヤを修理・交換するとき

トヨタ販売店へご依頼ください。
タイヤの取り付け・取りはずしはタイヤ空気圧バルブ／送信機の作動に影響します。
(タイヤについての詳しい説明は P.400 を参照してください)

■タイヤチェーンの装着

タイヤチェーンを装着すると、タイヤ空気圧バルブ／送信機が正しく作動しないおそれがあります。

運転する前に

状況に応じて次のことを行ってください。

- ドアやワイパーが凍結したときは無理に開けたり動かしたりせず、ぬるま湯をかけるなどして氷を溶かし、すぐに水分を十分にふき取ってください。
- フロントウインドウガラス前の外気取り入れ口に雪が積もっているときは、エアコンのファンを正常に作動させるために、雪を取り除いてください。
- 外装ランプ・ドアミラー・ドアガラス・車両の屋根・タイヤの周辺やブレーキ装置に雪や氷が付いているときは、取り除いてください。
- 乗車する前に靴底に付いた雪をよく落としてください。

知識

■寒冷地用ワイパーブレードについて

- 降雪期に使用する寒冷地用ワイパーブレードは、雪が付着するのを防ぐために金属部分をゴムで覆ってあります。トヨタ販売店で各車指定のブレードをお求めください。
- 高速走行時は、通常のワイパーブレードよりガラスがふき取りにくくなることがあります。その場合には速度を落としてください。

注意

■ガラスに付いた氷を除去するとき

氷をたたいて割らないでください。
ガラスがひび割れるおそれがあります。

運転するとき

ゆっくりスタートし、車間距離を十分にとって控えめな速度で走行してください。

知識

■寒冷時の FC システム始動について

→P.173

駐車するとき

- パーキングブレーキのオートモードを OFF にしてください。パーキングブレーキが自動的に作動し、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。
また、次のシステムの使用は控

えてください。オートモードをOFFにしていても、パーキングブレーキが自動的に作動します。

・ブレーキホールドシステム

● パーキングブレーキをかけると、ブレーキ装置が凍結して解除できなくなるおそれがあります。パーキングブレーキはかけずに、シフトポジションをPにして駐車し、必ず輪止め※をしてください。
輪止めをしないと、車が動き思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

● パーキングブレーキがオートモードのときは、シフトポジションをPにしたあとにパーキングブレーキを解除してください。(→P.184)

● パーキングブレーキをかけずに駐車するときは、シフトバイワイヤ：シフトポジションをPにした状態でシフトポジションが動かないこと を確認してください。

● 寒冷時にブレーキ部品がぬれた状態で車を駐車したままにすると、凍結のおそれがあります。

※ 輪止めは、トヨタ販売店で購入することができます。

知識

■ **寒冷時のFCシステム停止について**

→P.175

■ **寒冷時の駐車中について**

→P.175

ワイパーについて

積雪や凍結のおそれがある場合は、ボンネット下にあるワイパーをサービスポジションに切りかえてから立ててください。（→P.203）

室内装備・機能

6

6-1. エアコン・デフォッガーの使い方

ALL AUTO 制御 336

オートエアコン 337

リヤオートエアコン 346

ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター 347

6-2. 室内灯のつけ方

室内灯一覧 351

6-3. 収納装備

収納装備一覧 354

トランク内装備 357

6-4. その他の室内装備の使い方

電動サンシェード 359

その他の室内装備 360

アクセサリーコンセント（AC100V・1500W） 372

非常時給電システム 378

ALL AUTO 制御

エアコンの設定温度・外気温・車室内温度などに応じて、フロント席のシートヒーターやシートベンチレーター★・ステアリングヒーターがそれぞれ自動制御されます。
各システムの調整の手間を省き、快適な状態を維持するよう制御します。

ALL AUTO 制御を使用する

エアコン操作画面（→P.342）で“All auto” にタッチする

スイッチの作動表示灯が点灯し、エアコン・フロント席のシートヒーター／シートベンチレーター★・ステアリングヒーターがオート設定で作動します。

いずれかのシステムを手動で操作すると、作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

各システムの作動について

■ **エアコン（→P.337）**

運転席および助手席の設定温度を別々に調整することができます。

■ **フロント席のシートヒーター／シートベンチレーター★（→P.347）**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

エアコンの設定温度・外気温などに応じて、暖房・換気が自動的に切りかわります。また、暖房・換気が OFF になることもあります。
助手席のシートヒーターやシートベンチレーターは、乗員を検知してオート設定で作動します。

■ **ステアリングヒーター（→P.347）**

エアコンの設定温度・外気温などに応じて自動で作動します。

知識

■**乗員検知機能について**

助手席のシートヒーターやベンチレーターは、乗員を検知した場合に作動します。

■**シートヒーター／シートベンチレーター★の作動について**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

シートヒーター／ベンチレーターのスイッチでオート設定にした場合は、乗員の検知を行いません。

■**リヤシートヒーターの作動について（“3-ZONE” コントロールエアコン装着車）**

ALL AUTO 制御によるリヤシートヒーターの自動制御はおこないません。

オートエアコン

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

エアコン操作パネルとマルチメディアディスプレイで操作することができます。（→P.342）

エアコン操作のスイッチについて

A マルチメディアディスプレイ

B CLIMATE スイッチ

C 風量増スイッチ

D フロントデフロスタースイッチ

E AUTO スイッチ

F 運転席側温度調整スイッチ

G OFF スイッチ

H リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒータースイッチ

I 風量減スイッチ

J COMFORT スイッチ

K 助手席側温度調整スイッチ

■ **温度を調整する**

設定温度を上げるときは、エアコン操作パネルにある温度調整スイッチの∧を押す

設定温度を下げるときは、エアコン操作パネルにある温度調整スイッチの∨を押す

スイッチを押し続けるまたは選択し続けると、温度が連続して変化します。

冷房・除湿スイッチの作動表示灯が消灯している場合は、送風または暖房で使用できます。（→P.343）

■ **風量を切りかえる**

風量を増やすときはエアコン操作パネルの風量増スイッチを押す

風量を減らすときはエアコン操作パネルの風量減スイッチを押す

OFF スイッチを押すと、ファンが止まります。

■ **吹き出し口を切りかえる**

エアコン操作画面の吹き出し口切りかえスイッチを選択する

：上半身に送風

：上半身と足元に送風

：足元に送風

：足元に送風・フロントウインドウガラスの曇りを取る

■ **内気循環／外気導入を切りかえる**

エアコン操作画面の内外気切りかえスイッチを選択する

スイッチを押すたびに内気循環／外気導入が切りかわります。

内気循環を選択しているときは、スイッチの表示灯が点灯します。

■ **冷房・除湿機能を使用する**

エアコン操作画面の冷房・除湿スイッチを選択する

冷房・除湿機能が ON のときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。

■ **エコ空調モード**

燃費を優先するため冷房／暖房の効きを抑えます。

エアコン操作画面のエコ空調スイッチを選択する

エコ空調モードが ON のときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。

■ **フロントウインドウガラスの曇りを取る**

フロントデフロスタースイッチを押す

除湿機能が作動し、風量が増えます。内気循環にしている場合は、外気導入にしてください。（自動的に外気導入に切りかわることがあります）

風量を強くし、設定温度を上げると、より早く曇りを取ることができます。曇りが取れたら再度フロントデフロスタースイッチを押すと前のモードにもどります。

フロントデフロスターが ON のときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。

■ **リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒータースイッチ**

リヤウインドウガラスの曇りを取るときや、ドアミラーから雨滴や霜を取るときに使用してください。

リヤウインドウデフォッガー＆ミ

ラーヒータースイッチを押す

リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーターが ON のときは、スイッチの作動表示灯が点灯します。

リヤウインドウデフォッガーとミラーヒーターは、約 15 分後に自動的に OFF になります。

知識

■ガラスの曇りについて

●車室内の湿度が高いときはガラスが曇りやすくなります。その場合は、冷房・除湿機能を ON にすると、吹き出し口から除湿された風が出るため、効果的に曇りを取ることができます。

●冷房・除湿機能を ON から OFF にすると、ガラスが曇りやすくなります。

●内気循環を使うとガラスが曇る場合があります。

■フロントウインドウガラス内側の曇り検知機能（Toyota Teammate Advanced Drive 装着車）

オート設定時、湿度センサーでフロントウインドウガラス内側の曇りを検知し、エアコンを自動的に制御して曇りを防ぎます。

■外気導入・内気循環について

●トンネルや渋滞などで、汚れた外気を車内に入れたくないときや、外気温度が高いときに冷房効果を高めたい場合は、内気循環にすると効果的です。

●設定温度や室内温度などにより、エアコン設定に関わらず自動的に切りかわる場合があります。

■エコ空調モードのエアコン作動について

●エコ空調モードは燃費性能を優先させるため、空調システムが次のように制御されます。

・FC システムやコンプレッサーの作動を制御し、暖房／冷房の能力を抑制します。
・オート設定での使用時、ファンの風量を抑制します。

●エアコン操作画面のオプション画面からエコ空調モードの ON ／ OFF を切りかえることができます。（→P.344）

●走行モードをエコドライブモードにすると、自動でエコ空調モードに切りかわります。（→P.319）

●空調の効きをよりよくしたいときは、次の操作を行ってください。
・風量を調整する
・エコドライブモードを解除する（→P.319）
・エコ空調モードを OFF にする（→P.342）

■外気温度が 0 ℃近くまで下がったとき

冷房・除湿スイッチを押しても除湿機能が働かない場合があります。

■花粉除去モードについて

内気循環に切りかわり、上半身に送風して花粉を除去します。

花粉除去モードは、しばらくすると自動的に OFF になります。

外気温が低いときは、フロントウインドウガラスの曇りを防止するために除湿機能が作動する、または内気循環に切りかわらない場合があります。

花粉除去モードが OFF のときも花粉はフィルターで取り除かれています。

■「ナノイー X」※1, 2 について

エアコンには「ナノイー」発生装置が搭載されています。この装置はインストルメントパネルセンターの運転席側吹き出し口を通じて、水に包まれた肌や髪にやさしい弱酸性の「ナノイー」を放出し、室内を爽やかな空気環境に導きます ※3。

●ファンが作動すると、自動的に「ナノイー X」が作動します。

●「ナノイー X」の作動中、次の条件で効果を発揮します。次の条件以外では、効果が十分に得られない場合があります。
・吹き出し口が上半身に送風、上半身と足元に送風または足元に送風のとき
・インストルメントパネルセンターの運転席側吹き出し口が開いているとき

●「ナノイー X」作動時は、微量のオゾンが発生し、かすかに臭うことがありますが、森林など、自然界に存在する程度の量なので、人体に影響はありません。

●作動中、かすかに作動音が聞こえることがありますが、故障ではありません。
・「ナノイー X」が作動するまでに多少時間がかかることがあります。
・作動直後は作動音が大きい場合があります。

※1「nanoe」、「ナノイー」および「nanoe」マークは、パナソニック株式会社の商標です。

※2「ナノイー X」とは「ナノイー」発生装置のことです。

※3温湿度環境、風量・風向きによっては「ナノイー」の効果が十分に得られない場合があります。

■換気とエアコンの臭いについて

●車室外の空気を車室内に取り入れたいときは、外気導入にしてください。

●エアコン使用中に、車室内外のさまざまな臭いがエアコン装置内に取り込まれて混ざり合うことにより、吹き出し口からの風に臭いがすることがあります。

●エアコン始動時に発生する臭いを抑えるために、オート設定での使用時または花粉除去モードが ON の時にはエアコン始動直後、しばらく足元からの送風に切りかわったり、送風が停止したりする場合があります。

●駐車時に自動的に外気導入に切りかえることにより駐車中の換気をうながし、始動時に発生するにおいを緩和します。

■エアコンフィルターについて

→P.412

■カスタマイズ機能

AUTO スイッチを押したとき、除湿機能を連動させるかどうかなどを設定できます。（カスタマイズ一覧：→P.490）

警告

■フロントウインドウガラスの曇りを防止するために

外気の湿度が非常に高いときにエアコンを低い設定温度で作動させているときは、フロントデフロスタースイッチを押さないでください。外気とガラスの温度差でガラスの外側が曇り、視界をさまたげる場合があります。

■リヤウインドウデフォッガー＆ミラーヒーター作動中の警告

ドアミラーの表面が非常に熱くなります。やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

■「ナノイー X」について

このシステムは、高電圧の部品を含むため、分解・修理はしないでください。修理が必要な場合は、トヨタ販売店にお問い合わせください。

注意

■湿度センサーについて（ToyotaTeammate Advanced Drive 装着車）

フロントウインドウガラスの曇り検知のために、フロントウインドウガラスの温度やその付近の湿度などを監視するセンサーが装着されています。

センサーの故障を防ぐため、次のことをお守りください。

●湿度センサーを分解しない

●ガラスクリーナーなどを吹きかけたり、強い衝撃を与えたりしない

●湿度センサーにシールなどを貼らない

■「ナノイー X」の損傷を防ぐために

助手席外側吹き出し口の近くでスプレーを使用したり、吹き出し口にものをはめ込んだり貼ったりしないでください。システムが正常に働かなくおそれがあります。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

FC システム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

オート設定で使用する

1 AUTO スイッチを押す
2 温度を設定する
3 ファンを止めたいときは、OFF スイッチを押す

風量や吹き出し口を切りかえると、AUTO スイッチの作動表示灯が消灯しますが、操作した機能以外のオート設定は継続します。

知識

■オート設定の作動について

風量は温度設定と外気の状態により自動で調整されるため、AUTO スイッチを押した直後、温風や冷風の準備ができるまでしばらく送風が停止する場合があります。

日射の影響により、暖房時でも上半身付近に冷風が出る場合があります。

各席の設定温度を連動して設定する（左右独立または 3 席独立モード）

▶ 左右独立温度コントロールエアコン装着車

左右独立モードを ON にするには、DUAL スイッチを押す

運転席側温度調整スイッチで運転席および助手席の設定温度を調整できます。運転席および助手席の設定温度を別々に設定するには、助手席側温度調整スイッチを操作するか、DUAL スイッチを押してください。

左右独立モードが ON のときは、DUAL スイッチの表示灯が点灯します。

▶ 3 席独立温度コントロールエアコン装着車

3 席独立モードを ON にするには、3-ZONE スイッチを押す

運転席側温度調整スイッチで運転席・助手席・リヤ席の設定温度を調整できます。運転席・助手席・リヤ席の設定温度を別々に設定するには、助手席側温度調整スイッチまたはリヤ席温度調整スイッチを操作するか、3-ZONE スイッチを押してください。

3 席独立モードが ON のときは、3-ZONE スイッチの表示灯が点灯します。

フロント席集中送風モード（S-FLOW）

エアコンの送風がフロント席に優先されるよう、送風を自動的に制御する機能です。

3 席独立温度コントロールエアコン装着車：助手席に乗員がいない場合は、運転席のみへの送風に切りかわることがあります。

無駄な冷暖房を抑えることで、燃費の向上に貢献します。

フロント席集中送風モードは、次のような状況で作動します。

- リヤ席に乗員を検知していない
- フロントウインドウガラスの曇り取りが作動していない
- 花粉除去モードが作動していない

作動中は、が点灯します。

■ 手動でフロント席集中送風モードの作動／非作動を切りかえる

フロント席集中送風モードは、スイッチ操作によりフロント席のみへの送風と全席への送風を切りかえることができます。このとき、送風の自動制御は作動しなくなります。

マルチメディアディスプレイの

にタッチし、送風を切りかえます。

- 表示灯が点灯：フロント席のみへの送風
- 表示灯が消灯：全席への送風

知識

■送風の自動制御について

- 車室内を快適に保つために、FC システム始動直後や外気温によっては、乗員がいないシートにも送風されることがあります。
- FC システム始動後に乗員が車室内を移動した場合や乗降した場合は、乗員の有無を正しく検知できず、送風の自動制御は作動しません。

■送風の手動制御について

手動でフロント席のみへの送風に切りかえた場合でも、リヤ席に乗員がいると自動的に全席に送風されることがあります。

■送風を自動制御にもどすには

1 表示灯が消灯している状態でパワースイッチを OFF にする。
2 60 分以上経過後にパワースイッチを ON にする。

エアコン操作画面について

■ 表示のしかた

1 マルチメディアディスプレイのメインメニューから にタッチする
2 サブメニューの “ エアコン ” にタッチする

3 各画面を選択する

A フロントエアコン操作画面を表示する

B リヤエアコン操作画面を表示する（3 席独立温度コントロールエアコン装着車のみ）

C オプション画面を表示する

■ フロントエアコン操作画面

エアコン操作パネルの CLIMATE スイッチを押しても、下記のように画面が切りかわります。

A 吹き出し口を切りかえる

タッチするたびに、吹き出し口が切りかわります。

：上半身に送風

：上半身と足元に送風

：足元に送風

：足元に送風・ガラスの曇りを取る

状況によっては、選択した吹き出し口以外からも送風する場合があります。

B 各機能の ON/OFF を切りかえる

タッチするたびに、機能の ON/OFF が切りかわります。

機能が ON のとき、表示灯が点灯します。

“A/C”：冷房・除湿機能（→P.338）

“DUAL または 3-ZONE”：左右独立または 3 席独立モード（→P.341）

：フロント席集中送風モード（S-FLOW）（→P.342）

：内外気切りかえ（→P.336）

C 風量表示

現在の風量が表示されます。

■ リヤエアコン操作画面★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

A 温度を調整する

B 吹き出し口を切りかえる

■ **オプション画面**

各機能の（作動）／（非作動）を切りかえることができます。

A ALL AUTO モード（→P.336）

B エコ空調モード（→P.339）

C ウインドシールドデアイサー（→P.344）

D「ナノイー X」（→P.339）

E 花粉除去モード（→P.339）

ウインドシールドデアイサー

フロントウインドウガラスとワイパーブレードの凍結を防ぐために使用してください。

機能の（作動）／（非作動）を切りかえることができます。

マルチメディアディスプレイのウインドシールドデアイサースイッチをタッチする

ウインドシールドデアイサーが ON のとき、スイッチの作動表示灯が点灯します。

ウインドシールドデアイサーは、約 15 分後に自動的に OFF になります。

A ウインドシールドデアイサースイッチ

警告

■ **ウインドシールドデアイサーが作動しているとき**

フロントウインドウガラス下部およびフロントピラー横の表面が熱くなっており、やけどをするおそれがあるのでふれないでください。

吹き出し口の配置・操作

■ **吹き出し口の位置**

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置や風量が変化します。

■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ フロント

1 風向きを調整する
2 吹き出し口を開く
3 吹き出し口を閉じる

▶ リヤ

1 風向きを調整する
2 吹き出し口を開く
3 吹き出し口を閉じる

⚠ 警告

■ フロントウインドウガラスの曇り取りをさまたげないために

フロントウインドウガラスの曇り取りを妨げないために、吹き出し口をさえぎるようなものを置かないでください。送風がさえぎられ、曇りが取れにくくなることがあります。

リヤオートエアコン★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

設定温度に合わせて吹き出し口と風量を自動で調整します。

リヤエアコン操作スイッチについて

リヤコントロールパネルの ON/OFF スイッチを操作し、リヤコントロールパネルを ON にすると、リヤエアコンの操作ができます。

前席のエアコンが OFF のときはリヤエアコンを単独で ON できません。

A リヤコントロールパネル ON/OFF スイッチ

B リヤ吹き出し口切りかえスイッチ

C リヤ席温度調整スイッチ

リヤ席の温度を設定する

次のいずれかの操作をすることで、リヤ席の温度を設定できます。

- “3-ZONE” 表示灯が消灯しているときに運転席の温度を設定する

リヤ席の温度が運転席と同じ温度に設定されます。

- マルチメディアディスプレイのリヤエアコン操作画面もしくはリヤコントロールパネルでリヤ席の温度を設定する

操作した席の温度のみ設定されます。（独立モード）

吹き出し口の配置・操作

■ 吹き出し口の位置

吹き出し口の切りかえ設定により、風が出る位置が変化します。

：上半身に送風

：上半身と足元に送風

：足元に送風

状況によっては、選択した吹き出し口以外からも送風する場合があります。

■ 風向きの調整と吹き出し口の開閉

▶ センター

1 風向きを調整する
2 吹き出し口を開く
3 吹き出し口を閉じる

⚠ 注意

■補機バッテリーあがりを防ぐために

FC システム停止中は、エアコンを必要以上に使用しないでください。

ステアリングヒーター／シートヒーター／シートベンチレーター★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

● ステアリングヒーター

ハンドルのグリップ部を暖めることができます。

● フロントシートヒーター／リヤシートヒーター★

シートの表面を暖めることができます。

● フロントシートベンチレーター／リヤシートベンチレーター

シート内部に装備されたファンで換気することにより、シート表面の通気をよくします。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠ 警告

■低温やけどについて

次の方がステアリングヒーター／シートヒーターにふれないようにご注意ください。

●乳幼児、お子さま・お年寄り・病人・体の不自由な方

●皮膚の弱い方

●疲労の激しい方

●深酒や眠気をさそう薬（睡眠薬・風邪薬など）を服用された方

注意

■シートヒーター／シートベンチレーターの損傷を防ぐために

凹凸のある重量物をシートの上に置いたり、針金や針などの鋭利なものを突き刺したりしないでください。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

FC システムが停止した状態で使用しないでください。

操作画面について

■ フロントでのエアコン操作

エアコン操作パネルの COMFORT スイッチを押す

フロントまたはリヤを選択する。

▶ フロント

A シートヒーターの温度を調整する

弱・中・強の 3 段階に調整できます。

B ステアリングヒーターの温度を調整する

弱・強の 2 段階に調整できます。

C シートベンチレーターの風量を切りかえる

弱・中・強の 3 段階に調整できます。

D シートヒーター、シートベンチレーター制御を AUTO に切り替えます

▶ リヤ

A シートヒーターの温度を調整する★

弱・中・強の 3 段階に調整できます。

B シートベンチレーターの風量を切りかえる

弱・中・強の 3 段階に調整できます。

C シートヒーター、シートベンチレーター制御を AUTO に切り替えます

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ リヤコントロールパネル★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

A シートヒータースイッチ

弱・中・強の 3 段階に調整できます。

B シートベンチレータースイッチ

弱・中・強の 3 段階に調整できます。

C 作動インジケーター

シートヒーター作動に合わせ 3 段階のオレンジ点灯

シートベンチレーター作動に合わせ 3 段階の緑点灯

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■エアコン連動制御モードについて

シートベンチレーターが強のとき、エアコンの風量に応じてシートベンチレーターの風量が強くなります。

■フロント席集中送風モード（S-FLOW）作動時は

乗員が運転席のみのときは、運転席以外のシートヒーター／シートベンチレーターが停止します。（→P.342）

■リヤコントロールパネルの設定を変更する

次の設定を変更できます。

・ ボタンにタッチしてからの反応時間

・ ボタン操作音の ON/OFF

1 車を安全な場所に駐車し FC システムを停止する。

2 ブレーキペダルを離した状態でパワースイッチを 1 回押し、モードを ACC に切り替える。
パワースイッチが ON のときは、設定を変更できません。

3 ⏻ボタンを押しながら、∧ CH FLD を 10 秒以上押下する。

4 ブザーが鳴った後、ボタンを離す。

5 カスタマイズ項目を選択する。
ボタン操作の反応時間を変更：
∧ CH FLD を押すと早くなり、CH FLD ∨ を押すと遅くなります。
ボタン操作音の ON/OFF を変更：
∧ VOL を押すと ON になり、VOL ∨ を押すと OFF になります。

6 変更が完了すると、下の表のようにシートヒーター／シートベンチレーターのインジケーターが点灯します。

機能	設定	インジケーター
反応時間	早い	
	少し早い	
	標準	
	少し遅い	
	遅い	
操作音	ON	
	OFF	

7 次のいずれかで設定が完了します。

・ ⏻ボタンを操作しリヤコントロールパネルを OFF にする。

・ パワースイッチを操作する。

・ 約 10 秒間スイッチ操作を行わない。

■ **カスタマイズ機能**

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.490）

⚠ 警告

■ **異常加熱や低温やけどを防ぐために**

シートヒーターを使用するときは次のことをお守りください。

● 長時間連続使用しないでください。

● 毛布・クッションなどを使用しないでください。

室内灯一覧

室内灯の位置

A ドアミラー足元照明

B シフト照明

C フロントパーソナルランプ（→P.352）

D インテリアランプ（→P.352）

E インサイドハンドル照明★（→P.352）

F ドアトリム照明★（→P.352）

G リヤパーソナルランプ（→P.352）

H ドアカーテシランプ

I リヤ足元照明★

J フロント足元照明

K カップホルダー照明（→P.352）

L インストルメントパネルオーナメント照明★（→P.352）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

インテリアランプを操作するには

■ ドアポジション（ドア連動）をONにする

ドア連動スイッチを押す

ドアの開閉に連動してランプの点灯・消灯が切りかわります。

■ ランプを点灯・消灯する

ランプにタッチする

インテリアランプに連動してリヤパーソナルランプも点灯・消灯します。

フロントパーソナルランプを操作するには

■ ランプを点灯・消灯する

ランプにタッチする

リヤパーソナルランプを操作するには

■ ランプを点灯・消灯する

スイッチを押す

リヤパーソナルランプはインテリアランプに連動して点灯・消灯します。

照明色を変更するには★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

マルチメディアシステムの画面を操作して、次の室内灯を8色の中からお好みの色に変更できます。ただし、個別での変更はできません。

● インサイドハンドル照明

- ドアトリム照明
- カップホルダー照明
- インストルメントパネルオーナメント照明

1 を選択する

2 “Illumination” を選択する

3 お好みの色を選択する

知識

■イルミネーテッドエントリーシステム

電子キーの検知・ドアの施錠／解錠・ドアの開閉・パワースイッチのモードにより、各部の照明が自動的に点灯・消灯します。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

パワースイッチを OFF にしたときに、室内灯が点灯したままの場合、約 20 分後に自動消灯します。

■室内灯の自動点灯について

SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、室内灯が約 20 分間自動で点灯します。

手動操作で消灯することもできますが、二次災害を防ぐため、安全が確保できるまでは消灯しないことをおすすめします。

（衝撃の度合いや事故の状況によっては点灯しないことがあります。）

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.480）

■インテリアランプとフロントパーソナルランプが正常に反応しないおそれのある状況

- レンズ面に水や汚れなどが付着しているとき
- 濡れた手で操作したとき
- 手袋などを装着しているとき

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

FC システムが停止した状態で、長時間ランプを点灯しないでください。

■ランプのレンズの取りはずしについて

インテリアランプとフロントパーソナルランプのレンズを絶対に取りはずさないでください。ランプが故障する原因となります。レンズを取りはずす必要がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

収納装備一覧

収納装備の位置

A カードホルダー（→P.356）

B 小物入れ★（→P.356）

C カップホルダー（→P.355）

D コンソールボックス（→P.356）

E グローブボックス（→P.355）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

警告

■収納装備に放置してはいけないもの

メガネ、ライターやスプレー缶を収納装備内に放置したままにしないでください。

放置したままでいると、次のようなことが起こるおそれがあり危険です。

- 室温が高くなったときの熱や、他の収納物との接触などにより、メガネが変形やひび割れを起こす
- 室温が高くなったときにライターやスプレー缶が爆発したり、他の収納物との接触でライターが着火したりスプレー缶のガスがもれるなどして火災につながる

グローブボックス

レバーを引いて開ける

1 メカニカルキーで解錠
2 メカニカルキーで施錠

知識

■グローブボックスランプ

車幅灯点灯時は、グローブボックス内のランプが点灯します。

■トランクオープナーメインスイッチ

グローブボックス内に、トランクオープナーメインスイッチがあります。
(→P.130)

警告

■走行中の警告

グローブボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキや急旋回時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

カップホルダー

▶ フロント

▶ リヤ（リヤシートヒーター非装着車）

アームレストを手前に倒してボタンを押す

▶ リヤ（リヤシートヒーター装着車）

アームレストを手前に倒してボタンを押す

警告

■収納してはいけないもの

カップホルダーにはカップや缶以外のものを置かないでください。
ふたを閉じているときでも、ものを収納しないでください。
急ブレーキや事故により落ちてけがをするおそれがあります。やけどを防ぐために温かい飲み物にはフタを閉めておいてください。

■使わないときは

ふたを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たるなど、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

コンソールボックス

ボタンを押してふたを開ける

警告

■走行中の警告

コンソールボックスを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

カードホルダー

小物入れ

▶ 天井（電動サンシェード非装着車）

小物入れのフタを押す

小物を一時的に収納するのに便利です。

▶ リヤ席（リヤシートヒーター装着車）

アームレストを手前に倒しノブを押して開ける

警告

■走行中の警告

小物入れを必ず閉じてください。
急ブレーキ時などに、開いたふたが体に当たったり、収納していたものが飛び出したりして、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■収納してはいけないもの（天井）

200g 以上のものを入れないでください。200g 以上のものを入れると、ふたが開き収納されているものが飛び出したりして思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

トランク内装備

ラゲージマット

● サイドカバー

サイドカバーを持ち上げ、取りはずす

▶タイプ A

▶タイプ B

● ラゲージマット

1 フックを持ってラゲージマットを持ち上げる

2 フックを使ってラゲージマットを固定する

注意

■ フックの損傷を防ぐために

フックに買い物袋などを吊り下げないでください。

■ トランクを閉めるときは

ラゲージマットのフックをトランクの端にかけたままにしないでください。ラゲージマットが破損するおそれがあります。

停止表示板収納スペース

▶ タイプ A

ラゲージマットの下に停止表示板を収納することができます。

停止表示板のケースの大きさや形状によっては、収納できない場合があります

▶ タイプ B

ラゲージマットの上に停止表示板をゴムバンドで固定することができます。

警告

■ 三角表示板を収納するときは（タイプ B）

確実に固定されていることを確認してください。確実に固定されていないと、急ブレーキをかけたときなどに三角表示板が飛び出し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

電動サンシェード★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

頭上のスイッチで電動サンシェードの操作ができます。

電動サンシェードを操作するには

1 開ける ※

2 閉める ※

※ 途中で停止するときは、スイッチを軽く押します。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■電動サンシェードの挟み込み防止機能

●電動サンシェードを閉めるとき、異物の挟み込みを感知すると、作動が停止し少し開きます。

●挟み込み防止機能が作動したときは、再度スイッチの “CLOSE” 側を押しても、完全に反転作動が停止するまでは閉まる方向に動きません。

●電動サンシェードは、周囲の状況や走行状況により衝撃があった場合、反転作動することがあります。

■電動サンシェードが正常に閉まらないとき

次の手順で初期化を行ってください。

1 パワースイッチを ON にする

2 スイッチの “CLOSE” 側を押し続ける

全閉付近の位置まで閉じ、停止します。その後、開く方向に作動してから全閉位置で停止します。

途中でスイッチから手をはなすと、最初からやり直しとなります。

以上の操作を行っても自動全開／自動全閉機能が作動しない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■電動サンシェードを開閉するとき

●電動サンシェードを開閉するときは、乗員の手・腕・頭・首を挟んだり巻き込んだりしないように注意してください。

●お子さまには、電動サンシェードの操作をさせないでください。
電動サンシェードに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

警告

■ **挟み込み防止機能**

● 挟み込み防止機能を故意に作動させるため、乗員の手・腕・頭・首などを挟んだりしないでください。

● 挟み込み防止機能は、電動サンシェードが完全に閉まる直前に異物を挟むと作動しない場合があります。また、挟み込み防止機能は、スイッチを押し続けた状態では作動しません。指などを挟まないように注意してください。

■ **やけどやけがを防ぐために**

ルーフの下側と電動サンシェードのすき間にはふれないでください。
手を挟んでけがをするおそれがあります。また、車を直射日光のあたる場所に長時間駐車するとルーフの下側が熱くなるため、やけどをするおそれもあります。

その他の室内装備

充電用 USB Type-C 端子

DC5V/3A（消費電力 15.75W）の電源としてお使いください。
この USB Type-C 端子は充電専用でありデータ転送などは行えません。
また、使用する機器によっては、正常に充電できない場合があります。ご使用になる機器に付属の取扱説明書もお読みください。
USB Type-A の使用方法については別冊「マルチメディア取扱書」を参照してください。

■ 充電用USB Type-C端子を使用するには

▶ コンソールボックス内

コンソールボックスを開けて使用する

▶ コンソールボックスうしろ側

フタを開けて使用する

知識

■充電用 USB Type-C 端子の作動条件

パワースイッチが ACC または ON のとき

■充電用 USB Type-C 端子が正常に働かないおそれのある状況

●DC5V/3A（消費電力 15.75W）をこえる電力を要求する機器を接続したとき

●パソコンと通信を行う機器を接続したとき

●接続機器の電源が OFF のとき（機器により異なります）

●炎天下に駐車したあとなど、車室内の温度が高いとき

■使用する外部機器について

一部の機器では、充電中に充電がいったん停止後、再充電を開始する場合がありますが、故障ではありません。

注意

■充電用 USB Type-C 端子の損傷を防ぐために

●端子部に異物を入れないでください。

●水や液体をかけないでください。

●充電用 USB Type-C 端子を使わないときはフタを必ず閉じてください。端子部に異物や液体が入ると故障やショートの原因になります。

●強い力や衝撃を加えないでください。

●分解や改造、取りはずしをしないでください。

■外部機器の損傷を防ぐために

●機器を車室内に放置しないでください。車室内が高温となり、故障の原因となります。

●機器が接続されているときに、外部機器や外部機器のケーブルを押し下げたり、不要な力を加えたりしないでください。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

FC システムが停止した状態で、充電用 USB 端子を長時間使用しないでください。

ワイヤレス充電器（おくだけ充電）★を使うには

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）によるワイヤレス充電規格 Qi に適合したスマートフォンやモバイルバッテリーなどの携帯機器を充電エリアに置くだけで、携帯機器を充電することができます。

充電エリアより大きい携帯機器には本機能を使用できません。また、携帯機器によっては、正常に作動しない場合があります。
ご使用になる携帯機器に付属の取り扱い説明書もお読みください。

■「Qi」マークについて

「Qi」、Qi マークは、ワイヤレスパワーコンソーシアム（WPC）の登録商標です。

■「おくだけ充電」マークについて

「おくだけ充電」、「おくだけ充電」ロゴは、株式会社 NTT ドコモの登録商標です。

■ 各部の名称

A 充電エリア ※

B 充電トレイ

C 電源スイッチ

D 作動表示灯

※ 携帯機器およびワイヤレス充電器には充電用コイルが入っています。ワイヤレス充電器内の充電用コイルは、充電エリアの中央付近を移動することができます。充電エリア上で携帯機器内の充電用コイルが検出されると、その付近までワイヤレス充電器内の充電用コイルが移動し、充電を開始します。携帯機器内の充電用コイルが充電エリアからはずれた場合、充電は自動的に停止します。
また、2 つ以上の携帯機器を同時に充電エリアに置くと、正しく充電用コイルを検出できず、充電できないことがあります。

■ 充電する

1 電源スイッチを押す

押すごとに ON と OFF に切りかわります。
ON にすると作動表示灯が緑色に点灯します。
ワイヤレス充電器の電源の状態（ON/OFF）はパワースイッチを OFF にしても記憶されます。

2 充電エリアに携帯機器を置く

携帯機器の充電面を下にして、機器の中央が充電エリアの中央に来るように置いてください。
携帯機器によっては充電コイルが機器の中央にない場合があります。その場合は、携帯機器の充電コイルが充電エリアの中央に来るように置いてください。
充電中は充電トレイ上の作動表示灯が橙色に点灯します。

充電が行われないときは、できるだけ充電エリアの中央付近に携帯機器を置き直してください。充電が行われないとき、作動表示灯が緑と橙点灯を緩やかに繰り返し、充電コイルの作動音が繰り返し聞こえる場合があります。

充電が完了すると作動表示灯が緑色に点灯します。

■ 再充電機能

- 充電が完了し、充電停止状態が一定時間経過すると充電を再開します。
- 充電エリア内で携帯機器が大きく動くと、充電用コイルが外れて充電がいったん停止しますが、充電エリア内に充電用コイルがある場合は、ワイヤレス充電器内の充電用コイルがその付近まで移動して充電を再開します。

■ 作動表示灯の点灯状況

作動表示灯	状況
消灯	ワイヤレス充電器の電源が OFF のとき
緑（点灯）	待機中（充電可能状態）※1
	充電完了時 ※2
橙（点灯）	充電エリアに携帯機器を置いたとき（携帯機器を検出中）
	充電中

※1 待機中は充電用の電力は出力していません。この状態で金属製のものを充電トレイに置いても、過熱されることはありません。

※2 携帯機器によっては、充電完了後も表示灯が橙色に点灯し続ける場合があります。

■ 作動表示灯が点滅したときは

エラーが発生した場合の作動表示灯の状況と、想定される原因の対処方法は次のとおりです。

- 1 秒間に 1 回の点滅をくり返す（橙色）

想定される原因	対処方法
車両とワイヤレス充電器の通信不良	FC システムが始動しているときは、一度停止し、再始動してください。パワースイッチが ACC のときは、一度 FC システムを始動してください。

● 3 回連続の点滅をくり返す（橙色）

想定される原因	対処方法
異物検知： 携帯機器と充電エリアのあいだに異物がある	携帯機器と充電エリアのあいだにある異物を取り除いてください。
携帯機器のずれ： 充電エリアの中央付近から携帯機器がずれている	携帯機器を充電エリアの中央付近に置き直してください。また、ケースやカバーを携帯機器に装着している場合は、外してください。

● 4 回連続の点滅をくり返す（橙色）

想定される原因	対処方法
ワイヤレス充電器内の温度上昇	いったん充電を停止し、携帯機器を充電トレイから取り出して、温度が下がるまでしばらく待ってから充電を開始してください。

知識

■使用条件

パワースイッチが ACC または ON のとき

■使用できる携帯機器について

●ワイヤレス充電規格 Qi 準拠機器を使用できます。ただし、すべての Qi 準拠機器と互換性を保証しているものではありません。

●携帯電話やスマートフォンをはじめとする携帯機器を対象とした 5W 以下の低電力給電を対象としています。

■スマートエントリー＆スタートシステムの使用について

充電動作中にスマートエントリー＆スタートシステムがキーの検出を行うと、一時的に充電を停止します。

■携帯機器にカバーやアクセサリーを付けるときは

携帯機器に、「Qi」非対応のカバーやアクセサリーを付けた状態で充電しないでください。「Qi」対応の製品でもカバー（一部メーカー純正品を含む）やアクセサリーの種類によっては充電できない場合があります。充電エリアに携帯機器を置いても充電が行われないときは、カバーやアクセサリーをはずしてください。

■充電中に、AM ラジオにノイズが入るときは

ワイヤレス充電器の電源を OFF にして、ノイズが低減するか確認してください。ノイズが低減する場合は、充電中にワイヤレス充電器の電源スイッチを約 2 秒間押し続けることで、充電の周波数を切りかえてノイズを低減することができます。また、その際、作動表示灯が橙色に 2 回点滅します。

■充電中の留意事項

充電中は、ワイヤレス充電器と携帯機器が温かくなりますが、異常ではありません。充電中に携帯機器が温かくなったときは、携帯機器側の保護機能により、充電が停止することがあります。この場合、携帯機器の温度が十分に下がってから、再度、充電を行ってください。

■作動中の音について

電源スイッチを押して電源を ON にしたときや、ワイヤレス充電器の電源 ON 中にパワースイッチを押して ACC や ON に変更したとき、および携帯機器を検出中は “カチッ” や “ジー” と作動音

がしますが、異常ではありません。

警告

■運転中の注意

携帯機器を充電する場合、安全のため、運転者は運転中に携帯機器本体の操作をしないでください。

■走行中の注意

コードレスヘッドフォンなど小型、軽量の携帯機器は、走行中に充電しないでください。軽量のため充電トレイから飛び出し、思わぬ事故の原因になるおそれがあり危険です。

■電波がおよぼす影響について

植込み型心臓ペースメーカー、植込み型両心室ペーシングパルスジェネレータおよび植込み型除細動器などの医療用電気機器を装着されている方は、ワイヤレス充電器のご使用にあたっては医師とよくご相談ください。ワイヤレス充電器の動作が医療用電気機器に影響を与えるおそれがあります。

■故障ややけどを防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと装置の故障や損傷、発火、発熱によるやけどにつながるおそれがあります。

- 充電中に、充電エリアと携帯機器のあいだに金属物を挟まない
- 飲用水などが入った容器をワイヤレス充電器の上に置かない
- 充電エリアや携帯機器にアルミなどのシールや金属製のものを貼り付けない
- 強い力や衝撃をかけない
- 分解や改造、取りはずしをしない
- 指定された携帯機器以外は充電しない
- 磁気を帯びたものを近付けない
- 充電エリアにほこりがかぶった状態で充電しない
- 布などをかぶせて充電しない

注意

■機能が正常に働かないおそれのある状況

次のような場合は正常に充電しない場合があります。

- 携帯機器が満充電
- 有線接続で携帯機器を充電中
- 充電エリアと携帯機器のあいだに異物がある
- 充電により、携帯機器の温度が高温になっている
- 炎天下などにより、充電エリア付近の温度が 35 ℃以上になっている
- 携帯機器の充電面を上にして置いた
- 携帯機器が充電トレイよりも大きい
- 折りたたみ式等の小型の携帯機器の充電コイルが充電エリアから外れている
- 携帯機器のカメラ部の突起が充電面より 3mm 以上ある
- 近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港があるなど、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
- 電子キーが車内にない
- 携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに、次のような 2mm 以上の厚みがあるものが挟まれているとき

・厚みがあるケースやカバー
・厚みがあるデコレーション

注意

・レンズ部に凸形状があるケースやカバー

・指リングやストラップなどのアクセサリー

●携帯機器が、次のような金属製のものに接していたり、覆われたりしているとき

・アルミ箔などの金属の貼られたカード

・アルミ箔を使用したタバコの箱

・金属製の財布やかばん

・小銭

・カイロ

・CD や DVD などのメディア

・金属製のデコレーション

・金属製のケースやカバー

・携帯機器の充電面側に磁石が入った手帳型ケース

●近くで電波式ワイヤレスリモコンを使用しているとき

●２つ以上の携帯機器を同時に充電トレイに置いたとき

また、上記以外で、充電が正常に行われない、または、作動表示灯が点滅したままのときは、ワイヤレス充電器の異常が考えられます。トヨタ販売店へお問い合わせください。

■故障やデータ破損を防止するために

●充電中に、充電エリアにクレジットカード・ETC カードなどの磁気カードや磁気記録メディアなどを近付けると、磁気の影響によりデータが消えるおそれがあります。また、腕時計などの精密機器を近付けると、こわれたりするおそれがありますので、近付けないでください。

●携帯機器の充電面と充電エリアのあいだに、交通系 IC カードなど非接触型 IC カードを挟んだまま充電しないでください。IC チップが非常に高温になり、携帯機器や IC カードが破損するおそれがあります。特に、非接触型 IC カードを取りつけられるケースやカバーを携帯機器に装着したまま充電しないようにご注意ください。

●携帯機器は車室内に放置しないでください。炎天下など車室内が高温となり、故障の原因になります。

■補機バッテリーあがりを防止するために

FC システムを停止した状態で、ワイヤレス充電器を長時間使用しないでください。

アームレスト

手前に倒して使用します。

注意

■アームレストの破損を防ぐために

過度の負荷をかけないでください。

アシストグリップ

天井に取り付けられているアシストグリップは、シートに座っている状態で体を支えるときにお使いください。

警告

■アシストグリップについて

アシストグリップは、乗降時やシートから立ち上がるときなどに使用しないでください。アシストグリップが破損し、転倒などしてけがをするおそれがあります。

注意

■破損を防ぐために

アシストグリップに重いものをかけたり、過度の負荷をかけたりしないでください。

コートフック

警告

■コートフックへかけてはいけないもの

ハンガーや他の硬いもの、鋭利なものをかけないでください。
SRS カーテンシールドエアバッグがふくらんだときにそれらのものが飛び、重大な傷害または死亡につながるおそれがあります。

アクセサリーソケット／アクセサリーコンセント★を使うには

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

次の電気製品を使うときの電源としてお使いください。
12V：DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）以下の電気製品
AC100V：AC100V で最大消費電力 100W 以下の電気製品

■ アクセサリーソケット

ふたを開けて使用する

■ アクセサリーコンセント（AC100V・100W）

ふたを開けて使用する

▶ 室内コンセント

▶ トランク内コンセント

知識

■使用条件

▶ アクセサリーソケット

パワースイッチが ACC または ON のとき

▶ アクセサリーコンセント

パワースイッチが ON のとき

■FC システムを停止するとき

モバイルバッテリーなどの、充電機能を備えた電気製品をはずしてください。接続したままにしておくと、FC システムが正常に停止しなくなる場合があります。

注意

■ヒューズが切れるのを防ぐために

▶ アクセサリーソケット

DC12V で最大電流 10A（最大消費電力 120W）以上の電気製品を使用しないでください。

▶ アクセサリーコンセント

AC100V で最大消費電力 100W 以上の電気製品を使用しないでください。消費電力が 100W をこえる電気製品を使用すると、保護回路が作動して電源を遮断します。

■ショートや故障を防ぐために

▶ アクセサリーソケット

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときはふたを閉めておいてください。

▶ アクセサリーコンセント

ソケットに異物が入ったり、飲料水などがかかったりしないように、使用しないときはコンセントから電気製品のプラグをはずし、ふたを閉めておいてください。

■誤作動を防ぐために

パワースイッチを OFF にするときは、充電機能をもつ電気製品をはずしてください。

接続したままにしておくと、次のような誤作動を起こすおそれがあります。

- スマートエントリー＆スタートシステムやワイヤレスリモコンによるドアの施錠ができない
- メーターのオープニング画面が表示される
- 室内灯やインストルメントパネル照明などが点灯する

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

FC システムが停止した状態でアクセサリーソケット／アクセサリーコンセントを長時間使用しないでください。

■正しく作動しないおそれがある電気製品（アクセサリーコンセント）

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 100W 以下の場合でも正常に作動しないおそれがあります。

- 起動時のピーク電力が高い電気製品
- 精密なデータを処理する計測機器
- 電源周波数の切りかえ（50/60Hz）のある機器
- 極めて安定した電力供給を必要とするその他の電気製品

サンバイザーを使うには

1 前方をさえぎるには、バイザーを下ろす

2 側方をさえぎるには、バイザーを下ろした状態でフックからはずし、横へまわす

バニティミラーを使うには

カバーをスライドして開ける

ランプが点灯します。

知識

■補機バッテリーあがりを防ぐために

パワースイッチが OFF の場合、バニティランプが点灯したままのときは約 20 分後に自動消灯します。

注意

■補機バッテリーあがりを防止するために

FC システムが停止した状態で長時間ランプを点灯しないでください。

リヤドアサンシェード★を使うには

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

ツマミをしっかりと持って引き出し、フックにかける

もどすときはフックからはずし、しっかりと持ったままゆっくり収納します。

注意

■正常に機能させるために

次のことをお守りください。

●開閉のさまたげになる部分にものを置かない

●リヤドアサンシェードにものを貼らない

●リヤドアサンシェードをフックにかけているときに過度の負荷をかけない

●リヤドアが開閉しているときは、リヤドアサンシェードを操作しない

●収納するときに傾けた状態で収納しない
傾けた状態で収納すると、スクリーン部のしわの原因になります。

■リヤドアサンシェードの破損を防止するために

次のことをお守りください。

●フックが片方はずれた状態で使用しない
リヤドアを開閉するときにリヤドアサンシェードが破損するおそれがあります。

●フックにかけた状態でスクリーン部をひっぱらない
スクリーン部が破損するおそれがあります。

リヤサンシェード★を展開／格納するには

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

リヤサンシェードスイッチやリヤコントロールパネルの操作ボタンを使ってリヤサンシェードを展開／格納できます。

■ フロント席からの操作

展開／格納

■ リヤ席からの操作

1 リヤコントロールパネルの⏻を押す

2 SHADE を選択する

サンシェードが展開／格納します。

知識

■作動条件

パワースイッチが ON のとき

■FC システム停止後の作動

パワースイッチを ACC または OFF にしたあとでも、しばらくのあいだはリヤサンシェードを操作できます。

■リバース連動機能

リヤサンシェードが上がった状態でシフトポジションを R にすると、後方を見やすくするためにリヤサンシェードが下降

します。
ただし、以下のいずれかをおこなうと、リヤサンシェードは再度上昇します。

●操作ボタンをもう一度押す

●シフトポジションを P に入れる

●シフトポジションを P と R 以外にし、15km/h 以上で走行する

リバース連動機能によりリヤサンシェードが下降した状態で FC システムを停止した場合は、再び FC システムを始動して 15km/h 以上で走行しても上昇しません。上昇させるには、操作ボタンを押してください。

■カスタマイズ機能

機能の一部は、設定を変更することができます。（→P.480）

警告

■リヤサンシェード作動中は

リヤサンシェードの留め金部分や溝に指を置かないでください。
巻き込まれてけがをするおそれがあります。

注意

■正常に機能させるため

以下のことをお守りください。

●モーターやほかの部分に負荷をかけすぎないようにしてください。

●開閉の妨げになる部分にものを置かないでください。

●リヤサンシェードにものを貼らないでください。

●溝をきれいに保ってください。

アクセサリーコンセント（AC100V・1500W）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

車内において、AC100V で最大消費電力 1500W 以下の電気製品を使うときの電源としてお使いください。

各部の名称

A AC100V スイッチ

B トランク内コンセント

C 室内コンセント

D パワースイッチ（→P.173）

コンセントを ON するとき

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認し、ブレーキペダルをしっかり踏みながらパワースイッチを押す（→P.173）

2 READY インジケーターが点灯したことを確認し、AC100V スイッチを押す

AC100V スイッチ上の作動表示灯が点灯し、使用可能な状態になります。

AC100V スイッチを押すたびにコンセントの ON/OFF が切りかわります。

電気製品の電源プラグを接続するとき

フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり差し込む

コンセントは室内とトランク内の 2 カ所にあります。

▶ 室内コンセント

▶ トランク内コンセント

コンセントを OFF するとき

次の手順をお守りください。

1 使用している電気製品の電源を OFF にする
2 AC100V スイッチを押して OFF にする
3 コンセントから電源プラグを取りはずす
4 コンセントのフタを閉める

知識

■使用条件

●READYインジケーターが点灯しているとき

●DC 外部給電システムを使用しているとき

■DC 外部給電システムを使用しているとき

AC100V スイッチを押さなくても、コンセントを常時使用することができます。

また、作動表示灯は点灯したままとなり、スイッチを押しても OFF できません。

■使用しないとき

DC 外部給電システムを使用していないとき：

AC100V スイッチを OFF にして、スイッチ上の作動表示灯が消灯していることを確認してください。

DC 外部給電システムを使用しているとき：

DC 外部給電システムを停止してください。DC 外部給電システムを停止すると、AC100V スイッチは自動で OFF になります。

■アクセサリーコンセントに接続する電気製品について

すべてのコンセントに接続されている電気製品の消費電力の合計が AC100V で最大 1500W 以下となるよう、電気製品を使用してください。使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が規定容量をこえる場合があります。規定容量をこえる電気製品を使用するとコンセントの保護機能が働き使用できなくなりますが、故障ではありません。ただし、次の点について注意が必要です。

●使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。

●各電気製品の取り扱い説明書に記載されている注意事項に従ってください。

●一般的な電気製品の多くは、自動車内での使用が想定されていません。車室内で電気製品を使用すると、次のような問題が発生する場合があります。

・走行中の振動による電気製品の故障
・車室内の温度変化※による電気製品の故障または作動不良
・車室内が平らではないため、設置が不安定になり、正常に作動しない

※天候・季節・使用環境などによっては、車室内が極端な高温または低温になることがあります。

■駐車中または停車中に使用するとき

●電子キーでドアを施錠・解錠することはできません。メカニカルキー（→P.121）のみでドアを施錠・解錠することができます。

●給電中に周囲が暗くなると、自動でヘッドランプなどが点灯します。ランプを消灯する（→P.191）

■アクセサリーコンセントについて

●コンセントは車室内で電気製品を使用するための装備です。

●コンセントを使用中、リヤシート付近から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力が 1500W 以下でも正常に作動しないおそれがあります。

●起動時の電力が大きい電気製品

●精密なデータ処理をする計測機器

●きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品

●タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

■給電機能が使用できないとき

AC100V スイッチを押しても作動表示灯が点灯しない場合、保護機能が働いていることが考えられます。
この場合、まず次の処置を行ってください。

●電気製品の電源プラグを抜き、すべてのコンセントの使用電力合計が 1500W 以下になっているかを確認し、再度 AC100V スイッチを押してください。

●電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認して、再度 AC100V スイッチを押してください。

●駆動用電池の残量を確認してください。（→P.113）残量が少ない場合は、シフトポジションを P にして、駆動用電池の残量を回復させ、再度 AC100V スイッチを押してください。

●炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は車両を日陰等へ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから再度、AC100V スイッチを押してください。

●特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するため給電機能が使用できないことがあります。その場合は、しばらく走行して駆動用電池を暖めてから使用してください。

●燃料充てん扉が開いているとき燃料充てん扉を閉じて、再度 AC100V スイッチを押してください。

以上の処置を行ってもコンセントが使用できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■電源周波数について

工場出荷時、車両側の電源周波数は 50Hz に設定されています。
コンセントと電源周波数が異なる電気製

品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。
電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50/60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。
車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■安全にお使いいただくために

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●走行中、次のような場合は、電気製品を使用しないでください。また、電気製品を確実に固定できない状態で使用しないでください。

・わき見運転など、安全運転のさまたげになる場合（テレビ・ビデオ・DVD など）

・急ブレーキをかけたときや衝突したときなどに、固定の不完全な電気製品の転倒・落下による事故や、発熱により火災・やけどなどのおそれがある場合（トースター・電子レンジ・電熱器・ポット・コーヒーメーカーなど）

・ペダルの下に電気製品が入り込み、ブレーキペダルが踏めなくなるおそれがある場合（ドライヤー・AC アダプター・マウスなど）

●窓を閉めたまま、蒸気が出る電気製品を使用しないでください。ガラスが曇って視界が悪化し、運転に支障が出るなどのおそれがあります。また、他の電装品に悪影響をおよぼすおそれがあります。やむを得ず使用するときは、車両を停車した状態で窓を開けて使用してください。

●故障した電気製品を使用しないでください。給電機能が使用できなくなるおそれがあります。

●ぬれた手で電気製品の電源プラグを抜き差ししたり、ピンなどをコンセントに差したりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。

●コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。修理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

●お子さまにコンセントをさわらせないでください。

●コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。

●電気製品の電源プラグをコンセントに差し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

■駐車中または停車中に使用するとき

次のことをお守りください。お守りいただかないと、思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

●パーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションを P にしていることを確認してください。

警告

- 電気製品を使用中に、READY インジケーターが点灯した状態のまま車両から離れないでください。
- 排気排水管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。
- ボンネットが閉まっていることを確認してください。
  FC ユニットルーム内に顔や手を近づけないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。
- 燃えやすいものの近くで停車しないでください。
- 車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。
- 給排気設備のない車庫内など換気が悪い場所や給排気設備のない囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、使用しないでください。
- 車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。
- 暖房器具などの電気製品を使用して車中に泊まる際は、十分注意してください。給電システムの自動停止などにより、電気製品が意図せず停止するおそれがあります。
- 車外で電気製品を使用するときや、災害などによる非常時に電力が必要な場合などには、非常時給電システムを使用してください。（→P.378）

■接続する電気製品について

- 使用する電気製品に付属の取り扱い説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。
- 電源プラグや電気製品が故障しているときは使用しないでください。
  アース線のある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線を変換アダプタのアース端子に接続してください。
- 特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性があります。
- 水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性があります。
- 防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。
- 水没や浸水した、またそのおそれのある電気製品は使用しないでください。
- 車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあります。

注意

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

■ショートや故障を防ぐために

- 車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。
  熱により溶損や焼損のおそれがあります。

⚠注意

- 振動や熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。
  走行時の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。
- コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。特に、電子レンジは使用中に発熱するおそれがあります。
- コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。
  コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。
- コンセントに、二股などの分岐用コンセントを複数接続するなど、タコ足配線はしないでください。
- コンセントに異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。

■特に外気温が高いとき

炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は車両を日陰等へ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてから再度、AC100V スイッチを押してください。

■特に外気温が低いとき

特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するため給電機能が使用できないことがあります。その場合は、しばらく走行して駆動用電池を暖めてから使用してください。

非常時給電システム★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

災害などによる非常時に電力が必要なとき、次の方法を行うことで、車両の走行機能を停止した状態で給電ができます。

システムの構成部品

A AC100V スイッチ

B トランク内コンセント

C 室内コンセント

D パワースイッチ（→P.173）

給電作業をする前に

給電作業は、次の内容をよくお読みいただいた上で、正しい手順に沿って行ってください。

- DC外部給電を実施していないこと
- パーキングブレーキがかかっていること
- シフトポジションが P になっていること
- パワースイッチが OFF になっていること
- システム作動中はFCシステムが作動するおそれがあるので、車庫内等、換気の悪い場所を避け、換気のよい場所に駐車すること
- 地面が固く平らな場所に駐車すること

輪止めの使用をおすすめします。輪止めはトヨタ販売店で購入することができます。

- 給電中はオートアラームを設定することができません。盗難を防ぐために、車内やトランク内に貴重品などを放置しないこと
- ボンネットが閉まっていること
- 燃料充てん扉が閉まっていること

給電作業をするには

■ 非常時給電システムを起動するとき

1 ブレーキペダルを踏まずに、パワースイッチを 2 回押して ON にする（→P.176）

ブレーキペダルを踏んだまま、パワースイッチを押し、READY インジケータが点灯した場合、非常時給電システムは使用できません。

2 READY インジケーターが点灯していないことを確認し、AC100V スイッチを 3 回連続で押す

AC100V スイッチ上の作動表示灯が点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに使用上の注意に関する画面が表示されます。内容を確認し、メーター操作スイッチの**OK**を押してください。

AC100V スイッチを押す間隔が 1 秒以上あいた場合、マルチインフォメーションディスプレイの表示がされないときがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。

AC100V スイッチを 4 回以上連続で押した場合、非常時給電システム起動直後、停止することがあります。この場合は、はじめから操作をやり直してください。

3 マルチインフォメーションディスプレイに給電状態が表示されます

■ 給電状態表示

A 400W 消費の電気製品を接続した場合に給電可能なおおよその時間

表示される時間は 400W 消費時の目安であり、使用する電気製品や使用環境な

どにより、表示されている時間と実際の給電時間が異なる場合があります。

■ 電気製品の電源プラグを接続するとき

フタを開けて電気製品の電源プラグをコンセントの奥までしっかり差し込む

コンセントは室内とトランク内の 2 カ所にあります。給電するときは、室内コンセントを使用することをおすすめします。

▶ 室内コンセント

電気製品の接続されていることがわかるように窓から延長コードを出すことをおすすめします。その場合は、図で示すように接続されたコードにたるみをもたせ、異常な張りが発生しないようにしてください。
窓ガラスを上昇させるときはパワーウィンドウスイッチで自動全閉を行わずに上昇させ、コードを窓枠とガラスで挟み込まないように隙間を確保してください。(→P.159)

▶ トランク内コンセント

アース線のある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線を変換アダプターのアース端子に接続する

■ 非常時給電システムを停止するとき

次の手順をお守りください。

1 使用している電気製品の電源を OFF にする
2 AC100V スイッチを押して OFF にする
3 コンセントから電源プラグを取りはずす
4 コンセントのフタを閉める
5 パワースイッチを OFF にする

知識

■非常時給電システムについて

● AC100V で消費電力の合計が 1500W 以下の電気製品を使用してください。

規定容量をこえる電気製品を使用すると、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。

●使用する電気製品によっては、大きな電流が流れ、瞬間電力が 1500W をこえるときがあります。この場合、保護機能が働き、給電機能が停止することがあります。

●複数の電気製品に給電する場合、電気製品によっては正常に作動しない可能性があります。その場合は、単独で電気製品を使用してください。

●消費電力が大きな電気製品（ホットプレートなど）の中には、コンセントを単独で使うことを必須としているものがあります。その場合、他の電気製品と併用しないでください。

●使用する電気製品によっては、テレビやラジオに雑音が入ることがあります。

●コンセントを使用中、リヤ席付近から冷却用ファンの音がすることがありますが、異常ではありません。

■正しく作動しないおそれがある電気製品

次のような AC100V の電気製品は、消費電力の合計が 1500W 以下でも正常に作動しないおそれがあります。

●起動時の電力が大きい電気製品

●取扱説明書などに記載されている消費電力よりも大きな供給電力を必要とする電気製品

●精密なデータ処理をする計測機器

●きわめて安定した電力供給を必要とする電気製品

●タイマー設定する機器など、コンセントの出力が連続して必要な電気製品

■非常時給電システムが使用できないとき

●給電機能が使用できないとき

AC100V スイッチを押しても作動表示灯が点灯しない場合、保護機能が働いていることが考えられます。
この場合、まず次の処置を行ってください。

・電気製品の電源プラグを抜き、消費電力が 1500W 以下になっているかを確認し、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
・電気製品の電源プラグを抜き、製品自体が故障していないかを確認して、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
・駆動用電池の残量を確認してください。（→P.113）残量が少ない場合は、駆動用電池の残量を回復させ、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
・車内が高温になると、給電システムを保護するため給電機能が停止することがあります。その場合は車両を日陰等へ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げながら使用してください。
・炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は車両を日陰等へ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてからパワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。
・特に外気温が低いときは、駆動用電池を保護するため給電機能が使用できないことがあります。その場合は、エアコンを使用し駆動用電池をあたためてから使用してください。

●燃料充てん扉が開いているとき

燃料充てん扉を閉じて、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。

●マルチインフォメーションディスプレイに非常時給電モードの表示がされていない場合、パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してくだ

さい。

●マルチインフォメーションディスプレイに下記のメッセージが表示されたとき

・“燃料の残量低下により給電停止しました”

燃料が少なくなったため、非常時給電モードを停止しました。燃料を充てんしてください。

・“水素充填口開検知　安全な場所に停車して閉じてください”

燃料充てん扉が開いたため、非常時給電モードを停止しました。パワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。

以上の処置を行っても非常時給電システムが使用できない場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■電源周波数について

工場出荷時、車両側の電源周波数は50Hz に設定されています。
コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。
電気製品によっては、電源周波数の切りかえ（50/60Hz）機能があるので、車両と電気製品の電源周波数を同じにしてください。
車両側の電源周波数切りかえが必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■非常時給電システムの使用中

●スマートエントリー＆スタートシステムでドアを施錠・解錠することはできません。

●電子キーでドアの施錠・解錠をすることはできません。メカニカルキー（→P.121）のみでドアの施錠・解錠ができます。

●ドアの開閉などにより、ブザーが鳴ったり、マルチインフォメーションディスプレイに“キーが見つかりませんキーの所在を確認してください”と表示されたりすることがあります。電子キーを携帯していることを確認してください。

●給電中に周囲が暗くなると、自動でヘッドランプなどが点灯します。ランプを消灯したいときは、P.191 を参照してください。

●給電中に排気排水管から水が出ることがありますが、異常ではありません。

●DC 外部給電は使用できません。

警告

■安全にお使いいただくために

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、思わぬ事故の原因となり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●コンセントは、照明器具などの電気製品と直接接続して使用するものです。家屋などへ電気を供給する発電機として使用しないでください。また、家屋などに設置されている非常時の給電システム（外部電源と接続ができる専用設備、外部電源からの供給回路が電力会社からの電気配線と分離されている設備など）に使用する場合は、当該システムの製造業者または販売業者にご相談ください。

●非常時給電システムの使用中はパーキングブレーキをしっかりとかけて、シフトポジションを P から切りかえないでください。車両が動いて思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●非常時給電システムの使用中は車両から離れないでください。また、燃料充てんや洗車は行わないでください。

警告

●非常時給電システムの使用中は、お子様や介護を必要とする方、ペットを車内に残さないでください。エアコンを使用していても、システムの自動停止等により室内が高温、または低温になる場合があり、熱中症・脱水症状・低体温症になるおそれがあります。

●車外に電源コードを引いて使用する場合は、雨水の侵入などに注意してください。コンセントに雨水が付着した場合は、乾燥させてから使用してください。電源コードをドアなどに挟まないように注意してください。

●落雷の可能性がある天候のときは給電を行わないでください。給電中、雷に気付いたときは給電を停止してください。

●ぬれた手で電気製品の電源プラグを抜き挿ししたり、ピンなどをコンセントに挿したりしないでください。また、コンセントに雨水・飲料水・雪などが付着した場合は乾燥させてから使用してください。

●コンセントの改造・分解・修理などはしないでください。修理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

●お子さまなど、不慣れな方だけで給電作業を行わないでください。

●コンセントにほこりやゴミが付着しないようにしてください。また、定期的にコンセントを掃除してください。

●コンセントへは電源プラグ本体を持って抜き挿しをし、プラグの刃にふれないようにしてください。コードを引っ張って電源プラグを抜くと、電源プラグやコードが損傷するおそれがあります。

●電気製品の電源プラグをコンセントに差し込んでもゆるいときは、コンセントを交換してください。交換についてはトヨタ販売店にご相談ください。

●コードやコンセントに異常な発熱を感じたらただちに使用を中止してください。また、コードやコンセントの発熱を防ぐために、次のことをお守りください。

・コンセントに、分岐用コンセントを複数接続しない

・コードリールを使用する場合、コードはリールからすべて引き出す

●アース線のある電気製品を使用するときは、市販の変換アダプターを使用してアース線を変換アダプターのアース端子に接続してください。

●排気排水管付近に近付いたり、荷物を置いたりしないでください。

●ボンネットが閉まっていることを確認してください。
FC ユニットルーム内に顔や手を近づけないでください。ラジエーター冷却用のファンが急にまわりだすことがあります。ファンの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や着衣（特にネクタイ・スカーフ・マフラーなど）が巻き込まれるおそれがあります。

●燃えやすいものの近くで停車しないでください。

警告

●発電時に酸素を消費します。車庫内など換気が悪い場所や囲まれた場所（雪が積もった場所）などでは、酸素欠乏を防ぐため、給排気を可能とする関連装置などを適切に設置して、使用してください。設置できない場合は使用しないでください。

●車両をカーカバーなどで覆った状態で使用しないでください。

●暖房器具などの電気製品を使用して車中に泊まる際は、十分注意してください。給電システムの自動停止などにより、電気製品が意図せず停止するおそれがあります。

●車外にコードを引いて使用する場合は、次のことに注意してください。

・雨水の侵入などに注意する

コンセントに雨水が付着した場合は、乾燥させてから使用してください。

・コードを窓やドアで挟まない

・たるみをもたせ、異常な張りが発生しないようにする

・誤って車両を発進させない

■接続する電気製品について

●使用する電気製品に付属の取り扱い説明書や、製品に記載されている注意事項を必ずお守りください。

●電源プラグや電気製品が故障しているときは使用しないでください。

●特に外気温が低いときや高いときは、故障や作動不良になる可能性があります。

●水平設置が必要な電気製品は、正常に作動しない可能性があります。

●防水仕様の電気製品を除き、雨や水のかかる場所、湿気の多い場所では使用しないでください。

●水没や浸水した、またそのおそれのある電気製品は使用しないでください。

●車両の状態によっては、一時的に給電機能が停止することがあります。

注意

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、正常に作動しなかったり、車両や電気製品が損傷したりするおそれがあります。

■ショートや故障を防ぐために

●車内のトリムの近くやシートの上などで、トースターなどの熱気を出す電気製品を使用しないでください。熱により溶損や焼損のおそれがあります。

●振動や熱などに弱い電気製品を車内で使用しないでください。車両の振動や、炎天下での駐車時の熱などにより、電気製品が故障するおそれがあります。

●コンセントと電源周波数が異なる電気製品を使用しないでください。誤作動や故障などの原因になるおそれがあります。特に、電子レンジは使用中に発熱するおそれがあります。

注意

●コンセントを使用しないときは、フタを閉めてください。
コンセントに異物が入ったり、飲料水などがかかったりすると、故障したり、ショートしたりするおそれがあります。

■特に外気温が高いとき

●炎天下に放置した直後など、車内が高温になっている場合は車両を日陰等へ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げ、しばらくしてからパワースイッチを OFF にし、はじめから操作をやり直してください。

●給電システムを保護するため給電機能が停止することがあります。その場合は車両を日陰等へ移動したり、エアコンを使用するなどして車内温度を下げながら使用してください。

■特に外気温が低いとき

駆動用電池を保護するため給電機能が使用できないことがあります。その場合は、エアコンを使用し駆動用電池をあたためてから使用してください。

■非常時給電システムを使用したあと、走行させるとき

非常時給電モードを停止してから FC システムを始動してください。

お手入れのしかた 7

7-1. お手入れのしかた

外装の手入れ 388
内装の手入れ 392

7-2. 簡単な点検・部品交換

ボンネット 395
ガレージジャッキ 396
FC ユニットルームカバー 397
ウォッシャー液の補充..... 399
タイヤについて 400
タイヤの交換 408
タイヤ空気圧について..... 411
エアコンフィルターの交換..... 412
駆動用電池冷却用吸入口の清掃414
電子キーの電池交換..... 417
ヒューズの点検・交換..... 419
電球（バルブ）の交換..... 422

外装の手入れ

お手入れは、部位や素材にあった適切な方法で実施してください。

手入れの作業要領

- 水を十分かけながら車体・足まわり・下まわりの順番に上から下へ汚れを洗い落とす
- 車体はスポンジやセーム皮のようなやわらかいもので洗う
- 汚れがひどいときはカーシャンプーを使用し、水で十分洗い流す
- 水をふき取る
- 水のはじきが悪くなったときは、ワックスがけを行う

ボデーの表面の汚れを落としても水が玉状にならないときは、車体の温度が冷えているときにワックスをかける（およそ体温以下を目安としてください）

なお、ボデーコート・ホイールコート・ガラスコートなど、トヨタケミカル商品を施工された場合は、お手入れ方法が異なります。詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

知識

■セルフリストアリングコートについて

お車のボデーには、洗車などによる小さなすり傷を自然に復元する、傷付きにくい塗装を使用しています。

- 新車時から５～８年のあいだ、効果が持続します。
- 傷が復元するまでの時間は、傷の深さや周囲の温度により変化します。
  なお、お湯をかけて塗装を温めると、復元するまでの時間が短くなる場合があります。
- 鍵や硬貨などによる深い傷は復元できません。
- 成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。

■自動洗車機を使うとき

- ドアミラーを格納し、車両前側から洗車してください。また、走行前は必ずドアミラーを復帰状態にもどしてください。
- ブラシで車体などに傷が付き、塗装を損なうことがあります。
- Nポジションを保持したままにする必要があるときは、P.180 を参照してください。

■高圧洗浄機を使うとき

室内に水が入るおそれがあるため、ノズルの先端をドアやガラスの開閉部に近付けすぎたり、同じ場所に連続してあてたりしないでください。

■洗車などで車に水をかけたとき

キーを携帯して洗車などで水をドアハンドルにかけた場合、施錠／解錠動作をくり返すことがあります。その場合は次のような処置をして、洗車などをしてください。

- 電子キーを車両から2m以上離れた場所に保管する（電子キーの盗難に注意してください）
- 電子キーを節電モードに設定し、スマートエントリー&スタートシステムの作動を停止する（→P.132）

■ホイール・ホイールキャップについて

- 中性洗剤を使用し、早めに汚れを落としてください。

●洗剤を使用したあとは放置せずに水で十分洗い流してください。

●塗装の損傷を防ぐため、次のことを必ずお守りください。
・酸性・アルカリ性および研磨剤の入った洗剤を使用しない
・硬いブラシを使用しない
・夏場の走行後や駐車後でホイールが熱いときは、洗剤を使用しない

■ブレーキパッドやディスクローターについて

水に濡れた状態のまま駐車しておくと、錆びて貼り付くことがあります。洗車後は低速で走行し、ブレーキを数回かけて乾燥させてから駐車してください。

■バンパーについて

研磨剤入りの洗剤でこすらないようにしてください。

■フロントドアガラスの撥水コーティングについて

●撥水効果を長持ちさせるため、次のことに注意してください。
・フロントドアガラス表面の泥などの汚れを落とす
・汚れは早めにやわらかい湿った布などで清掃する
・コンパウンド（磨き粉）が入ったガラスクリーナーやワックスを使用しない
・金属製の道具で霜取りをしない

■メッキ部品のお手入れについて

メッキ部品の汚れが落ちにくい場合は、次の方法でお手入れをしてください。

●中性洗剤を水で約5%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る

●乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取る

●油分を含んだ汚れはアルコール系ウェットティッシュなどで油を浮かせてからふき取る

■ルーフフィルムについて（電動サンシェード装着車）

●鳥のふん、オイルなどが付着した場合、速やかに中性洗剤などを使用してふき取ることを推奨します。

●物を載せると跡がつきますが、押し跡の程度によってはドライヤー等で温めると押し跡は回復できます。

●フィルムの上にフィルムを貼らないでください。

●成分にコンパウンド（磨き粉）が含まれるワックス類は使用しないでください。

●フィルムの補修が必要な場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

■Advanced Drive 装着車について★

専用のセンサーが搭載されているため、お手入れの際は「Toyota Teammate Advanced Drive 取扱書」も併せてお読みください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

⚠警告

■洗車をするとき

FC ユニットルーム内に水をかけないでください。
電気部品などに水がかかると、車両火災につながるおそれがあり危険です。

警告

■フロントウインドウガラスを清掃するとき

ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、次のようなときにワイパーが不意に作動し、指などを挟み重大な傷害を受けたり、ワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

A ○ (OFF)

B AUTO

- 雨滴センサー上部のフロントウインドウガラスに手でふれたとき
- 水分を含んだ布などを雨滴センサーに近付けたとき
- フロントウインドウガラスに衝撃を与えたとき
- 車内から雨滴センサー本体にふれるなどして衝撃を与えたとき

■フロントバンパーについて（Toyota Teammate Advanced Drive 装着車）

フロントバンパーの塗装に傷がつくと、Toyota Teammate Advanced Drive が正常に作動しなくなるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。

■リヤバンパーについて

リヤバンパーの塗装に傷がつくと、次のシステムが正常に作動しなくなるおそれがあります。トヨタ販売店にご相談ください。

- Toyota Teammate Advanced Drive ★
- BSM
- 後方車両への接近警報
- RCTA
- PKSB

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

注意

■塗装の劣化や車体・部品（ホイールなど）の腐食を防ぐために

- 次のような場合は、ただちに洗車してください。
  - ・海岸地帯を走行したあと
  - ・凍結防止剤を散布した道路を走行したあと
  - ・コールタール・花粉・樹液・鳥のふん・虫の死がいなどが付着したとき
  - ・ばい煙・油煙・粉じん・鉄粉・化学物質などの降下が多い場所を走行したあと
  - ・ほこり・泥などで激しく汚れたとき
  - ・塗装にベンジンやガソリンなどの有機溶剤が付着したとき
- 塗装に傷が付いた場合は、早めに補修してください。
- ホイール保管時は、腐食を防ぐために汚れを落とし、湿気の少ない場所へ保管してください。

注意

■ランプの清掃

●注意して洗ってください。有機溶剤や硬いブラシは使用しないでください。
ランプを損傷させるおそれがあります。

●ランプにワックスがけを行わないでください。
レンズを損傷するおそれがあります。

■自動洗車機を使用するとき

ワイパースイッチを OFF にしてください。
AUTO モードになっていると、不意にワイパーが作動してワイパーブレードなどを損傷するおそれがあります。

■高圧洗浄機を使用するときは

●洗浄時に高圧洗浄機でカメラやカメラ周辺に直接水を当てないでください。
高い水圧により衝撃が加わり、装置が正常に作動しなくなるおそれがあります。

●エンブレム裏に搭載されているレーダーに直接水をかけないでください。
部品故障の原因になるおそれがあります。

●ノズルの先端を、下記部品の結合部やブーツ類（ゴムまたは樹脂製のカバー）、コネクタ類に近付けすぎないでください。
高い水圧がかかることにより、部品が損傷するおそれがあります。

・駆動系部品
・ステアリング部品
・サスペンション部品
・ブレーキ部品

●モール、バンパーなど樹脂部分は変形、損傷するおそれがあるため、洗浄ノズルと車体との距離を 30cm 以上離してください。また、同じ場所へ連続して水をあてないでください。

●フロントウインドウガラス下部へ連続して水をあてないでください。エアコンの空気取り入れ口があり、エアコンが正常に作動しなくなるおそれがあります。

●高圧洗浄機で車両の下まわりを洗浄しないでください。

内装の手入れ

お手入れは、部位や素材に合った適切な方法で実施してください。

室内の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除き、水またはぬるま湯を含ませた布でふき取る
- 汚れが落ちない場合は、中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
  水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

知識

■カーペットの洗浄について

カーペットは常に乾いた状態を保つことをおすすめします。洗浄には、市販の泡タイプクリーナーがご利用になれます。スポンジまたはブラシを使用して泡をカーペットに広げ、円を描くように塗り込んでください。直接水をかけたりせず、ふき取ってから乾燥させてください。

■シートベルトの取り扱いについて

刺激の少ない洗剤とぬるま湯で、布やスポンジを使って洗ってください。シートベルトのすり切れ・ほつれ・傷などを定期的に点検してください。

■グローブボックス・コンソールボックスなどの植毛部分を掃除する場合

粘着力の強いテープを使用すると植毛がはがれるおそれがあります。

■UV カットガラスについて

- ドアガラスが汚れているときは、早めに水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいて清掃してください。
- ドアガラスの汚れがひどいときは、ドアガラスの開閉をくり返さないでください。

警告

■車両への水の浸入

- 床・トランク内・駆動用電池冷却用吸入口など、車内に水をかけたり液体をこぼしたりしないでください。(→P.74)
  駆動用電池や電気部品などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。
- SRS エアバッグの構成部品や電気配線をぬらさないでください。(→P.33)
  電気の不具合により、SRS エアバッグが作動したり、正常に機能しなくなり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■内装の手入れをするときは（特にインストルメントパネル）

艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。インストルメントパネルがフロントウインドウガラスへ映り込み、運転者の視界をさまたげ思わぬ事故につながり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

注意

■清掃するとき使用する溶剤について

- 変色・しみ・塗装はがれの原因になるため、次の溶剤は使用しないでください。

注意

・シート・デジタルインナーミラー・ハンドル以外：ベンジン・ガソリンなどの有機溶剤や酸性またはアルカリ性の溶剤・染色剤・漂白剤

・シート・デジタルインナーミラー：シンナー・ベンジン・アルコール、その他の酸性やアルカリ性の溶剤

・ハンドル：シンナーなどの有機溶剤、アルコール類を含むクリーナー

●艶出しワックスや艶出しクリーナーを使用しないでください。
インストルメントパネルやその他内装の塗装のはがれ・溶解・変形の原因になるおそれがあります。

■革の傷みを避けるために

皮革の表面の劣化や損傷を避けるために、次のことをお守りください。

●革に付着したほこりや砂はすぐに取り除く

●直射日光に長時間さらさないようにする
特に夏場は日陰で車を保管する

●ビニール製・プラスチック製・ワックス含有のものは、車内が高温になると革に張り付くおそれがあるため、革張りの上に置かない

■床に水がかかると

水で洗わないでください。
オーディオやフロアカーペット下にある電気部品に水がかかると、車の故障の原因となったり、ボデーが錆びるおそれがあります。

■フロントウインドウガラスの内側を掃除するときは

前方カメラのレンズに、ガラスクリーナーが付着しないようにしてください。また、レンズにはふれないでください。(→P.208)

■リヤウインドウガラスの内側を掃除するときは

●熱線やアンテナを損傷するおそれがあるため、ガラスクリーナーなどを使わず、熱線やアンテナにそって水またはぬるま湯を含ませた布で軽くふいてください。

●熱線やアンテナを引っかいたり、損傷させないように気を付けてください。

■UV カットガラスを清掃するときは

ドアガラスを清掃するときは、コンパウンドまたは研磨剤入り用品（ガラスクリーナー・洗剤・ワックスなど）を使用しないでください。コーティングを損傷させるおそれがあります。

サテン仕上げ金属コーティング部分の手入れをするには

● 水で湿らせたやわらかい布または合成セーム皮で汚れをふき取る

● 乾いたやわらかい布で表面に残った水分を完全にふき取る

知識

■サテン仕上げ金属コーティング部分のお手入れについて

表面に本物の金属層を使用していますので、普段のお手入れが大切です。汚れたまま長い間放置すると、汚れが落ちにくくなります。

本革部分の手入れをするには

- 掃除機などでほこりや砂を取り除く
- 薄めた洗剤をやわらかい布に含ませ、汚れをふき取る

ウール用の中性洗剤を水で約 5% に薄めて使用してください。

- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤をふき取る
- 乾いたやわらかい布で表面の水分をふき取り、風通しのよい日陰で乾燥させる

知識

■本革部分のお手入れの目安

品質を長く保つため、年に 2 回程度の定期的なお手入れをおすすめします。

合成皮革部分の手入れをするには

- 掃除機などでほこりを取り除く
- 中性洗剤を水で約 1%に薄めてやわらかい布に含ませふき取る
- 水を浸した布を固くしぼり、表面に残った洗剤・水分をふき取る

ボンネット

ボンネットを開けるには

1 ボンネット解除レバーを引く

ボンネットが少し浮き上がります。

2 レバーを引き上げて、ボンネットを開ける

知識

■補機バッテリーについて

この車両の補機バッテリーはトランク（運転席側）のカバー内にあり、FC ユニットルームには搭載されていません。

警告

■走行前の確認

ボンネットがしっかりロックされていることを確認してください。
ロックせずに走行すると、走行中にボンネットが突然開いて、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■修理・車検・整備点検をする場合は

整備モードに切りかえる必要がありますので、必ずトヨタ販売店にご相談ください。高電圧システムを使用しているため、取り扱いを誤ると、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■ボンネットを閉めるとき

手などを挟まないように注意してください。
重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

■FC ユニットルーム点検後の確認

FC ユニットルーム内に工具や布を置き忘れていないことを確認してください。
点検や清掃に使用した工具や布などを FC ユニットルーム内に置き忘れていると、故障の原因になったり、また、FC ユニットルーム内は高温になるため車両火災につながるおそれがあり危険です。

■補機バッテリーの取り扱いについて

→P.467

注意

■ボンネットやダンパーステーへの損傷を防ぐために

●ボンネットを閉めるときは、体重をかけるなどして強く押さないでください。
ボンネットがへこむおそれがあります。

●ボンネットには、ボンネットを支えるためのダンパーステーが取り付けられています。ダンパーステーの損傷や作動不良を防ぐため、次のことをお守りください。

・ビニール片・ステッカー・粘着材などの異物をステーのロッド部（棒部）に付着させない

・ロッド部を軍手などでふれない

・ボンネットにトヨタ純正品以外のアクセサリー用品を付けない

・ステーに手をかけたり、横方向に力をかけたりしない

ガレージジャッキ

ガレージジャッキを使用するときは、ガレージジャッキに付属の取扱説明書に従って、安全に作業してください。
ガレージジャッキを使用して車両を持ち上げるときは、正しい位置にガレージジャッキをセットしてください。
正しい位置にセットしないと、車両が損傷したり、けがをするおそれがあります。

ジャッキポイントの位置を確認する

■ フロント側

■ リヤ側

警告

■車両を持ち上げるとき

●ガレージジャッキを使用するときに、誤った位置でセットし車両を持ち上げると、車両が損傷します。また、車両がガレージジャッキから落下するおそれがあります。

●水素タンクやリヤサスペンション部などでジャッキアップしない

A フロント

B サスペンション部

C 水素タンク

FC ユニットルームカバー

ヒューズの交換・点検などを行うときに取りはずします。

警告

■けがを防ぐために

カバーを取りはずす前に、パワースイッチを OFF にしてください。熱くなった部品でやけどをしたり、作動中の部品に巻き込まれて重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

注意

■カバー取り付け後の確認

もとの場所に確実に取り付けられていることを確認してください。

FC ユニットルームカバーの取りはずし

▶ 外側

▶ 前側

クリップの取り付け

1 クリップの中央部分Aを押し上げる
2 挿し込む
3 クリップ中央部分を押す

FC スタックカバーの取りはずし

FC スタックカバーを取りはずす

FC スタックカバーの取り付け

FC スタックカバーを取り付ける

1 FC スタックカバーのうしろ側のフックを取り付ける

2 FC スタックカバーの前側をピンに挿し込む

ウォッシャー液の補充

補充をするには

▶ Toyota Teammate Advanced Drive 非装着車

ウォッシャー液が出なかったり、液面が LOW の位置まで低下したら、ウォッシャー液を補充する

▶ Toyota Teammate Advanced Drive 装着車

ウォッシャー液が出なかったり、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージが表示されたら、ウォッシャー液を補充する

知識

■ **ゲージの使い方（Toyota Teammate Advanced Drive 非装着車）**

ウォッシャー液の膜が張っているゲージ

の穴部の位置を確認して、ウォッシャー液の残量を判断します。

残量がゲージの先端から 2 つめの穴部より下まわったら（LOW の位置まで低下した）ら、ウォッシャー液を補充してください。

A 現在の液量

警告

■ウォッシャー液を補充するとき

FC システムが熱いときや FC システム作動中は、ウォッシャー液を補充しないでください。
ウォッシャー液にはアルコール成分が含まれているため、FC システムなどにかかると出火するおそれがあり危険です。

注意

■ウォッシャー液について

ウォッシャー液のかわりに、せっけん水や不凍液などを入れないでください。塗装にしみが付くことや、ポンプが故障してウォッシャー液が出なくなるおそれがあります。

■ウォッシャー液のうすめ方

必要に応じて水でうすめてください。水とウォッシャー液の割合は、ウォッシャー液の容器に表示してある凍結温度を参考にしてください。

タイヤについて

タイヤの点検は、法律で義務付けられています。日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの摩耗を均等にし寿命をのばすために、タイヤローテーション（タイヤ位置交換）を 10,000km ごとに行ってください。

タイヤの点検項目

タイヤは次の項目を点検してください。
点検方法は別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

● タイヤ空気圧

空気圧の点検は、タイヤが冷えているときに行ってください。

● タイヤの亀裂・損傷の有無

● タイヤの溝の深さ

● タイヤの異常摩耗（極端にタイヤの片側のみが摩耗していたり、摩耗程度が他のタイヤと著しく異なるなど）の有無

知識

■タイヤ空気圧の数値

空気圧※　kPa（kg/cm^2）	
前輪	後輪
230 (2.3)	230 (2.3)

タイヤの指定空気圧は、運転席側のタイヤ空気圧ラベルで確認することができます。

※ タイヤが冷えているときの空気圧

■タイヤ関連の部品を交換するとき

タイヤ・ディスクホイール・ホイール取り付けナットを交換するときは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■点検・交換時の警告

必ず次のことをお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- タイヤはすべて同一メーカー・同一銘柄・同一トレッドパターンで、摩耗差のないタイヤを使用する
- メーカー指定サイズ以外のタイヤやホイールを使用しない
- ラジアルタイヤ・バイアスベルテッドタイヤ・バイアスプライタイヤを混在使用しない
- サマータイヤ・オールシーズンタイヤ・冬用タイヤを混在使用しない
- 他の車両で使用していたタイヤを使用しない
  以前どのように使用されていたか不明なタイヤは使用しない

■異常があるタイヤの使用禁止

異常があるタイヤをそのまま装着していると、走行時にハンドルをとられたり、異常な振動を感じることがあります。また、次のような事態になり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

- 破裂などの修理できない損傷を与える
- 車両が横すべりする
- 車両の本来の性能（燃費・車両の安定性・制動距離など）が発揮されない

■異常があるホイールの使用禁止

亀裂や変形などがあるホイールは使用しないでください。
走行中にタイヤの空気が抜けて、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■悪路走行に対する注意

段差や凹凸のある路上を走行するときは注意してください。
タイヤの空気が抜けて、タイヤのクッション作用が低下します。また、タイヤ・ホイール・車体などの部品も損傷するおそれがあります。

タイヤローテーションをするには

図で示すようにタイヤのローテーションを行います。

A フロント

タイヤの摩耗状態を均一にし、寿命をのばすために、トヨタは定期点検ごとのタイヤローテーションをおすすめします。

タイヤローテーション後は、タイヤ空気圧警報システムの初期化を確実に行ってください。

タイヤ空気圧警報システム

ディスクホイールに装着された空気圧バルブ、および送信機が一定周期ごとに各輪のタイヤ空気圧を監視し、タイヤの空気圧の低下を早期に知らせるタイヤ空気圧警報システムが付いています。

● タイヤ空気圧警報システムが検知した空気圧をマルチインフォメーションディスプレイに表示できます。（→P.105）

● 空気圧が一定値をこえて低下している場合、画面表示と警告灯で警報します。（→P.442）

知識

■タイヤ空気圧警報システムについて

タイヤ空気圧警報システムは、日常点検の代用ではありません。
日常点検として必ずタイヤを点検してください。
タイヤの点検方法は、別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

■タイヤ空気圧表示について

●パワースイッチを ON にしたあと、空気圧が表示されるまで 2、3 分かかります。また、空気圧が調節された場合も、表示が更新されるまで 2、3 分かかります。

●タイヤ空気圧は温度によって変化します。また、表示された空気圧は、空気圧計で測定した数値と異なる場合があります。

■タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれのある状況

●次の場合は、タイヤ空気圧警報システムが正しく作動しない場合があります。
・純正ホイール以外を使用したとき
・純正装着タイヤ以外に交換したとき
・指定サイズ以外のタイヤに交換したとき
・タイヤチェーンなどを装着しているとき

・電波を遮断するフィルムがウインドウに貼り付けられているとき
・車両（特にホイール・ホイールハウスの周辺）に多くの雪や氷などが付着しているとき
・タイヤ空気圧が指定空気圧より極端に高いとき
・タイヤ空気圧警報バルブ／送信機を搭載していないホイールを使用しているとき
・タイヤ空気圧警報バルブ／送信機の ID がタイヤ空気圧警報コンピューターに登録されていないとき

●次の場合は正しい性能が確保できない場合があります。
・近くにテレビ塔や発電所・ガソリンスタンド・放送局・大型ディスプレイ・空港など、強い電波やノイズの発生する場所にいるとき
・無線機や携帯電話・コードレス式電話などの無線通信機器が車両付近にあるとき

電波状況によってタイヤ位置情報が正しく表示されない場合は、走行して電波状況がかわることで正しく表示されることがあります。

●停車時は警報開始・警報解除までの時間が長くなる場合があります。

●タイヤが破裂（バースト）したときなど、空気圧が急激に低下したときは、警報できない場合があります。

■タイヤ空気圧警報システムの警報作動について

タイヤ空気圧警報システムの警報は走行状況によってかわります。このため、タイヤ空気圧が低いレベルに達していないときや、初期化したときのタイヤ空気圧より高いときでも、警報することがあります。

空気圧バルブ／送信機の装着について

タイヤやホイールを交換するときは、付けかえたホイールにも空気圧バルブ／送信機を装着してください。

バルブ／送信機を装着する場合は、専用の ID コードをコンピューターに登録する必要があります。（→P.405）

知識

■ホイールごとタイヤを交換するとき

タイヤ空気圧バルブ／送信機の ID コードが登録されていないと、タイヤ空気圧警報システムは正しく作動しません。その場合、約 10 分走行したあとシステム異常となり、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅、その後点灯します。

注意

■タイヤ・ホイール・空気圧バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

●タイヤをホイールから脱着する際は、空気圧バルブ／送信機が損傷しないよう注意してください。脱着手順の詳細は、トヨタ販売店へご相談ください。

●トヨタ指定の純正ホイールを使用してください。
トヨタ指定の純正ホイール以外を使用すると、空気圧警報システムが正しく作動しないおそれがあります。

●ホイールを交換したときは、空気圧バルブ／送信機を装着してください。
空気圧バルブ／送信機が装着されていないと、タイヤ空気圧警告灯が消灯しません。

注意

- バルブキャップを必ず取り付けてください。バルブキャップをはずしていると、水が浸入してバルブが腐食し、固着やエアー漏れの原因となります。
- バルブキャップを交換するときは、指定以外のバルブキャップを使用しないでください。バルブキャップが固着するおそれがあります。

タイヤ空気圧警報システムを初期化するには

■ 初期化が必要なとき

- タイヤローテーションを実施したとき
- 指定空気圧が複数ある場合に、タイヤの指定空気圧を変更したとき
- ID コードの登録を実施したとき（→P.405）

システムを初期化すると、現在のタイヤの空気圧が標準値として記憶されます。

■ 初期化のしかた

1 車を安全な場所に駐車し、20 分以上 FC システムを停止する

車両が動いているときは、初期化できません。

2 タイヤの空気圧を指定の数値に調整する

タイヤ空気圧の調整はタイヤが冷えた状態で行ってください。タイヤ空気圧警報システムは、この空気圧を基準として作動します。

3 FC システムを始動する（→P.173）

4 メーター操作スイッチの〈または〉を押して⚙を選択する

5 ∧または∨を押して“車両設定”を選択し、OKを押す

6 ∧または∨を押して“TPWS”を選択し、OKを押す

7 ∧または∨を押して“初期化”を選択し、タイヤ空気圧警告灯が点滅を開始するまでOKを押し続ける

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示されます。また、タイヤ空気圧表示が“---”になり、タイヤの位置判定を開始します。

8 約 40km/h 以上で適度に右左折や直進をしながら約 10 ～ 30 分走行する

タイヤの位置判定が完了するとマルチインフォメーションディスプレイに各タイヤの空気圧が表示されるようになり、初期化が完了します。
約 40km/h 以上を維持できない場合でも時間をかけることにより初期化は完了できますが、1 時間以上走行しても初期化できない場合は、安全な場所に約 20

分間停車したあと、再度走行し直してください。（→P.405）

知識

■初期化するときは

●車速が約 40km/h 以上のときに行われます。

●必ず指定空気圧に調整した上で初期化してください。
なお、空気圧の調整および初期化操作は、タイヤが冷えた状態で行ってください。

●タイヤ空気圧警報システムはお客様自身で初期化することができますが、走行条件や走行環境によっては、初期化が完了するまでに時間がかかる場合があります。

■初期化操作について

●初期化中にパワースイッチを OFF にしてしまった場合は、次回 ON にしたとき、自動的に初期化処理が再開されるため、あらためて初期化し直す必要はありません。

●初期化の必要がない状態で誤って初期化操作を行ってしまったときは、タイヤが冷えている状態で指定空気圧に調整し、再度初期化操作を行ってください。

●タイヤ位置判定中にタイヤ空気圧が表示されない場合でも、空気圧低下時はタイヤ空気圧警告灯が点灯します。

■タイヤ空気圧警報システムの初期化がうまくいかないとき

●次の場合は、初期化に時間がかかる場合や、初期化できない場合があります。
通常は約 30 分以内に初期化が完了します。
・約 40km/h 以上で走行していない
・未舗装の場所を走行した
・他車と併走し、自車のセンサーと他車のセンサーが判別できない

1 時間以上走行しても初期化できない場合は、安全な場所に約 20 分間停車したあと、再度走行し直してください。

●初期化中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされるため、再度走行し直してください。

●次の場合は、初期化がされておらずシステムが適切に働かないおそれがありますので、初期化手順を最初からやり直してください。
・初期化操作時に警告灯が 3 回点滅しない場合（走行中は初期化を受け付けません）
・初期化してから約 20 分走行したあと、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅後点灯した場合

●上記の方法でも初期化できない場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■タイヤ空気圧警報システムを初期化するとき

必ず指定空気圧に調整してから初期化操作をしてください。
お守りいただかないと、タイヤ空気圧が低下してもタイヤ空気圧警告灯が点灯しない、または適切な空気圧でもタイヤ空気圧警告灯が点灯してしまうことがあります。

ID コードを登録するには

■ ID コード登録が必要なとき

● 新しいバルブ／送信機を装着したとき

● すでに ID コードの登録がされているバルブ／送信機を装着したとき（例えば、サマータイヤから冬用タイヤへの交換など）

タイヤ空気圧バルブ／送信機には固有の ID コードが設定されているため、車両のコンピューターに ID コードを登録する必要があります。

■ ID コード登録のしかた

1 車を安全な場所に 20 分以上駐車する（タイヤ交換作業を含む）

2 FC システムを始動する（→P.173）

3 メーター操作スイッチの ＜ または ＞ を押して ⚙ を選択する

4 ∧または∨を押して “車両設定” を選択し、OKを押す

5 ∧または∨を押して “TPWS” を選択し、OKを押す

6 ∧または∨を押して “センサ登録” を選択し、タイヤ空気圧警告灯がゆっくり 3 回点滅を開始するまでOKを押し続ける

センサー登録モードになり、ID コードの登録が開始されます。

マルチインフォメーションディスプレイにメッセージが表示され、タイヤ空気圧表示が “--” になります。

その後、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅後点灯します。

7 約 40km/h 以上で約 10 ～ 30 分走行

約 40km/h 以上を維持しながら約 10 ～ 30 分走行する登録が完了すると、タイヤ空気圧警告灯が消灯し、マルチインフォメーションディスプレイにタイヤ空気圧が表示されます。約 40km/h 以上を維持できない場合でも時間をかけることにより登録は完了しますが、1 時間以上走行しても登録できない場合は、最初からやり直してください。（→P.407）

8 タイヤ空気圧警報システムを初期化する（→P.404）

知識

■ ID コードの登録をするときは

- ID コードの登録は、車速が約 40km/h 以上のときに行われます。
- 登録操作を行う前に、車両の近くにタイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールがないことを確認してください。
- ID コードの登録をしたあとに初期化を行ってください。ID コードの登録前に初期化すると、初期化が無効になります。
- ID コードはお客様自身で登録することができますが、走行条件や走行環境によっては、登録が完了するまでに時間がかかる場合があります。

■ID コード登録の中止について

●ID コードの登録を中止するには、走行する前にパワースイッチを OFF にしてください。
走行し始めた後に登録を中止する場合は、再度 ID コードの登録操作を初めから行い、走行する前にパワースイッチを OFF にしてください。

●ID コードの登録を中止した場合、次回パワースイッチを ON にしたとき、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅した後点灯します。
タイヤ空気圧警報システムが正常に作動できるようになると、タイヤ空気圧警告灯が消灯します。

●しばらく待ってもタイヤ空気圧警告灯が消灯しないときは、ID コードの登録が正常に中止できていないおそれがあります。正しく中止するためには、再度 ID コードの登録操作を初めから行い、走行する前にパワースイッチを OFF にしてください。

■ID コードの登録がうまくいかないとき

●次の場合は、ID コードの登録に時間がかかる場合や、登録できない場合があります。通常は約 30 分以内に登録が完了します。
・走行前に約 20 分以上駐車していない
・約 40km/h 以上で走行していない
・未舗装の場所を走行した
・他車と併走し、自車のセンサーと他車のセンサーが判別できない
・タイヤ空気圧バルブ／送信機を装着したホイールが車内や車両の近くにある

1 時間以上走行しても登録できない場合は、ID コードの登録手順を最初からやり直してください。

●登録中に車を後退させると、それまでのデータがリセットされ、再び初めから登録処理をし直します。

●次の場合は、ID コードが正しく登録されておらずシステムが適切に働かないおそれがありますので、ID コードの登録手順を最初からやり直してください。
・登録操作時に警告灯がゆっくり 3 回点滅しない場合
・登録してから約 10 分走行したあと、タイヤ空気圧警告灯が約 1 分間点滅後点灯した場合

●上記の方法でも ID コードを登録できない場合はトヨタ販売店にご依頼ください。

タイヤの交換

ジャッキを使用してお車を持ち上げるときは、正しい位置にジャッキを取り付けてください。正しい位置に取り付けないと、車両が破損したり、けがをするおそれがあります。
ご自身でのタイヤの交換に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

ジャッキで車体を持ち上げる前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションを P にする
- FC システムを停止する

知識

■工具とジャッキについて

お客様の車にはスペアタイヤが装着されていないため、タイヤ交換に使用する以下の工具とジャッキは搭載されていません。工具とジャッキはトヨタ販売店で購入することができます。

- 輪止め
- ホイールナットレンチ
- ジャッキ
- ジャッキハンドル

警告

■ジャッキの使用について

次のことをお守りください。
ジャッキの取り扱いを誤ると、車が落下して重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- ジャッキはタイヤ交換・タイヤチェーン取り付け・取りはずし以外の目的で使用しない
- 他の車のジャッキをお客様の車に使用しない
- ジャッキはジャッキセット位置に正しくかける
- ジャッキで支えられている車の下に体を入れない
- 車がジャッキで支えられている状態で、FC システムを始動したり車を走らせない
- 車内に人を乗せたまま車を持ち上げない
- 車を持ち上げるときは、ジャッキの上または下にものを置かない
- 車を持ち上げるときは、タイヤ交換できる高さ以上に上げない
- 車の下にもぐり込んで作業する場合は、ジャッキスタンドを使用する
- 車を下げるときは、周囲に人がいないことを確認し、人がいるときは声をかけてから下げる

タイヤの取りはずし

1 輪止めをする

交換するタイヤ	輪止めの位置
左側前輪	右側後輪うしろ
右側前輪	左側後輪うしろ
左側後輪	右側前輪前
右側後輪	左側前輪前

2 ナットを少し（約 1 回転）ゆるめる

3 ジャッキの A 部を手でまわして、ジャッキ溝をジャッキセット位置にしっかりかける

4 タイヤが地面から少し離れるまで、車体を上げる

5 ナットすべてを取りはずし、タイヤを取りはずす

タイヤを直接地面に置くときは、ホイールの表面に傷が付かないよう表面を上に

します。

警告

■タイヤ交換について

走行直後、ディスクホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のディスクホイールやブレーキまわりは高温になっているためタイヤ交換などで手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

タイヤの取り付け

1 ホイール接触面の汚れをふき取る

ホイール接触面が汚れていると、走行中にナットがゆるみ、タイヤがはずれるおそれがあります。

2 タイヤを取り付け、タイヤががたつかない程度まで手でナットを仮締めする

ナットの座金がホイールにあたるまでまわす

A 座金

B ホイール

3 車体を下げる

4 図の番号順でナットを 2、3 度しっかり締め付ける

締め付けトルク：
140N・m（1428kgf・cm）

警告

■タイヤを取り付けるときは

次のことをお守りいただかないとナットがゆるみ、ホイールがはずれ落ち、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ねじ部にオイルやグリースを塗らない
ナットを締めるときに必要以上に締め付けられ、ボルトが破損したり、ディスクホイールが損傷するおそれがあります。またナットがゆるみホイールが落下するおそれがあります。オイルやグリースがねじ部に付いている場合はふき取ってください。

●ホイールの交換後は、すぐに140N・m（1428kgf・cm）の力でナットを締める

●タイヤの取り付けには、使用しているホイール専用のナットを使用する

●ボルトやナットのねじ部や、ホイールのボルト穴につぶれや亀裂などの異常がある場合は、トヨタ販売店で点検を受ける

注意

■タイヤ・ホイール・バルブ／送信機・バルブキャップの修理・交換

→P.403

タイヤ空気圧について

タイヤの空気圧を適正に維持するために、タイヤの空気圧点検を月に 1 回以上実施してください。

知識

■タイヤ空気圧が適正でない場合

適切に調整されていないタイヤ空気圧で走行すると、次のようなことが起こる場合があります。

●燃費の悪化

●乗り心地や操縦安定性の低下

●摩耗によるタイヤ寿命の低下

●安全性の低下

ひんぱんにタイヤ空気圧が低下する場合は、トヨタ販売店でタイヤの点検を受けてください。

■タイヤ空気圧の点検のしかた

タイヤ空気圧の点検の際は、次のことをお守りください。

●タイヤが冷えているときに点検する

●タイヤ空気圧ゲージを必ず使用する
タイヤの外観だけでは空気圧が適正かどうか判断できません。

●走行後はタイヤの発熱により空気圧が高くなります。異常ではありませんので減圧しないでください。

●荷物を積んだり、多人数で乗車するときは荷重を不均等にかけないようにする

警告

■タイヤの性能を発揮するために

適正なタイヤ空気圧を維持してください。
タイヤ空気圧が適正に保たれていないと、次のようなことが起こるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

- 過度の摩耗
- 偏摩耗
- 操縦安定性の低下
- タイヤの過熱による破裂
- タイヤとホイールのあいだからの空気漏れ
- ホイールの変形、タイヤの損傷
- 走行時にタイヤが損傷する可能性の増大
  （路上障害物、道路のつなぎ目や段差など）

注意

■タイヤ空気圧の点検・調整をしたあとは

タイヤのバルブキャップを確実に取り付けてください。

バルブキャップをはずしていると、ほこりや水分がバルブに入り空気が漏れ、タイヤの空気圧が低下するおそれがあります。

エアコンフィルターの交換

エアコンを快適にお使いいただくために、エアコンフィルターを定期的に交換してください。

交換するには

1 パワースイッチを OFF にする
2 グローブボックスを開き、ダンパーステーのピンをはずす

3 グローブボックス側面を内側に押して上部のツメを片側ずつはずす

4 下部のツメをはずして取りはずす

5 フィルターカバーのロックをはずし（A）、ツメからフィルターカバーを抜き（B）、フィルターカバーを取りはずす

6 フィルターケースを取りはずす

7 フィルターケースからフィルターを取りはずし、新しいフィルターと交換する

“⇧ UP” マークの矢印が上を向くように取り付けます。

知識

■エアコンフィルターの交換について

エアコンフィルターは下記の時期を目安に交換してください。

15000km［7500km※1］ごと、ただし 12ヶ月をこえないこと ※2

※1 大都市や寒冷地など、交通量や粉じんの多い地区

※2 芳香剤などの使用により脱臭寿命が著しく低下する場合があります。エアコンの臭いが気になりだしたらフィルターを交換してください。

■エアコンの風量が減少したときは

フィルターの目詰まりが考えられますので、フィルターを交換してください。

注意

■エアコンを使用するときの注意

- フィルターを装着せずにエアコンを使用すると、故障の原因になることがあります。必ずフィルターを装着してください。
- フィルターは、交換するタイプです。水洗いやエアブローによる清掃はしないでください。

注意

■フィルターカバーの破損を防ぐために

フィルターカバーのロックをはずすときに、フィルターカバーを矢印の方向に動かす際は、ツメに無理な力がかからないように注意してください。ツメが破損するおそれがあります。

駆動用電池冷却用吸入口の清掃

燃費性能の低下を防ぐために、駆動用電池冷却用吸入口が目づまりしたりしていないか、定期的に点検してください。ほこりがたまっているときやマルチインフォメーションディスプレイに“駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認”が表示されたときは、次の要領で清掃してください。

知識

■定期的な清掃が必要なとき

お車の使用頻度が高い場合や、大都市や寒冷地などの交通量や粉じんの多い地区でお車を使用される場合は、25,000kmごとを目安にフィルターを清掃してください。

■吸入口の清掃について

誤った取り扱いをすると、吸入口カバーまたはフィルターが損傷するおそれがあります。ご自身での清掃に不安がある場合は、トヨタ販売店にご相談ください。

注意

■マルチインフォメーションディスプレイに“駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認”が表示されたときは

すみやかに清掃してください。
警告メッセージが表示されている状態で走行を続けると、駆動用電池の出力低下や故障の原因となるおそれがあります。

清掃のしかた

1 パワースイッチを OFF にする

2 吸入口カバーを取りはずす

3 吸入口カバーからフィルターを取りはずす

吸入口カバーにほこりがたまっているときは、掃除機などで取り除いてください。

4 フィルターからほこりや砂などを取り除く

掃除機などを使用して、折り目に沿って軽くなぞるように吸引してください。

5 フィルターを光にかざし、目づまりがないか確認する

ほこりや砂などを取り除ききれないときは、トヨタ販売店にご相談ください。

6 吸入口カバーにフィルターをもと通りに取り付ける

フィルターがずれたり変形していないことを確認してください。

7 吸入口カバーを取りつける

▶ マルチインフォメーションディスプレイに“駆動用電池の冷却部品のメンテナンス必要 取扱書を確認”と表示されていたとき

8 FC システムを始動し、警告メッセージが消えたことを確認する

警告メッセージが再度表示され、表示が消えるまで約 20 分ほど走行が必要な場合があります。

しばらくしても消えないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■フィルターのほこりや砂を取り除けないときは

樹脂製ブラシがついた掃除機のご使用をおすすめします。

警告

■吸入口の清掃をするときは

●水や液体などで清掃しないでください。駆動用電池などに水がかかると、故障や車両火災につながるおそれがあり危険です。

●清掃前に必ずパワースイッチを OFF にして FC システムを停止してください。

●吸入口の中に手や足などを入れないでください。冷却用ファンに巻き込まれたり高電圧部位にふれて感電するなど、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■吸入口カバーを取りはずすときは

吸入口のそばにサービスプラグがあります。サービスプラグは絶対にさわらないでください。（→P.66）

注意

■吸入口の清掃をするときは

エアブローなどを使用しないでください。

ほこりが押し込まれてしまい、駆動用電池の出力低下や故障の原因となるおそれがあります。

■車両の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

●吸入口に水や異物などが入らないように注意する

●清掃後は、必ずフィルターと吸入口カバーをもとどおりに取り付ける

●この車両用のフィルター以外のものを吸入口に取り付けたり、フィルターを取りはずした状態で車を使用したりしない

■フィルターの損傷を防ぐために

次のことをお守りください。

フィルターが損傷した場合は、トヨタ販売店で新しいフィルターに交換してください。

●エアブローなどを使用しない

●掃除機などをフィルターに強く押し付けない

●金属製など、硬いブラシを使用しない

●フィルターの折り目をつぶさない

電子キーの電池交換

電池が消耗しているときは、新しい電池に交換してください。電池はご自身で交換できますが、部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

知識

■電子キーの電池が消耗していると

次のような状態になります。

- スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレス機能が作動しない
- 作動距離が短くなる

■カードキーの電池交換が必要なときは

カードキーの電池はトヨタ販売店で交換してください。

事前に準備するもの

- マイナスドライバー
- 小さいマイナスドライバー
- リチウム電池 CR2032

知識

■リチウム電池 CR2032 の入手

電池はトヨタ販売店・時計店およびカメラ店などで購入できます。

電池を交換するには

1 メカニカルキーを抜く

2 カバーをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

3 消耗した電池を取り出す

新しい電池は、＋極を上にして取り付けます。

警告

■電子キーの電池について

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●誤って電池を飲み込まないように注意してください。化学熱傷のおそれがあります。

●電子キーにはコイン電池もしくはボタン電池が使われています。電池を飲み込むと、わずか 2 時間で重度の化学熱傷を引き起こし、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●新しい電池および取りはずした電池は、お子さまにさわらせないでください。

●カバーがしっかり閉まらない場合はそのまま使用せず、お子さまの手の届かない場所に保管し、トヨタ販売店で点検を受けてください。

●誤って電池を飲み込んだ、または体の一部に入れてしまった場合は、すぐに医師の診察を受けてください。

■電池の爆発や可燃性の液体またはガスの漏れを防ぐために

●同じタイプの電池と交換してください。異なったタイプの電池を使用すると、電池が爆発するおそれがあります。

●極端に温度の高いところや、高度が高く極端に気圧が低いところに電池を持ち込まないでください。

●電池を燃やしたり、つぶしたり、切ったりしないでください。

注意

■電池を交換するときは

適切なサイズのマイナスドライバーを使用してください。無理な力がかかると、カバーが変形したり破損したりするおそれがあります。

■交換後、正常に機能させるために

次のことを必ずお守りください。

●ぬれた手で電池を交換しない
錆の原因になります。

●電池以外の部品に、ふれたり動かしたりしない

●電極を曲げない

ヒューズの点検・交換

ランプがつかないときや電気系統の装置が働かないときは、ヒューズ切れが考えられます。ヒューズの点検を行ってください。

ヒューズの点検・交換をするには

1 パワースイッチを OFF にする

2 ヒューズボックスを開ける

▶ FC ユニットルーム（1）

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

▶ FC ユニットルーム（2）

FC ユニットルームカバーを取りはずし（→P.398）、ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

▶ 運転席足元

ツメを押しながら、カバーを取りはずす

取りはずすときや、取り付けるときはツメを押してください。

▶ 助手席足元

足元のカバーを取りはずす

足元照明のコネクターを取りはずす

ヒューズボックスのカバーを取りはずす

ヒューズボックスのカバーを取りはずすときや、取り付けるときはツメを押してください。

▶ トランク内

ラゲージマットを取りはずし、小物入れを持ちあげながらマイナスドライバーを使ってクリップを取りはずす。

小物入れを取りはずす

ツメを押しながら、カバーを持ち上げる

3 ヒューズを引き抜く

ヒューズはずしでヒューズを引き抜くこ

とができます。

4 ヒューズが切れていないか点検する

A 正常

B ヒューズ切れ

ヒューズボックスの表示に従い、規定容量のヒューズに交換します。

知識

■ヒューズを交換したあとは

- カバーを取り付けるときは、ツメをしっかり取り付けてください。
- 交換してもランプ類が点灯しないときは、電球を交換してください。
- 交換しても再度ヒューズが切れる場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■補機バッテリーからの回路に過剰な負荷がかかると

配線が損傷を受ける前にヒューズが切れるように設計されています。

■電球（バルブ）を交換するときは

この車両に指定されているトヨタ純正品のご使用をおすすめします。一部の電球は過電流を防止する専用回路に接続されているため、この車両指定のトヨタ純正品以外は使用できない場合があります。

警告

■車の故障や、車両火災を防ぐために

次のことをお守りください。
お守りいただかないと、車の故障や火災、けがをするおそれがあります。

- 規定容量以外のヒューズ、またはヒューズ以外のものを使用しないでください。
- 必ずトヨタ純正ヒューズか同等品を使用してください。
- ヒューズやヒューズボックスを改造しないでください。

注意

■ヒューズを交換する前に

ヒューズが切れた原因が電気の過剰負荷だと判明したときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

電球（バルブ）の交換

次に記載する電球は、ご自身で交換できます。電球交換の難易度は電球によって異なります。

部品が破損するおそれがあるので、トヨタ販売店で交換することをおすすめします。

電球の用意

切れた電球の W（ワット）数を確認してください。（→P.479）

バルブ位置

A リヤフォグランプ

■ **トヨタ販売店で交換が必要な電球**

次のランプが切れたときは、トヨタ販売店で交換してください。

- ヘッドランプ
- 車幅灯
- LED デイライト
- 方向指示灯／非常点滅灯
- 尾灯
- 制動灯
- 後退灯
- 番号灯
- ハイマウントストップランプ

知識

■**LED ランプについて**

リヤフォグランプ以外は、数個の LED で構成されています。もし LED がひとつでも点灯しないときは、トヨタ販売店で交換してください。

■**レンズ内の水滴と曇り**

レンズ内の一時的な曇りは、機能上問題ありません。ただし、次のようなときは、トヨタ販売店にご相談ください。

- レンズ内側に大粒の水滴が付いている
- ランプ内に水がたまっている

■**電球（バルブ）を交換するとき**

→P.421

電球交換のしかた

■ **リヤフォグランプ**

1 ネジ（2 本）をはずしてランプのレンズ部分を取りはずす

2 ランプ本体を取り出し、ソケットを左にまわして取りはずす

3 電球を取りはずす

電球を押し込みながら左にまわして取りはずします。

4 新しい電球を取り付ける

電球を押し込みながら右にまわして取り付けます。

5 ソケットを右にまわして取り付ける

6 ランプ本体とレンズ部分をもとの位置にもどし、ネジ（2 本）を取り付ける

警告

■電球を交換するとき

- ランプは消灯してください。消灯直後は高温になっているため、交換しないでください。やけどをすることがあります。
- 電球のガラス部を素手でふれないでください。やむを得ずガラス部を持つ場合は、電球に油脂や水分を付着させないために、乾いた清潔な布などを介して持ってください。また、電球を傷付けたり、落下させたりすると球切れや破裂することがあります。

警告

●電球や電球を固定するための部品はしっかり取り付けてください。取り付けが不十分な場合、発熱や発火、または内部への浸水による故障や、レンズ内に曇りが発生することがあります。

■お車の故障や火災を防ぐために

電球が正しい位置にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

万一の場合には

8

8-1. まず初めに

故障したときは 426
非常点滅灯（ハザードランプ）427
発炎筒..... 427
車両を緊急停止するには..... 428
水没・冠水したときは..... 429

8-2. 緊急時の対処法

けん引について 431
警告灯がついたときは..... 437
警告メッセージが表示されたときは
..... 445
パンクしたときは 448
FC システムが始動できないときは
..... 460
キーをなくしたときは..... 461
燃料充てん口（補給口）が開かない
ときは 462
電子キーが正常に働かないときは
..... 462
補機バッテリーがあがったときは
..... 465
オーバーヒートしたときは..... 470
スタックしたときは..... 474

故障したときは

故障のときはすみやかに次の指示に従ってください。

対処のしかた

● 非常点滅灯（→P.427）を点滅させながら、車を路肩に寄せ停車する

非常点滅灯は、故障などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるため使用します。

● 高速道路や自動車専用道路では、次のことに従う

1 同乗者を避難させる

2 車両の 50m 以上後方（A）に発炎筒（→P.427）と停止表示板を置くか、停止表示灯を使用する

● 見通しが悪い場合はさらに後方に置いてください。

● 発炎筒は、燃料もれの際やトンネル内では使用しないでください。

3 その後、ガードレールの外側などに避難する

知識

■停止表示板・停止表示灯について

●高速道路や自動車専用道路でやむを得ず駐停車する場合は、停止表示板または停止表示灯の表示が、法律で義務付けられています。

A 停止表示板

B 停止表示灯

●停止表示板のご購入については、トヨタ販売店にお問い合わせください。

非常点滅灯（ハザードランプ）

事故などでやむを得ず路上駐車する場合、他車に知らせるために使用してください。

点滅させるには

スイッチを押す

すべての方向指示灯が点滅します。
もう一度押すと消灯します。

知識

■非常点滅灯について

●FC システム停止中（READY インジケーターが点灯していないとき）に、非常点滅灯を長時間使用すると、補機バッテリーがあがるおそれがあります。

●SRS エアバッグの作動時または後方から強い衝撃を受けたときは、非常点滅灯が自動で点滅します。
非常点滅灯スイッチを 2 回押すか、約 20 分経過すると消灯します。
（衝撃の度合いや事故の状況によっては点滅しないことがあります。）

発炎筒

高速道路や踏切などでの故障・事故時に非常信号用として使用します。
（トンネル内や可燃物の近くでは使用しないでください）
発炎時間は約 5 分です。非常点滅灯と併用してください。

発炎筒を使うには

1 助手席足元の発炎筒を取り出す

2 本体をまわしながら抜き、本体を逆さにして挿し込む

3 先端のフタを取り、すり薬 A で発炎筒の先端をこすり、着火させる

必ず車外で使用してください。
着火させる際は、筒先を顔や体に向けな

いでください。

知識

■発炎筒の交換について

本体に表示してある有効期限が切れる前に、トヨタ販売店でお求めください。有効期限が切れると、着火しなかったり、炎が小さくなる場合があります。

警告

■発炎筒を使用してはいけない場所

次の場所では、発炎筒を使用しないでください。
煙で視界が悪くなったり、引火するおそれがあるため危険です。

- トンネル内
- ガソリンなど可燃物の近く

■発炎筒の取り扱いについて

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。

- 使用中は、発炎筒を顔や体に向けたり、近付けたりしない
- 発炎筒は、お子さまにさわらせない

車両を緊急停止するには

万一、車が止まらなくなったときの非常時のみ、手順に従って車両を停止させてください。

車を停止するには

1 ブレーキペダルを両足でしっかりと踏み続ける

ブレーキペダルをくり返し踏まないでください。通常より強い力が必要となり、制動距離も長くなります。

2 シフトポジションを N にする

▶ シフトポジションが N になった場合

3 減速後、車を安全な道路脇に停める

4 FC システムを停止する

▶ シフトポジションが N にならない場合

3 ブレーキペダルを両足で踏み続け、可能な限り減速させる

4 パワースイッチを 2 秒以上押し続けるか、素早く 3 回以上連続で押して FC システムを停止する

5 車を安全な道路脇に停める

警告

■走行中にやむを得ずFCシステムを停止するとき

ハンドル操作が重くなるため、車のコントロールがしにくくなり危険です。FCシステムを停止する前に、十分に減速するようにしてください。

水没・冠水したときは

この車両は水深が深い道路を走行できるように設計されていません。冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が水没や漂流することが予想される場合は、車内に留まると危険です。落ち着いて次のように対処してください。

- ドアを開けることができる場合、ドアを開けて車外に出てください。
- ドアを開けることができない場合、パワーウインドウスイッチでドアガラスを開けて避難経路を確保してください。
- ドアガラスが開けられる場合、窓から車外に出てください。
- 水没によりドアおよびドアガラスを開けることができない場合、落ち着いて車内外の水圧差がなくなるまで車内が浸水するのを待ってからドアを開けて車外に出てください。

車外の水位がドア高さの半分を超えると、水圧で車内からドアを開けることができなくなります。

知識

■水位がフロアを超えると

水位がフロアを超えて時間が経過すると、電気装置が損傷し、パワーウインドウが作動しなくなったり、FCシステムやモーターが停止し、車が移動できなくなるおそれがあります。

■緊急脱出用ハンマー※の使用について

合わせガラスは、緊急脱出用ハンマーで割ることができません。
この車両のドアガラスに合わせガラスは使用されていません。

※ 詳しくはトヨタ販売店にお問い合わせください。

警告

■走行中の警告

冠水路または冠水のおそれがある道路は、走行しないでください。車両が故障して動かなくなり、水没や漂流から死亡につながるおそれがあります。

けん引について

けん引は、できるだけトヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

その場合は、レッカー車または、車両運搬車を使用することをおすすめします。

やむを得ず他車にロープでけん引してもらう場合は、車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめてください。

⚠警告

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■レッカー車でけん引するとき

必ず 4 輪とも持ち上げた状態で運搬してください。タイヤが地面に着いた状態でけん引すると、駆動系部品が破損したり、車の向きがかわり事故につながったりするおそれがあります。また、モーターが回転して発電し、故障や破損の状態によっては火災が発生するおそれがあります。

■他車にけん引してもらうときの運転について

●けん引フックやロープに過剰な負荷をかける急発進などを避けてください。
けん引フックやロープが破損し、その破片が周囲の人などにあたり、重大な傷害を与えるおそれがあります。

●パーキングロックにより後輪が固定され、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。次のことをしないでください。

・運転席シートベルトを外し、運転席のドアを開ける

・パワースイッチを OFF にする

警告

■けん引フックを車両に取り付けるとき

指定の位置にしっかりと取り付けてください。
指定の位置にしっかり取り付けていないとけん引時にフックがはずれるおそれがあります。

注意

■車両の損傷を防ぐために

●他車にけん引してもらうときは次のことを必ずお守りください。

・ワイヤーロープは使用しない

・速度 30km/h 以下、距離は車両積載車までの移動など、できるだけ短距離にとどめる

・前進方向でけん引する

・サスペンション部などにロープをかけない

●この車両で他車やボート（トレーラー）などをけん引しないでください。

■長い下り坂でけん引するときは

レッカー車で 4 輪とも持ち上げた状態でけん引してください。
レッカー車でけん引しないと、ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

■緊急用フックについて

次のことを必ずお守りください。お守りいただかないと、装置の変形や車両の損傷などにつながるおそれがあります。

●やむを得ない場合以外は使用しないでください。

●緊急用フックで他車をけん引しないでください。

他車によるけん引が不可能な状況

次の場合は、パーキングロックにより後輪が固定されている可能性があるため、他車にロープでけん引してもらうことはできません。トヨタ販売店または専門業者にご依頼ください。

● シフト制御システムに異常があるとき（→P.447）

● イモビライザーシステムに異常があるとき（→P.56）

● スマートエントリー＆スタートシステムに異常があるとき（→P.462）

● 補機バッテリーがあがったとき（→P.465）

けん引の前に販売店への連絡が必要な状況

次の場合は、駆動系の故障が考えられるため、トヨタ販売店または専門業者へご連絡ください。

● FC システムの異常を示す警告メッセージが表示され、車が動かない

● 異常な音がする

レッカー車でけん引するとき

▶ 前向きにけん引するときは

台車を使用して後輪を持ち上げる

▶ うしろ向きにけん引するときは

台車を使用して前輪を持ち上げる

注意

■レッカー車でけん引するとき

車両の損傷を防ぐために図のようなレッカー車ではけん引しないでください。

車両運搬車を使用するとき

車両運搬車で輸送するときは、図の場所で固縛する

鎖やケーブルなどを使用して車両を固縛する場合は図に黒く示す角度が 45° になるように固縛する

注意

■車両運搬車に車を固縛するとき

ケーブル等を過度に締め付けすぎないでください。車両の損傷につながるおそれがあります。

他車にけん引してもらうとき

他車にけん引してもらうときは、けん引フックを取り付ける必要があります。手順に従って取り付けてください。

1 トランク内のドライバーとけん引フックを取り出す

▶ タイプ A

A ドライバー

B けん引フック

▶ タイプ B

A ドライバー

B けん引フック

2 マイナスドライバーを使ってフタをはずす

ドライバーがプラス側になっている場合、マイナス側に差しかえる

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める

4 ドライバーや金属の硬い棒などを使い確実に取り付ける

5 車体に傷が付かないようにロープをけん引フックにかける

車体に傷が付かないように注意してください。また、前進方向でけん引してください。

6 ロープの中央に白い布を付ける

布の大きさ：

0.3m 平方（30cm×30cm）以上

A 25m 以内

B 5m 以内

C 白い布

D けん引方向

7 運転者はけん引される車両に乗り、FC システムを始動する

FC システムが始動しないときは、パワースイッチを ON にしてください。

8 けん引される車両のシフトポジションを N にしてから、パーキングブレーキを解除する

オートモードを OFF にしてください（→P.184）

けん引中は、ロープがたるまないよう、減速時なども前の車の速度に合わせてください。

知識

■けん引フックの使用目的

けん引フックはけん引してもらうときに使うものであり、他車をけん引するためのものではありません。

■他車にけん引してもらうときに

FC システムが停止しているとブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が通常より重くなったりします。

■ホイールナットレンチについて

トヨタ販売店で購入することができます。

■緊急用フックについて

雪の吹きだまりなどでスタックして走行できなくなったとき、やむを得ず他車に引っ張り出してもらうために使用することができます。他車をけん引することはできません。

A 緊急用フック

■緊急用フックを取り付けるには

緊急用フックを取り付けるときは、手順に従って取り付けてください。

1 トランク内のけん引フックを取り出す

2 図に示す部分を手で押して隙間を作り、マイナスドライバーを使ってフタをはずす

傷が付くのを防ぐため、マイナスドライバーの先端に布などを巻いて保護してください。

3 けん引フックを穴に挿し込んでまわし、軽く締める

4 プラスドライバーや金属の固い棒などを使い確実に取り付ける

■氷点下地域へ輸送、けん引する前に

FC システムが、凍結により始動ができなくなる場合があります。直前にウォーターリリースを実施してください。
（→P.188）

警告灯がついたときは

警告灯が点灯または点滅したままの場合は、落ち着いて次のように対処してください。なお、点灯・点滅しても、その後消灯すれば異常ではありません。ただし、同じ現象が再度発生した場合は、トヨタ販売店で点検を受けてください。

警告灯・警告ブザーへの対応

■ H2 警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
H2	水素ガスもれを検知したときに、ブザーと共に点灯し、マルチインフォメーションディスプレイに警告メッセージを表示します。 → P.74

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（赤色）	●ブレーキ液の不足 ●ブレーキ系統の異常 → **ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。**

■ ブレーキ警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（黄色）	●回生ブレーキシステムの異常 ●電子制御ブレーキシステムの異常 ●パーキングブレーキシステムの異常 → **ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ 高水温警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
（赤色）	冷却水の高温異常 → **ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.470）に従ってください。**

■ FC システム過熱警告灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	FC システムが過熱 **→ 安全な場所に停車し、対処方法（→P.470）に従ってください。**

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ 充電警告灯 ※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	充電系統の異常 **→ ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。**

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ SRS エアバッグ／プリテンショナー警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●SRS エアバッグシステムの異常 ●プリテンショナー付きシートベルトシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ ポップアップフード警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	ポップアップフードが作動した **→ ポップアップフードは、一度作動すると再使用できません。トヨタ販売店で交換してください。** ポップアップフードの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ ABS ＆ブレーキアシスト警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●ABS の異常 ●ブレーキアシストの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ パワーステアリング警告灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（赤色） （黄色）	EPS（エレクトリックパワーステアリング）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ PCS 警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
OFF （点滅または点灯）	警告ブザーが鳴った場合： プリクラッシュセーフティの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** 警告ブザーが鳴らない場合： プリクラッシュセーフティが一時的、または対処を行うまで作動停止している **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.211, 445）** プリクラッシュセーフティが OFF、または VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムが停止しているときも点灯します。 **→ P.322**

■ LTA 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（橙色）	LTA（レーントレーシングアシスト）の異常 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.252）**

■ LCA 表示灯★（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（橙色）	LCA（レーンチェンジアシスト）の異常 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。※**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※「Toyota Teammate Advanced Drive 取扱書」を参照してください。

■ クリアランスソナー OFF 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
P OFF	クリアランスソナーの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.268）**

■ PKSB OFF 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
OFF	ブザーが鳴った場合： PKSB（パーキングサポートブレーキ）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** ブザーが鳴らなかった場合： センサー部の汚れなどによりシステムが一時的に使用できない **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.288）**

■ RCTA OFF 表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
RCTA OFF （点滅）	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** レーダーセンサー周辺のリヤバンパー（→P.263）に汚れや付着物がある **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.276）**

■ RCD OFF 表示灯★（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
RCD OFF （点滅または点灯）	ブザーが鳴った場合： RCD（リヤカメラディテクション）の異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** ブザーが鳴らなかった場合： カメラの汚れなどによりシステムが一時的に使用できない **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。（→P.283）**

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ スリップ表示灯

警告灯	警告内容・対処方法
	●VSC（ビークルスタビリティコントロール）システムの異常 ●TRC（トラクションコントロール）システムの異常 ●ヒルスタートアシストコントロールシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ ペダル誤操作警告灯※（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
	ブザーが鳴った場合： ●ブレーキオーバーライドシステムの異常 ●ドライブスタートコントロールの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。** ●アクセルペダルを踏んだ状態でシフト操作が行われたことにより、ドライブスタートコントールが作動 **→ ただちにアクセルペダルを離してください。** ●パーキングサポートブレーキ作動時 **→ マルチインフォメーションディスプレイに表示されているメッセージの指示に従ってください。** ●速く強くアクセルペダルを踏み込んだことにより、急アクセル時加速抑制★が作動 **→ アクセルペダルを離し、ブレーキペダルを踏んでください。** ●衝突時の急加速抑制が作動 **→ ただちにアクセルペダルを離してください。** ブザーが鳴らなかった場合： ●アクセルペダルとブレーキペダルが同時に踏まれたことにより、ブレーキオーバーライドシステムが作動 **→ アクセルペダルを離し、ブレーキペダルを踏んでください。**

※ メッセージと一緒にマルチインフォメーションディスプレイに表示されます。

■ ブレーキホールド作動表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
HOLD （点滅）	ブレーキホールドシステムの異常 **→ ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。**

■ パーキングブレーキ表示灯（警告ブザー）

警告灯	警告内容・対処方法
（点滅）	パーキングブレーキが完全にかかっていない、または解除されていない可能性がある **→ パーキングブレーキスイッチを再度操作してください。** パーキングブレーキが解除されていないときは点灯します。解除後、消灯すれば正常です。

■ 燃料残量警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	燃料残量計が約 12% 以下になった **→ 燃料を充てんする**

■ タイヤ空気圧警告灯

警告灯	警告内容・対処方法
	警告灯が約 1 分間点滅したあとに点灯した場合： タイヤ空気圧警報システムの異常 **→ トヨタ販売店で点検を受けてください。** 警告灯が点灯した場合： 次のようなタイヤ空気圧の低下を表します。 ●自然要因 ●タイヤのパンク **→ ただちに安全な場所に停車し、対処方法（→P.443）に従ってください。**

■ 運転席・助手席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※）

警告灯	警告内容・対処方法
	運転席・助手席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する** **助手席乗員がいるときは、助手席乗員もシートベルトを着用してください。**

※ 運転席・助手席シートベルト非着用警告ブザー：
運転席・助手席シートベルト非着用のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

■ リヤ席シートベルト非着用警告灯（警告ブザー ※）

警告灯	警告内容・対処方法
	リヤ席シートベルトの非着用 **→ シートベルトを着用する**

※ リヤ席シートベルト非着用警告ブザー：
リヤ席シートベルト非着用（いずれかのシートベルト脱着により、リヤ席シートベルト非着用警告灯が点灯している状態）のまま車速が一定以上になると、警告ブザーが一定時間断続的に鳴ります。

知識

■警告ブザーについて

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■シートベルト非着用警告灯の乗員検知センサーの作動について

- 助手席に乗員がいなくても、シートに荷物などを置くと、センサーが重量を検知して警告灯が点滅し、ブザーが鳴ることがあります。
- 助手席に座布団などを敷くと、センサーが乗員を検知せず警告灯が作動しないことがあります。

■パワーステアリング警告灯／警告ブザーについて

補機バッテリーの充電が不十分な場合、または一時的に電圧が下がった場合に警告灯が点灯し、警告ブザーが鳴ることがあります。

■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

タイヤがパンクしていないか確認してください。

パンクしているときは：→P.448

パンクしていないときは：
パワースイッチを OFF にしたあとで再度 ON にして、タイヤ空気圧警告灯が点灯しているか点滅しているかを確認してください。

▶ タイヤ空気圧警告灯が約1分間点滅したあとに点灯した場合

タイヤ空気圧警報システムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

▶ タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

1. タイヤが十分に冷えてから空気圧を確認し、適切な値に調整する
2. 数分たっても警告灯が消灯しない場合は、指定空気圧であることを確認し、タイヤ空気圧警報システムの初期化を行う（→P.404）

■自然要因によるタイヤ空気圧警報について

自然な空気もれ、外気温による空気圧の変化など、自然要因によりタイヤ空気圧警告灯が点灯することがあります。この場合、タイヤ空気圧を適切な値に調整してください。数分後に警告灯が消灯します。

■タイヤ空気圧警報システムが正常に働かないおそれがある状況

→P.402

警告

■ABS 警告灯とブレーキ警告灯が同時に点灯したときは

ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店にご連絡ください。
ABS またはブレーキアシストシステムに異常が発生しているだけでなく、強めのブレーキの際に車両が不安定になるおそれがあり、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■パワーステアリング警告灯が点灯したときは

黄色に点灯したときは操作力補助が制限され、赤色に点灯したときは操作力補助がなくなるため、ハンドル操作が非常に重くなることがあります。
ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■タイヤ空気圧警告灯が点灯した場合

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、駆動系部品の損傷や不安定な操縦特性により、重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

●ただちにタイヤ空気圧を確認・調整してください。

●タイヤ空気圧を調整したあとも警告灯が点灯する場合は、タイヤがパンクしている可能性があります。最寄りのトヨタ販売店でタイヤを交換してください。

●急ハンドル・急ブレーキを避けてください。
タイヤの状態が悪化すると、ハンドル操作やブレーキが効かなくなるおそれがあります。

■タイヤの破裂、突然の空気もれが発生した場合

急激にタイヤ空気圧が低下した場合は、タイヤ空気圧警報システムによる警報ができない場合があります。

注意

■タイヤ空気圧警報システムについて

●純正ホイール以外を使用した場合、バルブ／送信機から発信する電波の飛び方がかわり、システムが正常に作動しないことがあります。

●構造・メーカー・銘柄・トレッドパターンが異なるタイヤを使用しないでください。タイヤ空気圧警報システムが正常に作動しないことがあります。

●タイヤ空気圧警告灯の点灯および点滅は、初期化操作（→P.404）では解除できません。

警告メッセージが表示されたときは

マルチインフォメーションディスプレイには、システムの故障や誤った操作をしたときの警告、メンテナンスが必要であることをお知らせするメッセージが表示されます。メッセージが表示されたときは、メッセージの内容に従って対処してください。処置後に再度メッセージが表示されたときは、トヨタ販売店へご連絡ください。また、メッセージと同時に専用警告灯が点灯・点滅する場合があります。その際は、各警告灯が点灯・点滅したときの対処方法（→P.437）に従ってください。

知識

■警告メッセージについて

文中の警告メッセージの表示は、使用状況や車両の仕様により実際の表示と異なる場合があります。

■警告ブザーについて

メッセージの内容によってブザーが鳴る場合があります。

状況によっては、外部の騒音やオーディオの音などにより、ブザー音が聞こえない場合があります。

■ “FC システム停止のためハンドルが重くなります ” が表示されたときは

走行中に FC システムが停止したときにメッセージが表示されます。

ハンドル操作が通常より重いときは、ハンドルをしっかりと持ち、通常より強く操作してください。

■ “FC システム高温出力制限中 ” または “ 高負荷継続のため出力制限中 ” が表示されたときは

1 安全を確認しながら、速度を低下させ数分間走行をする

2 表示が消えた場合は一時的な過熱のため、そのまま走行可能です

負荷の高い走行状況（例えば、長い上り坂を走行）のときにメッセージが表示される場合があります。

■ “ 大幅に出力制限中 ” が表示されたときは

FC システムの出力を大幅に制限しています。頻繁に表示されるときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ “凍結により FC システム停止安全な場所に停車して取扱書を確認 ” が表示されたときは

FC システムが凍結し、始動できない状態となっています。トヨタ販売店に連絡してください。

■ “安全な場所に停車してPスイッチを押してください ” が表示されたときは

FC システムの異常、またはシフトポジションが長時間 N になっていることが考えられます。ただちに安全な場所に停車し、表示が消えるまでシフトポジションを P にしてください。表示が消えないときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ “N レンジです アクセルを緩めて希望レンジに切りかえてください ” が表示されたときは

シフトポジションが N で、アクセルペダルを踏んだときにメッセージが表示されます。

アクセルペダルから足を離し、シフトポジションを D または R にしてください。

■ “FC システムが高温になるため停車時はブレーキを踏んでください” が表示されたときは

上り坂などでの停車時にアクセルペダルを踏んで車両を保持するとメッセージが表示される場合があります。

そのままの状態を続けると FC システムが過熱するおそれがあります。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

■ “バッテリー保護のため自動で電源を Off しました” が表示されたときは

自動電源 OFF 機能が作動したときにメッセージが表示されます。次回 FC システム始動時に、約 5 分間 FC システムが作動した状態を保持し、補機バッテリーを充電してください。

■ “ヘッドランプシステム故障 販売店で点検してください” が表示されたときは

次のシステムに異常があるおそれがあります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

●LED ヘッドランプ

●ヘッドランプオートレベリングシステム

●AHS（アダプティブハイビームシステム）★

●AHB（オートマチックハイビーム）★

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “クルーズコントロール一時使用不可 取扱書を確認ください” が表示されたときは

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）のシステムが一時的、または対処を行うまで使用できません。（要因および対処方法 →P.211）

■ “クルーズコントロール現在使用できません” が表示されたときは

レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）のシステムが一時的に使用不可と判断されています。しばらく走行してからレーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）を再度設定してください。

■前方カメラの異常を示すメッセージが表示されたときは

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。（→P.211, 437）

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●AHS（アダプティブハイビームシステム）★

●AHB（オートマチックハイビーム）★

●RSA（ロードサインアシスト）

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

●先行車発進告知機能

●ドライバー異常時対応システム

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■レーダーの異常を示すメッセージが表示されたときは

メッセージに表示された異常が解消されるまで、以下のシステムは作動しない可能性があります。（→P.211, 437）

●PCS（プリクラッシュセーフティ）

●LTA（レーントレーシングアシスト）

●レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）

●先行車発進告知機能

■ “アクセルを戻してください” が表示されたとき

次の機能が作動したときに表示されます。アクセルペダルから足を離し、ブレーキペダルを踏んでください。

● ドライブスタートコントロール（→P.170）

● プラスサポート★（→P.327）

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ “シフトシステム故障 シフト切りかえ不可 安全な場所まで走行し 停車” または “シフトシステム故障走行を継続できません” が表示されたときは

シフト制御システムが故障しています。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ シフト操作に関するメッセージが表示されたときは

誤ったシフトポジションの選択や、停車中の意図せぬ車両の動き出しなどを防止するため、自動的にシフトポジションが切りかわったり、シフトレバーの操作が指示されたりすることがあります。その場合は、画面の指示に従ってシフトポジションを変更してください。

■ 販売店での点検をうながすメッセージが表示されたときは

警告メッセージで名称が表示されたシステム、または部位などに問題が発生しています。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。

■ 取扱書の確認をうながすメッセージが表示されたときは

● 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

・ “スマートエントリー＆スタートシステム故障 取扱書を確認”
・ “シフトシステム故障 駐車時はパーキングブレーキをかけ 取扱書確認”
・ “P スイッチ故障 駐車時はパーキングブレーキをかけ 取扱書確認”
・ “シフトシステム不作動 駐車時パーキングブレーキをかけ 取扱書確認”
・ “シフトシステム故障 取扱書確認”
・ “シフトシステム故障 安全な場所に停車して 取扱書確認”
・ “バッテリ充電不足シフト切りかえできません 取扱書確認”
・ “FC システム故障”
・ “バッテリー系故障”
・ “アクセル系故障”

● 次のメッセージが表示されたときは、故障している可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、トヨタ販売店へ連絡してください。走行を続けると危険です。

・ “故障のため ブレーキ力が低下 安全な場所に停車して 取扱書を確認”
・ “水素漏れにより システム停止 安全な場所に 停車して 取扱書を確認”

● “FC システム停止” が表示されたときは、燃料の残量が少なくなっている可能性があります。ただちに安全な場所に停車し、燃料の残量が少ない場合は充てんしてください。（→P.68）

● “補機バッテリー （始動用）充電不足 取扱書を 確認してください” が表示されたときは、次の対処方法に従ってください。

・ 数秒後※に表示が消えたときは：
FC システムが作動した状態を約 15 分以上保持し、補機バッテリーを充電してください。
・ 表示が消えないときは：
「補機バッテリーがあがったときは」（→P.465）の手順で FC システムを始動してください。

※約 6 秒間表示されます。

● “駆動用電池の冷却部品のメンテナン

ス必要 取扱書を確認” が表示されたときは、フィルターが目づまりしている、冷却用の吸入口がふさがれている、またはダクトにすき間があるなどが考えられますので、次の対処方法に従ってください。

・駆動用電池冷却用吸入口を清掃する（→P.414）

駆動用電池冷却用吸入口を清掃してもメッセージが表示されたときは、トヨタ販売店で点検を受けてください。

■ “イオンフィルタ交換時期販売店で交換” が表示されたときは

イオンフィルタの交換が必要です。トヨタ販売店へご連絡ください。

注意

■ “補機バッテリー（始動用）充電不足 取扱書を確認してください” がひんぱんに表示されるときは

補機バッテリーが劣化している可能性があります。その状態で放置しておくと、補機バッテリーのバッテリーあがりを起こすおそれがあるため、トヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。

■ “駆動用電池の点検を販売店で受けてください” が表示されたときは

駆動用電池の点検・交換時期になったときにメッセージが表示されます。すみやかにトヨタ販売店で点検を受けてください。
点検を受けないままお車を使用し続けると、FC システムを始動できなくなるおそれがあります。

パンクしたときは

タイヤパンク応急修理キット装着車には、応急用タイヤ、ジャッキ、ジャッキハンドル、ホイールナットレンチが搭載されていません。

タイヤがパンクしたときは、タイヤパンク応急修理キットで応急修理することができます。釘やネジなどが刺さった程度の軽度なパンクを応急修理できます。（パンク補修液 1 本につき、応急修理できるタイヤは 1 本です）パンクしたタイヤの損傷状況により、応急修理キットでは応急修理できない場合があります。（→P.448）

タイヤパンク応急修理キットで応急修理したタイヤの修理・交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■パンクしたままの走行について

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。短い距離の運転でも、タイヤとホイールが修理できないほど損傷したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

応急修理する前に

- 地面が固く平らで安全な場所に移動する
- パーキングブレーキをかける
- シフトポジションを P にする
- FC システムを停止する

● 非常点滅灯を点滅させる
（→P.427）

● タイヤの損傷程度を確認する

釘やネジなどが刺さっている場合のみ、タイヤを応急修理してください。

・ タイヤに刺さっている釘やネジなどは抜かないでください。抜いてしまうと穴が大きくなりすぎ、応急修理ができなくなることがあります。
・ パンク補修液がもれないようにするため、パンク箇所が分かっている場合は、パンク箇所が上になるように車両を移動してください。

知識

■ **応急修理キットで修理できないパンク**

次の場合は、応急修理キットでは応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

● タイヤ空気圧が不十分な状態で走行してタイヤが損傷しているとき
● タイヤ側面など、接地面以外に穴や損傷があるとき
● タイヤがホイールから明らかにはずれているとき
● タイヤに4mm以上の切り傷や刺し傷があるとき
● ホイールが破損しているとき
● 2本以上のタイヤがパンクしているとき
● 1本のタイヤに2箇所以上の切り傷や刺し傷があるとき

タイヤパンク応急修理キット・工具の搭載位置

▶ タイプ A

A タイヤパンク応急修理キット

B けん引フック

▶ タイプ B

A タイヤパンク応急修理キット

B けん引フック

タイヤパンク応急修理キットの内容／各部の名称

▶ ボトル

A 速度制限ラベル

▶ コンプレッサー

A 空気圧計

B 電源スイッチ

C 電源プラグ

D ホース

E 空気逃がしキャップ

知識

■応急修理キットについて

●パンク補修液ボトル1本でタイヤ1本を1回応急修理できます。使用したパンク補修液の交換は、トヨタ販売店にご相談ください。コンプレッサーは、くり返し使用できます。

●外気温度が-30℃～60℃のときに使用できます。

●応急修理キット搭載車両の装着タイヤ専用です。指定タイヤサイズ以外のタイヤや、他の用途には使用しないでください。

●パンク補修液が衣服に付着すると、シミになる場合があります。

●パンク補修液がホイールやボデーに付着した場合、放置すると取れなくなるおそれがあります。ぬれた布などですみやかにふき取ってください。

●応急修理キット作動中は、大きな音がしますが故障ではありません。

●タイヤ空気圧の点検や調整には使用しないでください。

■応急修理キットの点検について

●パンク補修液の有効期限の確認は定期的に行ってください。有効期限はボトルに表示されています。

●有効期限が切れたパンク補修液は使用しないでください。応急修理キットによる修理が正常にできない場合があります。

●有効期限が切れる前に交換してください。交換については、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■応急修理キットについて

●応急修理キットは指定の位置に収納してください。急ブレーキ時などに応急修理キットが飛び出したりして破損したり、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●応急修理キットはお客様の車専用です。他の車には使わないでください。他の車に使うと思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

●指定タイヤサイズ以外のタイヤや他の用途には使用しないでください。パンク修理が完全に行われず、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

■パンク補修液について

●誤って飲み込むと健康に害があります。その場合はできるだけたくさんの水を飲み、ただちに医師の診察を受けてください。

●もし目に入ったり、皮膚に付着したりした場合には、水でよく洗い流してください。それでも異常を感じたときは、医師の診察を受けてください。

タイヤパンク応急修理キットの取り出し方

1 ラゲージマットを取りはずす（→P.357）

2 固定用バンドを取りはずす

3 応急修理キットを取り出す（→P.450）

応急修理するときは

1 コンプレッサーからホースを取りはずし、電源プラグを取り出す

2 ボトルをコンプレッサーに接続する

図のように、ボトルをまっすぐコンプレッサーに挿入・接続し、ボトルのツメが穴に隠れていることを確認してください。

3 ホースをボトルに取り付ける

図のように、ボトルにホースがしっかり接続しているか確認してください。

4 パンクしたタイヤのバルブからバルブキャップを取りはずす

5 ホースをのばし空気逃がしキャップを取りはずす

空気逃がしキャップは再度使用するため、なくさないように保管してください。

6 ホースをパンクしたタイヤのバルブに接続する

ホース先端を時計まわりにまわしてしっかりと最後までねじ込みます。

7 コンプレッサーのスイッチがOFF であることを確認する

8 コンプレッサーの電源プラグをアクセサリーソケットに挿し込む（→P.367）

9 運転席から見やすい位置に、付属の速度制限ラベルを貼り付ける

10 タイヤの指定空気圧を確認する

運転席側の空気圧ラベルで確認すること

ができます。（→P.479）

11 FC システムを始動する（→P.173）

12 コンプレッサーのスイッチを ON にし、パンク補修液と空気を充填する

13 空気圧が指定空気圧になるまで空気を充填する

A 一時的に空気圧計が 300 ～ 400kPa（3.0 ～ 4.0kg/cm^2）まで上昇し、徐々に減少します。

B スイッチを ON にしてから約 1 ～ 5 分程度で実際の空気圧になります。

空気圧を確認するときは、コンプレッサーのスイッチを OFF にしてください。空気の入れすぎに注意して、指定空気圧になるまで充填・確認をくり返してください。

充填までに必要な時間は、約 5 ～ 20 分です（外気温により異なります）。25 分以上充填しても指定空気圧にならない場合は、応急修理できません。コンプレッサーのスイッチを OFF にして、トヨタ販売店にご連絡ください。

空気を入れすぎたときは、指定空気圧になるまで空気を抜いてください。
(→P.457, 479)

14 コンプレッサーのスイッチがOFF であることを確認した上で、アクセサリーソケットから電源プラグを抜き、タイヤのバルブからホースを取りはずす

ホースを取りはずすときにパンク補修液がもれる可能性があります。

15 バルブキャップを応急修理したタイヤのバルブに取り付ける

16 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。

17 いったん、ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

18 タイヤ内のパンク補修液を均等に広げるために、ただちに約5km、速度 80km/h 以下で安全に走行する

19 走行後、平坦な場所に停車して再度、応急修理キットを接続する

ホースを接続する前に、空気逃がしキャップを取りはずしてください

20 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にしてから再度 OFF し、空気圧を確認する

A 空気圧が 130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合：応急修理できません。トヨタ販売店にご連絡ください。

B 空気圧が 130kPa（1.3kg/cm^2）以上、指定空気圧未満の場合：手順 **21** へ

C 空気圧が指定空気圧（→P.400）の場合：手順 **22** へ

21 コンプレッサーのスイッチを ON にして指定空気圧まで空気を充填し、再度約 5km 走行後

にあらためて手順 **19** から実施する

22 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付ける

空気逃がしキャップを取り付けないとパンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。

23 ボトルとコンプレッサーを接続したままラゲージルームに収納する

ラゲージルームに収納するときは、パンク補修液がもれ、車や衣服などが汚れる可能性があります。応急修理キットはビニール袋などに入れて収納してください。

24 急ブレーキ、急加速、急ハンドルを避け、走行距離が約100km 以内、80km/h 以下の速度で、トヨタ販売店まで慎重に運転する

タイヤの修理・交換、応急修理キットの処理についてはトヨタ販売店にご相談ください。

トヨタ販売店でタイヤを修理・交換するときに、パンク補修液注入済みであることを必ずお伝えください。

知識

■ **空気を入れすぎてしまったとき**

1 タイヤからホースを取りはずす

2 ホース先端に空気逃がしキャップを取り付け、キャップの突起部をタイヤのバルブに押しあて、空気を抜く

3 ホースから空気逃がしキャップを取りはずし、ホースを再接続する

4 コンプレッサーのスイッチを数秒間 ON にし、OFF にしてから空気圧計を確認する（→P.400）

指定空気圧より低いときは、再度、コンプレッサーのスイッチを ON にし、指定空気圧になるまで空気を充填してください。

■ **応急修理後のタイヤのバルブについて**

応急修理キットを使用したときは、タイヤのバルブを新品に交換してください。

■ **応急（パンク）修理キットを使用したとき**

- 空気圧が正確に計測できなくなることがあります。できるだけ早くトヨタ販売店で点検を受け、空気圧バルブ／送信機を交換してください。
- タイヤの指定空気圧に達していても、タイヤ空気圧警告灯が点灯する可能性があります。

■ **補修液を廃棄するときは**

補修液には環境に有害な物質が含まれています。補修液のボトル、および補修液の廃棄が必要な際は、トヨタ販売店、または都道府県知事の許可を受けた、専門の廃棄物処理業者に処理をご依頼ください。

警告

■タイヤがパンクしているときは

タイヤがパンクした状態で走行を続けないでください。

短い距離でもパンクしたタイヤで走行すると、タイヤおよびホイールが損傷し修理できなくなります。パンクした状態で走行を続けると、タイヤ側面に円周状の溝ができる場合があります。この状態で応急修理キットを使用すると、タイヤが破裂する危険があります。

■パンクしたタイヤを応急修理するとき

●車両を安全で平坦な場所に停止させてください。

●走行直後、ホイールやブレーキまわりなどにはふれないでください。走行直後のホイールやブレーキまわりは高温になっている可能性があるため手や足などがふれると、やけどをするおそれがあります。

●タイヤを車両に取り付けた状態で、バルブとホースをしっかりと接続してください。ホースの接続が不十分な場合、空気がもれたり、パンク補修液が飛散したりするおそれがあります。

●空気充填中にホースがはずれると、圧力でホースが暴れ大変危険です。

●空気充填後は、ホースを取りはずすときや空気を抜くときにパンク補修液が飛散する場合があります。

●作業手順に従って応急修理を行ってください。

手順どおりに行わないとパンク補修液が噴出する場合があります。

●破裂の危険があるので、応急修理キットの作動中は補修中のタイヤから離れてください。タイヤに亀裂や変形が発生している場合、ただちにコンプレッサーのスイッチを OFF にし、修理を中止してください

●応急修理キットは、長時間作動させるとオーバーヒートする可能性があります。40 分以上連続で作動させないでください。

●応急修理キットが作動すると部分的に熱くなります。使用中または使用後の取り扱いには注意してください。ボトルとコンプレッサー接続箇所付近の金属部分は特に熱くなるのでふれないでください。

●速度制限シールは指定位置以外に貼らないでください。ハンドルのパッド部分などの SRS エアバッグ展開部に貼ると、SRS エアバッグが正常に作動しなくなるおそれがあります。

■補修液を均等に広げるための運転について

次のことを必ずお守りください。

お守りいただかないと、車両のコントロールが不能となり、重大な傷害を受けたり、最悪の場合死亡事故につながるおそれがあります。

●低速で慎重に運転してください。特にカーブや旋回時には注意してください。

●車がまっすぐ走行しなかったり、ハンドルをとられたりする場合は、運転を中止し、次のことを確認してください。

警告

・タイヤを確認してください。タイヤがホイールからはずれている可能性があります。

・空気圧を確認してください。
130kPa（1.3kg/cm^2）未満の場合は、タイヤが大きなダメージを受けている可能性があります。

注意

■応急修理をするとき

●タイヤに刺さった釘やネジを取り除かずに応急修理を行ってください。取り除いてしまうと、応急修理キットでは応急修理ができなくなる場合があります。

●応急修理キットに防水機能はありません。降雨時などは、水がかからないようにして使用してください。

●砂地などの砂ぼこりの多い場所に直接置いて使用しないでください。砂ぼこりなどを吸い込むと、故障の原因になります。

●応急修理キットは倒れた状態では正常に作動しません。必ず立ててご使用ください。

■応急修理キットについて

●応急修理キットはDC12V専用です。他の電源での使用はできません。

●応急修理キットにベンジン・ガソリンなどの有機溶剤がかかると、劣化するおそれがあります。ベンジン・ガソリンがかからないようにしてください。

●応急修理キットは指定の位置に収納し、お子さまが誤って手をふれないようご注意ください。

●分解・改造などは絶対にしないでください。また、空気圧計などに衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

●応急修理キットはビニール袋に入れて砂ぼこりや水を避けて収納してください。

FC システムが始動できないときは

FC システムが始動できない原因は状況によって異なります。次の状況の中であてはまるものを確認し、適切に対処してください。

正しい FC システムの始動方法（→P.173）に従っても始動できない

次の原因が考えられます。

- 電子キーが正常に働いていない可能性があります。（→P.462）
- 燃料が入っていない可能性があります。
  燃料を充てんしてください。
- 燃料充てん扉が開いている可能性があります。（→P.205）
- 外部給電アウトレットに外部給電コネクターが接続されている可能性があります。（→P.82）
- 外部給電アウトレットのキャップが開いている可能性があります。（→P.82）
- イモビライザーシステムに異常がある可能性があります。（→P.56）
- シフト制御システムに異常がある可能性があります。※（→P.175, 447）
- 電子キーの電池切れやヒューズ切れなど、電気系統異常の可能性があります。異常の種類によっては、FC システムを一時的な処置で始動することができます。（→P.460）
- 駆動用電池の温度が著しく低い（およそ -30 ℃以下）可能性があります。（→P.70, 173）
- FC システムが凍結した可能性があります（→P.173）

※ シフトポジションを P から切りかえることができない可能性があります。

室内灯・ヘッドランプが暗い／ホーンの音が小さい、または鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P.465）
- 補機バッテリーのターミナルがゆるんでいる可能性があります。（→P.395）

室内灯・ヘッドランプが点灯しない／ホーンが鳴らない場合

次の原因が考えられます。

- 補機バッテリーのターミナルがはずれている可能性があります。（→P.395）
- 補機バッテリーあがりの可能性があります。（→P.465）

対処の方法がわからないとき、あるいは対処をしても FC システムが始動できないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

緊急時の始動について

通常の FC システム始動操作で FC システムが始動しないときは、次

の手順で FC システムが始動する場合があります。
緊急時以外は、この方法で始動させないでください。

1 パーキングブレーキがかかっていることを確認するため、パーキングブレーキスイッチを引く（→P.183）

メーター内のパーキングブレーキ表示灯が点灯します。

2 パワースイッチを ACC にする

3 ブレーキペダルをしっかり踏んでパワースイッチを約 15 秒以上押し続ける

上記の方法で FC システムが始動しても、システムの故障が考えられます。ただちにトヨタ販売店で点検を受けてください。

キーをなくしたときは

キーナンバープレートに打刻されたキーナンバーと残りのメカニカルキーから、トヨタ販売店でトヨタ純正品の新しいメカニカルキーを作ることができます。

キーナンバープレートは車の中以外の安全な場所（財布の中など）に保管してください。

⚠ 注意

■電子キーを紛失したとき

電子キーを紛失した状態で放置すると、盗難の危険性が極めて高くなります。
車両に付属している残りの電子キーとカードキー★をすべてお持ちの上、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

燃料充てん口（補給口）が開かないときは

燃料充てん扉オープナースイッチを押しても燃料充てん口（補給口）が開かないときは、次の手順で燃料充てん口（補給口）を開けることができます。

燃料充てん口（補給口）を開くには

1 パワースイッチを OFF にして、トランク内のカバーを取りはずす

2 レバーを引く

電子キーが正常に働かないときは

電子キーと車両間の通信がさまたげられたり（→P.133）、電子キーの電池が切れたときは、スマートエントリー＆スタートシステムとワイヤレスリモコンが使用できなくなります。このような場合、次の手順でドアやトランクを開けたり、FC システムを始動したりすることができます。

知識

■電子キーが正常に働かないときは

●車両カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定を確認し、非作動になっている場合には、作動可能に設定変更してください。

●電子キーが節電モードに設定されていないことを確認してください。
設定されている場合は解除してください。（→P.133）

注意

■スマートエントリー＆スタートシステムの故障などで販売店に車両を持っていくとき

車両に付属しているすべての電子キーをお持ちください。

ドアの施錠・解錠、トランクの解錠

■ ドアを施錠・解錠するには

電子キーに内蔵されているメカニカルキーを使います。（→P.121）

1 全ドア施錠
2 全ドア解錠

■ **ドアを施錠するには**

1 ドアを開けた状態でドアロックボタンを押し下げる

▶ フロント席ドア

2 ドアハンドルを引いたままドアを閉める

▶ リヤ席ドア

2 ドアを閉める

■ **トランク**

メカニカルキーを時計まわりにまわして開ける（→P.58）

知識

■ **キー連動機能**

1 ドアガラスが閉まる（まわし続ける）※

2 ドアガラスが開く（まわし続ける）※

※ トヨタ販売店での設定が必要です。

■ **オートアラームについて**

メカニカルキーで施錠した場合、オートアラームが設定されません。なお、オートアラーム設定中にメカニカルキーで解錠すると、警報が鳴りますのでご注意ください。（→P.57）

警告

■ **メカニカルキーを使ってドアガラスを操作するとき**

ドアガラスに人が挟まれるおそれがないことを確認してから操作してください。またお子さまには、メカニカルキーによる操作をさせないでください。お子さまや他の人がドアガラスに挟まれたり巻き込まれたりするおそれがあります。

FC システム始動の方法

1 シフトポジションが P の状態でブレーキペダルをしっかりと踏む

2 電子キーのトヨタエンブレム面で、パワースイッチにふれる

電子キーを認識するとブザーが鳴り、ON へ切りかわります。

カスタマイズ機能でスマートエントリー＆スタートシステムの設定が非作動になっているときは、ACC へ切りかわります。

3 ブレーキペダルをしっかりと踏み込んで、マルチインフォメーションディスプレイに が表示されていることを確認する

4 パワースイッチを押す

処置をしても作動しないときは、トヨタ販売店にご連絡ください。

知識

■FC システムの停止方法

通常の FC システムの停止方法と同様に、パーキングブレーキをかけ、シフトポジションを P にしてパワースイッチを押します。

■電子キーの電池交換

ここで説明している FC システムの始動方法は一時的な処置です。電池が切れたときは、ただちに電池の交換をおすすめします。（→P.417）

■パワースイッチのモードの切りかえ

FC システム始動方法の手順 **3** で、ブレーキペダルから足を離してパワースイッチを押すと、FC システムが始動せず、スイッチを押すごとにモードが切りかわります。（→P.176）

補機バッテリーがあがったときは

補機バッテリーがあがった場合、次の手順で FC システムを始動することができます。

FC システムを再始動するには

ブースターケーブルと 12V のバッテリー付き救援車があれば、次の手順に従って、FC システムを始動させることができます。

1 電子キーを携帯していることを確認する

ブースターケーブル接続時、場合によっては、オートアラームが作動し自動的にドアが施錠されます。（→P.58）

2 ボンネットを開けて、ヒューズボックスのカバーをはずす（→P.395）

ツメを押しながらカバーを持ち上げる

3 ヒューズボックス内の救援用端子のカバーを開ける

4 赤色のブースターケーブルを自車の救援用端子 A につなぎ、もう一方の端を救援車のバッテリーの＋端子 B につなぐ。その後、黒色のブースターケーブルを救援車のバッテリーの－端子 C につなぎ、もう一方の端を金属部 D につなぐ

金属部 D につなぐときは、周囲を確認してから作業をしてください。また、近くの部品を一緒に挟まないようにつないでください。

ブースターケーブルは、指定の端子および接続箇所に届くものを使用してください。

A 救援用端子（自車）

B バッテリーの＋端子（救援車）

C バッテリーの－端子（救援車）

D 図に示す金属部

5 救援車のエンジンをかけ、回転を少し高めにして、約 5 分間自車の補機バッテリーを充電する

6 パワースイッチが OFF の状態でいずれかのドアを開閉する

7 救援車のエンジン回転を維持したまま、パワースイッチをいったん ON にしてから FC システムを始動する

8 READY インジケーターが点灯することを確認する

点灯しない場合はトヨタ販売店にご連絡ください。

9 FC システムが始動したら、ブースターケーブルをつないだときと逆の順ではずす

10 救援用端子カバーを閉じ、ヒューズボックスのカバーをもとどおりに取り付ける

FC システムが始動しても、早めにトヨタ販売店で点検を受けてください。

知識

■補機バッテリーあがり時の始動について

この車両は、押しがけによる始動はできません。

■補機バッテリーあがりを防ぐために

●FC システムが停止しているときは、ランプやオーディオの電源を切ってください。

●渋滞などで長時間止まっているときは、不必要な電装品の電源を切ってください。

■補機バッテリーがあがってしまったときは

●コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリーがあがったときはトヨタ販売店で点検を受けてください。

●初期設定が必要な機能があります。（→P.493）

■補機バッテリー端子をはずすときは

補機バッテリー端子をはずすと、コンピューターに記憶されている情報が消去されます。補機バッテリー端子をはずすときは、トヨタ販売店にご相談ください。

■補機バッテリーの充電について

補機バッテリーの電力は、車両を使用していないあいだも、一部の電装品による消費や自然放電のために、少しずつ消費されています。そのため、車両を長期間放置すると、補機バッテリーがあがってFC システムを始動できなくなるおそれがあります。（補機バッテリーは FC システムの作動中に自動で充電されます）

■補機バッテリーあがり時や取りはずし時など

●補機バッテリー脱着直後はスマートエントリー＆スタートシステムによるドアの解錠ができない場合があります。解錠できなかった場合はワイヤレスリモコン、またはメカニカルキーで解錠・施錠を実施してください。

●補機バッテリー脱着後、最初の始動操作では FC システムが始動できないことがありますが異常ではありません。再度始動操作を行ってください。

●車両は常にパワースイッチの状態を記憶しています。補機バッテリーあがり時、補機バッテリー脱着後は、バッテリーをはずす前の状態に復帰します。補機バッテリーを脱着する際は、パワースイッチを OFF にしてから行ってください。補機バッテリーがあがる前の状態が不明の場合、補機バッテリー接続時は特に注意してください。

●補機バッテリーがあがった場合は、P から他のポジションに切りかえることができない可能性があります。

その場合は、後輪が固定されているため、後輪を持ち上げないと車両の移動ができません。

●氷点下地域で、バッテリーを取り外して放置する場合、FC システムが凍結により始動ができなくなる場合があります。補機バッテリーを取り外す前にウォーターリリースを実施してください。（→P.188）

■補機バッテリーを交換するときは

●一括排気タイプの補機バッテリー（欧州規格）を使用してください。

●Toyota Teammate Advanced Drive 非装着車：交換前と同一のケースサイズ（LN2）、20 時間率容量（20HR）が同等（55Ah）以上、かつ性能基準値（CCA）が同等（345A）以上の補機バッテリーを使用してください。
・大きさが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。
・20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない時期が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、FC システムの始動ができなくなるおそれがあります。

●Toyota Teammate Advanced Drive 装着車：交換前と同一のケースサイズ（LN2）、20 時間率容量（20HR）が同等（60Ah）以上、かつ性能基準値（CCA）が同等（345A）以上の補機バッテリーを使用してください。
・大きさが異なると、補機バッテリーが正しく固定されません。
・20 時間率容量が小さいと、車両を使用していない時期が短い期間であっても補機バッテリーがあがって、FC システ

ムの始動ができなくなるおそれがあります。

●取っ手の付いている補機バッテリーを使用してください。
取っ手が付いていない補機バッテリーを使用すると、補機バッテリーを取り出しにくくなります。

●交換後は、補機バッテリーの排気穴に次のものを確実に取り付けてください。
・排気ホースは、交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用してください。
・排気穴栓は、交換した補機バッテリーに付属のもの、または交換前の補機バッテリーに取り付けられているものを使用してください。（交換する補機バッテリーによっては、排気穴がふさがれたものもあります。）

A 排気穴栓

B 排気穴

C 排気ホース

詳しくは、トヨタ販売店にご相談ください。

警告

■補機バッテリー端子をはずすときは

必ず－端子を先にはずしてください。
＋端子を先にはずすと、＋端子が周辺の金属部分にふれた場合、火花が発生し火災につながるおそれがある他、感電し重大な傷害におよぶか、最悪の場合死亡につながるおそれがあります。

■補機バッテリーの引火または爆発を防ぐために

補機バッテリーから発生する可燃性ガスに引火して爆発するおそれがあり危険ですので、火や火花が発生しないよう、次のことをお守りください。

●ブースターケーブルは正しい端子または接続箇所以外に接続しない

●＋端子に接続したブースターケーブルの先を付近のブラケットや未塗装の金属部に接触させない

●ブースターケーブルは＋側と－側の端子を絶対に接触させない

●補機バッテリー付近では、喫煙したりマッチやライターなどで火を起こさない

■補機バッテリーあがりの処置をしたあと

早めにトヨタ販売店で補機バッテリーの点検を受けてください。
補機バッテリーが劣化している場合、そのまま使い続けると補機バッテリーから異臭ガスが発生し、乗員に健康障害をおよぼすおそれがあり危険です。

■補機バッテリーの取り扱いについて

補機バッテリー内には有毒で腐食性のある酸性の電解液が入っており、また関連部品には鉛または鉛の混合物を含んでいるので、取り扱いに関し、次のことを必ずお守りください。

●補機バッテリーを取り扱うときは保護メガネを着用し、バッテリー液（酸）が皮膚・衣服・車体に付着しないようにする

●必要以上、顔や頭などを補機バッテリーに近付けない

警告

- 誤ってバッテリー液が体に付着したり目に入ったりした場合、ただちに大量の水で洗い、すぐに医師の診察を受ける
  また、医師の診察を受けるまで、水を含ませたスポンジや布を患部にあてておく
- 誤ってバッテリー液を飲み込んだ場合、多量の水を飲んで、すぐに医師の診察を受ける
- 補機バッテリーや周辺部品の取り扱い後は手を洗う
- お子さまを補機バッテリーに近付けない

■補機バッテリーを交換するときは

- 液栓やインジケーターがステーに近いと、バッテリー液（硫酸）がもれだすおそれがあります。
- 補機バッテリーの交換については、トヨタ販売店にご相談ください。
- 交換後は、交換した補機バッテリーの排気穴に排気ホースと排気穴栓を確実に取り付けてください。正しく取り付けられていないと、ガス（水素）が車内に侵入したり、引火して爆発するおそれがあり危険です。

注意

■ブースターケーブルの取り扱いについて

ブースターケーブルを接続したり、取りはずすときは、冷却ファンに巻き込まれないように十分注意してください。

■ブースターケーブルを接続するときは

指定の端子および接続箇所以外にブースターケーブルを接続しないでください。電子機器に悪影響をおよぼしたり、破損につながったりするおそれがあります。

■救援用端子について

この車の救援用端子は、他の車から応急的に補機バッテリーを充電するためのものです。この救援用端子を使用して、他の車のバッテリーあがりを救援することはできません。

オーバーヒートしたときは

次のような場合は、オーバーヒートの可能性があります。

- 高水温警告灯（→P.437）が点滅または点灯したり、FC システムの出力が低下する（スピードが出ないなど）
- FC システム過熱警告灯（→P.438）が点滅または点灯したとき
- FC ユニットルームから蒸気が出る

冷却部品の各部名称

A ラベル

B FC スタック用リザーバータンク

C インバーター用リザーバータンク

注意

■FC スタック用冷却水

FC スタックの冷却水は、FC スタック専用品です。水や他の種類の冷却水を入れると、故障の原因になりますので、絶対に入れないでください。FC スタック用冷却水が不足している場合は、ただちにトヨタ販売店にご連絡ください。

対処方法

▶ 高水温警告灯が点滅または点灯したとき

1 安全な場所に停車し、エアコンを OFF にしてから、FC システムを停止する

2 蒸気が出ている場合：
蒸気が出なくなったことを確認してから、注意してボンネットを開ける
蒸気が出ていない場合：
注意してボンネットを開ける

3 FC システムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

A ファン

B ラジエーター

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

4 FC スタック用冷却水の量が FC スタック用リザーバータンクの“MAX”（上限）と“MIN”（下限）のあいだにあるかを点検する

A FC スタック用リザーバータンク

B “MAX”（上限）

C “MIN”（下限）

FC スタック用冷却水量が減っている場

合：
トヨタ販売店に連絡する

FC スタック用冷却水量が減っていない場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

FC スタック用冷却水が減っていても絶対に補充しないでください

▶ FC システム過熱警告灯が点滅または点灯したとき

1 安全な場所に停車する

2 FC システムを停止し、注意してボンネットを開ける

3 FC システムが十分に冷えてから、ラジエーターコア部（放熱部）やホースなどからの冷却水もれを点検する

A ファン

B ラジエーター

多量の冷却水もれがある場合は、ただちにトヨタ販売店に連絡してください。

4 インバーター用冷却水の量がインバーター用リザーバータンクの“MAX”（上限）と“MIN”（下限）のあいだにあるかを点検する

A インバーター用リザーバータンク

B “MAX”（上限）

C “MIN”（下限）

5 インバーター用冷却水が不足している場合は、FC ユニットルームカバーを取りはずし、インバーター用冷却水を補給する

インバーター用冷却水がない場合は、応急措置として水を補給してください。

6 FC システムを始動し、エアコンを作動させてラジエーター冷却用のファンが作動しているか、およびラジエーターコアや

ホースなどから冷却水もれがないことを再度確認する

FC システムが冷えた状態での始動直後は、エアコンを ON にすることでファンが作動します。ファンの音や風で確認してください。わかりにくいときは、エアコンの ON/OFF をくり返してください。（ただし、氷点下となる寒冷時はファンが作動しないことがあります）

ファンが作動していない場合：
すぐに FC システムを停止し、トヨタ販売店に連絡する

ファンが作動している場合：
最寄りのトヨタ販売店で点検を受ける

警告

■FC ユニットルームを点検しているとき

次のことを必ずお守りください。
お守りいただかないと、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

- FC ユニットルームから蒸気が出ている場合は、蒸気が出なくなるまでボンネットを開けないでください。FC ユニットルーム内が高温になっています。
- FC システムが停止していても、冷却ファンが急にまわり出すことがあります。
  冷却ファンなどの回転部分にふれたり、近付いたりすると、手や衣服・工具などが巻き込まれたりして、重大な傷害を受けるおそれがあり危険です。
- FC システムおよびラジエーターが熱い場合は、冷却水リザーバータンクのキャップやラジエーターキャップを開けないでください。
  高温の蒸気や冷却水が圧力によって噴き出すおそれがあります。

注意

■インバーター用冷却水を入れるとき

FC システムが十分に冷えてからゆっくり入れてください。
FC システムが熱いときに急に冷たいインバーター用冷却水を入れると、FC システムが損傷するおそれがあります。

■冷却系統の故障を防ぐために

次のことをお守りください。

- 異物（砂やほこりなど）を冷却水に混入させない
- インバーター用冷却水に冷却水用添加剤を使用しない
- FC スタック用冷却水の補充は、トヨタ販売店におまかせください。
- FC スタック用冷却水には、水や他の冷却水を補充しないでください。また、冷却水用添加剤は使用しないでください。

スタックしたときは

ぬかるみや砂地・雪道などでタイヤが空転したり埋まり込んで動けなくなったときは次の方法を試みてください。

脱出するには

1 パーキングブレーキをかけシフトポジションを P にして、FC システムを停止する
2 後輪周辺の土や雪などを取り除く
3 後輪の下に木や石などをあてがう
4 FC システムを再始動する
5 シフトポジションを確実に D または R にし、パーキングブレーキを解除して注意しながらアクセルペダルを踏む

知識

■脱出しにくいとき

OFF スイッチを押して TRC を OFF にしてください。

A TRC Off しました

警告

■脱出するとき

前進と後退をくり返してスタックから脱出する場合、他の車・ものまたは人との衝突を避けるため周囲に何もないことを確認してください。
スタックから脱出するとき、車が前方または後方に飛び出すおそれがありますので、特に注意してください。

■シフトレバーを操作するとき

アクセルペダルを踏み込んだまま操作しないように気を付けてください。
車が急発進し、思わぬ事故につながるおそれがあり危険です。

注意

■トランスミッションやその他の部品への損傷を避けるために

- 後輪が空転するのを避け、必要以上にアクセルペダルを踏まないでください。
- 上記の方法で脱出できなかった場合、けん引による救援が必要です。

車両情報 9

9-1. 仕様一覧

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）..... 476

9-2. カスタマイズ機能

ユーザーカスタマイズ機能一覧480

9-3. 初期設定

初期設定が必要な項目..... 493

メンテナンスデータ（指定燃料・オイル量など）

使用する液類の品質により、お車の寿命は著しく左右されます。

お車には、最も適した弊社純正液類（以下、「指定銘柄」といいます）のご使用をおすすめします。

指定銘柄以外を使用される場合は、指定銘柄に相当する品質のものをご使用ください。

燃料

指定燃料	容量［L］（参考値）
圧縮水素ガス	142.2L（約 5.7kg）

※ 水素タンク容量は 142.2L で、約 5.7kg の圧縮水素ガスが貯蔵可能です。
ただし、ステーションの充填圧力により実際の充填量は異なります。

※ 下記品質基準に適合した水素ガスを充てんすること
EN 17124 (European standard for EU27 countries)
ISO 14687 Grade D (European standard)
SAE J2719 (US standard)

ラジエーター

指定銘柄	容量［L］（参考値）	
トヨタ純正 FC スタッククーラント 凍結保証温度 濃度 50%　　-35 ℃	FC スタック	16.4
トヨタ純正スーパーロングライフクーラント 凍結保証温度 濃度 50%　　-35 ℃	インバーター	3.9

■ FC スタック用冷却水について

- 高電圧である FC スタックを安全に冷却するために、FC スタック用冷却水は絶縁性の高い専用品です
- 水や他の種類の冷却水は故障の原因になりますので、絶対に入れないでください
- 冷却水の交換は不要です

● ラジエーターから抜き取った冷却水は、再使用しないでください
● 冷却水は無色です
● FC スタック用冷却水の補充・交換は、トヨタ販売店にご相談ください

注意

■FC スタック用冷却水について

FC スタック専用品です。水や他の種類の冷却水を入れると、故障の原因になりますので、絶対に入れないでください。冷却水が不足している場合は、ただちにトヨタ販売店にご連絡ください。

トランスミッション

指定銘柄	容量［L］（参考値※）
弊社純正オートフルード WS	5.6

※ 交換が必要な際はトヨタ販売店にご相談ください

注意

■トランスミッションフルードについて

指定銘柄以外のフルードを使用すると、振動・異音の発生や、故障などの原因になるおそれがあります。

ブレーキ

■ ブレーキフルード

指定銘柄
弊社純正ブレーキフルード 2500H-A

■ ブレーキペダル ※1

項目	基準値［mm］
遊び	1 ～ 6
踏み込んだときの床板とのすき間 ※2	102

※1 ブレーキペダルの点検に併せて、READY インジケーターが点灯している状態のとき、ブレーキ警告灯（赤色）が点灯していないことも必ず確認してください。
（警告灯が点灯した場合の対処については、P.437 を参照してください）

※2 READY インジケーターが点灯している状態で、500N（51kgf）の踏力をかけたときの床板とのすき間の最小値

■ ブレーキパッド

項目	使用限度値［mm］
ブレーキパッドの厚み	1

■ パーキングブレーキ

項目 （FC システム始動時）	パーキングブレーキ表示灯の状態
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 2 秒以内で引いたとき	点灯
パーキングブレーキスイッチを 1 秒以上 2 秒以内で押したとき	消灯

このとき、ブレーキ警告灯（黄色）が点灯していないことを確認してください。
（警告灯が点灯した場合の対処については、P.442 を参照してください）

ウォッシャータンク

容量［L］（参考値）
4.8

タイヤ・ホイール

■ サイズ・空気圧

タイヤサイズ	ホイールサイズ	タイヤが冷えているときの空気圧 kPa（kg/cm^2）	
		前輪	後輪
235/55R19 101V	19 × 8J	230 (2.3)	230 (2.3)
245/45ZR20 103Y	20 × 8 1/2J	230 (2.3)	230 (2.3)

■ ホイールナット締め付けトルク

トルク［N・m（kgf・cm)］
140（1428）

電球（バルブ）※

電球		W（ワット）数
車外	リアフォグランプ	21

※ 表に記載のないランプは LED を採用しています。

車両仕様

名称	型式	駆動方式
MIRAI	JPD20	FR（後輪駆動）

ユーザーカスタマイズ機能一覧

お車に装備されている各種の機能は、ご希望に合わせてトヨタ販売店で作動内容を変更することができます。また、マルチインフォメーションディスプレイ・マルチメディアシステムの操作により設定を変更することができる機能もあります。

一部の車両カスタマイズ設定は、マイセッティングと連動して設定が変更されます。**(→P.162)**

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

Toyota Teammate Advanced Drive 装着車は、「Toyota Teammate Advanced Drive 取扱書」を参照してください。

設定を変更するには

■ マルチインフォメーションディスプレイで設定するには

1 メーター操作スイッチの ＜ または ＞ を押して ⚙ を選択する

2 スイッチを操作して設定変更したい項目を選択する

3 画面の表示に従って機能の作動内容を選択し、**OK**を押す

前の画面にもどったり設定を終了したりする場合は、メーター操作スイッチの ⮌ を押します。

■ マルチメディアシステムで設定するには

1 メインメニューの ⚙ をタッチし、“車両カスタマイズ”を選択する

2 一覧表示された中から設定を変更する項目を選択する

3 機能の作動内容を選択する

⚠ 注意

■カスタマイズを行うときは

補機バッテリーあがりを起こす可能性がありますので、確実に FC システムが作動している状態で実施してください。

車両カスタマイズ設定一覧

機能によっては、他の機能と連動して設定がかわるものもあります。詳しくはトヨタ販売店へお問い合わせください。

A マルチメディアシステムで設定変更可能

B マルチインフォメーションディスプレイで設定変更可能

C トヨタ販売店で設定変更可能

■ シートベルト（→P.29）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
車速が約 20km/h 以上でのフロント席シートベルト巻き取り★	あり	なし	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ FC システム（→P.189）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ナビ連動排水機能	なし	あり	—	○	—

■ オートアラーム（→P.57）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
メカニカルキーを使って解錠したときのアラーム解除	なし	あり	—	—	○

■ メーター、マルチインフォメーションディスプレイ（→P.94, 97, 100）

機能の内容※	初期設定	変更後	A	B	C
言語	日本語	英語	—	○	—
エコアクセルガイド	表示	非表示	—	○	—
燃費グラフ	リセット間平均燃費	始動後平均燃費	—	○	—
		充てん後平均燃費			
オーディオシステム連携表示	あり	なし	—	○	—
エネルギーモニター	表示	非表示	—	○	—
ドライブインフォタイプ	始動後	リセット間	—	○	—
ドライブインフォ項目（1 行目）	走行距離	平均車速	—	○	—
		走行時間			
ドライブインフォ項目（2 行目）	走行時間	平均車速	—	○	—
		走行距離			

機能の内容※	初期設定	変更後	A	B	C
走行結果表示	ドライブインフォメーション	エコジャッジ	—	○	—
割り込み表示	あり	なし	—	○	—
提案サービス	あり	あり（停車中のみ）	○	—	○
		なし			

※ 機能についての詳しい説明は P.106 を参照してください

■ ヘッドアップディスプレイ★（→P.108）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
FC システムインジケーター表示	あり	なし	—	○	—
目的地案内	あり	なし	—	○	—
レーン表示	あり	なし	—	○	—
運転支援システム表示	あり	なし	—	○	—
オーディオ表示	あり	なし	—	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドアロック（→P.122, 129, 462）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
メカニカルキーによる解錠	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	—	—	○
車速感応オートドアロック	あり	なし	○	—	○
シフトポジションを P 以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）	なし	あり	○	—	○
シフトポジションを P にしたときの全ドア解錠（シフト操作連動アンロック）	あり	なし	○	—	○

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
運転席ドアを開けたときの全ドア解錠（運転席ドア開連動アンロック）	なし	あり	○	—	○
全ドア解錠したときトランク解錠、全ドア施錠したときトランク施錠（ドアロック連動トランク）	あり	なし	—	—	○

■ スマートエントリー＆スタートシステム、ワイヤレスドアロック共通（→P.122, 129, 131）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
作動の合図（ブザー音量調整）	レベル 5	OFF	○	—	○
		レベル 1 ～ 7			
作動の合図（非常点滅灯）	あり	なし	○	—	○
解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠までの時間	30 秒	60 秒	○	—	○
		120 秒			
半ドア警告ブザー	あり	なし	—	—	○

■ スマートエントリー＆スタートシステム（→P.122, 129, 131）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
スマートエントリー＆スタートシステム	あり	なし	○	—	○
解錠されるドアの選択	全席解錠	運転席のみ解錠	○	—	○
全席解錠までのドアハンドル保持時間	非作動	1.5 秒	—	—	○
		2.0 秒			
		2.5 秒			
連続ロック操作の有効回数	2 回	無制限	—	—	○

■ ワイヤレスドアロック（→P.120, 122, 129）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ワイヤレス機能	あり	なし	—	—	○
解錠時の操作	1 回で全ドア解錠	1 回で運転席ドア解錠、連続 2 回で全ドア解錠	○	—	○

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
トランク解錠時の操作	1 回押し続ける（短）	1 回押し	—	—	○
		2 回押し			
		1 回押し続ける（長）			
		非作動			

■ リヤシートリマインダー（→P.124）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
後席置き忘れ防止の表示	あり	なし	—	○	—

■ パワーイージーアクセスシステム★（→P.137）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
降車時の運転席シート前後移動量	標準	OFF	○	—	○
		少なめ			
ハンドルの作動	チルトのみ	OFF	○	—	○
		テレスコピックのみ			
		チルトおよびテレスコピック			

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ メモリーコール機能★（→P.139）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
連動するドアの選択	運転席ドア	全ドア	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドアミラー（→P.157）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
オート電動格納作動	ドアの施錠・解錠と連動	OFF	—	—	○
		パワースイッチと連動			

■ パワーウインドウ（→P.159）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
メカニカルキー連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉機能	なし	あり	—	—	○
ワイヤレスリモコン連動開閉作動の合図（ブザー）	あり	なし	—	—	○

■ リヤサンシェード★（→P.370）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
リバース連動機能	あり	なし	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ASC（アクティブサウンドコントロール）★（→P.188）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ASC （アクティブサウンドコントロール） の音量	中	高	○	—	—
		低			
		Off			

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ランプ自動点灯・消灯システム（→P.190）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ライトセンサーの感度調整	-2	-1 ～ +2	○	—	○
ワイパー連動ヘッドランプ点灯機能	なし	あり	—	—	○

■ AHS（アダプティブハイビームシステム）★（→P.193）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
アダプティブハイビームシステム	あり	なし ※	—	—	○
前方車両と遮光ハイビームとの間隔	広い	狭い	—	—	○
		普通			

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
車速に応じた、ハイビームの明るさと照らす範囲の調整	約 15km/h から作動	約 30km/h から作動	—	—	○
		約 40km/h から作動			
カーブを走行しているとき、進行方向側のハイビームを明るく照らす	あり	なし	—	—	○
先行車との距離に応じた、ロービームの照らす範囲の調整	あり	なし	—	—	○
雨天時用のハイビーム配光制御	あり	なし	—	—	○
市街地用の配光制御	あり	なし	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※ AHB（オートマチックハイビーム）として作動します。（→P.196）

■ PCS（プリクラッシュセーフティ）※1 （→P.213）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
プリクラッシュセーフティ ※2	あり／なし	—	○	—
警報タイミング	早い／中間／遅い	—	○	—

※1 Toyota Teammate Advanced Drive 装着車は、「Toyota Teammate Advanced Drive 取扱書」を参照してください。

※2 パワースイッチを ON にすると設定を「なし」にしても「あり」に戻ります。

■ LTA（レーントレーシングアシスト）※ （→P.223）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
車線維持支援機能（センタートレース）	あり／なし	—	○	—
警報手段	ハンドルの振動／警報ブザー	—	○	—
警報感度	高／普通	—	○	—
ふらつき警報機能	あり／なし	—	○	—
ふらつき警報機能の感度	高／普通／低	—	○	—

※ Toyota Teammate Advanced Drive 装着車は、「Toyota Teammate Advanced Drive 取扱書」を参照してください。

■ RSA（ロードサインアシスト）※（→P.232）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
RSA（ロードサインアシスト）機能	あり／なし	—	○	—
制限速度超過告知	告知表示のみ／告知表示とブザー／なし	—	○	—
制限速度超過の告知車速	2km/h ／ 5km/h ／ 10km/h	—	○	—
追い越し禁止告知	告知表示のみ／告知表示とハンドルの振動／なし	—	○	—
その他の告知（進入禁止告知）	告知表示のみ／告知表示とブザー／なし	—	○	—

※ Toyota Teammate Advanced Drive 装着車は、「Toyota Teammate Advanced Drive 取扱書」を参照してください。

■ レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）※（→P.235）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
カーブ速度抑制機能	強／弱／なし	—	○	—
通信利用型レーダークルーズコントロール機能	あり／なし	—	○	—

※ Toyota Teammate Advanced Drive 装着車は、「Toyota Teammate Advanced Drive 取扱書」を参照してください。

■ 先行車発進告知機能（→P.247）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
先行車発進告知機能	あり／なし	—	○	—
告知タイミング	近い／中間／遠い	—	○	—

■ ドライバー異常時対応システム ※（→P.249）

機能の内容	カスタマイズ設定	A	B	C
ドライバー異常時対応システム	あり／なし	—	○	—

※ Toyota Teammate Advanced Drive 装着車は、「Toyota Teammate Advanced Drive 取扱書」を参照してください。

■ ITS Connect★※1（→P.255）

機能の内容※2	初期設定	変更後	A	B	C
信号情報の表示	ON	OFF	—	○	—
道路環境情報の表示	ON	OFF	—	○	—
緊急車両存在通知	ON	OFF	—	○	—
通知感度	高い	低い	—	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

※1Toyota Teammate Advanced Drive 装着車は、「Toyota Teammate Advanced Drive 取扱書」を参照してください。

※2機能についての詳しい説明は P.261 を参照してください

■ BSM（ブラインドスポットモニター）（→P.262）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ブラインドスポットモニター機能	あり	なし	—	○	—
ドアミラーインジケーターの明るさ	明るい	暗い	—	○	—
接近車両を知らせるタイミング（感度）	普通	早い	—	○	—
		遅い			
		死角領域の車両のみ検知			

■ クリアランスソナー（→P.266）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
クリアランスソナー機能	あり	なし	—	○	—
ブザー音量	レベル 2	レベル 1	—	○	—
		レベル 3			
音声案内	あり	なし	—	○	—

■ RCTA（リヤクロストラフィックアラート）（→P.275）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）機能	あり	なし	—	○	—

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ブザー音量	レベル 2	レベル 1	—	○	—
		レベル 3			

■ RCD（リヤカメラディテクション）★（→P.281）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
RCD（リヤカメラディテクション）機能	あり	なし	—	○	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ PKSB（パーキングサポートブレーキ）（→P.284）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
PKSB（パーキングサポートブレーキ）機能	あり	なし	—	○	—

■ トヨタチームメイトアドバンストパーク★（→P.296）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
音声案内	あり	なし	○	—	—
速度モード	標準	遅め	○	—	—
		速め			
障害物回避距離	標準	遠い	○	—	—
優先駐車方法	並列	縦列	○	—	—
優先駐車向き	バック	前向き	○	—	—
優先出庫方向（並列）	左	右	○	—	—
優先出庫方向（縦列）	右	左	○	—	—
駐車時の映像	ノーマル	ワイド	○	—	—
出庫時の映像	ワイド	ノーマル	○	—	—
駐車進路調整	0（中央）	-3（内側）～ +3（外側）	○	—	—
道幅調整	標準	やや狭い	○	—	—
		狭い	○	—	—
駐車位置調整（前向き）	0（中央）	-3（後）～ +3（前）	○	—	—

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
駐車位置調整（バック）	0（中央）	-3（後）～ +3（前）	○	—	—
後部取付部品設定	取付なし	10cm	○	—	—
		20cm			
		30cm			
		40cm			
登録した場所の消去	-	-	○	—	—

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ドライブスタートコントロール（→P.170）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
後退速度の抑制制御	あり	なし ※	—	○	—

※「なし」に変更しても、パワースイッチを ON にするたびに「あり」にもどります。

■ エアコン（→P.337）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
AUTO スイッチが ON のとき、連動して外気導入と内気循環を自動的に切りかえる	する	しない	○	—	○
AUTO スイッチを ON にしたとき、A/C スイッチが連動して ON になる	する	しない	○	—	○

■ シートヒーター／シートベンチレーター（→P.347）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
運転席シートヒーター／ベンチレーター AUTO モード時の温度または風量調整★	標準	-2（涼しめ）～ +2（暖かめ）	○	—	○
助手席シートヒーター／ベンチレーター AUTO モード時の温度または風量調整★	標準	-2（涼しめ）～ +2（暖かめ）	○	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ ステアリングヒーター（→P.347）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
ステアリングヒーター AUTO モード時の温度調整	標準	-2（低め）～ +2（高め）	○	—	○

■ イルミネーション（→P.351）

機能の内容	初期設定	変更後	A	B	C
室内灯の消灯までの時間	15 秒	OFF	○	—	○
		7.5 秒			
		30 秒			
パワースイッチ OFF 後の照明の点灯（インテリアランプ、フロントパーソナルランプ）	あり	なし	—	—	○
解錠時の照明の点灯（インテリアランプ、フロントパーソナルランプ）	あり	なし	—	—	○
接近時の照明の点灯（インテリアランプ、フロントパーソナルランプ）	あり	なし	—	—	○
車室内足元照明の点灯★	あり	なし	—	—	○
インサイドハンドル照明★、カップホルダー照明、インテリアランプ、ドアトリム照明★、インストルメントパネルオーナメント照明★の点灯	あり	なし	—	—	○
室外足元照明の消灯までの時間	15 秒	OFF	○	—	○
		7.5 秒			
		30 秒			
接近時の室外足元照明の点灯	あり	なし	—	—	○
解錠時の室外足元照明の点灯	あり	なし	—	—	○

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

■ Toyota Teammate Advanced Drive ★

「Toyota Teammate Advanced Drive 取扱書」を参照してください。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

知識

■車両カスタマイズについて

● “車速感応オートドアロック” と “シフトポジションをP以外にしたときの全ドア施錠（シフト操作連動ドアロック）” を両方とも “あり” にした場合、次のように作動します。
・シフトポジションをP以外にすると全ドアが施錠されます。
・全ドアが施錠された状態で発進した場合、車速感応式自動ドアロックは作動しません。
・発進前にいずれかのドアロックを解錠してから発進した場合は、車速感応オートドアロックが作動します。

● “スマートエントリー＆スタートシステム” の設定が “なし” の場合、“解錠されるドアの選択” の設定はできません。

●解錠後、ドアを開けなかったときの自動施錠が作動したときの合図は、“作動の合図（非常点滅灯）”・“作動の合図音量（ブザー音量調整）” の設定に依存します。

●マルチメディアシステム以外でもスイッチ操作などでカスタマイズ設定ができる項目があります。スイッチ操作で設定を変更した場合、パワースイッチをOFFにし、再度パワースイッチをONにするまでマルチメディアシステムには反映されません。

初期設定が必要な項目

次の項目は補機バッテリーを再接続したり、メンテナンスを行ったあとなどに、システムを正しく作動させるために初期設定が必要です。

初期設定が必要な項目

項目	初期設定が必要なとき	参照先
タイヤ空気圧警報システム	・タイヤローテーションを実施したとき ・指定空気圧が複数ある場合に、タイヤの指定空気圧を変更したとき ・ID コードの登録を実施したとき	P.404

さくいん

こんなときは（症状別さくいん）
..... 496
車から音が鳴ったときは（音さくいん）..... 498
燃料電池車さくいん..... 500
アルファベット順さくいん..... 502
五十音順さくいん 504

こんなときは（症状別さくいん）

お困りの際は、トヨタ販売店にご連絡いただく前にまず次のことを確認してください。

施錠／解錠／ドアの開閉ができない

キーをなくした

- メカニカルキーをなくした場合、トヨタ販売店でトヨタ純正の新しいメカニカルキーを作ることができます。（→P.461）
- 電子キーをなくすと盗難の危険性が極めて高くなるため、ただちにトヨタ販売店にご相談ください。（→P.461）

キーが正常に働かないときは

- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？（→P.417）

施錠・解錠できない

- パワースイッチが ON になっていませんか？

施錠するときは、パワースイッチを OFF にしてください。（→P.175）

- 電子キーを車内に置き忘れていませんか？

施錠するときは、電子キーを携帯していることを確認してください。

- 電波状況により、機能が正常に働いていない可能性があります。（→P.133）

リヤドアが開かない

- チャイルドプロテクターがかかっていませんか？

チャイルドプロテクターがかかっていると車内からは開きません。いったん車外から開けて、チャイルドプロテクターを解除してください。（→P.126）

誤ってトランク内にキーを閉じ込めた

- キー閉じ込み防止機能が働き、通常通りトランクを開けることができます。キーを取り出してください。（→P.130）

故障かな？と思ったら

FC システムが始動できない

- ブレーキペダルをしっかりと踏みながらパワースイッチを押していますか？（→P.173）
- キーが車内の検知される場所にありますか？（→P.132）
- キーの電池が消耗、または電池が切れていませんか？

このときは、一時的な方法で FC

システムを始動することができます。（→P.460）

● 補機バッテリーがあがっていませんか？（→P.465）

パワーウインドウスイッチを操作してもドアガラスが開閉しない

● ウインドウロックスイッチが押されていませんか？

ウインドウロックスイッチが押されていると、運転席以外のパワーウインドウは操作できなくなります。（→P.161）

パワースイッチが自動的にOFF になった

● 一定時間 ACC にしておくと、自動電源 OFF 機能が作動します。（→P.176）

警告音・アラーム・ホーンが鳴りだした

● 警告音が鳴りだしたときは、「車から音が鳴ったときは（音さくいん）」（→P.498）をご確認ください。

警告灯や警告メッセージが表示されたとき

● 警告灯や警告メッセージが表示されたときは、P.437、445をご確認ください。

トラブルが発生した

タイヤがパンクした

● 車を安全な場所に停め、タイヤパンク応急修理キットでパンクしたタイヤを応急修理してください。（→P.448）

立ち往生した

● ぬかるみ・砂地・雪道などで動けなくなったときの脱出方法を試してください。（→P.474）

車から音が鳴ったときは（音さくいん）

次の状況のとき、車の状態や誤操作などをお知らせするために警告音が鳴ります。

車に乗るとき／降りるとき

状況	原因	詳細
解錠したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.57
ドアを開閉したとき	盗難防止装置（オートアラーム）が作動した※	P.57
トランクを閉めたとき	電子キーをトランク内に置き忘れている	P.130
FC システムを停止したとき	電子キーの電池残量が少なくなっている	P.119
施錠しようとしたとき（施錠できないとき）	いずれかのドアが確実に閉まっていない	P.123
	電子キーを車内に置き忘れている	P.132

※ スマートエントリー＆スタートシステム・ワイヤレスリモコンでドアまたはトランクを解錠する、またはパワースイッチを ACC または ON にするか、FC システムを始動すると、警報を解除することができます。

走行しているとき

状況	原因	詳細
走り出したとき	いずれかのドア・トランク・ボンネットが確実に閉まっていない	P.126
	パーキングブレーキが解除されていない	P.185
	シートベルトを着用していない※	P.442
先行車に接近したとき	レーダークルーズコントロールを使用している	P.241
前方の障害物と衝突しそうになったとき	PCS（プリクラッシュセーフティ）が作動した	P.213
車線から逸脱しそうになったとき	LTA（レーントレーシングアシスト）を使用している	P.223
制限速度より一定の速度を超過したとき	RSA（ロードサインアシスト）が作動した	P.232
進入禁止区域に進入したとき		
前の車が発進しても停車し続けたとき	先行車発進告知機能が作動した	P.247

状況	原因	詳細
無操作運転が継続されたとき	ドライバー異常時対応システムが作動した	P.249
対向車や右折先の歩行者がいるときに右折しようとしたとき	ITS Connect★が作動した	P.255
左右から交差点に進入する車がいるときに発進しようとしたとき		
赤信号の交差点に進入しそうになったとき		
緊急車両（救急車）がサイレンを鳴らして近辺を走行しているとき		
障害物との距離が近付いたとき	クリアランスソナーが作動した	P.266
後退時に左右からの車を検知したとき	RCTA（リヤクロストラフィックアラート）が作動した	P.275
後退時に後方の歩行者を検知したとき	RCD（リヤカメラディテクション）★が作動した	P.281

※ 助手席に荷物を置いている場合にもブザーが鳴ることがあります。

★：グレード、オプションなどにより、装備の有無があります。

燃料電池車さくいん

燃料電池車についての解説

■ 燃料電池車の特徴
→P.62

燃料電池車についての注意事項

■ 水素関係部位
→P.66
■ 高電圧部位
→P.66
■ 駆動用電池冷却用吸入口
→P.74

燃料充てんについて

■ 充てんする前に
→P.204
■ 燃料充てん口の開け方
→P.205
■ 燃料充てん口の閉め方
→P.205

運転のしかた

■ 運転にあたって
→P.165
■ FC システムの始動方法
→P.173
■ シフトポジション
→P.177

DC 外部給電システム

■ 給電作業をする前に
→P.78
■ 給電を開始する
→P.78
■ 給電状態表示
→P.82
■ 給電を停止する
→P.82

環境に配慮した経済的な運転

■ 燃料電池車運転のアドバイス
→P.75

事故が起きたときは

■ 事故が発生したときの警告
→P.72

燃料電池車特有の説明がある項目

■ 燃料電池車特有の音と振動
→P.63
■ 車両接近通報装置
→P.64
■ 水素ガスもれやその他の異常に気付いたとき
→P.71
■ 警告灯／表示灯
→P.90

■ 計器類
→P.94, 97
■ ドライブインフォメーション
→P.105
■ ウォーターリリース (H_2O スイッチ)
→P.188
■ 寒冷時について
→P.173
■ ボンネット
→P.395
■ 発炎筒
→P.427
■ けん引について
→P.431
■ 警告メッセージ
→P.445
■ FC システムが始動できないときは
→P.460
■ 補機バッテリーがあがったときは
→P.465
■ オーバーヒートしたときは
→P.470

アルファベット順さくいん

A/C
（エアコン）.....337, 346
ABS
（アンチロックブレーキシステム）
.....321
AHB
（オートマチックハイビーム）..196
AHS
（アダプティブハイビームシステム）
.....193
ASC
（アクティブサウンドコントロール）
.....188
BSM
（ブラインドスポットモニター）
.....262
ECB
（エレクトロニカリーコントロールドブレーキシステム）.....321
EDR
（イベントデータレコーダー）.....8
EPS
（エレクトリックパワーステアリング）.....321
HUD
（ヘッドアップディスプレイ）..108
ISOFIX
（アイソフィックス／イソフィックス）.....43
ITS Connect
通信利用型レーダークルーズコントロール.....255
LED
（ライトエミッティングダイオード）
.....191
LED デイライト 191
LTA
（レーントレーシングアシスト）
.....223
PCS
（プリクラッシュセーフティ）..213
PKSB
（パーキングサポートブレーキ）
.....284
RCD
（リヤカメラディテクション）..281
RCTA
（リヤクロストラフィックアラート）
.....275
S-FLOW
フロント席集中送風モード.....342
SRS
（サプリメンタルレストレイントシステム）.....33
Toyota Safety Sense
AHB（オートマチックハイビーム）
.....196
AHS（アダプティブハイビームシステム）.....193
LTA（レーントレーシングアシスト）.....223
PCS（プリクラッシュセーフティ）
.....213
RSA（ロードサインアシスト）232
先行車発進告知機能.....247
ドライバー異常時対応システム
.....249
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）.....235
TRC
（トラクションコントロール）..321
VDIM
（ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント）.....321
VSC
（ビークルスタビリティコントロール）.....321

五十音順さくいん

あ

アースポイント（バッテリーあがりの処置）.....465
アームレスト.....366
RSA（ロードサインアシスト）.....232
ITS Connect.....255
　通信利用型レーダークルーズコントロール.....242
アウターミラー（ドアミラー）
　格納のしかた.....158
　操作.....157
　ブラインドスポットモニター（BSM）262
　ポジションメモリー.....137
　ミラーヒーター.....338
　リヤクロストラフィックアラート（RCTA）.....275
アクセサリーコンセント.....367, 372
アクセサリーソケット.....367
アクティブアシスト.....32
アシストグリップ.....366
アダプティブハイビームシステム...193
アラーム
　オートアラーム.....57
　警告ブザー.....437
アンチロックブレーキシステム（ABS）.....321
　警告灯.....438
アンテナ（スマートエントリー＆スタートシステム）.....131

い

イージークローザー
　ドア.....125
　トランク.....130
イオンフィルタ.....69
イグニッションスイッチ（パワースイッチ）.....173
位置交換（タイヤローテーション）.401
イベントデータレコーダー（EDR）.....8
イモビライザーシステム.....56
インジケーター（表示灯）.....92
インテリアランプ.....351, 352
インナーミラー.....144, 145

う

ウインカー（方向指示灯）
　電球（バルブ）の交換.....422
　方向指示レバー.....182
ウインドウ
　ウォッシャー.....200
　パワーウインドウ.....159
　リヤウインドウデフォッガー.....338
ウインドウロックスイッチ.....161
ウォッシャー
　液の補給.....399
　スイッチ.....200
　タンク容量.....478
　冬の前の準備・点検.....331
動けなくなったときは（スタック）.474
雨滴感知式ワイパー.....200
運転
　雨の日の運転.....165
　運転を補助する装置.....321
　寒冷時の運転.....331
　正しい運転姿勢.....27
　手順.....165
　燃料電池車運転のアドバイス.....75
運転支援機能情報表示.....105
運転席シートベルト非着用警告灯...442

え

エアコン.....337
　ALL AUTO 制御.....336
　エコ空調モード.....339

オートエアコン.....337
各席連動モード（SYNC モード）.....341
曇り取り（フロントガラス）.....338
曇り取り（リヤウインドウ）.....338
「ナノイー X」.....339
フィルターの清掃.....412
フロント席集中送風モード（S-FLOW）
.....342
エアバッグ.....33
SRS エアバッグ警告灯.....438
改造・廃棄.....38
警告ブザー.....438
作動条件.....34
正しい姿勢.....27
配置.....33
エアピュリフィケーション画面.....113
H_2O スイッチ.....188
ACC.....176
エコアクセルガイド.....103
エコジャッジ.....103
SYNC モード
各席連動モード.....341
エネルギーモニター.....113
FC システム.....62
運転のアドバイス.....75
エネルギーモニター.....113
オーバーヒート.....470
緊急始動機能.....460
緊急時の停止方法.....428
駆動用電池冷却用吸入口.....74
警告灯.....438
高電圧部位.....66
サービスプラグ.....66
始動できないときは.....460
始動方法.....173
車両接近通報装置.....64
水素関連部位.....66
注意.....66
特徴.....62
パワースイッチ.....173
補機バッテリーがあがった.....465
FC システムインジケーター...97, 103, 112
FC スタック.....62, 66
エレクトリックパワーステアリング（EPS）.....321
警告灯.....439

お

オーディオ連携画面.....105
オートアラーム.....57
オートドアロック・アンロック機能127
オートマチックハイビーム.....196
オートレベリングシステム（ヘッドランプ）
作動.....192
オーバーヒート.....470
オープナー
トランク.....129
燃料充てん口.....205
ボンネット.....395
おくだけ充電（ワイヤレス充電器）.361
お子さまを乗せるとき.....42
ウインドウロックスイッチ.....161
お子さまの安全のために.....42
シートベルトの着用.....29, 30
チャイルドシート.....43
チャイルドシートの取り付け.....43
チャイルドプロテクター.....126
電動サンシェードに関する警告.....359
発炎筒の取り扱いに関する警告.....428
バッテリーに関する警告.....468
パワーウインドウに関する警告.....160
オドメーター／トリップメーターディスプレイ.....95, 99
表示切りかえボタン.....95, 99

表示項目 95, 99

か

カーテシランプ
装着位置 351
カーテンシールドエアバッグ 33
カードキー 118
カードホルダー 356
カーペット
洗浄 392
フロアマットの取り付け方 26
外気温度表示 94, 97
回生ブレーキ 64
外装の電球（バルブ）.....422
交換要領 422
外部給電 77
給電口 78
給電後に FC システムが始動できなくなったときは 83
正常に給電できないときは 85
外部電源供給システム 77
型式 479
カップホルダー 355
カメラ
前方カメラ（PCS）.....208
トヨタチームメイト アドバンストパーク 299
白線認識用カメラ（LTA）.....223
リヤカメラディテクション（RCD）....281
ガラスの曇り取り
フロントウインドウガラス 338
リヤウインドウガラス 338
ガレージジャッキ 396
冠水路走行 170
寒冷時の運転 331

き

キー 118
FC システムが始動できない 460
カードキー 118
キーナンバープレート 118
キーの構成 118
キーレスエントリー 120, 131
キーをなくした 461
正常に働かない 462
施錠・解錠ができない 462
電子キー 118
電池が切れた 417
メカニカルキー 121
ワイヤレスリモコン 120
キーレスエントリー
スマートエントリー＆スタートシステム 131
ワイヤレスドアロック 120
給油（燃料補給）
メンテナンスデータ 476
緊急時シートベルト固定機構 30
緊急時の対処
FC システムが始動できない 460
オーバーヒートした 470
キーの電池が切れた 417, 462
キーをなくした 461
警告灯がついた 437
警告メッセージが表示された 445
けん引 431
故障したときは 426
車両を緊急停止する 428
水没したときは 429
スタックした 474
電子キーが正常に働かない 462
発炎筒 427
パンクした 448
補機バッテリーがあがった 465

緊急停止システム 73
緊急ブレーキシグナル..... 321

く

空気圧（タイヤ）..... 479
タイヤ空気圧警報システム 402
メンテナンスデータ 479
区間距離計（トリップメーター）95, 99
駆動用電池..... 66
警告メッセージ..... 414
充電について..... 64
清掃 414
手入れ 414
搭載位置 66
冷却用吸入口..... 74
曇り取り
フロントデフロスター 338
ミラーヒーター..... 338
リヤウインドウデフォッガー 338
クラクション（ホーン）..... 143
クリアランスソナー 266
警告灯 440
警告メッセージ..... 268
操作 267
クリアランスランプ（車幅灯）
スイッチ 190
電球（バルブ）の交換 422
クリップ
フロアマット..... 26
クルーズコントロール..... 235
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）..... 235
グローブボックス 355
グローブボックスランプ..... 355

け

警音器（ホーン）..... 143
計器類（メーター）..... 94, 97
警告灯 90, 437
RCTA OFF 表示灯..... 440
RCD OFF 表示灯 440
H2..... 437
ABS & ブレーキアシスト 438
SRS エアバッグ..... 438
FC システム過熱 438
LTA 表示灯 439
回生ブレーキ..... 437
クリアランスソナー OFF 表示灯..... 440
高水温 437
シートベルト非着用..... 442, 443
充電 438
スリップ表示灯..... 441
タイヤ空気圧..... 442
電子制御ブレーキシステム（ECB）.... 437
ドライブスタートコントロール..... 441
燃料残量 442
パーキングブレーキ表示灯..... 442
パワーステアリング 439
PKSB OFF 表示灯 440
PCS 439
ブレーキ 437
ブレーキオーバーライドシステム..... 441
ブレーキホールド作動表示灯..... 441
ポップアップフード..... 438
警告ブザー
RCD（リヤカメラディテクション）.... 440
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）
..... 440
H2..... 437
SRS エアバッグ..... 438
FC システム過熱 438
LTA（レーントレーシングアシスト）. 439
LTA（レーントレーシングアシスト）. 226
クリアランスソナー 440
高水温 437

シートベルト非着用.....442, 443
衝突警報.....213
接近警報（レーダークルーズコントロール）.....241
タイヤ空気圧.....442
手放し運転警告（LTA）.....231
ドライブスタートコントロール.....441
トランク開.....126
パワーステアリング.....439
半ドア.....123
半ドア走行時.....126
PKSB（パーキングサポートブレーキ）.....440
ふらつき警報機能（LTA）.....231
プリクラッシュセーフティ.....439
プリクラッシュブレーキ.....213
ブレーキ.....437
ブレーキオーバーライドシステム.....441
ブレーキホールド.....441
ボンネット開.....126
窓開.....160
リヤシートリマインダー.....124
警告メッセージ.....445
化粧ミラー（バニティミラー）.....369

こ

交換
キーの電池.....417
タイヤ.....408
電球（バルブ）.....422
ヒューズ.....419
航続可能距離.....94, 96, 97, 99
後退灯（バックアップランプ）
電球（バルブ）の交換.....422
高電圧部位.....66
後方車両への接近警報.....321
コーションラベル.....66
コートフック.....367
子供専用シート
取り付け方.....44
小物入れ.....356
コンソールボックス.....356
コンライト（自動点灯・消灯装置）.190

さ

サービスプラグ.....66
サイドエアバッグ.....33
サイド方向指示灯
電球（バルブ）の交換.....422
方向指示レバー.....182
サイドミラー（ドアミラー）
格納のしかた.....158
操作.....157
ブラインドスポットモニター（BSM）262
ポジションメモリー.....137
ミラーヒーター.....338
リヤクロストラフィックアラート（RCTA）.....275
先読みエコドライブ.....65
サンシェード
ルーフ.....359
サンバイザー.....369

し

シート.....136
正しい運転姿勢.....27
チャイルドシート.....43
調整.....136
手入れ.....392
パワーイージーアクセスシステム.....137
ヘッドレスト.....141
ポジションメモリー.....137
メモリーコール機能.....139
シートヒーター.....347

ALL AUTO 制御 336
シートベルト 29
お子さまの着用 29, 30
緊急時シートベルト固定機構 30
高さ調節 31
正しく着用するには 30
着け方・はずし方 30
手入れ 392
妊娠中の方の着用 29
非着用警告灯 442, 443
シートベルト非着用警告灯 442, 443
シートベルトプリテンショナー 31
機能 31
プリテンショナー警告灯 438
シートベンチレーター 347
ALL AUTO 制御 336
シートポジションメモリー 137
室内灯（インテリアランプ）..... 351
始動のしかた 173
シフト照明 351
シフトポジション 177
シフトレバー 177
シフトポジションの切りかえ 178
操作 177
締め付けトルク（ホイール）..... 410
ジャッキ
ガレージジャッキ 396
車幅灯
電球（バルブ）の交換 422
ランプスイッチ 190
車両型式 479
車両仕様（スペック）..... 476
車両情報表示 105
車両接近通知装置 64
車両データの記録 7
車両を緊急停止するには 428
充てん
充てんのしかた 204
燃料充てん口（補給口）が開けられない 462
充電用 USB 端子 360
瞬間燃費 102
仕様（車両仕様）..... 476
衝撃感知ドアロック解除システム ... 123
初期化
タイヤ空気圧警報システム 404
電動サンシェード 359
パワーウインドウ 159
助手席シートベルト非着用警告灯 ... 442
侵入センサー（オートアラーム）..... 58

す

水素関連部位 62, 66
水素タンク 68
搭載位置 62, 66
容量 476
水素ディテクタ 69
スイッチ
TRC OFF 322
VSC OFF 322
アダプティブハイビームシステム 193
ウインドウロック 161
ウインドシールドデアイサー 344
ウォッシャー 200
H2O スイッチ 188
LTA（レーントレーシングアシスト）. 228
オートマチックハイビーム 196
シート調整 136
シートヒーター 348
シートベンチレーター 348
シートポジションメモリー 137
車間距離切りかえ（レーダークルーズコントロール）..... 236
侵入センサー OFF 59
ステアリングヒーター 348
スノーモード 320

タイヤ空気圧警報リセット.....404
電動サンシェード.....359
ドアミラー.....157
ドアロック.....125
ドライブモードセレクト.....319
トランクオープナー.....129
トランクオープナーメイン.....130
パーキングブレーキ.....183
パワーウインドウ.....159
パワースイッチ.....173
ハンドル位置調整.....143
表示切りかえ.....95, 99
フォグランプ.....199
ブレーキホールド.....186
ヘッドアップディスプレイ.....110
方向指示レバー.....182
ホーン（警音器）.....143
ポジションメモリー.....137
メーター操作.....101
ランプ.....190
リセット（タイヤ空気圧警報システム）.....404, 405
リヤウインドウデフォッガー.....337
リヤオートエアコン.....346
リヤサンシェード.....370
リヤフォグランプ.....199
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）.....236
ワイパー.....200
ワイヤレス充電.....361
スタック.....474
ステアリングヒーター.....347
ALL AUTO 制御.....336
ステアリングホイール（ハンドル）
位置調整.....143
ステアリングヒーター.....347
パワーイージーアクセスシステム.....137
ポジションメモリー.....137
メーター操作スイッチ.....101
ストップランプ（制動灯）
緊急ブレーキシグナル.....321
電球（バルブ）の交換.....422
スノータイヤ（冬用タイヤ）.....331
スノーモード.....320
スピードメーター.....94, 97
スペック（車両仕様）.....476
スマートエントリー＆スタートシステム.....131
アンテナの位置.....131
FC システムの始動.....173
緊急始動機能.....460
作動範囲.....132
正常に働かないとき.....462
節電機能.....132
電波がおよぼす影響について.....135
ドアの解錠・施錠.....122
トランクの解錠.....129
スモールランプ（車幅灯）
電球（バルブ）の交換.....422
ランプスイッチ.....190
スリップ表示灯.....322

せ

清掃.....388, 392
アルミホイール.....388
外装.....388
シートベルト.....392
内装.....392
ルーフフィルム.....389
レーダー.....209
制動灯
緊急ブレーキシグナル.....321
電球（バルブ）の交換.....422
セカンダリーコリジョンブレーキ.....322
積算距離計（オドメーター）.....95, 99

セキュリティインジケーター.....56, 57
接近警報（レーダークルーズコントロール）.....241
先行車発進告知機能.....247
センサー
RCTA（リヤクロストラフィックアラート）.....263
インナーミラー.....145
雨滴感知センサー.....201
LTA（レーントレーシングアシスト）.223
侵入センサー.....58
デジタルインナーミラー.....151
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両）.....263
BSM（ブラインドスポットモニター）263
ライトセンサー.....191
レーダー.....208
洗車.....388
前照灯（ヘッドランプ）
電球（バルブ）の交換.....422
ライトセンサー.....191
ランプ消し忘れ防止機能.....192
ランプスイッチ.....190

そ

走行距離.....105
走行時間.....105
走行情報表示.....102
走行モード（ドライブモード）.....319
送信機（タイヤ空気圧警報システム）.....402
速度計（スピードメーター）.....94, 97

た

ターンシグナルランプ（方向指示灯）
電球（バルブ）の交換.....422
方向指示レバー.....182
タイヤ.....400
空気圧.....411, 479
空気圧警告灯.....442
警告灯.....442
警告ブザー.....442
交換.....408
締め付けトルク.....410
チェーン.....331
点検.....400
パンク応急修理キット.....448
パンクしたときは.....448
冬用タイヤ.....331
ホイールサイズ.....479
ローテーション（位置交換）.....401
タイヤが空まわりする（スタックした）.....474
タイヤ空気圧
警告灯.....442
警告ブザー.....442
タイヤ空気圧警報システム
ID コードの登録・選択.....405
機能について.....402
空気圧バルブ／送信機について.....403
空気圧表示画面.....402
警告灯.....442
警告ブザー.....442
初期化.....404
タイヤチェーン.....331

ち

チェーン（タイヤチェーン）.....331
チャイルドシート.....43
ISOFIX ロアアンカレッジでの取り付け53
シートベルトでの固定.....52
選択方法.....43
駐車ブレーキ（パーキングブレーキ）.....183
警告メッセージ.....184

操作 183
冬季の注意 331
パーキングブレーキ表示灯 442
ブレーキ警告灯 437
未解除走行時警告ブザー 185
メンテナンスデータ 478

つ

通信利用型レーダークルーズコントロール 242
ツール（工具） 450

て

提案サービス機能 107
停止表示板 358
ディスプレイ
ヘッドアップディスプレイ 108
マルチインフォメーションディスプレイ 100
手入れ 388, 392
アルミホイール 388
外装 388
シートベルト 392
デジタルインナーミラー 152
内装 392
ルーフフィルム 389
レーダー 209
テールランプ（尾灯）
電球（バルブ）の交換 422
ランプスイッチ 190
デジタルインナーミラー 145
デフォッガー（リヤウインドウデフォッガー） 338
電気モーター 62, 66
電球（バルブ）
交換要領（外装バルブ） 422
点検基準値（メンテナンスデータ） 476
電子キー 118
作動範囲 132
正常に働かないとき 462
節電機能 133
電池が切れた 462
電池交換 417
電子制御ブレーキシステム（ECB） 321
電池交換（キー） 417
電動サンシェード
初期化 359
操作 359
電動パーキングブレーキ
パーキングブレーキ表示灯 442
ブレーキ警告灯 437

と

ドア 122
イージークローザー 125
オートドアロック・アンロック機能 127
衝撃感知ドアロック解除システム 123
スマートエントリー＆スタートシステム 131
チャイルドプロテクター 126
ドアガラス 159
ドアロックスイッチ 125
ドアロックボタン 125
ワイヤレスリモコン 122
ドアカーテシランプ
位置 351
ドアミラー
格納のしかた 158
操作 157
ブラインドスポットモニター（BSM） 262
ポジションメモリー 137
ミラーヒーター 338
リヤクロストラフィックアラート（RCTA） 275

ドアミラー足元照明 351
盗難防止装置
イモビライザーシステム 56
オートアラーム 57
時計 94, 97
トップテザーアンカレッジ 55
トヨタチームメイト アドバンストパーク 296
縦列出庫機能 309
縦列駐車機能 306
並列前向き・バック出庫機能 305
並列前向き・バック駐車機能 303
メモリ機能 311
ドライバー異常時対応システム 249
ドライビングポジションメモリー ... 137
ポジションメモリー 138
メモリーコール機能 139
ドライブモードセレクトスイッチ ... 319
トラクションコントロール（TRC）. 321
トランク 127
イージークローザー 130
オープナー 129
キー閉じ込み防止機能 130
警告メッセージ 126
電子キーが正常に働かないとき 462
トランクオープナーを使用できなくするには 130
トランク内の装備 357
メインスイッチ 130
トランクランプ 129
トランスミッション 177
操作 178
メンテナンスデータ 477
トリップメーター 95, 99

な

内装
収納装備 354
手入れ 392
「ナノイー X」 339
ナビゲーションシステム連携表示 ... 108

に

ニーエアバッグ 33
荷物
積むときの注意 171
トランク 127
トランク内装備 357

ぬ

ぬかるみにはまった（スタック）..... 474

ね

燃費
エネルギーモニター 113
瞬間燃費 102
平均燃費 102
燃費画面 113
燃料 476
充てん 204
種類 476
燃料計 94, 97
燃料残量警告灯 442
容量 476
燃料切れになったとき 68
燃料計 94, 97
燃料充てん口
充てんのしかた 204
燃料充てん口（補給口）..... 204
燃料電池車
運転のアドバイス 75
回生ブレーキ 64
寒冷時 173
緊急始動機能 460

緊急時の停止方法 428
緊急停止システム 73
駆動用電池冷却用吸入口 74
高電圧部位 66
サービスプラグ 66
事故が発生したとき 72
始動方法 173
車両接近通報装置 64
充電について 64
出力制限 69
水素安全 70
水素ガス 70
水素関連部位 66
注意 66
特徴 62
特有の音と振動 63
燃料切れになったとき 68
パワースイッチ 173
メンテナンス・修理・廃車するとき 63

は

パーキングサポートブレーキ
警告灯 440
パーキングサポートブレーキ（周囲静止物） 289
パーキングサポートブレーキ（前後方静止物） 289
パーキングサポートブレーキ（PKSB） 284
警告メッセージ 288
操作 285
パーキングサポートブレーキ（後方接近車両） 292
パーキングサポートブレーキ（後方歩行者） 294
パーキングブレーキ 183
警告メッセージ 184
操作 183
冬季の注意 331
パーキングブレーキ表示灯 442
ブレーキ警告灯 437
未解除走行時警告ブザー 185
メンテナンスデータ 478
パーソナルランプ 351
排気排水管 69
ハイビーム（ヘッドランプ）
アダプティブハイビームシステム 193
オートマチックハイビーム 196
電球（バルブ）の交換 422
ランプスイッチ 190
ハイマウントストップランプ
電球（バルブ）の交換 422
ハザードランプ（非常点滅灯） 427
電球（バルブ）の交換 422
挟み込み防止機能
パワーウインドウ 159
発炎筒 427
バックアップランプ（後退灯）
電球（バルブ）の交換 422
バッテリー（駆動用電池）
搭載位置 66
冷却用吸入口 74
バッテリー（補機バッテリー）
警告灯 438
サイズ 467
搭載位置 395
補機バッテリーがあがった 465
バニティ（化粧用）ミラー 369
バニティミラーランプ
装備について 369
バルブ（電球）
交換要領（外装のバルブ） 422
パワーウインドウ
ウインドウロックスイッチ 161
閉めることができないときは 159
初期化 159

操作 159
ドアロック連動ドアガラス開閉機能 160
挟み込み防止機能 159
巻き込み防止 159
パワーコントロールユニット 66
パワースイッチ
FC システム始動のしかた 173
自動電源 OFF 機能 176
車両を緊急停止するには 428
モードの切りかえ 176
パワーステアリング 321
警告灯 439
パンク応急修理キット 450
パンクした 448
タイヤ空気圧警告灯 442
番号灯（ライセンスプレートランプ）
電球（バルブ）の交換 422
ランプスイッチ 190
ハンドル（ステアリングホイール）
位置調整 143
ステアリングヒーター 347
パワーイージーアクセスシステム 137
ポジションメモリー 137
メーター操作スイッチ 101

ひ

ビークルスタビリティコントロール（VSC） 321
ビークルダイナミクスインテグレイテッドマネージメント（VDIM） 321
ヒーター
エアコン・デフォッガー 337
シートヒーター 347
ステアリングヒーター 347
ミラーヒーター 338
非常時給電システム 378
非常点滅灯（ハザードランプ） 427
電球（バルブ）の交換 422
尾灯（テールランプ）
電球（バルブ）の交換 422
ランプスイッチ 190
ヒューズ 419
表示切りかえボタン 95, 99
表示灯 92
日よけ（サンバイザー） 369
ヒルスタートアシストコントロール 321

ふ

ブースターケーブルのつなぎ方 465
フード（ボンネット） 395
開け方 395
フォグランプ
スイッチ 199
電球（バルブ）の交換 422
ブザー
クリアランスソナー 271
接近警報（レーダークルーズコントロール） 241
手放し運転警告（LTA） 231
パーキングブレーキ未解除走行時警告 185
半ドア走行時警告 126
ふらつき警報機能（LTA） 231
ブレーキホールド 441
窓開警告 160
リヤカメラディテクション（RCD） 282
リヤクロストラフィックアラート（RCTA） 278
フック
けん引フック 433
コートフック 367
フロアマット固定フック 26
フューエルメーター 94, 97
冬の前の準備（寒冷時の運転） 331
冬用タイヤ 331

ブラインドスポットモニター（BSM）
.....262
操作.....263
プリクラッシュセーフティ（PCS）
機能.....213
操作.....216
PCS 警告灯.....439
ブレーキ
回生ブレーキ.....64
緊急ブレーキシグナル.....321
警告灯.....437
パーキングブレーキ.....183
ブレーキ警告灯.....437
ブレーキホールド.....186
メンテナンスデータ.....477
ブレーキアシスト.....321
ブレーキフルード.....477
ブレーキホールド.....186
フロアマット.....26
フロント足元照明.....351
フロントシート.....136
正しい運転姿勢.....27
調整.....136
手入れ.....392
パワーイージーアクセスシステム.....137
ヘッドレスト.....141
ポジションメモリー.....137
メモリーコール機能.....139
フロントパーソナルランプ.....352
フロント方向指示灯
電球（バルブ）の交換.....422
方向指示レバー.....182

へ

平均車速.....105
平均燃費.....102
ヘッドアップディスプレイ.....108
運転支援システム表示.....111
FC システムインジケーター.....112
外気温度表示.....108
スイッチ.....110
設定.....110
走行状況表示.....108
ナビゲーションシステム連携.....108
割り込み表示.....111
ヘッドランプ
電球（バルブ）の交換.....422
ライトセンサー.....191
ランプ消し忘れ防止機能.....192
ランプスイッチ.....190
ヘッドランプオートレベリングシステム
.....192
ヘッドレスト.....141
ベンチレーター（シートベンチレーター）
.....347

ほ

ホイール
交換（タイヤ）.....408
メンテナンスデータ.....479
方向指示灯
電球（バルブ）の交換.....422
方向指示レバー.....182
ホーン（警音器）.....143
補機バッテリー
搭載位置.....395
補機バッテリーがあがった.....465
ポジションメモリー.....137
保証.....9
ポップアップフード.....39
ボンネット.....395
開け方.....395
警告メッセージ.....126
ポップアップフード.....39

ま

マイセッティング 162
マルチインフォメーションディスプレイ 100
運転支援機能情報表示 105
エコアクセルガイド 103
エコジャッジ 103
エネルギーモニター 113
FC システムインジケーター 103
LTA（レーントレーシングアシスト）. 228
オーディオ連携 105
警告メッセージ 445
車両情報表示 105
設定 106
走行情報表示 102
タイヤ空気圧 106, 402
提案サービス機能 107
ドライブインフォメーション 105
燃費グラフ 102
メーター操作スイッチ 101
メニューアイコン 102

み

ミラー
アウターミラー 157
インナーミラー 144
デジタルインナーミラー 145
ドアミラー 157
バニティミラー 369
ミラーヒーター 338

め

メーター
計器類 94, 97
警告灯 90, 437
警告メッセージ 445
航続可能距離 94, 97
照度調整 95, 99
設定 106
時計 94, 97
表示灯 92
マルチインフォメーションディスプレイ 100
メーター操作スイッチ 101
メーター照度調整 95, 99
メカニカルキー 121
メニューアイコン 102
メモリーコール機能 139
メンテナンスデータ 476

も

モーター
オーバーヒート 470
ボンネット 395
モータールームカバー 397
モーター（電気モーター）..... 66
モータールーム 395, 397
モータールームカバー 397
モータールームから蒸気が出ている ... 470

ゆ

雪道ですべって動けない（スタックした）..... 474
油脂類 476

ら

ライセンスプレートランプ（番号灯）
電球（バルブ）の交換 422
ランプスイッチ 190
ラゲージマット 357
ラゲージルーム（トランク）.. 127, 357
ラジエーター

オーバーヒート.....470
メンテナンスデータ.....476
ランプ
アダプティブハイビームシステム.....193
室内灯.....351
電球（バルブ）の交換.....422
非常点滅灯（ハザードランプ）.....427
ヘッドランプ（前照灯）.....190
方向指示灯（ターンシグナルランプ／ウインカー）.....182
ライトセンサー.....191
ランプ消し忘れ防止機能.....192
リヤフォグランプ.....199
ランプ消し忘れ防止機能.....192

り

リヤ足元照明.....351
リヤウィンドウデフォッガー.....338
リヤオートエアコン.....346
リヤカメラディテクション（RCD）281
警告メッセージ.....283
操作.....282
リヤクロストラフィックアラート（RCTA）.....275
警告灯.....440
警告メッセージ.....276
操作.....276
リヤサンシェード.....370
リヤシート
ヘッドレスト.....141
リヤ席シートベルト非着用警告灯...443
リヤドアサンシェード.....369
リヤパーソナルランプ.....352
リヤフォグ
電球（バルブ）の交換.....422
リヤフォグランプ
スイッチ.....199
電球（バルブ）の交換.....422
リヤ方向指示灯
電球（バルブ）の交換.....422
方向指示レバー.....182

る

ルーフフィルム.....389
ルームミラー（インナーミラー）...144, 145

れ

冷却水.....476
冬の前の準備.....331
メンテナンスデータ.....476
冷却装置（ラジエーター）.....476
オーバーヒート.....470
メンテナンスデータ.....476
レーダークルーズコントロール（全車速追従機能付き）.....235
警告メッセージ.....245
接近警報.....241
レーダー.....208
レーントレーシングアシスト（LTA）.....223
警告灯.....439
警告メッセージ.....232
操作.....228
レバー
シフト.....177
方向指示.....182
ボンネット解除.....395

ろ

ロードサインアシスト（RSA）.....232
ロック
ウインドウロック.....161
スマートエントリー＆スタートシステム

.....131
チャイルドプロテクター.....126
ドア.....122
ワイヤレスリモコン.....120

わ

ワイパー＆ウォッシャー.....200
ウォッシャー液の補充.....399
ワイパー停止位置の切りかえ.....202
ワイパーブレード（寒冷地用）.....332
ワイヤレス充電器（おくだけ充電）.361
ワイヤレスリモコン
作動の合図.....123
操作.....120
電池の交換.....417
半ドア警告ブザー.....123
ワックス.....388

次の装備は、別冊「マルチメディア取扱書」をお読みください。

・オーディオ
・パノラミックビューモニター
・ナビゲーションシステム
・音声操作システム
・ハンズフリー
・T-Connect
・ETC2.0 システム

次の装備は、「Toyota Teammate Advanced Drive 取扱書」をお読みください。

・Advanced Drive

水素ステーションでの情報

燃料充てんなどの際に必要になる項目をまとめてあります。

A ボンネットフック（→P.395）

B トランクオープナースイッチ（→P.129）

C 燃料充てん扉（→P.205）

D 燃料充てん扉オープナースイッチ（→P.205）

E ボンネット解除レバー（→P.395）

F タイヤ空気圧（→P.479）

燃料の種類	圧縮水素ガス	P.476
燃料の容量（参考値）	142.2L （約 5.7kg）※ ※ 水素タンク容量は 142.2L で、約 5.7kg の圧縮水素ガスが貯蔵可能です。 ただし、ステーションの充填圧力により実際の充填量は異なります。	
タイヤが冷えているときの空気圧		P.479

お問い合わせ、ご相談は下記へお願いいたします。

トヨタ自動車株式会社　お客様相談センター

全国共通・フリーコール

0800 700-7700

受付時間についてはホームページにてご確認ください。
https://faq.toyota.jp/?site_domain=default#contact

所在地　〒450－8711 名古屋市中村区名駅4丁目7番1号

ご愛用車のお問い合わせは、自動車検査証（車検証）をご用意頂くとスムーズな対応が可能です。

「個人情報保護方針」については、
https://toyota.jp/privacy_statement/ にて
掲載しております。

「リコール等情報」については、
https://toyota.jp/recall/index.html にて
掲載しております。

QRコードは（株）デンソーウェーブの登録商標です。

トヨタ自動車株式会社
https://toyota.jp

ヨ J -2

TOYOTA

M 62063
01999-62063
IS-2023年 7 月24日
2022年12月19日 初版
2023年 7 月31日 2 版
ミライ